兵庫県文化財調査報告　第227冊

豊岡市

五　反　田　遺　跡

県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２年

兵庫県教育委員会

豊岡市

五　反　田　遺　跡

県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２年

兵庫県教育委員会

例　　言

1．本書は、豊岡市祥雲寺に所在する五反田遺跡ほかの発掘調査報告書である。

2．本調査は、兵庫県教育委員会が実施する兵庫県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。

3．発掘調査事業は、兵庫県教育委員会が兵庫県土地開発公社からの依頼を受けて、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が実施した。

4．出土品整理事業は、兵庫県教育委員会の事業として、県立コウノトリの郷公園から依頼を受けて、埋蔵文化財調査事務所が実施した。

5．本書に使用した方位は国土座標（第Ⅴ系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

6．本書の編集は大前篤子の補佐を得て、篠宮　正がおこなった。執筆は第7章第1節・第3節を除いて、篠宮がおこなった。

7．植物種実は藤井俊夫氏（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）に同定していただき、石器の石材は先山　徹氏（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）に鑑定していただき、それを元に篠宮が文章化した。
第7章第1節は遠藤利恵氏（京都工芸繊維大学大学院）、本吉恵理子氏（㈱吉田生物研究所）が執筆した。
第7章第3節はパリノ・サーヴェイ株式会社が執筆した。

8．現地調査および報告書作成において、兵庫県土地開発公社・県立コウノトリの郷公園・県立人と自然の博物館・豊岡市教育委員会の各機関および、瀬戸谷　晧・潮崎　誠・宮村良雄・加賀見省一・小寺　誠・先山　徹・藤井俊夫・谷本　進・遠藤利恵・本吉恵理子・及川泰秀の各氏に御世話になった。

9．発掘調査で出土した遺物、作成した図面・写真などの記録は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所で保管・管理している。

五反田遺跡
県立コウノトリの郷公園整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

目　　次

例　　言

第１章　遺跡の環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1

第２章　調査に至る契機と経過 …… 5
　第１節　調査に至る契機 …… 5
　第２節　埋蔵文化財の対応 …… 6
　第３節　調査の経過 …… 6
　第４節　調査の担当 …… 9
　第５節　調査の概要 …… 10

第３章　五反田遺跡第２次調査 …… 12
　第１節　位置と調査方法 …… 12
　第２節　検出遺構 …… 12
　第３節　出土遺物 …… 16
　第４節　小結 …… 22

第４章　五反田遺跡第３次調査 …… 23
　第１節　位置と調査方法 …… 23
　第２節　検出遺構 …… 23
　第３節　出土遺物 …… 25
　第４節　小結 …… 27

第５章　周辺遺跡の調査 …… 28
　第１節　平畑遺跡 …… 28
　第２節　堂林遺跡 …… 29
　第３節　於富美遺跡Ａ …… 30
　第４節　於富美遺跡Ｂ …… 31
　第５節　二ヶ谷17号 …… 32

第６章　自然科学的調査 …… 33
　第１節　五反田遺跡出土土器の補修漆について …… 33
　第２節　五反田遺跡の大型植物種実 …… 34
　第３節　五反田遺跡出土木材の樹種 …… 36

第７章　ま　と　め …… 44
　第１節　要約 …… 44
　第２節　五反田遺跡の性格 …… 45

別　　表
図　　版
写　真　図　版
報　告　書　抄　録

表　目　次

〔第６章〕

第１表　五反田遺跡出土種実 …… 35
第２表　樹種同定結果(1) …… 37
第３表　樹種同定結果(2) …… 38
第４表　樹種同定結果(3) …… 39
第５表　樹種同定結果(4) …… 40
第６表　時期別・用途別種類構成 …… 41

別　表　目　次

別表１　土器一覧(1)
別表２　土器一覧(2)
別表３　土器一覧(3)
別表４　土器一覧(4)
別表５　土器一覧(5)
別表６　木器一覧(1)
別表７　木器一覧(2)
別表８　木器一覧(3)
別表９　木器一覧(4)
別表10　木器一覧(5)
別表11　杭一覧(1)
別表12　杭一覧(2)
別表13　杭一覧(3)
別表14　杭一覧(4)
別表15　杭一覧(5)
別表16　杭一覧(6)

図　版　目　次

〔第１・２章〕

図版１　１.兵庫県の位置　２.豊岡市の位置　３.コウノトリの郷公園の位置（1／200,000）
図版２　周辺の遺跡一覧
図版３　４.周辺の遺跡（1／35,000）
図版４　５.コウノトリの郷公園事業地と周辺の遺跡（1／1,000）
図版５　６.調査遺跡の位置（1／4,000）
図版６　７.確認調査と全面調査の位置（1／1,200）

〔第３章　遺構〕

図版７　８.調査区の設定（1／800）９.防火水槽調査区の土層断面（1／200・1／100）
10.ＳＤ43・ＳＳ44・ＳＤ52・ＳＤ53・ＳＤ61土層断面
図版８　11.土層断面（1／400・1／100）
図版９　12.第１面の遺構（1／400）　13.第２面の遺構（1／400）
図版10　14.第３面の遺構（1／400）　15.第４面の遺構（1／400）
図版11　16.第５面の遺構（1／400）　17.第６面の遺構（1／400）
図版12　18.杭列ＳＷ23平面・断面（1／40）　19.杭列ＳＷ38平面・断面（1／40）
図版13　20.杭列ＳＷ37平面・断面（1／40）
図版14　21.木組ＳＺ39平面・断面（1／20）　22.杭列ＳＷ34・35・36平面・断面（1／40）
図版15　23.畦畔ＳＳ44・杭列ＳＷ45・ＳＷ46平面・断面①（1／40）
図版16　24.畦畔ＳＳ44・杭列ＳＷ45・ＳＷ46平面・断面②（1／40）
図版17　25.第４面木器出土状況①（1／80）
図版18　26.第４面木器出土状況②（1／80）
図版19　27.第４面木器出土状況③（1／80）
図版20　28.第４面木器出土状況④（1／80）
図版21　29.第４面木器出土状況と木器①（1／160・1／32）
図版22　31.第４面木器出土状況と木器②（1／160・1／32）

〔第３章　遺物〕

図版23　土器１　弥生土器(1～18)
図版24　土器２　壺・器台他(19～48)

図版25　土器３　高坏・椀(49～74)
図版26　土器４　甕(75～97)
図版27　土器５　須恵器他(98～115)
図版28　木器１　ＳＤ31その他(W1～W4)
図版29　木器２　ＳＲ42①(W5～W10)
図版30　木器３　ＳＲ42②(W11～W18)
図版31　木器４　ＳＲ42③(W19～W24)
図版32　木器５　ＳＲ42④(W25～W29)
図版33　木器６　ＳＲ42⑤(W30～W34)
図版34　木器７　ＳＲ42⑥(W35～W37)
図版35　木器８　ＳＲ42⑦(W38～W42)
図版36　木器９　ＳＲ42⑧(W43～W46)
図版37　木器10　ＳＲ42⑨(W47～W51)
図版38　木器11　ＳＲ42⑩(W52～W56)
図版39　木器12　ＳＲ42⑪(W57～W61)
図版40　木器13　ＳＲ42⑫(W62～W65)
図版41　木器14　ＳＲ42⑬(W66～W68)
図版42　木器15　ＳＲ42⑭(W69～W74)
図版43　木器16　ＳＲ42⑮(W75～W85)
図版44　木器17　ＳＲ42⑯(W86～W90)
図版45　木器18　ＳＤ43①(W91～W100)
図版46　木器19　ＳＤ43②(W101～W107)
図版47　木器20　ＳＤ43③(W108～W114)
図版48　木器21　ＳＤ43④(W115～W120)
図版49　木器22　ＳＤ43⑤(W121～W123)
図版50　木器23　ＳＤ43⑥(W124～W128)
図版51　木器24　ＳＤ43⑦(W129～W132)
図版52　木器25　ＳＤ43⑧(W133～W138)
図版53　木器26　ＳＤ43⑨(W139～W147)
図版54　木器27　ＳＤ43⑩(W148～W156)
図版55　木器28　ＳＤ43⑪ＳＳ44①(W157～W160)
図版56　木器29　ＳＳ44②(W161～W167)
図版57　木器30　第２面①(W168～W190)
図版58　木器31　第２面②(W191～W203)
図版59　木器32　第２面③(W204～W214)
図版60　木器33　第２面④(W215～W222)
図版61　木器34　第４面Ａ区①(W223～W226)
図版62　木器35　第４面Ａ区②(W227～W232)
図版63　木器36　第４面Ａ区③(W233～W238)
図版64　木器37　第４面Ａ区④(W239～W248)
図版65　木器38　第４面Ａ区⑤(W249～W251)
図版66　木器39　第４面Ａ区⑥(W252～W254)
図版67　木器40　第４面Ａ区⑦(W255～W259)
図版68　木器41　第４面Ａ区⑧(W260～W263)
図版69　木器42　第４面Ａ区⑨(W264～W271)
図版70　木器43　第４面Ａ区⑩(W272～W282)
図版71　木器44　第４面Ｂ区①(W283～W287)
図版72　木器45　第４面Ｂ区②(W288～W293)
図版73　木器46　第４面Ｂ区③(W294～W299)
図版74　木器47　第４面Ｃ区(W300～W307)・石器(Ｓ1～Ｓ4)
〔第４章　遺構〕
図版75　31.遺構全体（1／400）
図版76　32.18・19区土層断面　33.３～６区土層断面　34.８～10区土層断面
　　35.10～13区土層断面（1／100・1／40）
図版77　36.４～６区上層遺構　37.４～６区中層遺構　38.４～６区下層遺構（1／100）
図版78　39.溝ＳＤ１平面・断面（1／20）
図版79　40.溝ＳＤ２平面・断面（1／20）

〔第４章　遺物〕
図版80　土器１　(401～434)
図版81　土器２　(435～473)
図版82　土器３　(474～495)
図版83　土器４　(496～517)
図版84　土器５　(518～541)
図版85　木器１　(W401～W413)
図版86　木器２・石器　(W414・Ｓ401～Ｓ403)
〔第５章〕
図版87　平畑遺跡　44.平面・断面（1／200・1／100）　土器・木器(601～606・W601)
図版88　堂林遺跡　42.平面（1／100）　43.断面（1／100・1／50）　土器(701～712)
図版89　於富美Ａ遺跡　44.土層断面（1／100・1／50）　土器(801～805)
図版90　於富美Ｂ遺跡・二ヶ谷17号　45.調査位置（1／200）
図版91　於富美Ｂ遺跡　46.平面・断面（1／100・1／50）
図版92　二ヶ谷17号　47.平面・断面（1／100）

写真図版目次

〔カラー〕
写真図版１　１.遠景（西から）　２.遠景（北から）
写真図版２　３.遠景（東から）　４.五反田遺跡第２次調査区（真上から）
写真図版３　５.流路ＳＲ42木器出土状況（西から）　６.建築材点画（W68）
写真図版４　７.舟形木製品（W404）　８.漆膜断面（×400）　９.漆膜断面拡大（×800）
〔第１章〕
写真図版５　10. コウノトリの郷公園事業地（真上から）
〔第３章　遺構〕
写真図版６　11.杭列ＳW23（北から）　12.土石流ＳＸ40（西から）　13.木組ＳＺ39（西から）
写真図版７　14.第３・４面（東から）15.杭列ＳW34～36（北から）16.第４面木器出土状況（北から）
写真図版８　17.杭列ＳW37（南から）　18.溝ＳＤ43木器出土状況（西から）
19.流路ＳＲ42木器出土状況（北から）
写真図版９　流路ＳＲ42木器出土状況　20.（西から）　21.（北から）　22.（南から）
写真図版10　流路ＳＲ42拡張区　23.（東から）　24.（西から）　25.（東から）
写真図版11　溝ＳＤ53　26.（西から）　27.（西から）　28.断面（西から）
写真図版12　29.溝ＳＤ43・ＳＳ44・ＳＤ52・ＳＤ53（西から）　30. 溝ＳＤ43・ＳＳ44・ＳＤ52・ＳＤ53（東から）31.杭列ＳW45（北東から）
写真図版13　32.第６面（西から）　33.溝ＳＤ61（南西から）　34.防火水槽調査区（西から）
〔第３章　遺物〕
写真図版14　土器１　弥生土器
写真図版15　土器２　弥生土器
写真図版16　土器３　壺・器台他
写真図版17　土器４　壺・器台他
写真図版18　土器５　高坏・椀
写真図版19　土器６　高坏
写真図版20　土器７　甕・高坏
写真図版21　土器８　甕
写真図版22　土器９　須恵器
写真図版23　土器10　須恵器他
写真図版24　木器１（ＳＲ42他）
写真図版25　木器２（ＳＲ42）
写真図版26　木器３（ＳＲ42）
写真図版27　木器４（ＳＲ42）
写真図版28　木器５（ＳＲ42）
写真図版29　木器６（ＳＲ42）
写真図版30　木器７（ＳＲ42）
写真図版31　木器８（ＳＲ42）
写真図版32　木器９（ＳＲ42）
写真図版33　木器10（ＳＤ43）
写真図版34　木器11（ＳＤ43）

写真図版35　木器12（ＳＤ43）
写真図版36　木器13（ＳＤ43）
写真図版37　木器14（ＳＤ43）
写真図版38　木器15（ＳＤ43）
写真図版39　木器16（ＳＤ43・ＳＷ44）
写真図版40　木器17（第３面）
写真図版41　木器18（第３面）
写真図版42　木器19（第３面）
写真図版43　木器20（第４面Ａ）
写真図版44　木器21（第４面Ａ）
写真図版45　木器22（第４面Ａ）
写真図版46　木器23（第４面Ａ）
写真図版47　木器24（第４面Ａ）
写真図版48　木器25（第４面Ｂ）
写真図版49　木器26（第４面Ｂ）
写真図版50　木器27（第４面Ｂ・Ｃ）
写真図版51　石器
〔第４章　遺構〕
写真図版52　35.17～７区（東から）　36.14～７区下層遺構（東から）　37.９～16区（西から）
写真図版53　38.４～６区上層（東から）　39.溝ＳＤ１（北から）　40.溝ＳＤ１（北東から）
写真図版54　44.溝ＳＤ１・２（南東から）　42.溝ＳＤ１・２（東から）　43.溝ＳＤ２杭列断面（北東から）
写真図版55　44.５・６区柱穴群（南西から）　45.流路ＳＤ５（東から）　46.４・５区下層（北東から）
〔第４章　遺物〕
写真図版56　土器１　ＳＤ１
写真図版57　土器２　ＳＤ１
写真図版58　土器３　ＳＤ２
写真図版59　土器４　Ｂ地区包含層
写真図版60　土器５　Ｂ地区包含層
写真図版61　土器６　Ｂ地区包含層
写真図版62　土器７　Ｂ地区包含層
写真図版63　土器８　Ｃ地区包含層
写真図版64　土器９　Ｃ地区包含層
写真図版65　土器10　Ｃ地区包含層
写真図版66　土器11　Ｃ地区包含層
写真図版67　土器12　Ｃ地区包含層
写真図版68　木器１
写真図版69　木器２
写真図版70　石器
〔第５章〕
写真図版71　平畑遺跡　47.調査区全体（南から）48.西壁土層断面（南東から）　49.土器出土状況（西から）
写真図版72　平畑遺跡　土器・木器
写真図版73　堂林遺跡　50.調査区全体（南東から）51.旧河道（西から）52.土層断面（西から）
写真図版74　堂林遺跡　土器
写真図版75　53.於富美Ａ遺跡土層断面（東から）　54.於富美Ａ遺跡遺構断面（南東から）
55.於富美Ｂ遺跡竪穴住居検出状況（北から）　56.於富美Ｂ遺跡柱穴群検出状況（北から）
写真図版76　二ヶ谷17号　57.調査前（南西から）　58.調査後（東から）　59.ＳＸ１（東から）
〔第６章〕
写真図版77　五反田遺跡出土植物種実　60.第２次 モモ・オニグルミ・ナラガシワ？・トチノキ
61.第２次 エゴノキ・ムクロジ・スギ・オニグルミ・モモ・トチノキ・フジ？
62.第３次 サクラ属・モモ
写真図版78　五反田遺跡出土木材１
写真図版79　五反田遺跡出土木材２
写真図版80　五反田遺跡出土木材３
写真図版81　五反田遺跡出土木材４

第１章　遺跡の環境

第１節　地理的環境（図版１・３）

本書に報告する五反田遺跡をはじめとする諸遺跡は、兵庫県立コウノトリの郷公園内に位置している。兵庫県立コウノトリの郷公園は、兵庫県の北部に位置する豊岡市の中心部から東へ約３kmの豊岡市祥雲寺に所在している。日本海に向かって北流する円山川の支流である六方川からさらに分流し、西流する鎌谷川の南岸に位置する。円山川河口の日本海には、直線距離で北に約11kmである。

県立コウノトリの郷公園は、衣笠山塊の北側にのびる尾根および尾根に挟まれた谷に立地する。二ヶ谷17号・於富美Ｂ遺跡は丘陵上に立地し、五反田遺跡は鎌谷川に面した沖積地に、平畑遺跡・堂林遺跡は鎌谷川から派生する谷の沖積地に立地する。

尾根などの山側は新生代古第三紀の山陰帯花崗岩類の宮津花崗岩、花崗閃緑岩、石英閃緑岩を基盤としている。北側の低地は第四紀完新生の沖積層である。五反田遺跡の管理・研究棟建築にかかわるボーリングによる地質調査によると、GL－19.0m～GL－10.3mで花崗岩の軟岩に達し、その上約４m～１mは砂状の風化花崗岩が堆積していることがわかった。また調査遺構面から下の風化花崗岩まではＮ値が３～４の粘土や腐植物・砂礫の完新世の沖積層であることがわかった。したがって、五反田遺跡は非常に不安定な場所に立地していることになる。

五反田遺跡をはじめとする沖積地に立地する遺跡の調査前の状況は、ほとんどが水田であった。尾根上や丘陵上の植生はアカマツやスギなどの針葉樹とカシ・コナラ・ヤマザクラ・ホオノキなどの広葉樹、タケなどが繁茂していた。

第２節　歴史的環境（図版２～４）

歴史的環境は、コウノトリの郷公園が所在する豊岡市三江地域の遺跡や、豊岡市東部の調査が行われた遺跡を中心に概観したい。

１．旧石器時代～縄文時代

旧石器時代の遺跡は確認できていない。唯一、大内谷古墳の調査の際、ナイフ形石器が出土している。

縄文時代になると中谷貝塚や長谷貝塚で貝塚の調査が行われている。中谷貝塚は中期を中心に晩期まで断続的に続いており、早期の土器も出土している。香住井走遺跡でも早期の押型文土器が出土している。また、香住荒原遺跡や大磯遺跡や天神橋遺跡などで土器が採集されており、今後沖積地に埋没している微高地などから新たな縄文遺跡が発見される可能性が極めて高い。このように低地部遺跡は未だ埋もれている可能性はあるものの希薄であり、旧石器時代から縄文時代にかけては但馬地域の高原地域の遺跡の分布のあり方と対照的である。

２．弥生時代

弥生時代になると遺跡の数は増加する。駄坂川原遺跡は沖積地の深い場所から貝層を伴い前期から中期にかけての土器や石器・木器・骨角器が出土している。

加陽遺跡からは前期から中期初頭の土器が出土し、中期前半の土器とともに碧玉製管玉の未成品が出土した。エノ田井走遺跡では中期中頃と後期前半の円形竪穴住居跡を調査している。中期中頃の竪穴住居跡からは、碧玉製管玉の未成品や紅簾石石英片岩の石鋸が出土しており、生産工程を示す重要な資料である。立石岡田遺跡では竪穴住居跡を調査している。豊岡ではほかに亀ヶ崎遺跡や中ノ郷深谷遺跡で竪穴住居跡を調査しているが、検出例は少ない。

女代神社南遺跡からは、突線鈕Ⅱ式銅鐸の鰭部分が採集されている。豊岡ではほかに、気比で４口の流水文銅鐸が出土しており、そのうち３号鐸は大阪府東奈良遺跡出土の鋳型で鋳造されていることが明らかになっている。

弥生時代の墳墓は舟隠墳墓群・東山墳墓群・エノ田門谷墳墓群・半坂墳墓群・妙楽寺墳墓群・立石墳墓群・北浦19号墓などで調査が行われている。

舟隠墳墓群は駄坂川原遺跡の東の尾根上に存在する前期末から中期の方形周溝墓群で、８基以上の方形周溝墓を確認し、９基の埋葬施設を調査した。中でも13号墓からは緑色凝灰岩製の管玉125個以上が出土しており、全国的に見ても際だっている。母集落である駄坂川原遺跡との関係も注目される。

後期の墓は東山墳墓群・エノ田門谷墳墓群・半坂墳墓群・妙楽寺墳墓群・立石墳墓群・北浦19号墓などで調査が行われており、中期に比べて増加している。

東山墳墓群では明瞭な区画は存在しないが、41基の木棺を調査している。ほとんどの棺内には破砕供献土器が見られる。エノ田門田墳墓群では49基あまりの木棺を調査しており、隣接するエノ田井走遺跡との関係が注目される。半坂墳墓群は２基の方形周溝墓を調査し６基の木棺を調査している。北浦19号墓は一辺４～５ｍの方形周溝墓で棺内には破砕供献土器が見られる。妙楽寺墳墓群は段状の区画が存在するものと、存在しないものとがあり、全部で60基以上の木棺が調査されている。鎌田若宮墳墓群４号墓は10～11基の木棺を検出し、墓上に土器を供献している。立石墳墓群96～103地点では区画が存在するものと、存在しないものとがあり、木棺は60基調査している。後期後半からの墳墓群は、いずれも古墳時代の初頭まで続いている。

このように、いずれも低丘陵上や尾根上に立地し、溝によって区画された中に複数の木棺墓を埋置しており、集団墓の様相を示している。一部の墓には玉類や鉄製品が副葬されており、土器は墓壙内に破砕して供献する例が多く認められ、近畿地方北部の特徴となっている。

３．古墳時代

古墳時代になると多くの丘陵上や尾根上に非常に多くの古墳が築かれ、古墳の調査例は多い。これに比べて、集落遺跡の調査例は少ない。竪穴住居跡は、女代神社南遺跡と北浦古墳群の中で調査されている。北浦古墳群では、殯屋などの性格が考えられている。香住エノ田遺跡からは、五反田遺跡と同様に流路から土器や木製品が出土しているが、このような遺跡も少ない。

豊岡市内の古墳は、分布調査により横穴墓も含めて3500基以上が知られている。三江地区も多く、平野に面した尾根上には鎌田古墳群・鎌田若宮古墳群など120基程度が存在している。コウノトリの郷公

園の尾根上にも佐久羅古墳群や二ヶ谷古墳群が存在している。

前期古墳には森尾古墳がある。墳形は明らかでないが３基の竪穴式石室が存在し、第１石室からは方格規矩鏡、第２石室からは三角縁神獣鏡、第３石室からは正始元年銘鏡が出土している。

五反田遺跡北東の鎌田若宮古墳群は弥生時代から続く墓で、中でも３号墳からは東海地方のパレス壺を模した在地胎土の土器や山陰独特の注口土器が出土している。

北浦古墳群は中期から後期にかけての小規模な古墳群であるが、尾根の頂部に立地する18号墳は全長6.5mの２段墓壙の小口に板石を立てた長大な組合せ木棺を納め、器台を枕にしている。北浦古墳群では総延長150m以上にもおよぶ階段を伴う墓道が調査されており、注目されている。

立石古墳群は後期まで続く古墳群で六獣鏡などが出土した107-1号墳や馬具などが出土した作り出しを持つ円墳の105号墳などがある。ハナ古墳群は前期中心の６基の古墳を調査しており、木棺や石棺を埋葬施設にしている。駄坂古墳群は後期まで続く古墳群で９号墳の11号主体は小口部分を石で押さえた組合せ木棺で、ガラス製の勾玉や管玉、水晶製算盤玉で構成された頸飾が出土している。

カチヤ古墳は陰石を使った組合せ式の石棺を埋葬施設としており、棺内から多数の玉類などのほか棺外から珠文鏡などが出土している。隣接する半坂南尾根古墳群は４基の土器棺を埋葬した特異な古墳である。

長谷ホウジ１号墳の棺外からは鑿・金鉗・金槌・砥石などの鍛冶工具・小型の農具などがまとまって出土しており、鍛冶関係の被葬者が考えられる。

七つ塚古墳は５基の円墳を調査しており、須恵器を伴う中期古墳である。

前方後円墳は舟隠古墳や見手山１号墳などがある。舟隠古墳は測量調査が行われており、全長50mである。見手山１号墳は全長63mで埋葬施設は横穴系竪穴式石室で、但馬では最後の前方後円墳である。

香住エノ田古墳群Ｃ地点１号墳からは漆で補修された須恵器の無蓋高坏が出土しており、五反田遺跡の漆で補修された須恵器との関連が注目される。

後期古墳は他地域では横穴式石室が一般的であるが、この周辺では少なく代わりに横穴墓が目立っている。横穴墓は日撫正福寺谷横穴墓群で16基、見手山横穴墓群で４基、北浦横穴墓群で12基、東山横穴墓群で２基、香住門谷横穴墓群で７基、妙楽寺見手山横穴墓群で２基の調査が行われており、兵庫県の中ではまとまったあり方を示しており注目される。特に東山１号横穴墓からは銀装大刀が出土しており被葬者を考えるうえで重要である。

須恵器窯は法花寺にカマドハナ窯跡がある。周辺には古代にかけて窯跡群を形成している。

４．古代

古代における五反田遺跡周辺は但馬国城崎郡三江郷に属す地域であった。延喜式神名帳に記載されたいわゆる式内社は北東1.5kmの法花寺に酒垂神社が、北西1.2kmの下宮に久久比神社が鎮座している。

但馬国府は第２次が日高町に推定され、第１次は出石町などが考えられているが、明確な遺構は確認されていない。寺院は日高町に国分寺・国分尼寺があり、国分寺は数次の調査により伽藍が明らかになり、木簡が多数出土している。ほか、衣笠山塊の南側に位置する三宅廃寺は瓦積基壇の一部が調査されている。瓦の散布は広いが、伽藍配置は明確にされていない。

平安時代の寺院は、加陽の大市山遺跡があり基壇が調査されている。

その南側に広がる式内社の中島神社周辺遺跡からは奈良時代を中心とした掘立柱建物群を検出し、墨

書土器が多数が出土している。またヱノ田遺跡群では奈良時代から平安時代の掘立柱群を検出し、井戸も検出している。遺物は木製祭祀具のほか少領と主帳が史生を呼び出すという木簡が出土しており、官衙的な性格を示している。舟隠遺跡では平安時代後期の掘立柱建物が検出されている。他に、集落は女代神社遺跡で調査が行われている程度である。出石町袴狭遺跡群では木簡や祭祀遺構・遺物などが出土しており、官衙的性格を示す遺跡である。

須恵器窯は北東方向に法花寺窯跡群がある。また三宅廃寺西側の山麓で窯跡群が調査されており、三宅廃寺に供給した瓦を焼いている。

古代の墓はヱノ田遺跡で須恵器坏を蔵骨器とする火葬墓が調査されている。また立石103号地点墓では富壽神寶を伴った土坑墓が調査されている。経塚は妙楽寺で５基以上の経塚があり、小石室で構成されている。銅製や鉄製の経筒が出土している。門谷経塚からは銅製の経筒が出土している。

５．中世

中世の遺跡は駄坂舟隠遺跡と備後衆山砦跡で調査が行われている。駄坂舟隠遺跡では掘立柱建物跡、田結庄氏の居城である鶴城の出城の備後衆山砦跡では主郭と堀切が調査されている。低地の集落遺跡の調査は少ない。山城は三開城・鶴城・庄境城・河谷城・衣笠狼煙台跡などがある。

中世の墓は正福寺谷で土坑墓が調査されている。立石では11基の土坑墓群が調査され、開元通寶や祥符元寶が出土している。また、正福寺谷横穴墓など、この時期に再利用されているものが存在する。

弘安８年の但馬国太田文には上三江庄、山城松尾社領下三江庄などの荘園が記載されている。

南北朝の争乱の後の但馬は山名氏が守護職として支配し、14世紀中頃から16世紀にかけては九日市に、それ以降は出石町此隅山城下に守護所が設けられていた。九日市の守護所の遺構は確認されていない。

６．近世以降

祥雲寺村の領主は、はじめ豊岡藩杉原氏、正保元年幕府領、寛文８年豊岡藩京極氏、享保11年幕府領と変遷し幕末に至っている。

明治４年廃藩置県により豊岡県が設置されたが、11月には但馬・丹波・丹後にまたがる新しい豊岡県が設置された。明治９年８月には豊岡県が廃止され、兵庫県に併合され、現在に至っている。

明治22年の市制町村制の施行により三江村が成立し、昭和18年豊岡町と合併し、昭和25年に市制をしいた。

第２章　調査に至る契機と経過

第１節　調査に至る契機

兵庫県教育委員会では、「特別天然記念物であるコウノトリを保護し、その種の保存を図るとともに、豊かな自然の中で、コウノトリその他の野生生物と共存できる、人と自然の調和した環境の創造について県民の理解を深め、教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的に「兵庫県立コウノトリの郷公園」の設置を計画した。

平成５年９月にコウノトリの郷公園を豊岡市祥雲寺・河谷・百合地地区に設置する事を決定した。

平成６年３月にコウノトリ基本構想の策定がなされ、平成６年５月に基本計画策定委員会が設置され、平成７年３月に基本計画が策定された。

兵庫県立コウノトリの郷公園は、コウノトリの野生復帰を実現するため、「コウノトリの種の保存と遺伝的管理」「野生化に向けての科学的研究及び実験的試み」「人と自然の共生できる地域環境の創造に向けての普及啓発」の三つの基本構想で事業を進めている。コウノトリの種の保存と遺伝的管理は健全なコウノトリの繁殖を行うため、遺伝的多様性を維持し、血統管理を行いながら個体数の確保に取り組む。野生化に向けての科学的研究及び実験的試みはコウノトリのような希少動物で、いったん人工飼育に切り換えた後、野生に復帰させるという試みの成功例は、世界でも類を見ない。そこで、野生化に向けての必要な飼育方法の開発や習性・行動に関する研究など、様々な試みに取り組む。人と自然の共生できる地域環境の創造に向けての普及啓発はコウノトリが生息する環境を創るため、公園内に限らず地域全体を人と自然の共生できる環境として創造していくことが必要である。そのために、自然保護・環境保全を身近に考える機会の提供や調査研究の公開などを行い、環境づくりの普及啓発に取り組む。

このような基本機能のため、約165haに及ぶ敷地は、コウノトリ自然馴化ゾーン、自然ゾーン、自然観察・学習ゾーンの三つのゾーンから成り立っている。

コウノトリ自然馴化ゾーンは非公開であり、コウノトリ野生化ゾーンと野生化研究センターゾーンに分かれている。コウノトリ野生化ゾーンはコウノトリを飼育し繁殖させ、野生に帰すための訓練を行うための飼育管理棟・ケージ・湿地・池がある。野生化研究センターゾーンはコウノトリの生活や野生に帰す方法などについて専門的な研究を行うための管理・研究棟や検疫棟・入院ケージがある。

自然ゾーンは非公開であり、将来野生に帰ったコウノトリが巣を作ったり、生息していくために必要な環境を維持するためのものである。

自然観察・学習ゾーンは公開しており、センターゾーン・自然観察ゾーン・里山保全ゾーンに分かれている。センターゾーンはコウノトリはもちろん、人と自然が共に生きることの必要性を身近なものとして、わかりやすく気軽に学ぶ場としての公開ケージ・ビオトープ・ピクニック園地、豊岡市立コウノトリ文化館コウノピアがある。自然観察ゾーンは豊かな自然を生かし、来園者の自然に対する関心や目的に見合った自然観察の場として使う。里山保全ゾーンは但馬の里山や環境づくりを実際に体験しながら、人と自然の関わりについて学ぶ場であり、コウノトリが野性に帰るまで観察できる場所で、観察サイト・有機水田・自然観察路がある。

第２節　埋蔵文化財の対応

この事業に先立ち、豊岡市教育委員会による分布調査により昭和63年度までに『豊岡市埋蔵文化財分布地図及び地名表第４集』をまとめ、コウノトリの郷公園事業地内の埋蔵文化財は図17の№72・№107・№160・№162の４箇所が登録されていた。

兵庫県教育委員会では兵庫県立コウノトリの郷公園整備事業の計画に伴い、平成８年４月にあらためて詳細な埋蔵文化財分布調査を実施し、事業地内で今まで豊岡市教育委員会で確認していた遺跡も含めて28箇所の遺跡および古墳群を確認した。

コウノトリ自然馴化ゾーンは、コウノトリ野生化ゾーンと野生化研究センターゾーンに分かれている。コウノトリ野生化ゾーンには平畑遺跡と堂林遺跡が存在する。野生化研究センターゾーンには五反田遺跡が存在している。

自然ゾーンには衣笠狼煙台・宍谷古墳・宍谷古墳群・№８・№19・№21・№23～№25が存在する。

自然観察・学習ゾーンは、センターゾーン・自然観察ゾーン・里山保全ゾーンに分かれている。センターゾーンには於富美遺跡・二ヶ谷17号・五反田遺跡が存在する。自然観察ゾーンには二ヶ谷古墳群・大山田古墳群・口細古墳・№10・№15が存在する。里山保全ゾーンには堂林遺跡・佐久羅古墳群・佐久羅城跡・堂林古墳群が存在する。

自然ゾーン・自然観察ゾーンは地形の大きな改変をともなう工事が行われないため、調査の必用は無いとした。

この事業は、兵庫県土地開発公社により、用地の整備が進められことになり、平成９年３月の基本設計及び建築・造成の実施設計と前後して、野生化研究センターゾーンとセンターゾーンの五反田遺跡・於富美遺跡、コウノトリ野生化ゾーンの平畑遺跡の確認調査を実施した。平畑遺跡は遺構・遺物の存在が認められなかったが、五反田遺跡・於富美遺跡は多くの場所で遺構や遺物が出土し、遺構面に影響を与える様であれば、調査が必要であることが判明した。

これを元に協議した結果、五反田遺跡は野生化研究センターゾーンの管理研究棟・検疫棟・入院ケージおよび防火水槽の建設のため、全面調査が必要であることが判明した。於富美遺跡はセンターゾーンの池の掘削はGL－0.5mであるので、調査の必要がないとしていたが、実は遺構面より深く掘削したため調査する事になった。また、於富美遺跡と二ヶ谷17号はセンターゾーンのピクニック園地のため確認調査を実施した。平畑遺跡と堂林遺跡はコウノトリ野生化ゾーンや里山保全ゾーンに位置し、水路掘削により遺構や遺物が確認されたため、調査を行った。

里山保全ゾーンの堂林遺跡・佐久羅古墳群・佐久羅城跡・堂林古墳群は自然観察路や屋外便所などのため確認調査を実施した。

第３節　調査の経過

１．発掘調査の経過

(1)　平成８年度

野生化研究センターゾーンおよびセンターゾーンの計画予定地には五反田遺跡〔№12〕と於富美遺跡〔№11〕が存在している。このため遺跡の内容や深度などを確認するための調査を実施した。

調査は20mごとに２m×４mの試掘坑を設定し、バックホーによって表土および無遺物層を取り除き、遺物・遺構の検出につとめた。また必要に応じて試掘坑を設け、詳細な内容の把握につとめた。最終的に37箇所で調査を実施した。

調査の結果、五反田遺跡（第１次）と於富美遺跡の多くの場所で古墳時代から古代にかけての遺構や遺物が出土した。工事により遺構面に影響を与える計画であれば、調査が必要であることが判明した。

平畑遺跡はコウノトリ自然馴化ゾーンのコウノトリ野生化ゾーンで地下に影響があるため、遺跡の内容や深度などを確認するため調査を実施した。９箇所の試掘坑を調査したが、遺構や遺物は確認できなかった。

(2)　平成９年度

平成９年度は五反田遺跡〔No.12〕（第２次）の全面調査と平畑遺跡・堂林遺跡の全面調査を実施した。当初は五反田遺跡の野生化研究センターゾーンに係わる建物部分の全面調査のみの予定で調査を進めていたが、野生化ゾーンの水路工事で平畑遺跡の隣接地と堂林遺跡の隣接地において遺物や遺構の存在を確認したため、協議した結果、急遽工事を中断して全面調査を実施する事となった。

このうち五反田遺跡の存在する場所は野生化研究センターゾーンで管理・研究棟、検疫棟、入院ケージおよび防火水槽を建設する場所であるため、平成８年度に確認調査を実施し、遺跡の内容や範囲・深さなどを確認した。これを元に協議した結果、建物や防火水槽など地下に影響を与える部分の調査が必要である事を確認し、全面調査を実施した。途中、建物に影響のある遺跡範囲が全面調査の結果より広がったため、契約を変更し、最終的に1,639㎡の発掘調査を行った。

平畑遺跡は、野生化ゾーン内に位置する平畑遺跡隣接地で深掘された仮水路の断面に完形の土器が露出しているのを確認したため、これを元に協議した結果、この場所は水路として掘削する場所であるため、影響のある部分について発掘調査を実施した。

また、野生化ゾーンの堂林遺跡隣接地で掘削された水路の断面に土器が露出しており、溝状の遺構の存在が確認された。これを元に協議した結果、この場所は水路として掘削する場所であり、更に上流に掘削は続くため、影響のある部分について発掘調査を実施した。

(3)　平成10年度

平成10年度は、五反田遺跡〔No.12〕（第３次）の全面発掘調査と於富美Ａ遺跡〔No.11〕の全面発掘調査と二ヶ谷17号〔No.13〕・於富美Ｂ遺跡〔No.11〕の確認調査を実施した。

このうち五反田遺跡は水路設置のため、平成９年度に実施した第２次調査地点の南側の山裾を調査した。

調査は確認調査の成果に基づき、表土などの無遺物層を機械により掘削し、遺構検出および遺構掘削については、人力により掘削した。記録は、遺構検出時および完掘時において、随時、写真撮影・遺物出土状況図・遺構図および断面図を作成した。

於富美Ａ遺跡は平成８年度の確認調査で、遺構および包含層を確認して全面調査が必要とされていた地点であったが、センターゾーンの水路および池の工事による掘削が0.5m程度であり、遺構面に影響を及ぼさないということであった。しかし、平成10年７月３日この造成工事中の１号空石積水路工事により確認調査で遺跡の存在が確認された地点を遺構面より深く掘削していた。このため、土地開発公社に連絡をとり工事を一時中断し、協議した結果、遺構面は既に削平されているため、周囲の断面の記録をとる事とし、全面調査を実施した。

調査地はすでに掘削されていたため、断面の精査を中心に行った。遺跡の記録は写真撮影と図面を作成した。

また、センターゾーンの高台のピクニック広場の予定地は、分布調査による二ヶ谷古墳群〔№13〕と於富美遺跡〔№11〕の範囲内にあたるため確認調査を実施した。

調査は、対象地の地形測量（１/50・20cm等高線）を作成した後、二ヶ谷17号墳は墳丘部分を幅0.6mの手掘りでトレンチ調査を実施し、墳丘周囲の平坦地は機械と人力により幅0.6mのトレンチ調査を実施した。墳丘部分のトレンチ調査では岩盤が現れたため、畦部分を除いて全面の確認調査を実施した。

また、五反田遺跡の東端で埋設管工事に伴って小規模な調査を行った。

(4)　平成11年度

平成11年度は里山保全ゾーンの堂林遺跡〔№３〕とその南側〔№４〕、佐久羅城跡・佐久羅古墳群〔№１〕の確認調査を実施した。堂林遺跡〔№３〕は須恵器や土師器などの遺物は出土したが、遺構は削平により確認できなかった。〔№４〕は古墳の存在が指摘されていたが、遺構・遺物は確認できなかった。佐久羅城跡・佐久羅古墳群〔№１〕は丘陵頂部の四阿を設置する場所の調査を実施した。調査の結果、約15cmで岩盤に当たった。１カ所で集石が存在したが遺物は出土しなかった。集積に影響を与えない形で四阿の設置が行われた。

２．出土品整理の経過

出土品の整理事業は平成11年度から平成13年度の３年間にわたり、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所において実施した。

整理作業は、出土遺物の水洗→注記→接合・補強→実測・拓本→復原→写真撮影の順に実施した。さらに、遺物実測図と遺構図と共に製図→レイアウトを行い原稿執筆→編集→印刷を経て報告書刊行となる。

なお、木製品については水洗→注記→接合・補強→実測→写真撮影の順に実施した。その後、樹種同定のための切片をとり保存処理を行った。保存処理作業は、形状観察・写真撮影→ＰＥＧ含浸処理を行い、密封保管を行った。

(1)　平成11年度

平成11年度の整理作業は出土遺物の注記を行い、接合・補強した後、実測を行った。

木製品は台帳を整理し、実測および写真撮影の後、切片をとり樹種同定を行った。

(2)　平成12年度

平成12年度は、土器・石器の実測・拓本を行った後、復原して写真撮影を実施した。

木製品は、切片をとり樹種同定を行った。

(3)　平成13年度

平成13年度は、遺物実測図・遺構図と共に製図とレイアウトを行い、原稿執筆・編集・印刷を経て報告書刊行に至った。

木製品は、保存処理をして保管を行った。

あわせて、五反田遺跡から出土した遺物など遺跡を理解するために、石器石材の鑑定を兵庫県立人と自然の博物館の先山　徹氏に依頼し所見を得た。また、植物種実の同定を兵庫県立人と自然の博物館の藤井俊夫氏に依頼し所見を得た。

第４節　調査の担当

１．発掘調査

(1)　平成８年度

平畑遺跡確認960389・五反田遺跡第１次確認960390

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　調査第２班：森内秀造・高木芳史

(2)　平成９年度

五反田遺跡第２次全面970246・平畑遺跡全面970308・堂林遺跡全面970321

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　調査第３班：篠宮　正・野村展右

調査補助員：中村真也・前川直美

(3)　平成10年度

五反田遺跡第３次全面980066・二ヶ谷17号確認980094・於富美Ａ遺跡全面980098・於富美Ｂ遺跡確認980099)

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　調査第３班：篠宮　正・矢野治巳

調査補助員：中村真也

五反田遺跡第４次全面980102

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　企画調整班：多賀茂治

(4)　平成11年度

堂林遺跡確認990072

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　調査第３班：水口富夫・柏原正民

佐久羅城跡・佐久羅古墳群確認990176

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　企画調整班：別府洋二

２．出土品整理

(1)　平成11年度

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

復興調査班・調査第３班：篠宮　正

整理普及班：菱田淳子・中村　弘

実　　測：柏原美音・大前篤子・溝上くみ

接合・補強：吉田優子・木村淑子・前田千栄子・鈴木まき子・横山キクエ・竹内泰子・小寺恵美子・加藤裕美・三好綾子・芦田英美・佐々木誓子

保存処理　：川上　緑・船木昌美・遠藤理恵・多賀直子・川上啓子・小林俊子・渡辺二三代

(2)　平成12年度

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第４班：篠宮　正

整理普及班：菱田淳子・中村　弘

実測・製図：柏原美音・大前篤子・長川加奈子

復　　原：吉田優子・喜多山好子・石野照代・早川亜紀子・島村順子・大仁克子・小寺恵美子・

岡井とし子・蓬莱洋子

保存処理：川上　緑・船木昌美・遠藤理恵・多賀直子・川上啓子・小林俊子・渡辺二三代

(3)　平成13年度

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第２班：篠宮　正

整理普及班：菱田淳子・中村　弘

製図･ﾚｲｱｳﾄ：増田麻子・大前篤子・川村由紀

保存処理：多賀直子・川上啓子・小林俊子・渡辺二三代

第５節　調査の概要

１．五反田遺跡

五反田遺跡は、円山川の支流である鎌谷川の南側の位置している。北向の山際に立地しており、日照時間も短く、遺跡の立地条件としては決して良いとは言えない。全体に南東から北西に向かって僅かに傾斜している。

五反田遺跡の調査箇所は、コウノトリ自然馴化ゾーン内の野生化研究センターゾーンに位置している。このため遺跡の内容や深度などを確認するため平成８年度（第１次）に確認調査を実施した。調査の結果、多くの場所で遺構や遺物が出土した。遺構面に影響を与えるようであれば、全面調査が必要であることが判明した。

平成９年度（第２次）は、管理・研究棟、検疫棟、入院ケージおよび防火水槽を建設する場所を、平成８年度の確認調査を元に、全面調査を実施した。途中、建物に影響のある遺跡範囲が全面調査の結果より広がったため、契約を変更し、最終的に1,639㎡の発掘調査を行った。５面の調査を行い、水田や水路などを検出し、弥生時代から平安時代の土器と大量の木製品が出土した。

平成10年度（第３次）は、研究施設等の南側の水路施工にあたり、遺構面に影響を及ぼすため調査を実施した。

土坑や水路・柱穴などを検出し、弥生時代から平安時代の土器と木製品が出土した。

なお、五反田遺跡の東部は、平成10年度に豊岡市が自然観察・学習ゾーン内のセンターゾーンに位置するコウノトリ文化館を建設するため豊岡市出土文化財管理センターが調査を行い、古代の掘立柱建物や木製祭祀具などが出土している。

２．於富美遺跡

於富美遺跡は自然観察・学習ゾーン内のセンターゾーンに位置する。丘陵上に位置する於富美Ｂ遺跡はピクニック園地造成のため、機械と人力により幅0.8ｍのトレンチ調査を実施した。竪穴住居と柱穴を検出した。確認調査のため遺構の掘削は行わなかった。地下に影響のない工事方法を採った。

五反田遺跡の東側に位置する於富美Ａ遺跡は平成８年度の確認調査で、遺構および包含層を確認して全面調査が必要とされていた地点であったが、水路および池の工事による掘削が0.5ｍ程度であり、遺構面に影響を及ぼさないということで、調査の必要はないと判断していた場所であった。しかし、水路工事は確認調査で遺跡の存在が確認された遺構面より深く掘削していた。このため、急遽工事を一時中

断し、周囲の断面の記録をとる全面調査を実施した。

断面の調査により包含層・遺構面・柱穴を確認し古墳時代から平安時代の土器が出土した。

３．二ヶ谷17号

二ヶ谷17号は自然観察・学習ゾーン内のセンターゾーンに位置する。高台にピクニック園地として整備する場所にあたる。分布調査による〔No13〕二ヶ谷古墳群の範囲内であるため、確認調査を実施した。

調査は、対象地の地形測量（１/50・20cm等高線）を実施し、墳丘部分を幅0.6ｍの手掘りでトレンチ調査を実施し、墳丘周囲の平坦地は機械と人力により幅0.6ｍのトレンチ調査を実施した。墳丘部分のトレンチ調査では岩盤が現れ、性格が不明であったため、畦部分を除いて全面の確認調査を実施した。

４．平畑遺跡

平畑遺跡はコウノトリ自然馴化ゾーンのコウノトリ野生化ゾーンでオープンケージの造成や水路で地下に影響があるため、平成８年度に遺跡の内容や深度などを確認する調査を実施した。調査では遺構や遺物の存在は確認できなかった。

ところが、平成９年度に平畑遺跡北西側の隣接地で深掘された仮水路の断面に完形の土器が露出しているのを確認し、水路として掘削する場所であるため、掘削で影響のある部分について、全面調査を実施した。流路を検出し、弥生時代から平安時代の土器と木器が出土した。

５．堂林遺跡

堂林遺跡はコウノトリ自然馴化ゾーンのコウノトリ野生化ゾーンと自然観察・学習ゾーンの里山保全ゾーン位置しているが、平成９年９月に野生化ゾーンの堂林遺跡隣接地で掘削された水路の断面に土器が露出しており、溝状の遺構の存在が確認された。このため残っている部分の全面調査を実施した。流路を検出し、古墳時代を中心とする土器が出土した。

また、平成11年度には観察路整備のため確認調査を実施したが影響のある範囲では遺構・遺物は確認できなかった。

６．堂林古墳群

堂林遺跡は自然観察・学習ゾーンの里山保全ゾーンに位置しており、屋外便所設置のため平成11年度に確認調査を実施したが影響のある範囲では遺構・遺物は確認できなかった。

７．佐久羅城跡・佐久羅古墳群

佐久羅城跡・佐久羅古墳群は、佐久羅城跡・佐久羅古墳群〔No1〕は自然観察・学習ゾーン内の里山保全ゾーンに位置しており丘陵頂部の四阿を設置する場所の調査を実施した。調査の結果、約15cmで岩盤に当たった。１箇所で集石が存在したが遺物は出土しなかった。集積に影響を与えない形で四阿の設置が行われた。

第３章　五反田遺跡第２次調査

第１節　調査方法と層序

１．調査の方法と地区の設定（図版７）

調査は確認調査の成果に基づき、表土などの無遺物層を機械により掘削し、遺構検出および遺構掘削については、人力により掘削した。したがって、水田など出土遺物が極めて少ない遺構面は掘削後、断面精査によって水田面であることが判明した部分も存在する。

記録は、遺構検出時および完掘時において、随時、写真撮影・遺物出土状況図・遺構図および断面図を作成した。

地区の設定は国土座標Ｖ系を基準に、Ｙ＝47,410・Ｘ＝-49,950をＡ１として、10ｍ毎に西から東へアルファベットで、北から南へ数字で表した。北西の角の杭を地区の呼称とした。

２．層序（図版７・８）

調査前の現況は水田であった。水田面の標高は4.3ｍ～4.6ｍでその下に約0.8ｍの水田耕作土壌および洪水砂などが堆積している。黒色の土壌層を遺構面としてとらえ、調査を進めていった。

第２節　検出遺構

１．第１面（図版９）

調査区の北東隅で、南東から北西方向に向かって流れている自然流路ＳＲ11が存在している。それ以外は上層の影響で確認できなかった。

(1)　ＳＲ11

自然流路ＳＲ11は調査区の北東隅に位置している。Ｉ-２→Ｈ-２(南東から北西方向)に向かって流れている。幅2.5ｍ、深さ0.6ｍを測る。砂礫で埋没していることから、洪水による堆積と考えられる。第２面の水路ＳＤ21とほぼ重複している。

２．第２面（図版９）

調査区の北東隅で、南東から北西方向に向かって流れている畦畔ＳＳ22を伴う水路ＳＤ21が存在している。西半では水路ＳＤ21に直交する杭列ＳＷ23が存在している。本来、杭列ＳＷ23は水田畦畔に伴っていたと考えられる。周囲は水田土壌が堆積していたが、工程の都合で本格的な調査ができなかった。

(1)　ＳＤ21

水路ＳＤ21は調査区の北東隅に位置している。Ｉ-２からＧ-２方向、南東から北西方向に向かって流れている。幅3.0ｍ、深さ0.7ｍ。埋土は砂礫が堆積していた。遺物は平安時代の須恵器椀などが出土している。

(2)　ＳＳ22

水路ＳＤ21の南側に伴う畦畔である。幅最大1.2ｍ、高さ約0.2ｍである。水田土壌層と同一である。

(3)　ＳＷ23（図版11）

ＳＷ23は調査区の西半分Ｄ-２・３に位置する南北方向の杭列である。7mの間に17本の杭を確認した。杭は垂直に打ち込まれており、杭の最高所は、標高3.22mを測る。No.14の杭は、標高3.0mの高さで横木を貫通している。杭列のレベルと南壁の土層観察により水田畦畔に対応するものであることが判明した。樹種は広葉樹の割材12本、広葉樹の丸太5本と、全て広葉樹である。17本の内、3本の樹種同定を行い、全てクリであった。

３．第３面（図版10）

Ｉ-２→Ｈ-２に大畦畔を伴う水路を設け、大畦畔より南西側に水田面を設けている。大畦畔は広葉樹の杭を護岸に使用している。水路は洪水による砂礫により埋没しており、水田面にも砂が広がっている。

(1)　ＳＤ31

水路ＳＤ31は調査区の北東隅に位置している。Ｉ-２→Ｇ-２方向、南東から北西方向に向かって流れている。南側には畦畔ＳＳ32が伴っている。水路の幅4m前後、深さは最大1.5mである。洪水による砂礫により埋没している。遺物は古墳時代後期を中心とした土器と木器とトチノキの種子が出土している。

(2)　ＳＳ32

ＳＳ32は水路ＳＤ31の南側に伴う畦畔である。最大幅2m、高さは最大0.3mである。西半分は、杭列ＳＷ33が伴い、東半分は杭列ＳＷ34・35・36が伴う。

(3)　ＳＷ33

杭列ＳＷ33は水路ＳＤ31の南側の畦畔ＳＳ32に伴う。延長11mの間に37本の杭を打ち込んでいる。杭はほぼ垂直に打ち込まれており、杭の最高所は標高2.19mを測る。樹種は針葉樹の割材2本、針葉樹の丸太1本、広葉樹の割材10本、広葉樹の丸太24本と圧倒的に広葉樹の割合が多い。

(4)　ＳＷ34（図版13）

杭列ＳＷ34は調査区の東端、畦畔ＳＳ32の南側に取り付く。東西とも調査区の外に延びているが、長さ約３mの間に約15本の杭が打ち込まれている。杭はほぼ垂直に打ち込まれており、杭の最高所は標高2.48mを測る。No.08とNo.10とNo.13の杭は、標高2.0mの位置で、長さ２mの横木を貫通している。樹種は広葉樹の割材７本、広葉樹の丸太８本と、全て広葉樹である。15本の内、３本の樹種同定を行い、トネリコ属・カバノキ属・モクレン属であった。

(5)　ＳＷ35（図版13）

杭列ＳＷ35は杭列ＳＷ34と杭列ＳＷ36との間に直交して位置する。長さ約２mの間に約14本の杭が打ち込まれている。杭はほぼ垂直に打ち込まれており、杭の最高所は標高2.70mを測る。樹種は針葉樹の割材２本、広葉樹の割材３本、広葉樹の丸太８本と、広葉樹の割合が高い。13本の内、３本の樹種同定を行い、コナラ節2本・クリであった。

(6)　ＳＷ36（図版13）

杭列ＳＷ36は杭列ＳＷ35の南側に直交して位置する。長さ約２mの間に約８本の杭が打ち込まれている。杭はほぼ垂直に打ち込まれており、杭の最高所は標高2.42mを測る。樹種は広葉樹の丸太３本と針葉樹の割材５本である。８本の内、３本の樹種同定を行い、ハンノキ亜属２本とクリであった。

(7)　ＳＷ37（図版12）

ＳＷ37はＥ・Ｆ・Ｇ-２区に位置する東西方向の杭列である。15.5mの間で46本の杭が打ち込まれてい

る。杭はほぼ垂直に打ち込まれており、杭の最高所は標高2.74mを測る。樹種は針葉樹の割材42本、針葉樹の転用1本、広葉樹の割材1本、広葉樹の丸太２本と圧倒的に針葉樹の割合が多い。46本の内、３本の樹種同定を行い、スギ・トネリコ属・クリであった。

(8)　ＳＷ38（図版11）

ＳＷ38はＦ-１・２区に位置する南北方向の杭列である。杭列ＳＷ37のほぼ中央部で直交している。8.0mの間で27本の杭が打ち込まれており、北側の調査区外にも続いている。杭の頭が北に傾いているものが多く、杭の最高所は標高2.68mを測る。樹種は針葉樹の割材22本、広葉樹の割材１本、広葉樹１本と圧倒的に針葉樹の割合が多い。23本の内、２本の樹種同定を行い、スギ２本であった。

(9)　ＳＺ39（図版13）

ＳＺ39はＢ-１区に位置する木組みの遺構である。N32°Ｅに主軸をとる。幅は北側で0.7m、南側で0.4mと、北側に開いている。側面は杭を西側で５本、東側で７本打ち込み、薄い板材を編み込んでいる。内側は長軸方向に植物繊維が敷かれており、南から北に向かって、僅かに傾斜している。杭の樹種は針葉樹の割材11本、針葉樹の板材１本と全て針葉樹である。12本の内２本の樹種同定を行い、スギ２本であった。

(10)　ＳＸ40

ＳＸ40はＢ・Ｃ-３区に位置する土石流による堆積である。角礫を含む南側からの土石流で水田面が埋没している。調査区南端で、東西12m、南北５mの範囲に広がっており、最大深さ0.4mである。土石流の直上には古墳時代後期の須恵器の大甕107が散乱していた。

４．第４面（図版10）

調査区の北東部は流路ＳＲ41・ＳＲ42が流れ、ここから派生した水路ＳＤ43の南西側に水田面が広がっている。多量の木製品が出土した。

ＳＲ41とＳＲ42の間をＡ区、ＳＲ42とＳＤ43の間をＢ区、ＳＤ43の南西側をＣ区と呼称した。

(1)　ＳＲ41

ＳＲ41は自然流路であり、大半が第３面のＳＤ31の影響を受けており、かろうじて、Ｈ・Ｉ-２で南側で肩の一部が残っている。

(2)　ＳＲ42（図版16・17）

ＳＲ42はＩ-２→Ｈ-２→Ｇ-２→Ｆ-２と大きく湾曲して流れている自然流路である。埋土は黒色シルト層であり、多量の木製品が出土した。また川岸には木が生えていた痕跡が見受けられ、トチノキ・オニグルミ・ナラガシワ・モモ・ムクロジ・フジなどの植物種実が出土している。木製品には建築部材や田下駄などがある。土器は古墳時代中期を中心とした土師器が出土している。

(3)　ＳＤ43（図版17・18）

水路ＳＤ43は自然流路から分岐し、Ｇ-２からＢ-１区にかけて南東から北西に向かって流れている。水路は幅4.0m、深さ0.8mの規模である。水路の南側には畦畔ＳＳ44を築いている。水路内からは田下駄建築部材などの多量の木製品が出土している。土器は古墳時代中期を中心とした須恵器と土師器が出土している。また、トチノキ・オニグルミの種実が出土している。

(4)　ＳＳ44（図版14・15）

畦畔ＳＳ44は水路ＳＤ43の南側に位置している。幅1.3～1.9m、高さ0.3m前後を測る。畦畔の北側に

は杭列ＳＷ45が、南側には杭列ＳＷ46が伴っている。遺物は土器や田下駄や建築部材などの木器やモモの核が出土している。

(5)　ＳＷ45

杭列ＳＷ45は水路ＳＤ43と畦畔ＳＳ44との間に位置している。17.2mの間で58本の杭を確認した。杭の最高所は標高2.70mである。杭№15～№26の間は横板を12本程置き、土留めとしている。横板は標高2.5m前後のところに設置され、最大幅は23cmである。杭№27～№44の間の3.2mは標高2.2mの部分に長さ20cm、幅10cm程度の木片を敷き並べていた。杭の樹種は針葉樹の割材34本、広葉樹の割材９本、広葉樹の丸太１本と圧倒的に針葉樹の割合が多い。44本の内、４本の樹種同定を行い、サクラ・ナツツバキ属・クリ２本であった。

(6)　ＳＷ46

杭列ＳＷ46は畦畔ＳＳ44と南側の水田面との間に位置している。17.2mの間で51本の杭を確認した。杭の最高所は標高2.56mである。

５．第５面（図版10）

調査区の東部で南東から北西に流れる流れる溝ＳＤ51があり、調査区西半部で東西方向の畦畔２本が存在している。

(1)　ＳＤ51

ＳＤ51は調査区の東部に位置する溝である。幅２～３ｍ、深さ0.4m前後で、埋土は黒色の有機質の層である。遺物は出土していない。

(2)　ＳＤ52

ＳＤ52はＦ-２→Ｄ-２→Ａ-１と東から西に向かって流れる溝であり、Ｄ-２でＳＤ53が分岐している。幅1.0～0.5mで断面はレンズ状をしており、埋土は砂である。遺物は出土していない。

(3)　ＳＤ53

ＳＤ53はＤ-２でＳＤ52から北側に分岐し、約1.5m離れて、平行して西に向かって流れる溝である。幅0.7m前後で断面はレンズ状をしており、埋土は砂である。遺物は出土していない。

６．第６面（図版10）

調査区の西半分で南東から北西に流れる流路ＳＤ61がある。検出時に弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。この西側の基盤となった白色シルト層から、弥生時代中期の土器が出土した。

(1)　ＳＤ61

ＳＤ61はＥ-２→-Ｄ-１→Ｃ-１→Ｂ-１と蛇行した流路である。幅５ｍ程度であり、下層は有機質層、上層はシルト層であったが、遺物は出土していない。下層からトチノキ・オニグルミ・ナラガシワ・エゴノキ・フジなどの種実が出土している。

第３節　出土遺物

１．土器（別表１・２．図版23～27）

(1)　ＳＤ21出土（109・110）

土師器椀と須恵器椀がある。土師器椀110は底部糸切りである。須恵器椀109は稜椀で稜の部分と口縁内面に沈線を巡らしている。

(2)　ＳＤ31出土（28・35・41・48・55・79・80・84・99～101・114・115）

弥生土器壺・器台・甕、土師器壺・高坏・甕・土錘、須恵器坏・高坏がある。

弥生土器壺114は大きく口頸部がのびる広口壺で、口縁端部を上方に拡張させ端面に刻みを付けている。器台35は外方にのびる口縁部の端部が下方に拡張している。甕115は頸部に指頭圧痕文突帯を貼り付けており、口縁端部は刻みを付けている。

土師器壺28は小形の直口壺である。体部内面は横方向の篦削りを行っている。高坏55は浅い椀形の坏部である。脚台41は蓋のつまみの可能性がある。甕79・80・84は口縁部が短く外傾し無文のもの（79）と口縁部が長く外傾し下端面に僅かな稜をもつもの（80）と口縁部が短く外傾し端部に面をもつもの（84）とがある。土錘48は紡錘形で0.7cm程度の孔があく。

須恵器坏Ｈ蓋99の天井部は篦切り未調整である。坏Ｈ身100は立ち上がりが短い。高坏101の脚部は透かしがなく端部は摘み出している。

(3)　ＳＲ42出土（17・18・21・45・47・56・67・74・83）

弥生土器甕・壺蓋・壺と土師器壺・鉢・高坏・甕がある。

弥生土器甕17は底部の破片でナデにより仕上げている。壺蓋18は完形で傘形を呈している。外面は篦磨きの痕跡をよくとどめ、２孔の紐孔を１対あけている。壺21は肩部に篦描きの文様が存在する。

土師器高坏56・74は椀形の坏部の口縁部が直線的に外方に開く（56）と脚部内面を一気に篦削りする（74）がある。甕83は口縁部が僅かに内弯し口縁端部内面に段をつくる。45は手づくねの壺で、47は手づくねの鉢である。

(4)　ＳＤ43出土（20・23・26・37・40・44・50・52・53・58～60・62・63・66・69～71・75・76・78・85・88・91・102・104）

弥生土器広口壺・長頸壺・高坏・甕と土師器壺・器台・有鉢・椀・高坏・甕と須恵器甑・樽形甑がある。

弥生土器広口壺20は口縁部内面に細かい櫛描波状文を施している。長頸壺23はやや外反する頸部に直立する口縁部をもつ。高坏66は口縁部が直線的に外方にのびる。甕75・76・78は口縁部が上方に立ち上がるもの（75）と口縁端部が拡張し擬凹線文をもつもの（76）と口縁部が短く外傾し無文のもの（78）がある。いずれも体部は外面ハケ調整、内面篦削りである。

土師器壺26は口縁部が短く外傾し内外とも篦磨きしている。器台37は鼓形である。鉢40は低い脚台が付く。有孔鉢44は平底に孔を穿っている。外面はタタキ、内面は篦削りである。椀50・52は口縁部が直立する（50）と半球形の（52）がある。高坏58～60・62・63・69～71は椀形の坏部の内面に放射状の暗文をもつ（58）と坏部の口縁部が外方に大きく開く（59・60）と小振りで外方に開く口縁をもつ（62・63）と脚裾部に爪の痕跡を残す（69）と脚部内面を一気に篦削りする（70・71）がある。甕85・88・91は口縁部下端面に僅かな稜をもつもの（85）と口頸部がくの字状で口縁端部に面をもつ（88）と口頸部

がくの字状の（91）がある。

須恵器瑳102は有段の口縁部である。樽形瑳104は胴部最大径部に注孔をあけ、その脇に沈線と波状文を巡らしている。

(5)　ＳＳ44出土（31・57・77・87・92・93）

弥生土器高坏・甕と土師器高坏・甕がある。

弥生土器高坏31はくの字状に屈曲する口縁をもつ。甕77はくの字状に屈曲する口縁で端部に面をつくり疑凹線を施している。

土師器高坏57は浅い椀形の坏部である。甕87は口縁部下端面に僅かな稜をもつ。甕92・93は球形の体部で内面は篦削り、外面はハケで仕上げている。底部は丸底で、口縁部はくの字状に外反し口縁内端面が肥厚している。

(6)　第３面出土（107・108）

須恵器甕と坏がある。須恵器甕107は口頸部が大きく外方に開く大形品で口頸部は縦方向の条線の後、２本の沈線で突帯を作り出し口縁部としている。頸部は２本１単位の沈線を２箇所巡らしている。坏108は底部篦切りである。

(7)　第４面出土（27・36・54・64・72・73・86・90・98・103・105・106・111・112）

土師器壺・器台・高坏・甕と須恵器坏蓋・瑳・樽形瑳がある。

土師器壺27は小形の直口壺である。器台36は大きく外方に開き口縁部が上方に拡張している。椀もしくは高坏54は浅めの半球形の坏部で内面は放射状の暗文を施している。高坏64は深手の高坏で口縁部は外反しており、坏内面には放射状の暗文が施されている。高坏脚72・73は脚内面を一気に篦削りしている。甕86・90は口縁部が長く外傾し下端面に稜をもつもの（86）と口頸部がくの字状の（90）がある。甕111は口縁が外反し外面はハケで仕上げる。112は体部に角状把手が付く。

須恵器坏Ｈ蓋98は小振りであるが口縁部と天井部の境に稜をもち、口縁端部に段をつくる。天井部は篦削りである。瑳103は有段の口縁部であり、波状文を巡らしている。樽形瑳105は小口部分の破片で櫛状工具による列点文を施している。甕106は大きく開く口縁部を突帯と波状文で飾っている。

(8)　第５面出土（113）

弥生土器把手113が出土している。壺類の把手である。

(9)　第６面出土（１～16・19・24・25・29・30・32～34・38・39・42・43・49・51・61・65・68・81・82・94～97）

第６面からは検出時に出土したもの（1～16）と主に基盤とした白色シルト層を中心としたもの（19・24・25・29・30・32～34・38・39・42・43・49・51・61・65・68・81・82・94～97）とがある。

前者は弥生土器甕1～16がある。口縁は外反する口縁（１・２）、単純なもの（７）、上方に拡張するもの（６・８）、端部に沈線を巡らすもの（10・11）、上下に拡張して疑凹線を巡らすもの（９）がある。外面はハケ調整のものがほとんどであるが、16はハケ調整の下に篦削りの痕跡が残る。６は羽状列点文を施している。内面は６・11・12・14～16は篦削りの痕跡が残り、上部まで削りの痕跡が認められる。11は内面上部に爪の痕跡が残っている。

後者は土師器広口壺・長頸壺・短頸壺・高坏・器台・鉢・甕・椀がある。土師器広口壺19は複合口縁壺で頸部から体部上半にかけて篦による綾杉の装飾を施している。長頸壺24は口頸部が直線的に外傾している。短頸壺25は疑凹線を口縁部に巡らしている。29は壺の口縁部である。壺30は口縁下端面を垂下

させると思われ、円形のスタンプ文で加飾している。高坏32は口縁部が外反し端部が拡張し疑凹線を施す。器台33・34・38は口縁部が拡張し疑凹線を施すもの（33・34）と小形の脚部（38）がある。鉢39は低い脚台が付く。甕42は脚台が付く。有孔鉢43はで尖底の底部で一孔を有する。椀51は浅い半球形である。高坏49・61・65・68は坏部で口縁部が僅かに外反する（49）と大形の坏部で口縁部は大きく外反する（61）と僅かに開く口縁部のもの（65）と脚裾部が大きく開き内面は一気に篦削りするもの（68）がある。甕81・82は口縁部下端面に僅かな稜をもつ（81）と口縁部が僅かに内弯し口縁端部内面に段をもつ（82）がある。甕底部94～97は小さな平底（94）と平底（95・96）と上げ底（97）がある。

⑽　防火水槽地区（89）

土師器甕89がある。口頸部は外反している。

２．木器（別表６～10．図版28～74）

(1)　ＳＤ31出土（Ｗ２）

W2はＡ類４孔式田下駄である。砂礫層から出土したため、劣化が著しい。

(2)　ＳＷ34出土（Ｗ１）

W1は杭列ＳＷ34を構築していた横木と、それに打ち込まれた２本の杭である。

(3)　ＳＲ42出土（Ｗ５～W90）

ＳＲ42からは田下駄・横槌・槽・組み合わせの箱・天秤棒・舟・板が出土している。

Ｗ５～W23・W25～W28はＡ類４欠式田下駄である。Ｗ６・Ｗ７は板目でヤリガンナの痕跡が残る。Ｗ９は切欠きを結ぶケビキ線が認められる。W13は転用前の小孔２箇所がある。W21は割材の厚みがある部分のみチョウナによるハツリで薄くしている。W22は鼓形を呈し、チョウナによるハツリの痕跡が著しい。W23は切欠きを結ぶケビキ線が認められ、片側に４箇所の切り欠が認められる。W25はチョウナによるハツリの痕跡が著しい。W24はヤリガンナの痕跡が残る板でまだ、切り欠きはされていない。W29はＡ類２孔式田下駄である。ヤリガンナの痕跡をとどめており、２孔を横断するケビキ線がある。W30はＡ類３欠式田下駄である。チョウナによるハツリ痕跡が著しい。W31～W34はＡ類４孔式田下駄である。W31はチョウナの痕跡が著しい。W33は角を丸く仕上げており、紐穴とは別に１孔あけている。W34の紐孔は円形である。W35～W37は板材である。加工痕などからW35・W36は２枚分の、W36は１枚分の田下駄用の未成品であると考えられる。W38～W40は田下駄Ｄ類で、W38は足板で紐結合である。９条の横桟の圧痕が明瞭に残る。W39は横桟である。中央部に穿孔が見られる。枘部分には別材の枘孔の木目圧痕が残る。W40は方形枠支柱で推定17箇所の横桟孔が存在する。引き手孔はなく端部に抉りを設けており、微かに紐の痕跡が残る。W41は横槌である。W42はスキもしくは櫂の未成品である。W43は長方形の槽である。一部しか残っていないが長辺方向の断面は逆台形である。W44・W45は組み合わせの容器の側板である。W44は側面・底板ともに木釘による結合を行っている。W45側面は２箇所の鼻栓で、底板とは３箇所の木釘による結合をしている。W46・W63は舟の一部である。厚さは約２㎝である。W47～W50は天秤棒で、W47は両端を尖らした断面形長方形のもの、W48は両端に抉り加工し頭部を作り出し紐掛けとするもの、W49・W50は止木を挿入し紐掛けとするものである。W51は天秤棒に似たサイズの棒であるが端部の加工がない。

W52は端部の中央部に２孔を穿つ長い板である。W53は端部から等間隔のところに孔を穿つ細長い板で、チョウナの痕跡が残る。W54は小口に約18㎝×４㎝の切り込みをもつ板である。W55は小口に抉り

をもつ板である。W56は先端を枘加工した柱である。W57・W58は方形の孔があく板であり、W58はチョウナの痕跡が残る。W59は約46cmの間隔で方形の孔があく板である。W60は約10cm×約７cmの長方形の孔が２箇所以上ある板である。W61は小口に抉りと小孔をもつ板である。W62は小口に小孔をもつ板である。W64は約28cmの間隔で方形の孔があく板である。W65は一辺３cmの孔がある板で、側縁に半月形の抉りがある。W66は孔があく板である。W67は一辺約3.5cmの孔をあける柾目の板でヤリガンナ痕跡が残る。W68は側縁に孔をあける板で、刺突による絵画様の痕跡がある。W69は鼻栓の枘穴のある板である。W70は枘のある板である。W71・W72・W74は孔がある板である。W73はチョウナ痕跡を残すがＡ類４欠式田下駄であると考えられる。W75～W77は先端が尖がった棒である。W78は断面方形で、孔があく棒である。W79・W80は断面円形の細い棒である。W81は断面木葉形で鋭い稜をもっている。W82は断面楕円形の棒である。W83・W84は薄い板で先端を削り、尖らせている。W85は片側を抉った板である。W86～W89は断面長方形での板材で、W89は面取をしている。W90はチョウナで加工途中の材である。

(4)　ＳＤ43出土（W91～W157）

ＳＤ43からは蓋・組み合わせの箱・火鑽板・火鑽棒・刀形・田下駄・建築部材・天秤棒・腰掛け・板が出土している。

W91は蓋で中央部に別材を挿入し、摘みとする。W92は組み合わせの箱と考えているが、軸と板の組み合わせであれば扉板の可能性もある。W93は火鑽棒で先端が火鑽板との回転摩擦により焦げている。反対側は細くなっている。W94・W95は火鑽板でいずれも片側面のみに、W94は５箇所、W95は４箇所の火鑽穴がある。W94は中空の火鑽棒との組み合わせが考えられる。W95は使用回数が少なく、火鑽穴の加工の状況がよくわかる。W96は鳥形の羽と考える。細長い半月形の薄い板である。W97は扁平な刀形である。薄い板でつくっており、柄は弯曲させている。

W98・W99は田下駄Ｄ類の方形枠支柱である。W98は楕円形の断面に７箇所以上の横桟孔があき、その内４箇所に横桟の枘が残っている。引き手孔はなく、抉りを設けており、微かに紐の痕跡が残る。W100は両端紐掛けがある棒である。W101～W115はＡ類４欠式田下駄である。W101・W102・W104・W110・W115はチョウナの痕跡が著しい。W116は鼓形を呈している。W117・W118は側縁中央部に大きな切り欠きがある。W119・W120はＡ類４孔式田下駄である。W119は片側の角を斜めに加工しており、W120は正方形に近い。W121～W123・W129～W131は板材で田下駄の未成品と考えられる。前者は２枚分、後者は１枚分であろう。W121・W130・W131は転用前の孔が存在する。

W124は建築部材と考えられる。側縁に大きな抉りと両端に溝をもつ枘穴が存在する。W125は断面三角形の板材で一辺約10cmの孔をあけている。W126は断面凸形の板材の凸部に約11cm×約２cmの孔をあけている。W127は小口に方形の抉りと、側面に半月形の抉りのある板である。W128・W134は方形の孔のある板である。W132は小口に抉りと小孔をもつ板である。W133は両端に一辺約２cmの孔と中央に一辺1cmの孔がある板である。W135は小口が斜めの板で一辺約２cmの孔をあける。W136・W137は複数の小孔があく板である。W138は中央に一辺約5cmの孔をあける長方形の板である。W139は羽子板状に加工した板で、チョウナの痕跡が残る。W140・W147は片側縁を抉った板である。W141は小口に斜めの段をもつ厚い板である。W142は孔がある板でチョウナによる加工の痕跡が残る。W143は片側縁の中央に抉りのある板である。W144～W146は小孔がある板である。

W148～W150・W152は天秤棒である。W148・W149は先端に切れ込みを入れて紐掛けとしている。

W150・W152は先端に止木を挿入し紐掛けとしている。W148・W150・W152の本体の断面形は楕円形である。W149の本体の断面形は長方形である。W151は鍵の手に孔を２箇所あけた棒である。W153は断面円形の棒で、部分的に削り込んで扁平になっている。W154は断面を円形に粗加工した棒で、抉りがある。W155は断面円形の細い棒である。W156は先端の尖った細い棒である。

W157は腰掛けで、半分程度残っており、四脚を作り出している。座板の平面形は長方形であり中央部分は僅かに窪んでいる。

(5)　ＳＳ44出土（W158～W167）

ＳＳ44からは舟形・火鑽棒・糸車・板が出土している。

W158は舟形で刳舟である。W159は火鑽棒である。W160は糸車の横木で２本を嵌め込んで組み合わせている。交点は両面から互い違いに込み栓で止めている。横木の端部は欠けているが孔があけられている。W161～W164はＡ類４欠式田下駄である。W165は2.5cm角の孔がある板である。W166は小口に切り込みがある板で、小口側が一段薄くなっている。W167は小口に突起のある板材で部分的にハツリの痕跡が残る。

(6)　第２・３面出土（W168～222）

第２・３面からは人形・斎串・刀形・馬形・曲物・田下駄・火鑽板・火鑽棒・梯子・棒・板が出土している。

W168～W170は人形である。W168は頸部を上下とも斜めに切り欠いている。W169は頸部を上方は斜めに下方は水平に切り欠いており、顔は刻んで表現している。W170は台形の頭部で刻みによる顔の表現がある。W171～W174は斎串Ａ類である。W175～W178は斎串の端部である。W179は斎串Ｅ類である。W180～W182は刀形でいずれも全容がわかるものはない。W183～W185は馬形で、W183は鞍の表現がある飾り馬、W184・W185は裸馬である。W184は口の表現を作り出しており、脚は腹に１本突き刺している。W185は背側に１箇所と腹側に２箇所の切り欠きを行い表現しており、目の表現もある。

W186は楕円形曲物の蓋の天板である。円孔があけられている。側板は樺皮結合で、側板の圧痕が認められる。W189・W190は組み合わせの箱で、釘孔があけられており、W190にはあたりが残る。W187・W188は曲物の底部で、W187は２箇所の釘孔があけられている。

W191・W192はＣ類田下駄の台状枠歯で、W191が釘結合、W192が２孔結合である。W193はＤ類田下駄の足板で横桟の圧痕が残る。W194～W197は台状枠付田下駄の支軸である。W198～W203はＤ類田下駄で、W198・W199は方形枠の横桟と考えられ、W198は断面楕円形、W199は菱形を呈する。W200～W203は方形枠の支柱である。W203は９箇所の横桟の通し枘差しの枘孔があき、枘が折れて残っており、割楔が残るものもある。２箇所の引き手孔には込み栓が残る。W204～W207はＡ類４欠式田下駄である。W204は切り欠き部分にケビキ線が残る。

W208は火鑽板で片面に６箇所の火口がある。火口付近は炭化している。火口の形から有孔の火鑽棒との組み合わせが考えられる。W209は片側辺に４箇所の小孔をあける板材である。W210は小口中央部分に小孔をあける板材である。W211は曲線の長辺に大きな抉りのある板材である。W212は中央部分に小孔をあける板材である。W213は中央部分に小孔をあける棒である。W214は両端に平枘がある組み合わせの材で２箇所の釘孔がある。W215は残存状態は良くないが、梯子である。W216は小口部分の隅を斜めに切り落とした板材である。W217は抉りのある板材である。W218は抉りもしくは孔のある棒である。W219は先端を抉り頭部を作り出しているW220は断面楕円形の棒である。W221・W222は板材の先

端を尖らせて杭として再利用したものである。

(7)　第４面Ａ区出土（W223～W282）

第４面Ｂ区からは田下駄・穂摘具・盤・槽・建築部材・箆・棒・板が出土している。

W223～W237・W239～W245はＡ類４欠式田下駄である。W224は切欠きを結ぶケビキ線が認められる。W226・W233・W234はチョウナの痕跡が残る。W238はＡ類２孔式田下駄である。左右に浅い抉り形がある。２孔をはずした場所にケビキ線がある。W246はＣ類３孔式田下駄の足板である。釘と孔で結合している。W279はＣ類田下駄の台状枠歯で横桟の通し枘孔には込み栓が残る。W247はＡ類４孔式田下駄の一部であると考えられ、２孔現存する。W248は穂摘具である。２孔をあけている。材はコナラ属アカガシ亜属である。

W249は方形の浅い盤で、底部には削り出した低い高台がある。短辺には把手用の紐孔を穿つ。W250・W251は方形の槽で長軸・短軸とも逆台形の断面をなす。W252は組み合わせの箱である。両小口に段があり、枘穴があいている。全体にチョウナの痕跡が残る。

W253は側面に台形の抉りがある板である。W254は側縁に小孔をあける板である。W255はチョウナで丁寧に加工した板である。W256は抉りのある断面方形の棒である。W257は片側に小孔をあける板である。W258は片側を尖らした約12cm×約６cmの長方形の孔がある板である。W259は建築部材で幅約1.5cm、深さ約1.5cmの壁板を嵌め込む溝が付けられており、両小口には他の部材と組み合わせる抉りがある。W260・W261は孔をあける板である。W262は約６cm×約４cmの長方形の孔がある板である。W263は小口を斜めに加工する小孔をあける板である。W264・W265は小孔をあける柾目の板である。W266は側縁に２孔の小孔をあける板である。W267は側縁に段をもつ板で、ヤリガンナによる加工痕が残る。W268は抉りもしくは孔がある板である。W269は先端の尖った板で小孔をあける。チョウナによる痕跡が残る。W270・W271は片側に抉りをもつ板である。W272・W278は断面円形の細長い棒である。

W273は垂木である。先端は抉って頭部を作り出している。W274は先端を抉り頭部をつくっており、もう一方は尖らしている。W275は先端に抉りのある太い棒である。W276は先端の尖った棒である。W277は芯持ちの材の表面を丁寧に加工した棒で、反っている。W280は紐掛けのある棒で断面は半円形である。W281は板材である。W282は薄く加工した板で、箆であると考えられる。

(8)　第４面Ｂ区出土（W283～W299）

第４面Ｂ区からは田下駄・天秤棒・編台の目盛板・棒・板が出土している。

W283～W286はＡ類４欠式田下駄である。W283の小口の一方は丁寧な加工をしており、一方は切り離しのままである。W287は断面凸形の材を転用し、片側の先端を加工した杭である。W288・W289は先端に止木を挿入し、紐掛けとする天秤棒である。本体の断面形は楕円形である。W290は切り込みにより頭部を加工した棒である。W291は先端が尖り２箇所の紐掛けのある棒である。断面は先端が半円形、他は楕円形である。W292は断面方形の棒で、鍵の手の孔があけられている。W293は台形の板で、上部に1.2cm角の孔がある。平面と側面はチョウナによる荒い加工があるが、小口は切り離しのままである。W294は約９cm角の孔が２箇所以上ある大形の板である。チョウナにより丁寧に加工されており、一部焦げている。W295は約６cm×約３cmの長方形の孔が２箇所以上ある板である。W296は両端に約３cm×約２cmの長方形の孔がある板材である。W297は幅約３cm、長さ約30cmの溝の中に約６cmの孔をあける板である。W298は片側辺に３箇所以上の小孔をあける板である。チョウナにより加工されている。W299は編台の目盛板と考えられる。目盛は３箇所以上16.5cm間隔に刻まれている。

⑼　第４面Ｃ区出土（W300～W307）

第４面Ｃ区からは刀形・把手の付いた刳物・田下駄・棒・板が出土している。

W300は立体的な刀形の柄部分である。屈曲する柄を表現している。W301は薄く丁寧な加工をした製品であるが不明である。W302は片側に切り込みをもつ棒である。W303は断面が扁平な棒である。先端に抉りが見られる。W304は先端が尖った棒で、先端が焦げている。W305は籾掬いなどの把手の付いた刳物が考えられるが本体部分の残りが悪いため不明である。15cm程度の把手が付く。W306は長辺の片面を凹形に片面を凸形に加工した板材である。W307はＡ類４欠式田下駄であり長大である。

⑽　その他（Ｗ３・Ｗ４）

出土地不明の木器は、Ａ類４欠式田下駄（Ｗ３）と建築部材（Ｗ４）がある。Ｗ４は先端に方形の孔があけられている。

３．石器（図版74　Ｓ１～Ｓ４）

石器は砥石・有孔石器・石製品は琴柱形と有孔円板が出土した。

Ｓ１は砥石である。薄い砥石で片面のみ使用痕が認められる。丹波地域の粘板岩である。Ｓ２は有孔石器である。３孔を片面から穿孔している。用途は不明である。北但層群中の凝灰質砂岩である。

第３面の洪水砂層から有孔円板と琴柱形石製品が出土した。Ｓ３は有孔円板である。直径約2.7cmの不整円形である。厚さ0.3cm～0.5cmである。側面の整形が丁寧でないためやや角張っている。1.2cmの間隔で直径0.2cmの孔を片面から穿孔している。Ｓ４は琴柱形石製品である。Ｙ字形で頂部が欠損している。２箇所の突出があり、中心には２方向からの穿孔が存在する。

第４節　小結

調査の結果、弥生時代中期から平安時代にかけての連綿とした遺跡の変遷を確認できた。沖積地の深い部分に存在し、洪水砂などに埋もれていたため木製品を中心に遺存状況が良好であった。

第２面は土器から平安時代前後、第３面は古墳時代後期前後、第４面は古墳時代中期前後、第６面は古墳時代前期～弥生時代後期前後と弥生時代中期前後であることが判明した。

特に古墳時代中期を中心とする第４面は河道や水路から多量の木製品が出土した。この遺跡の性格は土器の出土量が通常の生活遺跡に比べて少なく細片であること、また多量の木製品の出土や、未成品などが存在することから、木製品の加工を中心とした集落の一部であると想定できる。

第４章　五反田遺跡第３次調査

第１節　位置と調査方法（図版６・75・76）

１．調査の方法と地区の設定

調査は確認調査の成果に基づき、表土などの無遺物層を機械により掘削し、遺構検出および遺構掘削については、人力により行った。記録は、遺構検出時および完掘時において、随時、写真撮影・遺物出土状況図・遺構図および断面図を作成した。

地区設定は東西に細長い調査区のため、10m単位に地区分けし、遺物取り上げなどに使用した。また、遺構の実測は国土座標を基準に行った。

２．層序

丘陵部から沖積地の境界部分の山裾を縦断する調査であるため、尾根筋部分と谷部分が交互に存在する。尾根筋部分には岩盤が露出している部分と、表土を剥ぐと岩盤が顔を表す部分がある。谷部分は基本的には、灰色系の洪水砂層と黒色系のシルト層の互層になっている。

第２節　検出遺構

調査地は、第２次調査地の南側に位置し、円山川の支流である鎌谷川南の平野部に面した山裾を、東西に横切る約160m、幅約５ｍの細長い調査地であり、尾根筋先端部分および谷部分にあたる。

尾根筋先端部分は岩盤が露出しており、遺構・遺物は確認されなかったが、４箇所の谷部分からは、平安時代・古墳時代前期～後期の大きく２時期の遺物包含層を確認した他、Ｂ地区では柱穴・土坑・溝などの遺構を確認した。

１．４区～６区（図版76・77）

４区～６区では、平安時代・古墳時代後期・古墳時代前期の３時期の遺構面を確認した。

上層部の包含層からは11世紀頃の須恵器椀が出土した。

中層は古墳時代後期の遺構面で南北方向の杭と板材を用いた水路ＳＤ１と、同様に杭列のある東西方向の水路ＳＤ２および、柱穴を確認した。柱穴はＳＤ１の東側を中心に柱穴は20数基確認したが、建物は復原できなかった。

(1)　ＳＤ１（図版78）

ＳＤ１は、４区・５区に位置し、調査区に直交している。溝は南から北に流れ、座標北の方向を向いている。掘形の幅は約1.5m、深さは約0.4mで、中央部に板材と杭を用いて護岸を整えている。水路の幅は約0.4m、深さは最大0.3mである。埋土の上層は褐灰色砂層が存在するため、洪水により埋没したと考えられる。東側にはＳＤ２が取り付いている。東西両側の護岸は2.6mの間に杭を６本ずつ打ち込んでおり、横木も存在する。杭の樹種は針葉樹の割材３本、針葉樹の板材２本、広葉樹の割材１本である。

遺物は須恵器坏Ｈ蓋・有蓋高坏・無蓋高坏・甕、土師器坏・高坏・壺・甕、弥生土器壺・高坏・甕などの土器と板材が出土した。

(2)　ＳＤ２（図版79）

ＳＤ２はＳＤ１の東側に位置する東西溝で、ＳＤ１に合流している。傾斜は緩やかである。溝は東から西に流れ、N72°Wの方向を向いている。検出面での幅は約1.0m、深さは約0.3mで、板材と杭を用いて護岸を整えている。埋土の上層は褐灰色砂層が存在するため、ＳＤ１と同時に洪水により埋没したと考えられる。北側の護岸は3.8mの間に杭を17本打ち込んでおり、横木も存在する。杭N4は田下駄Ｄ類の方形枠支柱を転用している。自然の大きな転石も護岸部分に存在している。南側の護岸は2.8mの間に杭を15本打ち込んでおり、横木も存在する。杭の樹種は針葉樹の割材10本、針葉樹の板材３本、針葉樹の転用１本、広葉樹の丸太２本である。

遺物は須恵器高坏、土師器甕などが出土した。

(3)　ＳＫ３

ＳＫ３は、５区に位置し、溝ＳＤ１の東、ＳＤ２の北側に位置する土坑である。北側は調査区外に延びており、西側はＳＤ１に切られている。東西2.8m以上、南北1.2m以上の方形で、底が平らなため竪穴住居の可能性がある。遺物は埋土から完形の舟形木製品が出土した。土器は古墳時代前期の土師器坏・高坏・鉢・甕が出土した。

(4)　ＳＤ４

ＳＤ４は５区に位置する南北方向の溝もしくは流路である。幅5.0m、深さ0.5mである。遺物は古墳時代前期の土器が出土した。

(5)　ＳＤ５

ＳＤ５は最下層で検出した溝もしくは流路である。調査範囲が狭いため不明な点が多い。幅22m程度、深さ1.5m以上で中央部ではさらに、一段深くなっている。

２．谷部分

(1)　18区～20区（図版76）

18区～20区には谷Ａがある。幅17m程度で、土砂の堆積層がみられたが、遺物は出土しなかった。

(2)　８区～10区（図版76）

８区～10区には谷Ｃがある。幅25m程度で、埋土上層からは、上層部の包含層より平安時代の須恵器椀が出土した。下層の包含層からは古墳時代の須恵器大甕・坏・提瓶、木製の田下駄・木皿・曲物の蓋などが出土した。

(3)　11区～13区（図版76）

11区～13区には谷Ｄがある。幅18m程度で、埋土上層からは、古墳時代と平安時代の土師器・須恵器が出土した。

３．尾根部分

１区～３区、６区・７区、13区～16区、17区・18区は尾根筋部分のため岩盤が露出していたり、土砂の堆積が浅く、遺構は検出できなかった。遺物は15区で古墳時代の須恵器が少量出土したのみである。

第３節　出土遺物

１．土器（別表３～５．図版80～84）

(1)　ＳＤ１（401～423）

ＳＤ１には須恵器坏Ｈ蓋・有蓋高坏・無蓋高坏・甕、土師器坏・高坏・壺・甕、弥生土器壺・高坏・甕がある。

須恵器坏Ｈ蓋401は口縁部が直立しており、天井部は丁寧な篦削りを行っている。無蓋高坏402は口縁部を欠き、脚台部は４方向に長方形の透かしがある。有蓋高坏403は波状文を描き、脚部を欠く。甕口縁404は漆を用いて接着修復している。

土師器坏405は丸底の半球形で口縁部は僅かに内弯している。高坏の坏部は椀形の体部から口縁端部に面をもつ（406・407）と口縁部が僅かに外反する（408～410）がある。409・410は内面に放射状の暗文がある。高坏脚部411は脚裾部内面を指押さえしている。甕415～419は口縁部が直立気味に外反する（415）と、口縁部下端に僅かに稜をもつ（416・417）と、口縁部がくの字状に屈曲し内面の篦削りが著しい（418）と、口縁部が内弯気味で端部に面をつくる（419）がある。

弥生土器短頸壺413は球形の体部に短く外反する口頸部をもつ。広口壺414は外反する口頸部の端部に面をつくる。壺底部422・423は平底（422）と尖り気味の丸底（423）がある。高坏412は口縁部が外反した後、外方に開き外面は擬凹線もつ。甕420はくの字状に外反する口縁部の端部が上下に拡張する。体部内面は篦削りを行っている。甕421は口縁部が短く外傾し無文である。

(2)　ＳＤ２（424～426）

ＳＤ２には須恵器高坏、土師器甕がある。

須恵器高坏426は脚部のみであるが有蓋になると考えられる。３方向に長方形の透かしがある。

土師器甕424・425は、口縁部が短く外傾し擬凹線文をもつもの（424）と口縁部が短く外傾し無文のもの（425）がある。

(3)　ＳＫ３（427～434）

ＳＫ３には土師器坏・高坏・鉢・甕がある。

土師器椀427は器壁が厚く底部は篦削りである。鉢428は低い脚台が付いている。高坏429は脚部のみで外方に直線的に開いている。円形透かしを４孔あけ、外面は篦磨きで仕上げている。甕430～434は口縁部が短く外傾し無文のもの（430）と口縁部が長く外傾し下端面に突出した稜をもつもの（431～433）と小さな平底の底部（434）がある。433は倒卵形の体部で肩部に櫛描波状文を施文している。

(4) 谷Ｂ（435～495）

谷Ｂには須恵器椀・坏、土師器器台・鉢・椀・高坏・甕、弥生土器高坏・低脚坏・甕がある。

須恵器椀435は球形の体部に直立した口頸部が付く。体部に波状文を施し、底部は手持ち篦削りである。坏Ｈ蓋436は口縁部と天井部の間に稜をもち、口縁端部内面に段をもつ。坏Ｈ身437～441は立ち上がりが内傾し端部を丸く収めるもの（437～440）と直立し段を有するもの（441）がある。椀442～444は外方に開く口縁をもつ。443・444は鋭い平高台である。

土師器器台469～472は口縁部が屈曲して外反する小形の（469）と鼓形器台（470～472）がある。壺445は口縁部下端に稜をもっている。壺446・447は精緻な胎土で内外とも篦磨きしている。小型丸底壺449は球形の体部に外反する口縁部がつく。無頸壺450は口縁部が内弯している。鉢451・452は口縁部が外

反している。椀457～459は半球形で口縁部がやや直立するもの（457・458）と外反するもの（459）がある。459は内面に放射状の暗文がある。高坏453～455・456・460～466は完形の手づくねのもの（453）と高坏の坏部が椀形の体部から口縁端部に面をもつ（463）と口縁部が僅かに外反する（460～462）と脚部（454・455・464～466）がある。463は内面に放射状の暗文がある。甕476～495は口縁部が短く外傾し擬凹線文をもつ（476・477）、口縁部が短く外傾し無文の（478・479）、口縁部が長く外傾し下端面に突出した稜をもつ（480～484）、口縁部がくの字状に外反し端面に面をもつ（485）、口縁部が外傾し下端面に僅かに稜をもつ（486～489・492）、口縁部が外反する（490・491）、口縁部内面に段をもつ（493）と平底の底部（494・495）がある。489の体部は球形である。473は器壁の厚い大形品で、竈であると考えられる。

弥生土器長頸壺448は口縁部を強くナデでている。高坏467は口縁部が外反した後、外方に開き外面は擬凹線もつ。468は低脚坏の坏部と考えられ、丁寧に箆磨きしている。甕474・475は口頸部がくの字状に外反し口縁端部に凹線文を巡らすもの（474）と、くの字状に外反し口縁端部を上方に拡張し擬凹線文を巡らすもの（475）とがある。

(5)　谷Ｃ（496～517）

土師器壺496は球形の体部にやや開く直立した口頸部が付く。椀497は半球形で口縁部がやや内弯している。底部は手持ち箆削りである。498は低脚坏の坏部と考えられ、丁寧に箆磨きしている。高坏499～503は坏部口縁が外反し内面に暗文を施す（499）、坏部が椀形の小形の（502・503）、脚部内面を削る（500）、脚裾部内面を指押さえしている（501）とがある。鉢504～506は口縁部が直立する（504）と外傾する（505・506）とがあり、504・505は内面をハケで仕上げており、506は箆削りしている。甕507～509は頸部がくの字状のもの（507）と口縁部下端面に僅かな稜をもつ（508・509）がある。

須恵器坏蓋510は小振りで、口縁部と天井部の間に稜を、口縁端部内面に段をもつ。坏Ｈ身511は器高が低く、立ち上がりも短い。高坏512は脚部で低脚である。甕513～515は513・514は小形で、515は大形である。515は頸部に波状文が３帯巡っている。

須恵器坏Ｂ516は低い貼り付け高台が付く。坏517は底部と体部の間に段が付く。

(6) 谷Ｄ（518～541）

須恵器坏Ｈ蓋518・519は口縁端部の内面の段はあるが、口縁部と天井部の間に稜が無いもの（518）とあるもの（519）とがある。須恵器坏Ｈ身520・521は法量はほぼ同じであるが、底部の箆削りや口縁部の仕上げ方が丁寧である。

土師器椀522は半球形で口縁部が直立している。土師器高坏523～526は椀形で口縁部が外反し細かい箆磨きで仕上げるもの（523）と内弯する坏部をもつもの（524・525）と脚底部に面をつくっており、箆磨きで仕上げるもの（526）とがある。

須恵器坏533～535は貼り付けの輪高台のもの（533）と平高台のもの（534・535）とがあり、535は大形品である。黒色土器536は内面のみ黒色化しており、内面と外面上半を横方向の箆磨きで調整している。底部は強くナデて高台を作り出している。

土師器椀537～539は口縁部（537）と平高台の底部（538・539）とがある。土師器甕540・541はくの字状に外反する口頸部をもち、口径より体部最大径が小さい。

弥生土器高坏532は口縁部が外反した後、外方に開き外面は擬凹線もつ。

２．木器（別表10．図版85・86）

(1)　ＳＤ１（W407）

W407は２箇所以上の孔を有する板である。

(2)　ＳＤ２（W406）

W406はＳＤ２の護岸に使われていた杭に転用されていた田下駄Ｄ類の方形枠支柱である。４箇所の横桟の枘穴があけられ、枘が折れて残っている。

(3)　ＳＫ３（W401～W405）

W401・W402は断面が半円形の紐掛けのある棒で、３箇所に溝を掘り、先端は頭をつくっている。組み合わせの部材である。W403はイネ科タケ亜属にスギの棒を挿入したものである。Ｘ線撮影により3.0cm挿入していることが判明した。用途は不明である。W404・W405は舟形木製品で、W404は完形で刳舟を模している。舳艫上面に貫通孔がみられる。

(4)　谷Ｂ（W408）

W408は火鑽板で破損が著しいが、３箇所以上と７箇所以上の火鑽穴を両長辺にもつ。火鑽穴には中空の火鑽棒の痕跡が残る。

(5)　谷Ｃ（W409～W411・W413・W414）

W409は刀形の鋒部分である。W410は曲物の蓋の天板である。復原径16.8cmを測る。樺皮結合でケビキ痕が残る。一部焦げている。W411は残りは悪いが木皿Ｃ類と考えられる。復原径16.8cmを測る。W413はＡ類４欠式田下駄であるが、中央部に２孔を有する。W414は片側に１孔を有する板材である。

(6) 谷Ｄ（W412）

W412は先端に孔を有する棒である。断面は楕円形である。

３．石器（図版86．Ｓ401～Ｓ403）

石器は砥石と磨製石斧が出土した。

ＳＤ１からは両刃の磨製石斧Ｓ401が出土している。刃部および凸部のみ研磨しており、凹部は整形時の痕跡をとどめている。石材は泥岩である。

谷Ｂからは砥石Ｓ403が出土している。研磨面が４面あり、良く研ぎ減りしている。細かい擦痕が認められる。両端は荒割時のままの未調整である。石材は丹波地域の珪質泥岩である。

谷Ｄからは砥石Ｓ402が出土している。折れており、１面のみの研磨面がみられ、良く研ぎ減りしている。他の面は整形時の荒割状態である。石材は北但層群中のアルコース砂岩である。

第４節　小結

調査の結果、３箇所の谷部分（谷Ｂ・谷Ｃ・谷Ｄ）から遺構と遺物包含層を確認した。調査内容は今回の調査地の北で調査した五反田遺跡第２次調査とほぼ同時期の関連する内容であり、遺構・遺物の検出状況から遺跡はさらに３箇所の谷部分（谷Ｂ・谷Ｃ・谷Ｄ）の上流部にも広がるものと思われる。

第５章　周辺遺跡の調査

第１節　平畑遺跡（図版87）

１．遺跡の位置

平畑遺跡は、円山川の支流である鎌谷川から、更に分岐した穴見川が流れる北向きの谷の緩やかな斜面に立地している。堂林遺跡の上流500ｍに位置する。

今回の調査地点は、造成工事中の平畑遺跡隣接地で深掘された仮水路の断面に土器が露出しているのを確認したため、工事で影響がある部分について発掘調査を実施し、記録保存することとした。

２．調査方法

調査地の中央部付近には仮水路が掘削されていたため、断面の精査を行いながら、無遺物層を重機により掘削した。それ以下の包含層の掘削および遺構検出は人力で行った。遺跡の記録は、写真撮影と図面により行った。

３．検出遺構

検出した遺構は、平安時代の整地層と弥生時代後期の流路である。平安時代の整地層は建物跡などの遺構は検出できなかった。

弥生時代の流路は、調査範囲内では規模が明確に把握できなかった。弥生時代後期の甕が出土した。

４．出土遺物（601～606・W601）

遺物は弥生時代後期の河道から弥生土器壺・甕、包含層から土師器鉢、須恵器椀、木器などが出土した。弥生土器甕602は完形で、平底で口縁部はくの字状に外反し、端部は拡張し、疑凹線文を施している。体部外面はハケ調整、内面はヘラ削りで仕上げている。土師器甕601は大きく外反する口縁部の破片である。土師器鉢603は小形で口縁が外方に直線的に開く。須恵器椀604～606は口縁部（604）と底部（605・606）があり、底部は糸切りの平高台である。

木器は田下駄W601で４欠田下駄と考えられ、片側面に２箇所の切り欠きがある。

５．小結

調査の結果、168㎡の狭い範囲や狭い谷という立地にもかかわらず、平安時代の整地層と弥生時代後期の旧河道の流れの一部を確認した。

今回の調査地点は分布調査で明らかにされている平畑遺跡の北西方向の下流にあたり、平畑遺跡の縁辺部に位置づけられよう。この調査結果により、南方の上流には弥生時代から古墳時代の集落の存在が想定できる。また北方にはさらに河道は続いており、上流はもちろん、下流にも遺跡が広がっている可能性は高い。

第２節　堂林遺跡（図版88）

１．遺跡の位置

堂林遺跡は、円山川の支流である鎌谷川から、更に分岐した穴見川が流れる北向きの谷に立地している。平畑遺跡の下流500ｍに位置している。

今回の調査地点は造成工事中の堂林遺跡隣接地で深掘された水路の断面に土器および溝状の遺構の存在を確認したため、工事で影響がある部分について発掘調査を実施し、記録保存することとした。

２．調査方法

調査地の多くの部分は既に工事により水路が掘削されていたため、断面の精査を行い、記録を取った。また遺構が残っている部分については遺構検出および遺構掘削を行った。遺構検出までの無遺物層の掘削は機械で行い、遺構検出および掘削は人力で行った。遺跡の記録は写真撮影と断面および平面の実測を行った。

３．検出遺構

検出した遺構は古墳時代後期の流路である。なお、圃場整備以前の水路の痕跡も検出できた。

古墳時代の流路は調査範囲内では規模が明確に把握できなかったが、幅９ｍ程度である。深さは調査した地点の最大は約１ｍである。

４．出土遺物（701～712）

遺物は古墳時代後期の須恵器坏・大形坏・甕、平安時代の土師器などが出土した。古墳時代の遺物は流路から出土し、その他のものは包含層や表採資料である。

須恵器坏Ｈ蓋701・702は天井部ヘラ切り未調整で、周囲に補助ケズリを行っている。坏Ｈ703は低い立ち上がりを持ち、底部はヘラ切り未調整で、周囲に補助ケズリを行っている。大形坏704は口径が普通の坏Ｈの２倍程度である。

坏Ｂ708は低い高台を貼り付けている。椀707の底部は糸切りの平高台である。甕712は直線的に外反する口頸部の甕である。土師器椀705・706は外方に開く口縁部で端部が僅かに外反している。甕709・710はくの字状に屈曲する口縁部の破片で、体部の内面はヘラケズリを行っている。鍋711は大きく外方に開く口縁部に内面をヘラ削りする体部を持つ。

５．小結

調査の結果、164㎡という狭い範囲や狭い谷という立地にもかかわらず古墳時代の河道の一部を確認した。

今回の調査地点は分布調査で明らかにされている堂林遺跡の南西方向に位置し、堂林遺跡の縁辺部に位置づけられよう。この調査結果により、南方の上流および東側の山麓には古墳時代の集落の存在が想定できる。また、北方はさらに河道は続いており、下流にも遺跡が広がっている可能性は高い。

第３節　於富美Ａ遺跡（図版89）

１．遺跡の位置

今回の調査地点は、円山川の支流である鎌谷川の南側で五反田遺跡の東側に位置している。分布地図上では五反田遺跡と別遺跡で登録しているが、地形の上からは、五反田遺跡と同一と考えられる。

平成９年度の工事により確認調査で遺跡の存在が確認された地点を遺構面より深く掘削していた。このため、土地開発公社に連絡をとり工事を一時中断し、協議した結果、遺構面は既に削平されているため、周囲の断面の記録をとる事とし、全面調査を実施した。

２．調査方法

調査地の遺構包含層および遺構面はすでに掘削されていたため、断面の精査を中心に行った。遺跡の記録は写真撮影と平面図および断面の測図を行った。

３．検出遺構

断面精査の結果、古墳時代の遺構面と包含層が認められ、ピットなどの遺構を検出した。掘削が深かったため、ピットなどの遺構は平面では確認できなかった。南東側の断面の状況は上流からの流路の状況を示す内容である。

４．出土遺物（801～805）

遺物は古墳時代の須恵器、土師器、平安時代の須恵器が出土しているが、工事が進んだ後の調査のため遺物は少なかった。遺構からは図化できる土器は出土しておらず、図化したものは包含層出土のものおよび表採資料である。

須恵器椀801は小振りの椀で、外方に開く高台を貼り付ける。平瓶802は斜行する口縁部が直線的に外反し口縁端部に凹線を巡らす。甕803は直線的に外反する口頸部を有する。土師器甕804は底部の一部で僅かに平底を有する。鍋805の口縁は受け口で、口縁端部には沈線が巡っている。

５．小結

調査の結果、断面を中心とした調査であったが、古墳時代の遺構面と包含層が認められ、ピットなどの遺構を検出した。これらは、五反田遺跡東側にあたり、標高もやや高く、古墳時代の居住域を形成していた事が考えられる。このことは確認調査を実施した於富美Ｂ遺跡の調査結果と同様であり、一連の遺跡と判断できる。

於富美Ａ遺跡は内容や地形の上からは、五反田遺跡と同一と考えられることが判明した。

第４節　於富美Ｂ遺跡（図版90・91）

１．遺跡の位置

調査地点は於富美遺跡の南西端の谷の最奥で二ヶ谷17号の南に隣接している平坦地である。地形上では於富美Ａ遺跡とは区別すべきかもしれない。

調査は、センターゾーンを見下ろす高台にピクニック広場を整備する計画が進められたため、事前に遺跡の有無や深さを確認するために調査をおこなった。この場所は分布調査による〔№13〕二ヶ谷古墳群と〔№11〕於富美遺跡の範囲内にあたっていた。

２．調査方法

調査に先だって、対象地の地形測量（１/50･20cm等高線）を実施した。

於富美Ｂ遺跡は機械と人力により幅0.8ｍのトレンチＡ・Ｂ・Ｃの３本を設定し、調査を実施した。トレンチＡは長さ27ｍ、トレンチＢは長さ7.5ｍ、トレンチＣは長さ1.5ｍである。記録は写真撮影と平面と断面の測図を行った。調査で検出した遺構は竪穴住居の床面や壁溝を確認するために一部を掘り抜いた以外は、検出時の状態で記録をとった。記録を取った後、埋め戻しを行い、遺構に影響を与えない形でのピクニック広場として整備を行い、保存をはかった。

３．検出遺構

調査の結果、トレンチＡ・Ｂの深さ0.3ｍから0.7ｍの地点で、柱穴多数を確認し、トレンチＡの南半部で竪穴住居跡１棟を確認した。

柱穴は建物の一部と考えられるが、調査範囲が狭いため建物の柱列の並びは確認できなかった。竪穴住居跡ＳＨ１は一部を確認しただけであるが、平面形は方形で壁溝を伴う。調査範囲が狭いため正確な規模は不明であるが、一辺5.5ｍ以上である。壁の高さは0.45ｍ、壁溝の幅は0.3ｍを測る。西壁の方位はＮ16°Ｗである。

４．出土遺物

遺物は柱穴･竪穴住居跡･包含層から古墳時代の土師器の小片が出土したが、図化できるものは存在しなかった。

５．小結

於富美Ｂ遺跡は調査対象地全域で古墳時代の遺構を確認した。これにより、五反田遺跡では確認できなかった、古墳時代の居住域の一部であることが判明した。

竪穴住居跡ＳＨ１の時期は、土師器の小片しか出土していないため詳細は不明であるが、古墳時代後半のものであると考えられる。

第５節　二ヶ谷17号（図版90・92）

１．遺跡の位置

二ヶ谷17号は、五反田遺跡の南東側の平坦な尾根の先端の平坦面に立地しており、この場所のみ盛り上がっていた。当初は古墳か近世の塚と考えられていた。調査地点の最高所の標高は17.0mで五反田遺跡との標高差は約12mある。

２．調査方法

調査に先だって、対象地の地形測量（１/50・20cm等高線）を実施した。

墳丘と考えられる部分に、幅0.6mのトレンチＤ・Ｅ・Ｆを十字に設定し、手掘りで調査を行った。墳丘周囲の平坦地は機械と人力により幅0.6mのトレンチ調査を実施した。墳丘部分のトレンチ調査ではすぐに岩盤が現れ不明な点が多かったため、畦部分を除いて墳丘部分の調査区を拡張し（トレンチＧ・Ｈ・Ｉ・Ｊ）、調査を実施した。

３．検出遺構

調査の結果、規模は南北7.5m、東西8.5m、高さ1.2mの楕円形の塚と判明した。表土は、約0.1mあり、表土直下は全体に岩盤であることが判明した。ただし、盛り上がり部分と周囲の平坦面との境が明瞭であることとから、加工されていると考えられる。加工は岩脈の節理が斜行しており、きれいではない。

盛り上がりの東側には、掘り込みＳＸ１が存在する。ＳＸ１は東向きに開口し、奥行き1.8m、幅0.9m、高さ0.9mを測り、人工的に岩盤を掘り込んでいる。長軸の方位はＮ 88°Ｗで、ほぼ東西方向である。入口部分の両脇には柱穴が存在している。柱穴は直径0.2m、深さ0.3mで、垂直に掘り込んでいる。柱の芯間距離は0.9mである。

４．出土遺物

遺物は、ＳＸ１より近世磁器の破片が出土したほか、墳丘と考えられた部分から中世陶器の破片が出土した。

５．小結

調査の結果、二ヶ谷17号は古墳ではなく、自然の岩山を加工し、形を整え、利用した信仰の対象物であったと判明した。遺物が少なく小さな破片のため詳細な時期は確定出来ないが、中世以降に位置づけられると思われる。

第６章　自然科学的調査

第１節　五反田遺跡出土土器の補修漆について

１．はじめに

五反田遺跡は古墳から平安時代にかけての集落遺跡である。本遺跡から出土した土器の１点は、漆で補修されている。この補修部分の漆膜の分析・観察を行ったので、その結果を報告する。

２．資料と調査方法

(1)　資料

資料の土器404は、古墳時代の須恵器壺で口縁部の1/4ほどが残存している（図版56－404）。土器は２つに割れているが、漆で接合されている。この接合部分と周辺の器表面に漆が付着している。

(2)　調査方法

資料の土器の数箇所から、漆膜サンプルを数ミリ角採取し、エポキシ樹脂に包埋して硬化させた。その後、スライドグラスに貼りつけ研磨して漆膜断面の薄片プレパラートを作製し、透過光下の光学顕微鏡で観察した。

３．断面の観察結果

漆断面の写真を図版４に示す。漆は褐色で、その色調には濃淡の違いが見られる。この濃淡は、漆に含まれた気泡によるもので、漆はあまり精製されていない。写真図版４－８の右下には有機質の細胞らしき夾雑物が見られる。この漆には、長径約20μmほどの炭化物が混和されている。漆膜全体に、白く抜けたような三角形の空隙が多数観察される。写真図版４－９にその拡大を示す。この空隙は、その形状から絹繊維の横断面の痕跡であると考えられる。

４．考察

五反田遺跡出土土器の補修漆は、有機質の細胞らしき夾雑物が混入する精製度の低い漆に、炭化物と絹繊維が混和されている。本分析では、数箇所から採取した漆膜サンプルすべてに炭化物と絹繊維が見られたことから、これらを漆に混和したと判断した。この漆は、その付着状況から土器補修の接着剤として利用したと考えられるが、管見では補修漆に絹繊維が混和されたという報告はない。類例が待たれる。

第２節　五反田遺跡の大型植物種実

１．資料

五反田遺跡は豊岡市祥雲寺に位置し、円山川の支流である鎌谷川の左岸の山際の沖積地に立地している。沖積地であるため、木製品の出土量も非常に多く、同様に植物種実も多く採集できた。

これらの資料は、発掘作業中に現場で目についた種実を拾い上げたものが一番多く、次に木製品に付着して、水洗の時に拾い上げたものである。また、資料№56のように比較的大きな土の塊を水洗したものとがある。資料は、以上のような採集単位毎に、登録して番号を付与した。

２．同定方法

資料の同定については、兵庫県立人と自然の博物館自然・環境再生研究部藤井俊夫主任研究員に同定を依頼した。

３．同定結果

同定結果を第１表に示す。資料は遺構・地区・層位毎に掲載したため、資料№順にはなっていない。なお、前項で述べたように主観的な取り上げ方をしており、定量的な採取を行っておらず、また破片など接合の可能性もあるため、資料の多寡に意味はない。

同定により、トチノキ・オニグルミ・クマシデ属・サクラ属・ナラガシワ？・エゴノキ・モクレン属・モモ・ムクロジ・スギ・ブドウ属・フジ？の12種類を確認した。一部の写真を写真図版77に掲載した。いずれも、木本植物で、草本植物は確認できなかった。トチノキ・オニグルミ・クマシデ属・サクラ属・ナラガシワ？・エゴノキは落葉性高木で、モクレン属・モモ・ムクロジは落葉性低木である。スギは常緑性高木である。ブドウ属・フジ？はつる性木本植物である。

オニグルミの核には、齧歯類の食害痕跡が残っているものが存在する。

４．まとめ

1997年度と1998年度の調査区は隣どうしであり、時期も古墳時代で大差ないが、1997年度の調査区からはサクラ属を除く11種類と多種が出土したが、1998年度の調査区からはサクラ属とモモの２種類と限られていた。これは資料採取の問題が多分にあるが、1998年度の調査区は山際の狭い谷、1997年度の調査区は低地の流路周辺であるという地理的条件の違いによるものと考えられる。

トチノキの種実は多量に出土し、未熟果や果皮が多量にあることから、近くに生育していたものと考えられる。

同定した資料の内、栽培植物と考えられるものは、モモ・ムクロジなどが考えられる。現在、スギは植林によるものがほとんどであるが、出土した果実や出土した木製品は自生であるか植林であるかは判断できない。

可食植物の種実はトチノキ・オニグルミ・モモ・ブドウ属などであり、第３節で分析した木製品の樹種と併せて考えると、可食植物の樹木は木製品として利用していないことがわかる。このように木材への利用は選択して行われていたことが考えられる。

第１表　五反田遺跡出土種実

資料No.	調査年度	遺構	地　区	層　位	内　容
54	1997	ＳＤ31	Ｉ－２	砂礫層	トチノキ（種子:1）
23	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		オニグルミ（核:食痕1）
24	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		ナラガシワ?（果実:1）
25	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		オニグルミ（核:1）
27	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（果皮:破片2）、オニグルミ（核:破片1）
28	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（果皮:破片5・種子:2・種皮:1）、ナラガシワ?（果実:1）、フジ?（果実:破片1）
29	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（果皮:破片3）、オニグルミ（核:破片1）
30	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（果皮:破片9・種子:1）、オニグルミ（核:破片1）
31	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（果皮:破片2・種皮:1）
32	1997	ＳＲ42	Ｆ－２		トチノキ（種子:1）
33	1997	ＳＲ42	Ｆ－２	シルト	トチノキ（果皮:破片8・種子:2）、オニグルミ（核:2・核:破片4）、ナラガシワ?（穀斗:2）
34	1997	ＳＲ42	Ｆ－２拡	シルト	トチノキ（果実:1）、オニグルミ（核:1・核:破片1）、モモ（核:1）
35	1997	ＳＲ42	Ｆ－２拡	シルト	オニグルミ（核:破片1）
39	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		オニグルミ（核:破片1）
40	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		トチノキ（果皮:破片1）
42	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		オニグルミ（核:食痕1）
43	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		トチノキ（果皮:破片5）、オニグルミ（核:破片3）、ナラガシワ?（果実:1）、ムクロジ（種子:1）
45	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		オニグルミ（核:破片1）
46	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		ナラガシワ?（穀斗:2）
47	1997	ＳＲ42	Ｇ－２		ナラガシワ?（果実:1）、モモ（核:1）
48	1997	ＳＲ42	Ｇ－２	シルト	トチノキ（果皮:破片4）
49	1997	ＳＲ42	Ｇ－２	シルト	トチノキ（果皮:破片3・種子:1）、オニグルミ（核:破片1）
50	1997	ＳＲ42	Ｇ－２拡	シルト	オニグルミ（核:破片3）
3	1997	ＳＤ43	Ｂ－１		トチノキ（種皮:3）
5	1997	ＳＤ43	Ｃ－１		オニグルミ（核:1）
9	1997	ＳＤ43	Ｄ－１	シルト	オニグルミ（核:1）
15	1997	ＳＤ43	Ｅ－２		トチノキ（種皮:1）
16	1997	ＳＤ43	Ｅ－２	シルト	トチノキ（果皮:破片1・種皮:1・未熟果:破片1）
17	1997	ＳＤ43	Ｅ－２	シルト	トチノキ（果皮:破片3・種皮:2・未熟果:破片1）
18	1997	ＳＤ43	Ｅ－２	シルト	トチノキ（種皮:6）、オニグルミ（核:食痕1）
21	1997	ＳＤ43	Ｆ－２		トチノキ（種皮:2）
7	1997	ＳＳ44	Ｃ－２	シルト	モモ（核:1）
20	1997	ＳＳ44	Ｅ－２		モモ（核:1）
19	1997	ＳＤ61	Ｅ－２	ピート	トチノキ(果皮:破片15・果実:1・種子:1・種皮:4)、オニグルミ(核:破片3)、ナラガシワ?(穀斗:9)、エゴノキ(種子:1)、フジ?(果実:破片1)
2	1997	第３面	Ｂ－１	砂層	トチノキ（種皮:3）、モモ（核:破片1）
6	1997	第３面	Ｃ－２	砂層	トチノキ（種皮:3）、モモ（核:破片1）
8	1997	第３面	Ｃ－３	シルト	モモ（核:2）
10	1997	第３面	Ｄ－２	シルト	トチノキ（種皮:1）
11	1997	第３面	Ｄ－２	シルト	オニグルミ（核:破片1）
12	1997	第３面	Ｄ－３	砂層	トチノキ（種皮:1）
13	1997	第３面	Ｄ－３	シルト	モモ（核:1）
14	1997	第３面	Ｅ－２	シルト	トチノキ（種子:1）
36	1997	第３面	Ｆ－３	シルト	トチノキ（果皮:破片3・種子:1）
37	1997	第３面	Ｆ・Ｇ－２	シルト	オニグルミ（核:破片1）
52	1997	第３面	Ｈ－２	砂層	オニグルミ（核:破片1）
1	1997	第４面	Ａ－１・２		トチノキ（種皮:12）
4	1997	第４面	Ｂ－２	整地層の下	オニグルミ（核:1）
22	1997	第４面	Ｆ－２	シルト	モモ（核:1）
38	1997	第４面	Ｇ－２	シルト	ムクロジ（種子:1）
41	1997	第４面	Ｇ－２	シルト	ナラガシワ?（果実:1・穀斗:12）
51	1997	第４面	Ｈ－２	シルト	オニグルミ（核:破片1）
53	1997	第４面	Ｉ－２	シルト	オニグルミ（核:破片1）
26	1997	第６面	Ｆ－２	ピート	トチノキ（種皮:2）、オニグルミ（核:破片1）
44	1997	第６面	Ｇ－２	ピート	トチノキ（果皮:破片:1）、オニグルミ（核:破片1）、ナラガシワ?（穀斗:70）
57	1997		Ｉ－４		トチノキ（種子:1）
55	1997		不明		トチノキ（種子:1）
56	1997		不明		クマシデ属(果実:185)、エゴノキ(種子:破片22)、モクレン属(種子:1)、スギ(果実:5)、ブドウ属(種子:1)
103	1998	ＳＤ１	４区	白色砂層	モモ（核:1）
104	1998	ＳＤ１	４区	白色砂層	モモ（核:3）
105	1998	ＳＤ１	４区	白色砂層	モモ（核:5）
111	1998	ＳＤ２	５区		サクラ属（種子:1）、モモ（核:2）
112	1998	ＳＤ２	５区		サクラ属（種子:1）
113	1998	ＳＤ２	５区		サクラ属（種子:1）、モモ（核:1）
110	1998	Ｐ20	５区		モモ（核:1）
101	1998		４区	黒色土	モモ（核:2）
102	1998		４区	最下層	モモ（核:1）
106	1998		５区	黒色土	モモ（核:1）
107	1998		５区	黒色土	モモ（核:2）
108	1998		５区	黒色土	モモ（核:2）
109	1998		５区		モモ（核:1）
114	1998		８区	黒色シルト	サクラ属（種子:6）、モモ（核:1）
115	1998		８区	黒色シルト	サクラ属（種子:1）
116	1998		８区		サクラ属（種子:1）
117	1998		９区	黒色砂層	サクラ属（種子:1）

第３節　五反田遺跡出土木材の樹種

はじめに

五反田遺跡は、円山川の支流である鎌谷川右岸沖積地に位置する。発掘調査により、古墳時代および古代の遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器などの他に、木製品等の有機質遺物も多数出土している。

本報告では、出土した木製品の樹種同定を行い、用材選択などに関する資料を得る。

１．試料

試料は、出土した木製品など252点（試料番号1～252）である。全て３断面の切片を封入したプレパラートで送付されてきた。試料の詳細は、樹種同定結果と共に第２表～第５表に記した。

２．方法

生物顕微鏡で、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

３．結果

樹種同定結果を第２表～第５表に示す。試料番号60は、散孔材の組織配列を有する広葉樹材であるが、木口面の切片が小片で、年輪界も観察できなかった。そのため、道管配列の状況などを把握することができず、種類の同定には至らなかった。その他の試料は、針葉樹３種類（スギ・ヒノキ・ヒノキ属）、広葉樹９類（ハンノキ属ハンノキ亜属・カバノキ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・モクレン属・サカキ・ナツツバキ属・トネリコ属）とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞が晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・ヒノキ属（*Chamaecyparis*）　　ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

ヒノキとした試料に類似するが、保存状態がやや悪く、分野壁孔にスギ型が多く認められる等、やや異なる特徴を示す。現生種との比較ではサワラに似るが、ヒノキの中にも似た特徴を示す標本があり、種類の同定には至らなかった。

第２表　樹種同定結果（１）

番号	調査番号	ネNo.	報告No.	地区	層位	時期	遺構	種別	器種	樹種
1	980066	1003	W410	９区	黒色砂層	古代	Ｃ地区	容器	曲物(蓋)	スギ
2	980066	1004	W411	９区	黒色砂層	古代	Ｃ地区	容器	木皿	スギ
3	980066	1006	W409	９区	黒色シルト	古墳	Ｃ地区	祭祀具	刀形	スギ
4	980066	1007	W404	５区		古墳	ＳＫ３	祭祀具	舟形	スギ
5	980066	1009	W401	５区		古墳	ＳＫ３	その他	紐掛けのある棒	スギ
6	980066	1010①	W403	５区		古墳	ＳＫ３	その他	接着されている棒	スギ
7	980066	1010②	W403	５区		古墳	ＳＫ３	その他	接着されている棒	イネ科タケ亜科
8	980066	1014	W407	５区		古墳	ＳＫ３	その他	孔あきの板	スギ
9	980066	1017	W405	５区	黒色土	古墳	ＳＫ３	祭祀具	舟形	スギ
10	980066	1018	W412	１２区			Ｄ地区	その他	孔あきの板	スギ
11	980066	1019	W402	５区		古墳	ＳＫ３	その他	紐掛けのある棒	スギ
12	980066	1020	W408	Ｆ４			Ｂ地区	発火具	火鑽板	スギ
13	980066	1052①	W406	５区		古墳	ＳＤ	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
14	980066	1052②	W406	５区		古墳	ＳＤ	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
15	980066	1052③	W406	５区		古墳	ＳＤ	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
16	980066	1052④	W406	５区		古墳	ＳＤ	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
17	970246	1	W198	Ｅ－３		古代	第２・３面	その他	部材	スギ
18	970246	2	W094	Ｅ－３		古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽板	スギ
19	970246	3	W039	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ｄ類方形枠横桟	スギ
20	970246	4①	W202	Ａ－１		古代	第２・３面	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
21	970246	4②	W202	Ａ－１		古代	第２・３面	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
22	970246	6	W208	Ｂ－３		古代	第２・３面	発火具	火鑽板	スギ
23	970246	7	W219	Ｄ－３		古代	第２・３面	その他	紐掛けのある棒	スギ
24	970246	8	W191	Ｃ－１		古代	第２・３面	農具	Ｄ類台状枠歯	スギ
25	970246	9	W193	Ｆ－２		古代	第２・３面	農具	Ｄ類足板	ヒノキ属
26	970246	10	W186	Ｂ－３		古代	第２・３面	容器	楕円形曲物	ヒノキ属
27	970246	11	W187	Ａ－２		古代	第２・３面	容器	曲物	スギ
28	970246	15	W180	Ｃ－３		古代	第２・３面	祭祀具	刀形	スギ
29	970246	16	W213	Ｂ－１		古代	第２・３面	その他	孔あきの棒	スギ
30	970246	17	W214	Ａ－２		古代	第２・３面	その他	部材	ヒノキ
31	970246	18	W181	Ｃ－１		古代	第２・３面	祭祀具	刀形	スギ
32	970246	19	W201	Ｃ－３		古代	第２・３面	その他	孔あきの棒	スギ
33	970246	20	W184	Ｂ－２		古代	第２・３面	祭祀具	馬形Ｂ	スギ
34	970246	21	W168	Ｆ－２		古代	第２・３面	祭祀具	人形	スギ
35	970246	22	W169	Ｅ－２		古代	第２・３面	祭祀具	人形Ａ	スギ
36	970246	23	W170	Ｅ－３		古代	第２・３面	祭祀具	人形	スギ
37	970246	28	W155	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	棒	スギ
38	970246	32	W195	Ａ－３		古代	第２・３面	その他	先端加工のある棒	スギ
39	970246	36	W099	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
40	970246	39	W175	Ｂ－２		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
41	970246	46	W173	Ｄ－３		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
42	970246	47	W174	Ｄ－３		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
43	970246	53	W171	Ｄ－２		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
44	970246	57	W172	Ａ－２		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	ヒノキ
45	970246	60	W197	Ｂ－３		古代	第２・３面	その他	先端加工のある棒	スギ
46	970246	64	W183	Ｂ－２		古代	第２・３面	祭祀具	馬形Ａ	スギ
47	970246	71	W248	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	穂摘具	コナラ属アカガシ亜属
48	970246	78	W200	Ｆ－３		古代	第２・３面	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
49	970246	89	W080	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	棒	スギ
50	970246	92	W282	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	食事具	笊	スギ
51	970246	93	W269	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	孔あきの板	スギ
52	970246	94	W192	Ｂ－２		古代	第２・３面	農具	Ｄ類台状枠歯	スギ
53	970246	95	W244	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
54	970246	96	W179	Ａ－１		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
55	970246	97	W089	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	スギ
56	970246	98	W210	Ａ－３		古代	第２・３面	その他	孔あきの板	スギ
57	970246	99	W045	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	容器指物	組合せの箱	スギ
58	970246	100	W215	Ａ－３		古代	第２・３面	建築材	梯子	スギ
59	970246	102①	W045	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	容器指物	組合せの箱	スギ
60	970246	102②	W045	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	容器指物	組合せの箱の木釘	広葉樹(散孔材)
61	970246	103	W250	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	容器刳物	槽	スギ
62	970246	107	W182	Ｅ－３		古代	第２・３面	祭祀具	刀形	スギ
63	970246	109	W073	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
64	970246	113	W199	Ｂ－３		古代	第２・３面	農具	Ｄ類方形枠横桟	スギ
65	970246	119	W178	Ｃ－３		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
66	970246	120	W220	Ｂ－２		古代	第２・３面	その他	棒	スギ
67	970246	124	W209	Ａ－３		古代	第２・３面	容器指物	組合せ箱	スギ
68	970246	130	W082	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	その他	棒	スギ
69	970246	131	W079	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	その他	棒	スギ
70	970246	138	W185	Ｂ－２		古代	第２・３面	祭祀具	馬形Ｂ	スギ
71	970246	139	W189	Ｂ－２		古代	第２・３面	容器指物	組合せ箱	スギ
72	970246	140	W190	Ｄ－３		古代	第２・３面	容器指物	組合せ箱	ヒノキ属
73	970246	147	W305	Ｃ－２		古墳	第4面Ｃ	刳物	把手？	スギ
74	970246	153	W302	Ｃ－２		古墳	第4面Ｃ	その他	棒	スギ
75	970246	156	W156	Ｄ－１・２		古墳	ＳＤ43	その他	先端加工のある棒	スギ
76	970246	159	W154	Ｄ－１・２		古墳	ＳＤ43	その他	紐掛けのある棒	スギ
77	970246	173	W264	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	孔あきの板	スギ
78	970246	179	W196	Ｂ－２		古代	第２・３面	その他	先端加工のある棒	スギ
79	970246	181	W041	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	農具	横槌	サカキ
80	970246	182	W293	Ｅ－２		古墳	第4面Ｂ	その他	孔あきの板	スギ

第３表　樹種同定結果（２）

番号	調査番号	ネNo.	報告No.	地区	層位	時期	遺構	種別	器種	樹種
81	970246	183	W038	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ｄ類足板	ヒノキ属
82	970246	188	W024	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	その他	板材	スギ
83	970246	194	W249	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	容器剝物	盤	スギ
84	970246	212	W097	Ｃ－２		古墳	ＳＤ43	祭祀具	刀形	ヒノキ属
85	970246	217	W133	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
86	970246	220	W095	Ｃ－１		古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽板	スギ
87	970246	225	W141	Ｃ－１		古墳	ＳＤ43	その他	加工のある板	スギ
88	970246	230	W158	Ｄ－２		古墳	ＳＳ44	祭祀具	舟形	スギ
89	970246	231	W301	Ｄ－３		古墳	第4面Ｃ	祭祀具	鳥形か？	スギ
90	970246	232	W290	Ｆ－２		古墳	第4面Ｂ	農具	Ｄ類方形枠横桟	スギ
91	970246	266	W138	Ａ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
92	970246	267	W132	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
93	970246	324	W152	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	運搬具	天秤棒	スギ
94	970246	327	W096	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	祭祀具	鳥形の一部か？	スギ
95	970246	422	W251	Ｉ－２		古墳	第4面Ａ	容器剝物	槽	スギ
96	970246	546①	W160	Ｄ－２		古墳	ＳＳ44	紡績具	糸車	スギ
97	970246	546②	W160	Ｄ－２		古墳	ＳＳ44	紡績具	糸車	スギ
98	970246	546③	W160	Ｄ－２		古墳	ＳＳ44	紡績具	糸車の木釘	スギ
99	970246	547	W300	Ｃ－３		古墳	第4面Ｃ	祭祀具	刀形	スギ
100	970246	556	W044	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	容器指物	組合せの箱	スギ
101	970246	562①	W091	Ａ－１		古墳	ＳＤ43	容器	蓋	スギ
102	970246	562②	W091	Ａ－１		古墳	ＳＤ43	容器	蓋の摘	スギ
103	970246	576	W145	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
104	970246	577	W136	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
105	970246	584	W289	Ｅ－２拡		古墳	第4面Ｂ	運搬具	天秤棒	スギ
106	970246	594	W084	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	スギ
107	970246	683	W166	Ｃ－２		古墳	ＳＳ44	建築材	部材	スギ
108	970246	684	W265	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	孔あきの板	スギ
109	970246	685	W071	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	孔あきの板	スギ
110	970246	687	W144	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
111	970246	690	W147	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	加工のある板	スギ
112	970246	692	W100	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	農具	両端加工のある棒	スギ
113	970246	693	W093	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽棒	スギ
114	970246	694	W177	Ｆ－２		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
115	970246	737	W139	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	加工のある板	スギ
116	970246	740	W051	Ｆ・Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
117	970246	741	W137	Ｆ・Ｇ－２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	ヒノキ
118	970246	744	W142	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
119	970246	757	W281	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	加工のある板	スギ
120	970246	768	W134	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
121	970246	771①	W050	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
122	970246	771②	W050	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
123	970246	772	W157	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	雑具	腰掛け	スギ
124	970246	777	W034	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4孔田下駄	ヒノキ属
125	970246	788	W070	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	その他	部材	スギ
126	970246	792	W043	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	容器剝物	槽	スギ
127	970246	794	W081	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	祭祀具	剣形	スギ
128	970246	810	W278	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	その他	棒	スギ
129	970246	811	W277	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	その他	曲がった棒	スギ
130	970246	814①	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
131	970246	814②	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
132	970246	814③	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
133	970246	814④	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
134	970246	814⑤	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
135	970246	814⑥	W098	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ｄ類方形枠支柱内横桟	スギ
136	970246	816	W159	Ｄ－２		古墳	ＳＳ44	発火具	火鑽棒	ヒノキ属
137	970246	867	W176	Ｃ－２		古代	第２・３面	祭祀具	斎串	スギ
138	970246	900	W279	Ｉ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ｃ類台状枠歯	スギ
139	970246	201	W054	Ｆ・Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
140	970246	202	W256	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	加工のある棒	スギ
141	970246	203	W294	Ｇ－２		古墳	第4面Ｂ	建築材	部材	スギ
142	970246	205	W052	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
143	970246	245	W258	Ｉ－２		古墳	第4面Ａ	その他	部材	スギ
144	970246	246	W004					建築材	部材	スギ
145	970246	247	W053	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
146	970246	248	W125	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	建築材	部材	ヒノキ属
147	970246	249	W255	Ｉ－２		古墳	第4面Ａ	建築材	部材	スギ
148	970246	254	W057	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
149	970246	382	W295	Ｆ－２		古墳	第4面Ｂ	建築材	部材	スギ
150	970246	384	W257	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	その他	部材	スギ
151	970246	385	W065	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
152	970246	387	W259	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	建築材	部材	スギ
153	970246	391	W062	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
154	970246	392	W048	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
155	970246	394	W047	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
156	970246	507Ａ	W001	Ｈ－２		古代	ＳＷ34	その他	横板	スギ
157	970246	507Ｂ	W001	Ｈ－２		古代	ＳＷ34	その他	杭	モクレン属
158	970246	602	W055	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
159	970246	610	W060	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
160	970246	615	W056	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ

第４表　樹種同定結果（３）

番号	調査番号	ネNo.	報告No.	地区	層位	時期	遺構	種別	器種	樹種
161	970246	616	W063	Ｆ―２拡張		古墳	ＳＲ42	運搬具	舟	スギ
162	970246	617	W061	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
163	970246	965	W124	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	建築材	部材	スギ
164	970246	330	W040	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ｄ類方形枠支柱	ヒノキ
165	970246	331	W092	Ｄ－１・２		古墳	ＳＤ43	容器指物	組合せの箱	ヒノキ
166	970246	345	W263	Ｉ－２		古墳	第4面Ａ	その他	孔あきの板	スギ
167	970246	349	W262	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	孔あきの板	スギ
168	970246	352	W135	Ｅ―２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
169	970246	355	W151	Ｂ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの棒	スギ
170	970246	359	W150	Ｃ－１		古墳	ＳＤ43	運搬具	天秤棒	ヒノキ属
171	970246	362	W276	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	その他	先端の尖った棒	スギ
172	970246	363	W088	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	ヒノキ
173	970246	400	W252	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	容器指物	組合せの箱	ヒノキ属
174	970246	414Ａ	W049	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒	スギ
175	970246	414Ｂ	W049	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	天秤棒の止木	スギ
176	970246	415Ａ	W288	Ｅ－２		古墳	第4面Ｂ	運搬具	天秤棒	スギ
177	970246	415Ｂ	W288	Ｅ－２		古墳	第4面Ｂ	運搬具	天秤棒の止木	スギ
178	970246	427	W042	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	農具	一本スキ未成品	スギ
179	970246	428	W148	Ｃ－１		古墳	ＳＤ43	運搬具	天秤棒	スギ
180	970246	431	W299	Ｆ－２		古墳	第4面Ｂ	農具	編台の目盛り板	スギ
181	970246	432	W273	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	建築材	垂木	スギ
182	970246	445	W131	Ａ－１		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
183	970246	447	W298	Ｆ－２		古墳	第4面Ｂ	建築材	部材	スギ
184	970246	452	W297	Ｅ－２		古墳	第4面Ｂ	建築材	部材	スギ
185	970246	456	W075	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	スギ
186	970246	460	W272	Ｇ―２		古墳	第4面Ａ	その他	棒	スギ
187	970246	475	W066	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
188	970246	501	W129	Ｂ―１		古墳	ＳＤ43	その他	板材	スギ
189	970246	508	W296	Ｆ－２		古墳	第4面Ｂ	建築材	部材	スギ
190	970246	515	W046	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	運搬具	舟	スギ
191	970246	526	W216	Ｅ		古代	第２・３面	その他	加工のある棒	スギ
192	970246	527	W274	Ｈ－２・３		古墳	第4面Ａ	その他	紐掛けのある棒	スギ
193	970246	542	W203	Ａ－３		古代	第２・３面	農具	Ｄ類方形枠支柱	スギ
194	970246	543	W128	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	スギ
195	970246	544	W126	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	建築材	部材	スギ
196	970246	545	W064	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
197	970246	651	ＳＷ37-21	Ｆ－２		古墳	ＳＷ37	その他	杭	スギ
198	970246	901	W149	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	運搬具	天秤棒	スギ
199	970246	903	W221	Ｂ－２		古代	第２・３面	その他	杭	スギ
200	970246	904	W086	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	スギ
201	970246	907	W077	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	スギ
202	970246	911	W076	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	スギ
203	970246	912	W078	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	その他	孔のあいた棒	スギ
204	970246	919	W067	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
205	970246	920	W068	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	ヒノキ
206	970246	923	W222	Ｂ－２		古代	第２・３面	その他	杭	スギ
207	970246	924	W167	Ｃ－２		古墳	ＳＳ44	建築材	部材	スギ
208	970246	938	W069	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	ヒノキ
209	970246	945	W064	Ｆ―２拡張		古墳	ＳＲ42	建築材	部材	スギ
210	970246	185	W023	Ｆ―２		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類6欠田下駄	スギ
211	970246	187	W032	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
212	970246	306	W246	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ｃ類足板	ヒノキ属
213	970246	311	W013	Ｇ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
214	970246	580	W012	Ｆ－２拡		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
215	970246	581	W030	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類3欠田下駄	スギ
216	970246	583	W002	Ｆ－２拡張		古代	ＳＲ31	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
217	970246	680	W243	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
218	970246	750	W119	Ｅ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
219	970246	753・754	W120	Ｄ－２		古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
220	970246	787	W033	Ｆ－２拡張		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4孔田下駄	スギ
221	970246	812	W235	Ｇ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
222	970246	333	W231	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
223	970246	402	W026	Ｆ－２		古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
224	970246	530	W107	Ｃ－１		古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類4欠田下駄	ヒノキ属
225	970246	534	W238	Ｈ－２		古墳	第4面Ａ	農具	Ａ類2孔田下駄	スギ
226	970308	1	W501	1	2層	古代	包含層	農具	Ａ類4欠田下駄	スギ
227	970246	695	ＳＺ39-W05	Ｂ―１		古代	ＳＺ39	その他	杭	スギ
228	970246	696	ＳＷ45-47	Ｃ－１		古墳	ＳＷ45	その他	杭	ヒノキ属
229	970246	719	ＳＺ39-Ｅ03	Ｂ－１		古代	ＳＺ39	その他	杭	スギ
230	970246	723	ＳＷ45-50	Ｃ－１		古墳	ＳＷ45	その他	杭	クリ
231	970246	729	ＳＷ45-49	Ｃ－２		古墳	ＳＷ45	その他	杭	ナツツバキ属
232	970246	799	ＳＷ34-11	Ｈ－２		古代	ＳＷ34	その他	杭	カバノキ属
233	970246	807	ＳＷ34-16	Ｉ－２		古代	ＳＷ34	その他	杭	モクレン属
234	970246	826	ＳＷ23-02	Ｄ－２		古代	ＳＷ23	その他	杭	クリ
235	970246	827	ＳＷ23-03	Ｄ－２		古代	ＳＷ23	その他	杭	クリ
236	970246	838	ＳＷ23-16	Ｄ－３		古代	ＳＷ23	その他	杭	クリ
237	970246	842	ＳＷ37-20	Ｆ－２		古代	ＳＷ37	その他	杭	トネリコ属
238	970246	843	ＳＷ37-46	Ｅ－２		古代	ＳＷ37	その他	杭	クリ
239	970246	851	ＳＷ37-43	Ｅ－２		古代	ＳＷ37	その他	杭	スギ
240	970246	855	ＳＷ36-01	Ｈ－２		古代	ＳＷ36	その他	杭	ハンノキ属ハンノキ亜属

第５表　樹種同定結果（４）

番号	調査番号	ネNo.	報告No.	地区	層位	時期	遺構	種別	器種	樹種
241	970246	859	ＳＷ36-05	Ｈ－２		古代	ＳＷ36	その他	杭	クリ
242	970246	862	ＳＷ36-08	Ｈ－２		古代	ＳＷ36	その他	杭	ハンノキ属ハンノキ亜属
243	970246	877	ＳＷ45-35	Ｄ－２		古墳	ＳＷ45	その他	杭	クリ
244	970246	890	ＳＷ34-02	Ｈ－２		古代	ＳＷ34	その他	杭	トネリコ属
245	970246	894	ＳＷ35-09	Ｈ－２		古代	ＳＷ35	その他	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
246	970246	895	ＳＷ35-03	Ｈ－２		古代	ＳＷ35	その他	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
247	970246	896	ＳＷ35-01	Ｈ－２		古代	ＳＷ35	その他	杭	クリ
248	970246	947	ＳＷ38-09	Ｆ－２拡		古代	ＳＷ38	その他	杭	スギ
249	970246	948	ＳＷ38-16	Ｆ－２拡		古代	ＳＷ38	その他	杭	スギ
250	970246	32	ＳＤ01-W03	２区		古墳	ＳＤ01	その他	杭	クリ
251	970246	45	ＳＤ02-N07	２区		古墳	ＳＤ02	その他	杭	コナラ属アカガシ亜属
252	970246	53	ＳＤ02-N05	２区		古墳	ＳＤ02	その他	杭	コナラ属アカガシ亜属

・ハンノキ属ハンノキ亜属（*Alnus* subgen. *Alnus*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または２～４個が放射方向に複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、１～30細胞高のものと集合放射組織とがある。

・カバノキ属（*Betula*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４個が複合、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～30細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・モクレン属（*Magnolia*）　　モクレン科

散孔材で、道管は単独および２～４個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～２細胞幅、１～40細胞高。

・サカキ（*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）　　ツバキ科サカキ属

散孔材で管壁は薄く、単独または２～３個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、１～20細胞高。

・ナツツバキ属（*Stewartia*）　　ツバキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独および２～３個が複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～３細胞幅、１～20細胞高であるが時に上下に連結する。

・トネリコ属（*Fraxinus*）　　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は２～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または２個が放射方向に複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～40細胞高。

・イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。

第６表　時期別・用途別種類構成

時期	種別				樹種	スギ	ヒノキ	ヒノキ属	ハンノキ亜属	カバノキ属	コナラ節	アカガシ亜属	クリ	モクレン属	サカキ	ナツツバキ属	トリネコ属	広葉樹	タケ亜科	合計
古墳	運搬具					13		1												14
						2														2
	建築材					25	2	1												28
						1														1
	祭祀具		刀形			2		1												3
			剣形			1														1
			鳥形か？			2														2
			舟形			3														3
	農具		編台の目盛り板			1														1
			一本スキ未成品			1														1
			両端加工のある棒			1														1
			Ａ類田下駄			15		2												17
			Ｃ類田下駄	足板				1												1
				台状枠歯		1														1
			Ｄ類田下駄	方形枠支柱		3	1													4
				横桟		10														10
			穂摘具									1								1
			横槌												1					1
	発火具		火鑽板			2														2
			火鑽棒			1		1												2
	紡績具		糸車			3														3
	容器	刳物	盤			1														1
			槽			3														3
			把手？			1														1
		指物	組合せ箱	箱		3	1	1												5
				木釘														1		1
			蓋			2														2
	食事具		箆			1														1
	雑具		腰掛け			1														1
	その他		板			28	2													30
			杭			1		1				2	3			1				8
			部材			3														3
			棒			21													1	23
古代	建築材		梯子			1														9
	祭祀具		斎串			8	1													3
			馬形			3														3
			刀形			3														3
			人形			3														
	農具		Ａ類田下駄			2														2
			Ｃ類田下駄	台状枠歯		2														2
			Ｄ類田下駄	足板				1												1
				方形枠支柱		3														3
				横桟		2														2
	発火具		火鑽板			1														1
	容器		曲物（蓋）			1														1
			曲物			1														1
			木皿			1														1
			楕円形曲物					1												1
		指物	組合せ箱			2		1												3
	その他		板			1														1
			棒			8														8
			部材			1	1													2
			杭			7			2	1	2		6	2			2			22
			横板			1														1
不明	建築材		部材			1														1
	発火具		火鑽板			1														1
	その他		板			1														1
合計						206	8	13	2	1	2	3	9	2	1	1	2	1	1	252

４．考察

樹種同定を行った木製品は、運搬具、刳物、建築材、祭祀具、農具、発火具、紡績具、容器、雑具、その他に大別される。時代別・用途別の種類構成を第６表に示す。

木製品は、種類不明１点を除く251点が合計13種類に同定された。このうち、針葉樹の３種類（スギ・ヒノキ・ヒノキ属）が全試料の約90%を占めている。その中で最も多いのはスギであり、全体の約82%を占める。木製品は、その多くが古墳時代と古代に分けられるが、今回の結果を見る限り時代による用材選択の差異は認められない。

針葉樹のスギは、出土したほとんど全ての器種に認められており、古墳時代～古代にかけて様々な用途に多用されていた様子がうかがえる。県内でこれまでに行われた樹種同定報告を見ると、針葉樹の中ではヒノキが多く利用されており、スギの利用は少ない（島地，1989；島地・林，1990,1991,1992)。このことから、本遺跡では他とは用材選択が異なっていたことが推定される。この背景には、スギ材とヒノキ材の入手環境の違いなどが推定される。スギとヒノキは、共に樹高30mを越える大木になり、木理は通直で容易に加工できる材質を有する。いずれも日本を代表する有用材であり、古くから利用されてきた。スギとヒノキの本来の分布状況については、古代からの利用と植林などにより不明な点が多い。しかし、ヒノキは、本州中部などで標高600m～1500mの山地の尾根などやや乾燥した場所に生育する(宮脇，1977)。一方、スギは、ヒノキよりも低標高地の湿った場所に生育し、日本海側では沖積地の埋没林にもスギが多く見られる（植田・辻，1995；辻ほか，1995)。

これまでヒノキが多く出土している遺跡と本遺跡の立地環境を比較すると、ヒノキが出土している遺跡は瀬戸内海側あるいは山間地に位置していることが多いが、山地の標高などには大きな違いは認められない。一方、本地域は、日本海に続く沖積地が広がっている。スギやヒノキの生育条件などをも考慮すると、本遺跡周辺では沖積地や低標高地の谷沿い等を中心にスギが生育しており、山地の尾根に生育するヒノキよりも入手が容易であったため、ヒノキよりもスギが多く利用されている可能性がある。スギとヒノキについては、古文書等にも記述が見られ、日本書紀には、素戔嗚尊の説話として、それぞれの用途を記した話が記載されている。この記述と同様の用材選択が行われていたことは、これまで近畿地方を中心とした出土品の調査からも確認されている（島地・伊東，1988)。このことから、古代においては、使用者や使用目的などによってもスギとヒノキの使い分けが行われていた可能性もある。

一方、広葉樹材は、穂摘具にアカガシ亜属、横槌にサカキ、組合せ箱の木釘に種類不明の広葉樹が認められた以外は、全て杭材としての出土であった。穂摘具は、石製のものがよく知られているが、木製のものも弥生時代を中心に出土例が知られており、５世紀中葉～６世紀の出土例が最新例とされる（奈良国立文化財研究所，1993)。兵庫県内でも玉津田中遺跡で出土しており、アカガシ亜属、クヌギ節、コナラ節、ヤマグワ等が確認されている（島地，1996)。この結果は、今回の結果とも一致しており、重硬な材質を有する木材が選択・利用されている様子がうかがえる。石製品に同様の製品があることを考慮すれば、より石に近い硬い材質を有する種類が適材と考えられる。今回認められたアカガシ亜属や、玉津田中遺跡で認められた各種類の利用状況から、材質を考慮した用材選択が推定される。

横槌も、利用方法を考慮すれば、柔らかい木材よりも堅く強度の高い木材が適材であり、サカキの利用は、材質を考慮した上での用材選択と考えられる。同様の事例は、春日町山垣遺跡の調査結果でも報告されている（島地・林，1990)。組合せ箱の木釘は、広葉樹材であるが、種類の同定はできなかった。

箱の他の部材は全て針葉樹材であり、木釘のみが広葉樹材である。これも広葉樹材は一般に針葉樹よりも重厚な種類が多いことから、強度等を確保するために広葉樹材を利用したことが推定される。

杭材は、古墳時代にスギ、アカガシ亜属、クリ、モクレン属、ナツツバキ属が利用され、古代はスギ、ハンノキ亜属、カバノキ属、コナラ節、クリ、モクレン属、トネリコ属が認められた。古墳時代と古代のいずれにおいても、杭材の試料数に対して種類数が比較的多く、また確認された広葉樹材の中に杭材のみに認められた種類が多数含まれる。これらの結果から、杭材には特定の樹木が選択・利用されたとは考えにくい。東大阪市宮ノ下遺跡の調査例では、373点の杭に33種類が認められており、周辺で入手可能であった種類や加工時の余材など、様々な木材を利用したことが指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1996）。今回の結果についても同様の可能性が指摘でき、遺跡周辺で針葉樹のスギ、広葉樹のアカガシ亜属、コナラ節、クリ、モクレン属等の木材が入手可能であったことが推定される。

確認された種類のうち、アカガシ亜属とサカキは、暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）を構成する種類で、コナラ節とクリは二次林内に生育する種類である。また、ナツツバキ属とカバノキ属は、冷温帯落葉広葉樹林を構成する種類、ハンノキ亜属、モクレン属、トネリコ属は湿地～河畔林を構成する種類である。現在の周辺の地形などを考慮すると、谷沿いや沖積地等にはスギ、ハンノキ亜属、モクレン属、トネリコ属が生育していたことが推定される。アカガシ亜属とサカキは、沖積地よりもやや高い台地等に生育し、人間の伐採などで生じた陽地にはコナラ節やクリなどの落葉広葉樹が二次林を形成していたことが推定される。ナツツバキ属とカバノキ属は、ブナ帯に分布の中心があり、本遺跡の他の種類構成からみると、異なる地域から持ち込まれた可能性がある。本地域周辺では、円山川上流域や西南の美方町周辺等の標高が600～1000mにブナを交える植生が見られることから（宮脇，1977）、ナツツバキ属とカバノキ属もこれらの地域に生育していた可能性がある。木材は、これらの地域から持ち込まれたものか、流木として遺跡周辺に漂着したものを利用した可能性がある。

引用文献

宮脇　昭編（1977）日本の植生．535p.，学研．
宮脇　昭編（1984）日本植生誌　近畿．596p.，至文堂．
奈良国立文化財研究所（1993）木器集成図録　近畿原始篇．410p.
パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）出土木製品の樹種．「宮ノ下遺跡第１次発掘調査報告書　－第１分冊－」，p.113-138，東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会．
島地　謙（1989）小犬丸遺跡出土木器の樹種．「兵庫県文化財調査報告書第66冊　龍野市小犬丸遺跡Ⅱ」，p.79-87，兵庫県教育委員会．
島地　謙（1996）玉津田中遺跡出土木製品の樹種．「兵庫県文化財調査報告　第135-6冊　神戸市西区玉津田中遺跡　－第６分冊－（総括編）」，p.15-49，兵庫県教育委員会．
島地　謙・林　昭三（1990）山垣遺跡出土木製品の樹種．「兵庫県文化財調査報告書第75冊　山垣遺跡発掘調査報告書」，p.57-64，兵庫県教育委員会．
島地　謙・林　昭三（1991）七日市遺跡出土木製品の樹種．「兵庫県文化財調査報告書第72冊-3　七日市遺跡（Ⅰ）－第３分冊－」，p.48-55，兵庫県教育委員会．
島地　謙・林　昭三（1992）川除・藤ノ木遺跡出土木製品の樹種．「兵庫県文化財調査報告書第104冊　三田市川除・藤ノ木遺跡　－第２分冊－」，p.771-786，兵庫県教育委員会．
辻　誠一郎・植田弥生・木村勝彦（1995）福井県三方低地帯南部における完新世湿地林の復元と古生態．植生史研究，3（2），p.61-70.
植田弥生・辻　誠一郎（1995）三方低地帯北部，中山のスギ埋没株とその放射性炭素年代．植生史研究，3（1），p.33-35.

第7章　まとめ

第1節　要約

1．五反田遺跡

五反田遺跡は弥生時代中期・弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代中期、古墳時代後期、平安時代、それ以降の各遺構面を検出した。

(1)　弥生時代

弥生時代中期は第6面の流路ＳＤ61より南西方向で出土している。明確な遺構は検出していないが、さらに下層に存在している可能性が考えられる。

(2)　弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期～古墳時代前期は第6面が該当する。流路ＳＤ61を検出したのみである。主に弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土した。

(3)　古墳時代前期～古墳時代中期は第5面が該当する。溝ＳＤ51・ＳＤ52・ＳＤ53が存在するが、ほとんど遺物は出土していない。第4面と第6面の時期から古墳時代前期～古墳時代中期と推定した。

(4)　古墳時代中期

古墳時代中期は第4面が該当する。流路ＳＲ41・ＳＲ42と水路ＳＤ43、それに伴う畦畔ＳＳ44とそれに伴う杭列ＳＷ45・ＳＷ46が存在する。流路ＳＲ41は上層の水路ＳＤ31などにより削平を受けており、ＳＲ42に続く可能性が高いが詳細は不明である。流路ＳＲ42などからは少量の土器とともに建築部材や田下駄・横槌・槽・箱・天秤棒・舟などの多量の木器が出土した。水路ＳＤ43からは少量の土器とともに建築部材や田下駄・箱・天秤棒・腰掛け・火鑽板・火鑽棒・刀形などの多量の木器が出土した。

(5)　古墳時代後期

古墳時代後期は第3面が該当し、水路ＳＤ31とそれに伴う畦畔ＳＳ32とそれに伴う杭列ＳＷ33・ＳＷ34・ＳＷ35・ＳＷ36、水田面と水田面の中の杭列ＳＷ37・ＳＷ38、木組遺構ＳＺ39、土石流ＳＸ40が存在する。水田面の中の杭列ＳＷ37・ＳＷ38は畦畔に伴うものと考えられる。

(6)　平安時代

平安時代は第2面が該当し、溝ＳＤ21とそれに伴う畦畔ＳＳ22と杭列ＳＷ23を検出した。そのほかは、全面に水田が広がっている。

第1面は第2面よりは新しいが、具体的に時期の判明する遺物が出土していないため不明である。流路ＳＲ11がある。

(7)　五反田遺跡第3次調査

五反田遺跡第3次調査の4区～6区の上層で検出したピット群、溝ＳＤ１・ＳＤ２は古墳時代中期であり、第2次調査の第4面に該当する。上層で検出した土坑ＳＫ３は古墳時代前期であるため、第2次調査の第5面に該当する。中層のＳＤ４は古墳時代前期であり、第2次調査の第5面もしくは第6面に該当する。下層のＳＤ５は遺物が出土していないため詳細は不明であるが、第2次調査の第6面に該当する。

２．その他の遺跡

(1)　平畑遺跡

平畑遺跡は調査の結果、平安時代の整地層と弥生時代後期の旧河道の流れの一部を確認した。

今回の調査地点は分布調査で明らかにされている平畑遺跡の北西方向の下流にあたり、平畑遺跡の縁辺部に位置づけられよう。この調査結果により、南方の上流には弥生時代から古墳時代の集落の存在が想定できる。また河道は北方に続いており、上流はもちろん、下流にも遺跡が広がっている可能性は高い。

(2)　堂林遺跡

堂林遺跡は調査の結果、古墳時代後期の河道の一部を確認した。

今回の調査地点は分布調査で明らかにされている堂林遺跡の南西方向に位置し、堂林遺跡の縁辺部に位置づけられよう。この調査結果により、南方の上流および東側の山麓には古墳時代の集落の存在が想定できる。また、北方はさらに河道は続いており、下流にも遺跡が広がっている可能性は高い。

(3)　於富美Ａ遺跡

於富美Ａ遺跡は調査の結果、古墳時代の遺構面と包含層が認められ、ピットなどの遺構を検出した。これらは、五反田遺跡東側に位置し、標高もやや高いため、古墳時代の居住域を形成していたことが考えられる。このことは確認調査を実施した於富美Ｂ遺跡の調査結果と同様であり、一連の遺跡と判断できる。

於富美Ａ遺跡は内容や立地の上からは、五反田遺跡と同一と考えられることが判明した。

(4)　於富美Ｂ遺跡

於富美Ｂ遺跡は調査対象地全域で古墳時代の遺構を確認した。特に、古墳時代の竪穴住居ＳＨ１を確認したことにより、五反田遺跡では確認できなかった居住域の一部であることが判明した。

竪穴住居跡ＳＨ１の時期は、土師器の小片しか出土していないため詳細は不明であるが、古墳時代後半のものであると考えられる。

(5)　二ヶ谷17号

二ヶ谷17号は古墳ではなく、自然の岩山を加工し、形を整え、利用した信仰の対象物であったと判明した。遺物が少なく小さな破片のため詳細な時期は確定できないが、中世以降に位置づけられる。

第２節　五反田遺跡の性格

五反田遺跡は沖積地の調査であったため、弥生時代中期から平安時代にかけての連綿とした遺跡の変遷を確認できた。それと共に、沖積地の深い部分に存在し、洪水砂などに埋もれていたため木製品を中心に遺存状況が良好であった。このため、遺跡の性格を土器・石器・木器・植物種実などを元にして総合的に考えることができる。

遺物など総合的に考えて、第２面は平安時代前後、第３面は古墳時代後期前後、第４面は古墳時代中期前後、第６面は古墳時代前期～弥生時代後期前後と弥生時代中期前後であることが判明した。

五反田遺跡の変遷は、弥生時代後期から古墳時代前期の第６面から第５面にかけては自然流路や溝などであり、遺物も少ない。

古墳時代中期の第４面では自然流路の他に畦畔を伴った水路や水田を検出しており、周辺も含めて大規模な開発が行われ始めたことが判明した。それと共に自然流路の淀みを中心とした場所で木器の製作をしていたことが想定できる。

古墳時代後期はさらに水田域が広がり、以後、洪水に遭いながら水田が連綿と続いていった。古墳時代後期以降平安時代までの古代を中心とした木製品の内訳は、人形や馬形・斎串などの比率が大きく、東側の豊岡市教育委員会で調査した地域との関連により理解できる。

なお、畦畔に使われた杭の樹種は古墳時代中期の第４面が針葉樹中心であったものが、古墳時代後期の第３面になると広葉樹のみもしくは広葉樹中心に変化していく。

特に古墳時代中期を中心とする第４面は河道や水路から多量の木製品が出土した。この古墳時代中期の五反田遺跡の性格は土器の出土量が通常の生活遺跡に比べて少なく細片であること、また多量の木製品の出土や、未成品などが存在することから、木製品の加工を中心とした集落の一部であると想定できる。特に田下駄は製品の他に、建築部材や板材・棒などが多量に出土しており、これらは田下駄製作の材料として再利用するための板材であると考えられる。ただし、加工用の斧やチョウナ、ヤリガンナなどの工具が出土していないことや、工具の柄などの木器が出土していないことや、工具を手入れする砥石の出土量が少ないなどの否定材料もある。

石製品は古墳時代中期から古墳時代後期までの洪水砂の層から滑石製の琴柱形と有孔円板が出土している。琴柱形石製品は通常、古墳の埋葬施設から出土するが、集落からの出土は全国でも極めて稀である。ちなみに但馬では碧玉製も含めて３基の古墳から出土しているのみである。また有孔円板は但馬で２遺跡目の出土である。

今回、このような沖積地の深い部分において遺跡の存在が明らかになった。このことは、分布調査では発見しにくい沖積地の深い地点での遺跡の存在にも注意を払う必要がある。

今後、五反田遺跡のような集落遺跡や生産遺跡と古墳との関わりについても考えていかなければいけない。

別　　表

別表１　土器一覧（１）五反田遺跡第２次

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
1	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｂ－２	第６面	(15.8)	4.0＋	6.4	
2	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｂ－１	第６面	20.6	3.7＋		
3	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｂ－２	第６面		4.4＋	6.4	
4	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｂ－２	第６面		5.2＋	(6.0)	
5	23	14	弥生中	弥生土器	壺	Ａ－１	第６面		6.3＋	(9.0)	
6	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	(17.6)	12.4＋		
7	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	(23.2)	7.8＋		
8	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	22.0	6.1＋		
9	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	(23.8)	5.4＋		
10	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	16.0	2.7＋		
11	23	15	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	26.4	16.5＋		
12	23	15	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面	29.8＋	32.8＋	(8.0)	
13	23		弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面		3.4＋	(5.5)	
14	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面		5.6＋	(6.0)	
15	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面		6.3＋	(6.3)	
16	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｄ－２	第６面		11.7＋	(7.8)	
17	23	14	弥生中	弥生土器	甕	Ｆ－２拡	ＳＲ42		4.6＋	(7.0)	
18	23	14	弥生中	弥生土器	壺蓋	Ｇ－２	ＳＲ42	6.2	2.0		
19	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｂ－２・３	第６面	(21.0)	20.0＋		
20	24	16	弥生後	弥生土器	壺	Ｅ－２	ＳＤ43		3.2＋		
21	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｇ－１	ＳＲ42		2.0＋		
22	24	16	古墳前	土師器	壺	表採			4.8＋		
23	24	16	弥生後	弥生土器	壺	Ｆ－２	ＳＤ43	(9.6)	5.1＋		
24	24	16	古墳前	土師器	壺	Ａ－３	第６面	9.0	6.3＋		
25	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｄ－３	第６面	(11.0)	4.0＋		
26	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｂ－１	ＳＤ43	7.4	2.9＋		
27	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｄ－３	第４面	10.0	7.4＋		
28	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｇ－２	ＳＤ31	10.0	7.0＋		
29	24		古墳前	土師器	壺	Ｂ－３	第６面	9.0	3.2＋		
30	24	16	古墳前	土師器	壺	Ｄ－３、Ｆ－２	第６面	(14.0)	3.3＋		
31	24	17	古墳前	土師器	高坏	Ｅ－２	ＳＳ44	(15.6)	3.2＋		
32	24	17	古墳前	土師器	高坏	Ｄ－３	第６面	(16.4)	4.9＋		
33	24	17	古墳前	土師器	器台	Ｃ・Ｄ－３	第６面	(17.0)	3.4＋		
34	24	17	古墳前	土師器	器台	Ｄ－２・３	第６面	(18.4)	2.5＋		
35	24	17	弥生後	弥生土器	器台	Ｈ・Ｉ－２拡	ＳＤ31	(10.0)	4.2＋		
36	24	17	古墳前	土師器	器台	Ｄ－３	第４面	(23.8)	4.2＋		
37	24	17	古墳前	土師器	鼓形器台	Ｅ－２	ＳＤ43		4.6＋		
38	24	17	古墳前	土師器	器台	Ｄ－３	第６面		6.4＋	(9.0)	
39	24	17	古墳前	土師器	鉢	Ｅ－３	第６面		4.6＋	(6.8)	
40	24	17	古墳前	土師器	鉢	Ｄ－２	ＳＤ43		5.9＋	(7.6)	
41	24	17	古墳前	土師器	脚台	Ｈ－２拡	ＳＤ31		4.4＋	(5.3)	
42	24	17	弥生後	弥生土器	脚付甕	Ｄ－２	第６面		4.9＋	9.4＋	
43	24	17	古墳前	土師器	有孔鉢	Ｄ・Ｃ-3	第６面		3.4＋	(0.9)	
44	24	17	古墳前	土師器	有孔鉢	Ｄ－２	ＳＤ43		3.1＋	(4.0)	
45	24		古墳中	土師器	手づくね壺	Ｆ－２拡	ＳＲ42	(5.0)	(4.8)		
46	24			土師器	手づくね鉢	Ｅ－３		(6.2)	4.1＋		
47	24	17	古墳中	土師器	手づくね鉢	Ｇ－２	ＳＲ42	2.0	(2.7)		
48	24	17		土製品	土錘	Ｉ－２	ＳＤ31	長8.2	巾2.8	厚2.4	
49	25	18	古墳前	土師器	高坏	Ｄ－２	第６面	(14.0)	3.5＋		
50	25	18	古墳前	土師器	椀	Ｅ－２	ＳＤ43	(14.0)	3.3＋		
51	25	18	古墳前	土師器	椀	Ｂ－２	第６面	(13.6)	4.4＋		
52	25	18	古墳中	土師器	椀	Ｃ－１	ＳＤ43	(12.6)	(5.1)		
53	25	18	古墳中	土師器	椀	Ｆ－２	ＳＤ43	12.0	5.8＋		
54	25	18	古墳中	土師器	高坏	Ｄ－３	第４面	12.1	3.3＋		
55	25	18	古墳中	土師器	高坏	Ｉ－２拡	ＳＤ31	12.0	3.9＋		
56	25	18	古墳中	土師器	高坏	Ｇ－２	ＳＲ42	15.3	5.1＋		
57	25	18	古墳	土師器	高坏	Ｇ－３	ＳＳ44	16.0	4.8＋		
58	25	18	古墳中	土師器	高坏	Ｆ－２	ＳＤ43	15.5	5.8＋		
59	25	18	古墳前	土師器	高坏	Ｄ－２	ＳＤ43		(15.6)	5.0＋	

別表２　土器一覧（２）五反田遺跡第２次

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　考
60	25	18	古墳前	土師器	高坏	B－1	SD43	19.8	4.3＋		
61	25	20	古墳前	土師器	高坏	D－3	第6面	(24.0)	6.1＋		
62	25	20	古墳中	土師器	高坏	F・G－2	SD43	15.6	5.3＋		
63	25	20	古墳	土師器	高坏	D－1・2	SD43	(15.0)	(4.1)		
64	25	18	古墳中	土師器	高坏	C－2、D－3	第4面	20.1	8.8＋		
65	25		古墳前	土師器	高坏	D－2・3	第6面	(14.4)	3.9＋		
66	25	19	弥生後	弥生土器	高坏	E・F－2	SD43		6.7＋	(11.2)	
67	25	19	古墳前	土師器	高坏	F－2拡	SR42		6.6＋	(12.0)	
68	25	19	古墳前	土師器	高坏	D－3	第6面		7.3＋	(12.8)	
69	25	19	古墳中	土師器	高坏	F－3	SD43		6.4＋	(4.6)	
70	25	20	古墳中	土師器	高坏	E－3	SD43		5.3＋	(10.0)	
71	25	20	古墳中	土師器	高坏	E・F－2	SD43		5.9＋	(9.6)	
72	25	20	古墳中	土師器	高坏	D－3	第4面		5.4＋	(9.4)	
73	25	20	古墳中	土師器	高坏	C－3	第4面		5.9＋	(8.8)	
74	25	20	古墳中	土師器	高坏	G－2	SR42		6.9＋	(8.9)	
75	26	20	弥生後	弥生土器	甕	C－1	SD43	(14.0)	3.8＋		
76	26	20	弥生後	弥生土器	甕	F－2・3	SD43	(17.8)	4.4＋		
77	26	20	弥生後	弥生土器	甕	C－1・2、D－2	SS44	23.4	16.9＋		
78	26	20	弥生後	弥生土器	甕	E－2	SD43	(14.0)	5.5＋		
79	26	20	古墳前	土師器	甕	I－2	SD31	17.8	6.0＋		
80	26	20	古墳前	土師器	甕	I－2拡	SD31	(18.0)	5.0＋		
81	26	20	古墳前	土師器	甕	F－2	第6面	(23.0)	4.6＋		
82	26	20	古墳前	弥生土器	甕	E－3	第6面	(15.2)	5.1＋		
83	26	20	古墳中	土師器	甕	F－2拡	SR42	14.0	5.0＋		
84	26		古墳前	土師器	甕	G・H－2拡	SD31	26.0	2.0＋		
85	26	21	古墳中	土師器	甕	D・E－2	SD43	14.0	11.5＋		
86	26	21	古墳前	土師器	甕	D－3	第4面	(13.0)	5.4＋		
87	26	21	古墳中	土師器	甕	F－2	SS44	13.6	8.8＋		
88	26	21	古墳前	土師器	甕	E・F－2	SD43	13.4	6.8＋		
89	26	21	古墳	土師器	甕	I－4		(18.0)	6.4＋		
90	26	21	古墳中	土師器	甕	D－3	第4面	(12.8)	5.8＋		
91	26	21	古墳前	土師器	甕	C－1・2、D－3	SD43	17.0	11.8＋		
92	26	21	古墳前	土師器	甕	B－1・2	SS44	15.0	(22.3)		
93	26	21	古墳前	土師器	甕	A－1	SS44	16.0	(27.6)		
94	26	21	古墳前	土師器	甕	C・D－3	第6面		3.3＋	(2.6)	
95	26	21	古墳前	土師器	甕	C－2	第6面		4.2＋	(4.0)	
96	26	21	古墳前	土師器	甕	D－3	第6面		4.3＋	(3.6)	
97	26	21	古墳前	土師器	甕	D－2	第6面		2.2＋	(3.0)	
98	27	23	古墳中	須恵器	坏H蓋	D－3	第4面	12.5	(5.1)		
99	27	23	古墳後	須恵器	坏H蓋	I－2拡	SD31	15.2	4.7＋		
100	27	23	古墳後	須恵器	坏H身	I－2拡	SD31		3.5＋		
101	27	23	古墳後	須恵器	高坏	H－2拡	SD31		7.3＋	(10.8)	
102	27	22	古墳中	須恵器	瓶	F－3	SD43	(9.0)	2.8＋		
103	27	22	古墳中	須恵器	瓶	D－2・3、E－3	第4面	10.4	5.1＋		
104	27	22	古墳中	須恵器	樽形瓶	F－2	SD43		9.3＋		
105	27	22	古墳中	須恵器	樽形瓶	E－3	第4面		6.9＋		
106	27	22	古墳中	須恵器	甕	C－2、C～E－3	第4面	(34.8)	13.0＋		
107	27	22	古墳後	須恵器	甕	B～D－2・3	第3面	35.0	22.0＋		
108	27	23	古墳後	須恵器	坏G身	B－2・3	第3面	10.8	4.1		
109	27	23	平安	須恵器	椀	I－2拡	SR21	(18.6)	4.8＋		
110	27	23	平安	土師器	椀	H－2	SR21	13.6	(4.5)	(6.5)	
111	27	23	古墳	土師器	甕	D－3	第4面	(21.0)	3.8＋		
112	27	23	古墳中	土師器	甑	D－3	第4面		5.7＋		
113	23	14	弥生	弥生土器	壺の把手	D－3	第5面				
114	27	14	弥生中	弥生土器	壺	H－2拡	SD31	(31.4)	10.4＋		
115	27	14	弥生中	弥生土器	甕	G・H－2拡	SD31	25.8	2.0＋		

別表３　土器一覧（３）五反田遺跡第３次

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
401	80	56	古墳	須恵器	坏Ｈ蓋	４区	ＳＤ１	(12.0)	4.8		
402	80	56	古墳	須恵器	有蓋高坏	４区	ＳＤ１		7.7＋	9.0	
403	80	56	古墳	須恵器	無蓋高坏	４区	ＳＤ１	(17.0)	5.0＋		
404	80	56	古墳	須恵器	壺	３～４区	ＳＤ１	16.0	6.4＋		
405	80		古墳	土師器	椀	４～５区	ＳＤ１	12.0	6.0＋		
406	80	56	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１	15.6	4.6＋		
407	80	56	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１	(15.8)	3.8＋		
408	80	56	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１	15.6	5.6＋		
409	80	56	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１	15.8	6.1＋		
410	80	56	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１	(15.7)	5.9＋		
411	80	57	古墳	土師器	高坏	４区	ＳＤ１		4.1＋	8.4	
412	80	56	弥生	弥生土器	高坏	４区	ＳＤ１	(15.8)	3.1＋		
413	80	57	弥生	弥生土器	短頸壺	４区	ＳＤ１	10.1	9.1＋		
414	80	57	弥生	弥生土器	壺	４区	ＳＤ１	13.7	4.4＋		
415	80	57	古墳	土師器	短頸壺	４区	ＳＤ１	12.2	6.9＋		
416	80	57	古墳	土師器	甕	４区	ＳＤ１	16.3	5.5＋		
417	80	57	古墳	土師器	甕	４区	ＳＤ１	19.4	5.9＋		
418	80	57	古墳	土師器	甕		ＳＤ１	(17.5)	10.0＋		
419	80	57	古墳	土師器	甕	４区	ＳＤ１	(16.7)	4.3＋		
420	80	56	弥生	弥生土器	甕	４区	ＳＤ１	(15.0)	4.3＋		
421	80	56	弥生	弥生土器	甕	４区	ＳＤ１	15.5	3.4＋		
422	80	56	弥生	弥生土器	壺	４区	ＳＤ１		3.9＋	5.5	
423	80	56	古墳	土師器	壺	４区	ＳＤ１		4.9＋	3.5	
424	80	58	古墳	土師器	甕	４～５区	ＳＤ２	(15.9)	4.0＋		
425	80	58	古墳	土師器	甕	３～４区	ＳＤ２	(17.6)	4.1＋		
426	80		古墳	須恵器	高坏	３～４区	ＳＤ２		5.1＋	8.6	
427	80	58	古墳	土師器	坏身	４～５区	ＳＤ３	9.6	4.6＋	7.0	
428	80		古墳	土師器	低脚坏	４～５区	ＳＤ３		4.３＋	6.6	
429	80		古墳	土師器	高坏	４～５区	ＳＤ３		6.5＋	12.5	
430	80	58	古墳	土師器	甕	４～５区	ＳＤ３	(16.8)	3.8＋		
431	80	58	古墳	土師器	甕	４～５区	ＳＤ３	17.2	5.9＋		
432	80	58	古墳	土師器	甕	４～５区	ＳＤ３	19.6	6.2＋		
433	80	58	古墳	土師器	甕	４～５区	ＳＤ３	15.8	22.2		
434	80	58	弥生	弥生土器	甕	４～５区	ＳＤ３		4.5＋	2.9	
435	81	59	古墳	須恵器	椀	３～４区	Ｂ地区包含層	(6.0)	5.9	3.0	
436	81	60	古墳	須恵器	坏Ｈ身	４～５区	Ｂ地区包含層	12.0	4.4		
437	81	60	古墳	須恵器	坏Ｈ身	４～５区	Ｂ地区包含層	10.6	4.5＋		
438	81	60	古墳	須恵器	坏Ｈ身	４～５区	Ｂ地区包含層	11.0	5.2		
439	81		古墳	須恵器	坏Ｈ身	３～４区	Ｂ地区包含層	(12.0)	5.6		
440	81	59	古墳	須恵器	坏Ｈ身	４～５区	Ｂ地区包含層	11.0	4.7		
441	81	59	古墳	須恵器	坏Ｈ身	４～５区	Ｂ地区包含層	12.2	4.9		
442	81	60	古代	須恵器	椀	３～４区	Ｂ地区包含層	(13.8)	4.8＋		
443	81	60	古代	須恵器	椀	３～４区	Ｂ地区包含層	(14.1)	4.7	6.1	
444	81	60	古代	須恵器	椀	３～４区	Ｂ地区包含層	16.0	5.8	7.3	
445	81	61	古墳	土師器	壺	４～５区	Ｂ地区包含層	10.7	5.0＋		
446	81	61	古墳	土師器	壺	４～５区	Ｂ地区包含層	(10.0)	5.2＋		
447	81	61	古墳	土師器	壺	４～５区	Ｂ地区包含層	(8.8)	6.2＋		
448	81	61	弥生	弥生土器	壺	３～４区	Ｂ地区包含層	15.6	5.3＋		
449	81	59	古墳	土師器	小型丸底壺	３～４区	Ｂ地区包含層	9.7	7.8＋		
450	81	61	古墳	土師器	無頸壺	３～４区	Ｂ地区包含層	(7.6)	3.6＋		
451	81	61	古墳	土師器	椀	４～５区	Ｂ地区包含層	14.0	5.7＋		
452	81	61	古墳	土師器	鉢	３～４区	Ｂ地区包含層	(16.0)	7.1＋		
453	81	59	古墳	土師器	坏	４～５区	Ｂ地区包含層	7.3	5.8＋	5.6	
454	81	61	弥生	弥生土器	高坏	３～４区	Ｂ地区包含層	5.0＋	11.8		
455	81		弥生	弥生土器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	5.2＋	10.5		
456	81	60	弥生	弥生土器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	(11.8)	3.7＋		
457	81	60	古墳	土師器	椀	４～５区	Ｂ地区包含層	(14.0)	5.0＋		
458	81		古墳	土師器	椀	４～５区	Ｂ地区包含層	11.7	6.8＋	4.0	
459	81	59	古墳	土師器	椀	４～５区	Ｂ地区包含層	12.9	6.3＋		

別表４　土器一覧（４）五反田遺跡第３次

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
460	81	60	古墳	土師器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	15.8	4.7＋		
461	81	60	古墳	土師器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	(15.9)	5.3＋		
462	81	60	古墳	土師器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	(14.7)	6.0＋		
463	81	60	古墳	土師器	高坏	３～４区	Ｂ地区包含層	(15.8)	5.5＋		
464	81	59		土師器	高坏	３～４区	Ｂ地区包含層	4.4＋	9.2		
465	81			土師器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	5.3＋	8.6		
466	81			土師器	高坏	４～５区	Ｂ地区包含層	7.6＋	9.8		
467	81	61	弥生	弥生土器	高坏	３～４区	Ｂ地区包含層	(29.6)	3.9＋		
468	81	61	古墳	土師器	低脚坏	４～５区	Ｂ地区包含層	(23.9)	1.9＋		
469	81	61	弥生	土師器	小型器台	３～４区	Ｂ地区包含層	(10.2)	1.9＋		
470	81	61	弥生	土師器	鼓形器台	３～４区	Ｂ地区包含層	4.0＋			
471	81	61	弥生	土師器	鼓形器台	３～5区	Ｂ地区包含層	5.2＋			
472	81	61	弥生	土師器	鼓形器台	４～５区	Ｂ地区包含層	5.1＋	19.3		
473	81		古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	(36.2)	9.3＋		
474	82	62	弥生	弥生土器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	12.0	7.1＋		
475	82	62	弥生	弥生土器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	21.4	6.2＋		
476	82	62	弥生	弥生土器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	(16.3)	3.0＋		
477	82	62	弥生	弥生土器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	17.1	3.8＋		
478	82		古墳	土師器	甕	３～5区	Ｂ地区包含層	(14.7)	4.2＋		
479	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	16.7	7.7＋		
480	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	13.8	5.3＋		
481	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	(16.8)	5.3＋		
482	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	17.6	5.5＋		
483	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	18.6	5.8＋		
484	82	62	古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	(17.8)	5.6＋		
485	82	62	古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	(13.8)	5.5＋		
486	82		古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	(19.8)	3.6＋		
487	82	62	古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	18.4	10.8＋		
488	82		古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	24.8	4.1＋		
489	82	62	古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	11.6	16.7		
490	82		古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	9.6	4.8＋		
491	82		古墳	土師器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	20.5	5.1＋		
492	82		古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	19.4	8.7＋		
493	82		古墳	土師器	甕	４～５区	Ｂ地区包含層	17.5	4.7＋		
494	82		弥生	弥生土器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	3.2＋	3.0		
495	82		弥生	弥生土器	甕	３～４区	Ｂ地区包含層	3.7＋	4.6		
496	83	64		土師器	長頸壺	８区	Ｃ地区包含層	8.9	15.0＋		
497	83	64	古墳	土師器	椀	８区	Ｃ地区包含層	14.0	6.9		
498	83	64	古墳	土師器	低脚坏	８区	Ｃ地区包含層	(16.0)	0.7＋		
499	83	64	古墳	土師器	高坏	８区	Ｃ地区包含層	15.8	4.2＋		
500	83	63	古墳	土師器	高坏	８区	Ｃ地区包含層	6.1＋	10.7		
501	83	63	古墳	土師器	高坏	８区	Ｃ地区包含層	5.4＋	9.2		
502	83		古墳	土師器	小型丸底壺	８～９区	Ｃ地区包含層	6.0	2.7＋		
503	83	64	古墳	土師器	低脚坏	８区	Ｃ地区包含層	9.8	6.9	7.2	
504	83	64		土師器	鉢or甑	８区	Ｃ地区包含層	19.0	6.0＋		
505	83	64		土師器	鉢or甑	８～９区	Ｃ地区包含層	(20.8)	9.2＋		
506	83	64		土師器	鉢	８～９区	Ｃ地区包含層	25.4	7.5＋		
507	83	63	古墳	土師器	甕	８～９区	Ｃ地区包含層	13.9	10.3＋		
508	83	64	古墳	土師器	甕	８区	Ｃ地区包含層	(16.8)	4.7＋		
509	83	64	古墳	土師器	甕	８区	Ｃ地区包含層	16.2	13.4＋		
510	83	65	古墳	須恵器	坏Ｈ蓋	８～９区	Ｃ地区包含層	12.0	4.7＋		
511	83	65	古墳	須恵器	坏Ｈ身	８～９区	Ｃ地区包含層	13.0	3.0＋		
512	83	65	古墳	須恵器	台付壺	８～９区	Ｃ地区包含層	4.9＋	11.4		
513	83	65	古墳	須恵器	甕	８～９区	Ｃ地区包含層	17.6	6.3＋		
514	83	65	古墳	須恵器	甕	８～９区	Ｃ地区包含層	(23.6)	8.0＋		
515	83	65	古墳	須恵器	甕	８～９区	Ｃ地区包含層	36.4	16.2＋		
516	83	64	古代	土師器	坏	８～９区	Ｃ地区包含層	11.4	3.7	6.8	
517	83	65	古代	須恵器	椀	８～９区	Ｃ地区包含層	(15.6)	6.0	9.0	

別表５　土器一覧（５）五反田遺跡第３次

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
518	84	66	古墳	須恵器	坏Ｈ蓋	15区	Ｄ地区包含層	(13.0)	3.9＋		
519	84	66	古墳	須恵器	坏Ｈ蓋	11区	Ｄ地区包含層	13.0	4.3		
520	84	66	古墳	須恵器	坏Ｈ身	11区	Ｄ地区包含層	12.2	5.3		
521	84	66	古墳	須恵器	坏Ｈ身	11区	Ｄ地区包含層	11.8	5.1		
522	84	66	古墳	土師器	高坏	10～11区	Ｄ地区包含層	15.1	6.5		
523	84	67	古墳	土師器	高坏	11～13区	Ｄ地区包含層	(9.8)	3.2＋		
524	84		古墳	土師器	高坏	12区	Ｄ地区包含層	12.8	4.2＋		
525	84		古墳	土師器	高坏	12～13区	Ｄ地区包含層	14.4	6.8	9.4	
526	84	66	古墳	土師器	高坏	15区	Ｄ地区包含層	7.2＋	9.4		
527	84	66	古墳	土師器	甕	15区	Ｄ地区包含層	(15.7)	5.5＋		
528	84	66	古墳	土師器	甕	11区	Ｄ地区包含層	19.2	7.4＋		
529	84	66	古墳	土師器	甕	11区	Ｄ地区包含層	25.7	8.8＋		
530	84	67	弥生	土師器	手づくね土器	12区	Ｄ地区包含層	2.9＋	3.6		
531	84		弥生	弥生土器	壺	12区	Ｄ地区包含層	3.0＋	8.9		
532	84	67	弥生	弥生土器	高坏	12区	Ｄ地区包含層	(22.8)	5.8＋		
533	84	67	古代	須恵器	椀	12～13区	Ｄ地区包含層	3.6＋	6.6		
534	84	67	古代	須恵器	椀	12区	Ｄ地区包含層	3.7＋	7.3		
535	84	67	古代	須恵器	鉢	12～13区	Ｄ地区包含層	13.4			
536	84	67	古代	黒色土器	椀	12～13区	Ｄ地区包含層	(19.8)	5.7		
537	84		古代	土師器	椀	12～13区	Ｄ地区包含層	(13.6)	3.1＋		
538	84	67	古代	土師器	椀	12～13区	Ｄ地区包含層	2.4＋	5.6		
539	84	67	古代	土師器	椀	12～13区	Ｄ地区包含層	2.3＋	7.0		
540	84		古代	土師器	甕	12区	Ｄ地区包含層	15.8	4.8＋		
541	84	67	古代	土師器	甕	12～13区	Ｄ地区包含層	24.2	16.3＋		

平畑遺跡土器

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
601	87	72		土師器	甕			(21.6)	3.0＋		
602	87	72	弥生Ｖ	弥生土器	甕			18.5	23.9＋	3.9	
603	87	72	古墳前	土師器	椀			13.1	6.3＋		
604	87	72	平安	須恵器	椀			(13.4)	2.2＋		
605	87	72	平安	須恵器	椀				2.2＋	5.5	
606	87	72	平安	須恵器	椀				5.1＋	6.4	

堂林遺跡土器

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
701	87	74	古墳後	須恵器	坏Ｈ蓋		旧河道	12	4.3		
702	87	74	古墳後	須恵器	坏Ｈ蓋		旧河道	12.0	4.1＋		
703	87	74	古墳後	須恵器	坏Ｈ身		旧河道	(10.8)	3.6		
704	87	74	古墳後	須恵器	坏Ｈ身		旧河道	(20.5)	5.4＋		
705	87	74	平安	土師器	皿		旧河道	(18.4)	3.1＋		
706	87	74	平安	土師器	椀		旧河道	(16.0)	2.1＋		
707	87	74	平安	須恵器	椀				1.6＋	7.2	
708	87	74	平安	須恵器	坏Ｂ身				2.2＋	14.2	
709	87	74	古墳	土師器	甕		旧河道	(18.4)	4.7＋		
710	87	74	古墳前	土師器	甕		旧河道	(15.8)	5.7＋		
711	87	74	平安	土師器	甕			(25.6)	4.6＋	7.2	
712	87	74	古墳後	須恵器	甕		旧河道	23.4	10.4＋		

於富Ａ遺跡土器

報告No.	図版	写真図版	時　期	種　別	器　種	出土地区	遺　構　名	口　径	器　高	底径	備　　考
801	89			須恵器	高台付椀				2.6＋	5.3	
802	89			須恵器	平瓶			11.4	8.4＋		
803	89			須恵器	甕			20.6	8.7＋		
804	89			土師器	甕				3.5＋	3.0	
805	89		平安	土師器	鍋	２区		(38.0)	3.8＋		

別表６　木器一覧（１）五反田遺跡第２次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W001	28	24	507	H－２	古代	SW34	その他	横板・杭	205.5	7.5	4.5	スギ・モクレン属
W002	28	24	583	H－２拡	古代	SR31	農具	A類４孔田下駄	46.4	18.5	1.8	スギ
W003	28		101				農具	A類４欠田下駄	44.5	11.2＋	2.1	
W004	28	24	246				建築材	部材	223.5	10.0	1.8	スギ２
W005	29	25	790	F－１	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	50.9	15.9	1.6	
W006	29	25	775	F－１	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	47.0	16.4	1.1	
W007	29	25	760	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	46.1	13.2	1.3	
W008	29	25	313	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	36.5	12.6	2.4	
W009	29	25	213	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	38.6	10.7	1.4	
W010	29		214	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	39.0＋	11.4	2.6	
W011	30		789	F－１	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	37.9	8.1	2.9	
W012	30	27	580	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	39.8	6.6	1.8	スギ
W013	30	26	311	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	44.1	9.1	1.8	スギ
W014	30		793	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	41.4	6.2＋	1.2	
W015	30		337	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	62.7	6.0＋	1.8	
W016	30		343	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	68.6	14.3	1.7	
W017	30		5	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	31.8＋	11.6	1.5	
W018	30		31	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	23.2＋	5.2＋	1.3	
W019	31	26	191	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	36.5	18.7	1.9	
W020	31	26	782	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	27.3	13.5	3.1	
W021	31		314	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	32.8	16.2	2.3	
W022	31		186	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	50.2	16.4＋	2.0	
W023	31	26	185	F－２	古墳	SR42	農具	A類６欠田下駄	48.1	10.4	1.7	スギ
W024	31		188	G－２	古墳	SR42	その他	板材	42.2＋	17.0＋	1.5	スギ
W025	32	25	443	G－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	56.6	17.8	2.1	
W026	32	27	402	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	54.5	12.3	1.8	スギ
W027	32		289	F－２	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	52.7	11.3	1.9	
W028	32		590	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４欠田下駄	49.0	9.0	1.5	
W029	32	27	419	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類２孔田下駄	58.4	18.7	1.8	
W030	33	26	581	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類３欠田下駄	42.2	21.0	2.1	スギ
W031	33	24	796	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４孔田下駄	33.7	17.3	2.1	
W032	33	24	187	G－２	古墳	SR42	農具	A類４孔田下駄	49.5	17.8	1.5	スギ
W033	33	27	787	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４孔田下駄	40.9	24.1	2.0	スギ
W034	33	27	586・777	F－２拡	古墳	SR42	農具	A類４孔田下駄	34.7	24.2	1.6	ヒノキ属
W035	34		425	F－２	古墳	SR42	その他	板材	82.4	16.6	1.8	
W036	34		502	F－２	古墳	SR42	その他	板材	81.6	15.8	1.6	
W037	34		407	G－２	古墳	SR42	その他	板材	55.9	19.9	2.5	
W038	35	28	183	F－２	古墳	SR42	農具	D類足板	54.6＋	8.3	1.0	ヒノキ属
W039	35	28	3	F－２	古墳	SR42	農具	D類方形枠横桟	27.7＋	3.7	1.4	スギ
W040	35	28	330	F－２	古墳	SR42	農具	D類方形枠支柱	61.0＋	6.1	2.6	ヒノキ
W041	35		181	G－２	古墳	SR42	農具	横槌	22.3＋	5.3	5.3	サカキ
W042	35	28	427	G－２	古墳	SR42	農具	一本スキ未成品	83.6＋	15.2	2.4	スギ
W043	36		792	F－２拡	古墳	SR42	容器割物	槽	40.8＋	16.8＋	2.6	スギ
W044	36		556	F－２	古墳	SR42	容器指物	組合せの箱	32.5	4.15＋	0.8	スギ
W045	36	28	99・102	G－２	古墳	SR42	容器指物	組合せの箱	48.8	22.6	2.1	スギ・広葉樹(散孔材)
W046	36		515	G－２	古墳	SR42	運搬具	舟	108.6＋	28.5＋	6.1	スギ
W047	37	29	394	G－２	古墳	SR42	運搬具	天秤棒	143.0	5.5	2.0	スギ
W048	37	29	392	F－２	古墳	SR42	運搬具	天秤棒	157.0	4.0	3.8	スギ
W049	37	29	414	F－２	古墳	SR42	運搬具	天秤棒	63.7＋	5.2	5.0	スギ2
W050	37	29	771	G－２	古墳	SR42	運搬具	天秤棒	46.5＋	3.3	4.4	スギ2
W051	37	29	740	F・G－２	古墳	SR42	運搬具	天秤棒	40.9＋	2.8	3.2	スギ
W052	38	30	205	G－２	古墳	SR42	建築材	部材	354.5	21.5	2.0	スギ
W053	38	30	247	G－２	古墳	SR42	建築材	部材	283.5	10.0	3.3	スギ
W054	38	30	201	F・G－２	古墳	SR42	建築材	部材	305.3	15.0	2.0	スギ
W055	38	30	602	F－２	古墳	SR42	建築材	部材	223.0	11.3	4.5	スギ
W056	38	31	615	F－２拡	古墳	SR42	建築材	部材	162.0	10.0	6.6	スギ
W057	39	31	254	F－２	古墳	SR42	建築材	部材	135.0	12.0	1.3	スギ
W058	39		516	F－２	古墳	SR42	建築材	部材	115.2＋	15.3	2.1	
W059	39		939	F－２拡	古墳	SR42	建築材	部材	96.2＋	16.8	2.1	
W060	39	28	610	F－２	古墳	SR42	建築材	部材	150.0	22.5	3.0	スギ
W061	39	30	617	F－２拡	古墳	SR42	建築材	部材	149.0	6.8	5.0	スギ
W062	40	31	391	G－２	古墳	SR42	建築材	部材	169.2	18.8	1.8	スギ
W063	40	31	616	F－２拡	古墳	SR42	運搬具	舟	135.0	15.2	3.3	スギ
W064	40	32	545・945	G－２・F－２拡	古墳	SR42	建築材	部材	141.9	12.9	2.9	スギ
W065	40	32	385	F－２	古墳	SR42	建築材	部材	133.0	18.8	2.0	スギ
W066	41	32	475	G－２	古墳	SR42	建築材	部材	81.8	24.2	2.4	スギ

別表７　木器一覧（２）五反田遺跡第２次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W067	41	32	919	F－２拡	古墳	ＳＲ42	建築材	部材	65.4	13.1	1.2	スギ
W068	41	32	920	F－２	古墳	ＳＲ42	建築材	部材	76.6	12.2＋	2.1	ヒノキ
W069	42	32	938	F－２拡	古墳	ＳＲ42	建築材	部材	99.0＋	15.0	4.4	ヒノキ
W070	42		788	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	部材	52.6＋	3.5＋	3.0	スギ
W071	42		685	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	孔あきの板	47.6	9.4＋	1.5	スギ
W072	42		370	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	孔あきの板	54.2＋	13.25＋	2.5	
W073	42		109	F－２	古墳	ＳＲ42	農具	Ａ類４欠田下駄	31.8＋	7.1	1.8	スギ
W074	42		783	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	孔あきの板	36.3＋	12.6＋	1.9	
W075	43		456	G－２	古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	163.7＋	3.0	2.3	スギ
W076	43		911	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	107.8	4.0	3.0	スギ
W077	43		907	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	先端加工のある棒	96.5	3.5	3.5	スギ
W078	43		912	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	孔のあいた棒	116.1	3.5	2.6	スギ
W079	43		131	G－２	古墳	ＳＲ42	その他	棒	36.1	1.4	1.2	スギ
W080	43		89	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	棒	40.5＋	1.5	1.5	スギ
W081	43	28	794・795	F－２拡	古墳	ＳＲ42	祭祀具	剣形	48.3＋	3.6	1.1	スギ
W082	43		130	G－２	古墳	ＳＲ42	その他	棒	37.0	3.3	1.8	スギ
W083	43		914	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	67.0＋	6.0	1.4	
W084	43		594	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	46.0＋	6.7	1.3	スギ
W085	43		776	G－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	39.2＋	6.8＋	1.6	
W086	44		904	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	83.2＋	5.8	3.2	スギ
W087	44		403	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	59.0	2.4	3.5	
W088	44		363	F－２	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	60.0＋	7.0＋	3.1	ヒノキ
W089	44		97	G－２	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	44.4	12.7	4.3	スギ
W090	44		946	F－２拡	古墳	ＳＲ42	その他	加工のある板	42.2	6.6	8.1	
W091	45	33	562	A－１	古墳	ＳＤ43	容器	蓋	28.5	21.5	1.3	スギ2
W092	45	33	331	D－１・２	古墳	ＳＤ43	容器指物	組合せの箱	72.2	10.0	2.9	ヒノキ
W093	45	33	693	B－１	古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽棒	42.7	1.6	1.4	スギ
W094	45	33	2	E－２	古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽板	26.6＋	4.0	1.3	スギ
W095	45	33	220	C－１	古墳	ＳＤ43	発火具	火鑽板	36.5＋	3.7	1.7	スギ
W096	45		327	D－２	古墳	ＳＤ43	祭祀具	鳥形の一部か？	28.4＋	5.1	0.4	スギ
W097	45	33	212	C－２	古墳	ＳＤ43	祭祀具	刀形	37.2	3.7	0.7	ヒノキ
W098	45	34	814	D－２	古墳	ＳＤ43	農具	D類方形枠支柱	43.2＋	5.4	3.0	スギ6
W099	45		36	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	D類方形枠支柱	12.5＋	2.9	2.8	スギ
W100	45	34	692	B－１	古墳	ＳＤ43	農具	両端加工のある棒	40.0	2.5	1.6	スギ
W101	46	35	765	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	46.5	13.7	1.7	
W102	46		766	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	35.0	13.4	1.7	
W103	46		752	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	35.4	12.1	1.5	
W104	46		678	D－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	32.4	9.6	1.7	
W105	46		559	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	49.7	12.4	2.2	
W106	46	35	216	C－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	52.1	17.2	1.8	
W107	46	34	530	C－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	55.1	17.2	2.0	ヒノキ属
W108	47		264	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	47.6	15.9	2.3	
W109	47	35	268	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	47.3	12.1	2.0	
W110	47		821	D－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	44.4	16.7＋	2.1	
W111	47		770	D－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	37.5＋	8.1	1.8	
W112	47	35	218	B－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	41.0	14.7	1.5	
W113	47	35	679	C－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	44.1	11.5	2.2	
W114	47		226	C－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	46.9	7.9	1.2	
W115	48	35	290	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	51.2	13.0	1.5	
W116	48	34	735	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	50.7	14.7＋	1.5	
W117	48	34	733	D－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	44.5＋	10.7	1.8	
W118	48	34	365	C－１	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４欠田下駄	61.9	16.6	2.7	
W119	48	36	750	E－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４孔田下駄	37.2	21.4	2.4	スギ
W120	48	36	753・754	D－２	古墳	ＳＤ43	農具	Ａ類４孔田下駄	29.5	14.2＋	1.4	スギ
W121	49		421	B・C－１	古墳	ＳＤ43	その他	板材	79.9	13.1	1.7	
W122	49		441	C－１	古墳	ＳＤ43	その他	板材	83.0	17.0	2.0	
W123	49		424	E－２	古墳	ＳＤ43	その他	板材	84.8	18.6	1.5	
W124	50	36	965	D－２	古墳	ＳＤ43	建築材	部材	262.6	16.0	2.5	スギ
W125	50	36	248	D－２	古墳	ＳＤ43	建築材	部材	243.2	20.0	4.5	ヒノキ属
W126	50	38	544	E－２	古墳	ＳＤ43	建築材	部材	120.5＋	11.5	7.4	スギ
W127	50		517	D－２	古墳	ＳＤ43	建築材	部材	84.8＋	14.1＋	1.6	
W128	50	37	543	E－２	古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	97.0＋	14.6	3.3	スギ
W129	51	37	501	B－１	古墳	ＳＤ43	その他	板材	55.8	15.2	1.8	スギ
W130	51		444	A－１	古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	65.8	14.9	1.6	
W131	51	37	445	A－１	古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	69.3	11.4	1.6	スギ
W132	51	38	267	E－２	古墳	ＳＤ43	その他	孔あきの板	23.4	13.6	1.5	スギ

別表８　木器一覧（３）五反田遺跡第２次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W133	52	37	217	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	49.5	15.0＋	1.8	スギ
W134	52		768	E－2	古墳	SD43	その他	孔あきの板	55.7＋	15.3＋	1.9	スギ
W135	52	37	352	E－2	古墳	SD43	その他	孔あきの板	70.5＋	14.6＋	1.8	スギ
W136	52	37	577	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	36.9	4.8	2.1	スギ
W137	52	37	741	F・G－2	古墳	SD43	その他	孔あきの板	22.6＋	3.6＋	0.8	ヒノキ
W138	52	38	266	A－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	25.1	14.6	4.5	スギ
W139	53		737	E－2	古墳	SD43	その他	加工のある板	43.7＋	11.7＋	1.3	スギ
W140	53		228	C－1	古墳	SD43	その他	加工のある板	53.0	6.3＋	2.4	
W141	53		225	C－1	古墳	SD43	その他	加工のある板	47.0	8.1	4.5	スギ
W142	53		744	E－2	古墳	SD43	その他	孔あきの板	53.3	10.05＋	1.5	スギ
W143	53		761	B－1	古墳	SD43	その他	加工のある板	53.6	8.5＋	1.4	
W144	53	37	687	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	43.3	9.3	1.4	スギ
W145	53		576	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	31.2	6.2	1.0	スギ
W146	53	38	732	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの板	39.8	6.0＋	1.6	
W147	53		690	E－2	古墳	SD43	その他	加工のある板	36.1	6.8＋	2.2	スギ
W148	54	38	428	C－1	古墳	SD43	運搬具	天秤棒	92.7＋	5.3	3.2	スギ
W149	54		901	D－2	古墳	SD43	運搬具	天秤棒	67.1	3.8	2.4	スギ
W150	54	38	359	C－1	古墳	SD43	運搬具	天秤棒	60.8＋	3.6	3.0	ヒノキ属
W151	54	38	355	B－1	古墳	SD43	その他	孔あきの棒	58.3＋	5.4	3.2	スギ
W152	54	38	324	E－2	古墳	SD43	運搬具	天秤棒	46.2＋	4.3	3.8	スギ
W153	54		133	E－2	古墳	SD43	その他	棒	36.2＋	4.1	4.2	
W154	54		159	D－1・2	古墳	SD43	その他	紐掛けのある棒	16.5＋	4.3	4.1	スギ
W155	54		28	E－2	古墳	SD43	その他	棒	25.2＋	1.5	1.5	スギ
W156	54		156	D－1・2	古墳	SD43	その他	先端加工のある棒	27.0＋	2.1	1.2	スギ
W157	55	39	772	D－2	古墳	SD43	雑具	腰掛け	47.2	14.5＋	11.7	スギ
W158	55	39	230	D－2	古墳	SS44	祭祀具	舟形	22.6	2.9＋	1.8	スギ
W159	55	39	816	D－2	古墳	SS44	発火具	火鑽棒	17.0＋	1.8	1.5	ヒノキ属
W160	55	39	546	D－2	古墳	SS44	紡績具	糸車	32.0	2.5	2.0	スギ3
W161	56	39	822	D－2	古墳	SS44	農具	４欠田下駄	45.7	13.7＋	2.1	
W162	56		743	D－2	古墳	SS44	農具	４欠田下駄	41.6	10.0	1.2	
W163	56		219	D－2	古墳	SS44	農具	４欠田下駄	37.6	8.2	1.5	
W164	56		686	C－2	古墳	SS44	農具	４欠田下駄	25.0＋	7.9＋	1.0	
W165	56		223	C－2	古墳	SS44	その他	孔あきの板	22.1＋	10.1	1.5	
W166	56	39	683	C－2	古墳	SS44	建築材	部材	46.4＋	12.4＋	0.9＋	スギ
W167	56		924・927	C－2	古墳	SS44	建築材	部材	127.4	27.6＋	2.1	スギ
W168	57	40	21	F－2	古代	第2・3面	祭祀具	人形	18.7＋	2.0	0.7	スギ
W169	57	40	22	E－2	古代	第2・3面	祭祀具	人形A	10.2＋	1.8	0.3	スギ
W170	57	40	23	E－3	古代	第2・3面	祭祀具	人形	10.8＋	5.6	0.6	スギ
W171	57	40	53	D－2	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	16.2＋	1.6	0.3	スギ
W172	57		57	A－2	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	4.8＋	1.6	0.3	ヒノキ
W173	57		46	D－3	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	10.0＋	2.0	0.6	スギ
W174	57		47	D－3	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	8.9＋	2.5	0.6	スギ
W175	57	40	39	B－2	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	16.9＋	1.4	0.6	スギ
W176	57		867	C－2	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	9.0＋	1.8	0.5	スギ
W177	57		694	F－2	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	13.7	2.5	0.5	スギ
W178	57	40	119	C－3	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	17.2＋	1.7	0.6	スギ
W179	57	40	96	A－1	古代	第2・3面	祭祀具	斎串	22.3	2.0	0.9	スギ
W180	57	40	15	C－3	古代	第2・3面	祭祀具	刀形	13.9＋	1.6	0.4	スギ
W181	57		18	C－1	古代	第2・3面	祭祀具	刀形	11.6	2.5	0.6	スギ
W182	57		107	E－3	古代	第2・3面	祭祀具	刀形	14.1＋	4.9	0.8	スギ
W183	57	40	64	B－2	古代	第2・3面	祭祀具	馬形A	7.1＋	2.3	0.3	スギ
W184	57	40	20	B－2	古代	第2・3面	祭祀具	馬形B	14.1	2.9	0.7	スギ
W185	57	40	138	B－2	古代	第2・3面	祭祀具	馬形B	25.7＋	4.9	1.1	スギ
W186	57	42	10	B－3	古代	第2・3面	容器	楕円形曲物	26.5	9.7	0.9	ヒノキ属
W187	57	42	11	A－2	古代	第2・3面	容器	曲物	復12.7	9.4	7.5	スギ
W188	57		12	A－2	古代	第2・3面	容器	曲物	11.5＋	2.9	0.5	
W189	57	42	139	B－2	古代	第2・3面	容器指物	組合せ箱	31.1＋	4.3	1.4	スギ
W190	57	42	140	D－3	古代	第2・3面	容器指物	組合せ箱	34.7	6.0	1.5	ヒノキ属
W191	58	41	8	C－1	古代	第2・3面	農具	C類台状枠歯	28.5＋	14.3	2.5	スギ
W192	58	41	94	B－2	古代	第2・3面	農具	C類台状枠歯	37.8	12.4＋	2.4	スギ
W193	58	41	9	F－2	古代	第2・3面	農具	C類足板	27.9＋	6.3	1.1	ヒノキ属
W194	58		145	C－3	古代	第2・3面	農具	C類支軸	20.0＋	2.0	2.2	
W195	58	41	32	A－3	古代	第2・3面	農具	C類支軸	28.3＋	2.7	2.4	スギ
W196	58		179	B－2	古代	第2・3面	農具	C類支軸	38.8＋	2.4	2.5	スギ
W197	58		60	B－3	古代	第2・3面	農具	C類支軸	17.8＋	2.1	1.2	スギ
W198	58	41	1	E－3	古代	第2・3面	農具	D類方形枠横桟	28.9＋	2.2	1.9	スギ

別表９　木器一覧（４）五反田遺跡第２次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W199	58		113	B－3	古代	第2・3面	農具	D類方形枠横桟	20.6＋	3.5	2.2	スギ
W200	58		78	F－3	古代	第2・3面	農具	D類方形枠支柱	20.6＋	3.7＋	2.1	スギ
W201	58		19	C－3	古代	第2・3面	その他	孔あきの棒	18.8＋	3.0	1.5	スギ
W202	58		4	A－1	古代	第2・3面	農具	D類方形枠支柱	19.6＋	3.1	2.8	スギ2
W203	58	41	542	A－3	古代	第2・3面	農具	D類方形枠支柱	89.5＋	3.9	3.6	スギ
W204	59	41	141	D－3	古代	第2・3面	農具	A類4欠田下駄	45.4	11.3＋	2.2	
W205	59		170	D－3	古代	第2・3面	農具	A類4欠田下駄	37.7＋	7.8＋	1.7	
W206	59		26	D－3	古代	第2・3面	農具	A類4欠田下駄	31.3＋	6.0	1.2	
W207	59		528	A－2	古代	第2・3面	農具	A類4欠田下駄	64.6	7.4＋	2.0	
W208	59	42	6	B－3	古代	第2・3面	発火具	火鑽板	31.9＋	3.8	1.5	スギ
W209	59	42	124	A－3	古代	第2・3面	その他	孔あきの板	36.1＋	8.6	1.5	スギ
W210	59		98	A－3	古代	第2・3面	その他	孔あきの板	49.3	11.6	1.3	スギ
W211	59	42	519	A－3	古代	第2・3面	その他	加工のある板	62.4＋	8.9＋	2.2	
W212	59		13	C－1	古代	第2・3面	その他	孔あきの板	19.6＋	6.4	1.3	
W213	59	42	16	B－1	古代	第2・3面	その他	孔あきの棒	15.7	2.0	1.3	スギ
W214	59	42	17	A－2	古代	第2・3面	その他	部材	11.7＋	10.9	1.0	ヒノキ
W215	60	42	100	A－3	古代	第2・3面	建築材	梯子	44.2＋	16.4	5.8＋	スギ
W216	60		526	E	古代	第2・3面	その他	加工のある板	62.7＋	7.7	1.6	スギ
W217	60		171	D－3	古代	第2・3面	その他	加工のある板	35.1＋	5.2	2.0	
W218	60		14	A－2	古代	第2・3面	その他	加工のある棒	28.4	1.9	2.6	
W219	60	42	7	D－3	古代	第2・3面	その他	紐掛けのある棒	23.5＋	2.5	2.5	スギ
W220	60		120	B－2	古代	第2・3面	その他	棒	25.3＋	2.8	1.3	スギ
W221	60		903	B－2	古代	第2・3面	その他	杭	85.1	15.4	5.4	スギ
W222	60		923	B－2	古代	第2・3面	その他	杭	103.9	14.5	5.3	スギ
W223	61		366	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	60.4	13.1	1.6	
W224	61	44	344	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	59.4	14.8	1.6	
W225	61	43	533	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	64.9	12.7	2.1	
W226	61		369	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	62.8	11.4＋	1.3	
W227	62		193	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	47.5	10.7	1.9	
W228	62		273	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	46.1	11.7	2.4	
W229	62		192	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	49.3	12.6	1.6	
W230	62	43	174	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	48.8	12.4	1.9	
W231	62	43	333	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	54.3	11.7	1.1	スギ
W232	62	43	506	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	58.7	9.8	2.2	
W233	63	43	105	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	45.2	13.0＋	3.0	
W234	63	44	681	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	50.2	14.0	2.3	
W235	63	43	812	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	52.1	8.2	1.6	スギ
W236	63	43	809	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	50.9＋	8.9	1.7	
W237	63		742	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	52.0	18.7	3.6	
W238	63	44	534	H－2	古墳	第4面A	農具	A類2孔田下駄	58.9	10.2	1.5	スギ
W239	64		797	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	22.8＋	9.4＋	1.5	
W240	64		69	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	23.9＋	7.1＋	1.5	
W241	64		682	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	32.5＋	8.6	1.6	
W242	64		112	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	37.5	9.7＋	1.5	
W243	64	44	680	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	46.9	14.2	2.2	スギ
W244	64	43	95	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	49.1	8.9	2.0	スギ
W245	64		813	G－2	古墳	第4面A	農具	A類4欠田下駄	37.9＋	8.3＋	1.8	
W246	64	44	306	H－2	古墳	第4面A	農具	C類足板	35.1	10.6	1.5	ヒノキ属
W247	64		67	H－2	古墳	第4面A	農具	A類4孔田下駄	29.4＋	5.4＋	1.1	
W248	64	44	71	H－2	古墳	第4面A	農具	穂摘具	19.9＋	7.9＋	1.0	コナラ属アカガシ亜属
W249	65	45	194	H－2	古墳	第4面A	容器割物	盤	36.2＋	16.9＋	3.2	スギ
W250	65	45	103	H－2	古墳	第4面A	容器割物	槽	32.8	11.6＋	2.2	スギ
W251	65	45	422	I－2	古墳	第4面A	容器割物	槽	51.7	20.6＋	9.4	スギ
W252	66	45	400	G－2	古墳	第4面A	容器指物	組合せの箱	65.1＋	11.8	1.6	ヒノキ属
W253	66		458	H－2	古墳	第4面A	その他	加工のある板	73.0	18.0＋	1.8	
W254	66	45	396	G－2	古墳	第4面A	その他	孔あきの板	88.8	27.8＋	2.8	
W255	67	46	249	G－2	古墳	第4面A	建築材	部材	331.5	16.5	2.3	スギ
W256	67	46	202	H－2	古墳	第4面A	その他	加工のある棒	259.5	7.0	4.0	スギ
W257	67	46	384	G－2	古墳	第4面A	その他	部材	197.5	14.5	8.0	スギ
W258	67	46	245	I－2	古墳	第4面A	その他	部材	173.0	13.0	6.0	スギ
W259	67	46	387	G－2	古墳	第4面A	建築材	部材	149.0	16.4	3.9	スギ
W260	68	47	405	I－2	古墳	第4面A	その他	孔あきの板	84.0	12.3＋	1.4＋	
W261	68		342		古墳	第4面A	その他	孔あきの板	55.8	12.2	1.5	
W262	68	47	349	H－2	古墳	第4面A	その他	孔あきの板	56.5	9.6	2.2	スギ
W263	68	47	345	I－2	古墳	第4面A	その他	孔あきの板	66.6＋	14.6＋	1.8	スギ
W264	69		173	H－2	古墳	第4面A	その他	孔あきの板	38.0＋	11.8＋	1.2	スギ

別表10　木器一覧（５）五反田遺跡第２次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W265	69	47	684	H－2	古墳	第４面A	その他	孔あきの板	44.3	13.0	1.0	スギ
W266	69	47	243	G－2	古墳	第４面A	その他	孔あきの板	41.0	7.7＋	2.1	
W267	69		497	G－2	古墳	第４面A	建築材	部材	110＋	18.1	6.1	
W268	69		189	G－2	古墳	第４面A	その他	孔あきの板	41.2＋	11.4＋	1.8	
W269	69	47	93	H－2	古墳	第４面A	その他	孔あきの板	49.3	8.0	1.5	スギ
W270	69		468	G・H－2	古墳	第４面A	その他	抉りのある板	55.5	3.0	1.2	
W271	69		462	G－2	古墳	第４面A	建築材	部材	81.0＋	3.7＋	5.2	
W272	70		460	G－2	古墳	第４面A	その他	棒	125.2＋	2.0	2.1	スギ
W273	70	47	432	G－2	古墳	第４面A	建築材	垂木	115.8＋	5.2	6.5	スギ
W274	70		527	H－2・3	古墳	第４面A	その他	紐掛けのある棒	68.2	3.3	2.3	スギ
W275	70		529	H－2	古墳	第４面A	その他	紐掛けのある棒	68.1＋	4.5	4.4	
W276	70		362	H－2	古墳	第４面A	その他	先端の尖った棒	58.5＋	2.1	1.9	スギ
W277	70	47	811	G－2	古墳	第４面A	その他	曲がった棒	45.4	2.6	2.6	スギ
W278	70		810	G－2	古墳	第４面A	その他	棒	41.8＋	2.0	2.0	スギ
W279	70		900	I－2	古墳	第４面A	農具	C類台状枠歯	26.0＋	3.7＋	2.4	スギ
W280	70		150	H－2	古墳	第４面A	その他	紐掛けのある棒	3.7＋	3.3	1.9	
W281	70		757	H－2	古墳	第４面A	その他	加工のある板	33.2＋	4.8＋	1.5	スギ
W282	70	47	92	H－2	古墳	第４面A	食事具	笊	42.4	3.3	1.3	スギ
W283	71	50	582	F－2拡	古墳	第４面B	農具	A類４欠田下駄	38.7	12.3	2.2	
W284	71		587	E－1拡	古墳	第４面B	農具	A類４欠田下駄	43.4	12.7	2.2	
W285	71		184	F－2	古墳	第４面B	農具	A類４欠田下駄	41.2	8.1	2.0	
W286	71	50	364	F－2	古墳	第４面B	農具	A類４欠田下駄	57.0	8.9	2.0	
W287	71		651	F－2	古墳	第４面B	その他	杭	83.2＋	11.1	5.0	スギ
W288	72	48	415	E－2	古墳	第４面B	運搬具	天秤棒	79.6＋	5.0	4.3	スギ2
W289	72	48	584	E－2拡	古墳	第４面B	運搬具	天秤棒	47.3＋	4.0	3.3	スギ
W290	72		232	F－2	古墳	第４面B	農具	D類方形枠横桟	25.7＋	2.5	1.6	スギ
W291	72	48	433	F－2	古墳	第４面B	その他	紐掛けのある棒	98.4	4.3	3.0	
W292	72		434	F－2	古墳	第４面B	その他	孔あきの棒	101.0＋	5.8	4.5	
W293	72	50	182	E－2	古墳	第４面B	その他	孔あきの板	26.3	23.4	2.5	スギ
W294	73	49	203	F－2	古墳	第４面B	建築材	部材	301.6	30.8	3.5	スギ
W295	73	49	382	F－2	古墳	第４面B	建築材	部材	141.5	7.6	1.5	スギ
W296	73	49	508	F－2	古墳	第４面B	建築材	部材	125.5	10.1	1.8	スギ
W297	73	49	452	E－2	古墳	第４面B	建築材	部材	104.5＋	9.8	2.4	スギ
W298	73	48	447	F－2	古墳	第４面B	建築材	部材	119.2＋	16.4	2.4	スギ
W299	73	48	431	F－2	古墳	第４面B	農具	編台の目盛り板	105.5＋	10.4	2.0	スギ
W300	74	50	547	C－3	古墳	第４面C	祭祀具	刀形	17.7＋	3.6	1.0	スギ
W301	74		231	D－3	古墳	第４面C	祭祀具	鳥形か？	33.9	4.7＋	0.8	スギ
W302	74	50	153	C－2	古墳	第４面C	その他	棒	9.5	2.9	2.0	スギ
W303	74		149	D－2	古墳	第４面C	その他	棒	19.9	3.6	1.6	
W304	74		152	D－3	古墳	第４面C	その他	先端の尖った棒	26.6＋	4.1	3.4	
W305	74	50	147	C－2	古墳	第４面C	刳物	把手？	19.9＋	3.2	3.9	スギ
W306	74		292	C－2	古墳	第４面C	その他	加工のある板	25.7	12.2	2.7	
W307	74		408	B－2・3	古墳	第４面C	農具	A類４欠田下駄	68.8	15.3	2.3	

五反田遺跡第３次

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W401	85	69	1009	5区	古墳	SK3	その他	紐掛けのある棒	39.6＋	3.0	2.6	スギ
W402	85	69	1019	5区	古墳	SK3	その他	紐掛けのある棒	16.5＋	2.1	1.5	スギ
W403	85	68	1010	5区	古墳	SK3	その他	接着されている棒	19.3＋	2.3	1.9	スギ・イネ科タケ亜科
W404	85	68	1007	5区	古墳	SK3	祭祀具	舟形	42.9	5.7	2.3	スギ
W405	85		1017	5区	古墳	SK3	祭祀具	舟形	9.2＋	復5.2	1.7＋	スギ
W406	85	69	1052	5区	古墳	SD2	農具	D類方形枠支柱	21.6＋	4.3	3.0	スギ4
W407	85		1014	5区	古墳	SD1	その他	孔あきの板	16.0＋	5.5	2.1	スギ
W408	85	69	1020	F4		B地区	発火具	火鑽板	35.0＋	3.7	1.4	スギ
W409	85		1006	9区	古墳	C地区	祭祀具	刀形	14.4＋	2.2	0.6	スギ
W410	85	69	1003	9区	古代	C地区	容器	曲物（蓋）	径16.8		0.8	スギ
W411	85		1004	9区	古代	C地区	容器	木皿	径16.8		1.3	スギ
W412	85		1018	12区		D地区	その他	孔あきの棒	19.4	3.2	2.8	スギ
W413	85	69	1001	9区	古墳	C地区	農具	A類４欠田下駄	65.0	17.6	1.8	
W414	86		1002	9区	古墳	C地区	その他	孔あきの板	108.2	17.0＋	2.2	

平畑遺跡

報告No.	図版No.	写真図版	No.	地　区	時期	遺構番号	種　別	器　種	長　さ	幅	厚さ	樹　種
W501	86	72				包含層	農具	A類４欠田下駄	43.8	10.3＋	1.4	スギ

別表11　杭一覧（1）五反田遺跡第2次

遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
SW23	01	2.87	7×3×2		広葉樹	割材	加工	825	D－2	
SW23	02	2.86	11×4×4	クリ	広葉樹	割材	加工	826	D－2	
SW23	03	2.92	21×6×6	クリ	広葉樹	丸太	加工	827	D－2	
SW23	04	2.88	6×2×1		広葉樹	割材	加工	828	D－2	
SW23	05	2.94	19×5×5		広葉樹	割材	加工	829	D－2	
SW23	06	3.18	60×9×7		広葉樹	割材		830	D－3	
SW23	07	2.98	13×6×5		広葉樹	割材	加工	831	D－3	
SW23	08	3.06	40×5×5		広葉樹	丸太	加工	832	D－3	
SW23	09	3.14	57×7×7		広葉樹	丸太	加工	833	D－3	
SW23	10	2.90	18×4×4		広葉樹	割材	加工	700	D－3	
SW23	11	3.16	25×8×8		広葉樹	丸太		834	D－3	
SW23	12	3.22	58×9×7		広葉樹	丸太	加工	835	D－3	
SW23	13	3.17	18×6×3		広葉樹	割材	加工	836	D－3	
SW23	14	3.19	51×8×6		広葉樹	割材	加工	701	D－3	横木と組み合わせ
SW23	15	3.01	13×4×3		広葉樹	割材		837	D－3	
SW23	16	3.21	56×9×7	クリ	広葉樹	割材	加工	838	D－3	
SW23	17	3.14	52×8×7		広葉樹	割材	加工	702	D－3	
SW33	01	2.04			広葉樹	割材			H－2	
SW33	02				広葉樹	丸太			H－2	
SW33	03	2.03			広葉樹	丸太			H－2	
SW33	04	2.07			広葉樹	丸太			H－2	
SW33	05	2.03			広葉樹	丸太			H－2	
SW33	06				広葉樹	丸太			H－2	
SW33	07	2.04			広葉樹	丸太			H－2	
SW33	08				広葉樹	丸太			H－2	
SW33	09				広葉樹	割材			H－2	
SW33	10	2.07			広葉樹	丸太			H－2	
SW33	11	2.04			広葉樹	割材			H－2	
SW33	12	2.04			広葉樹	丸太			G－2	
SW33	13	2.05			広葉樹	丸太			G－2	
SW33	14	2.01			広葉樹	割材			G－2	
SW33	15	2.08			広葉樹	丸太			G－2	
SW33	16	2.04			広葉樹	割材			G－2	
SW33	17	2.07			広葉樹	割材			G－2	
SW33	18	2.03			広葉樹	割材			G－2	
SW33	19	2.09			広葉樹	丸太			G－2	
SW33	20	2.09			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	21	2.06			広葉樹	割材			G－2	
SW33	22	2.16			広葉樹	割材			G－1	
SW33	23	2.15			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	24	2.13			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	25	2.19			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	26	2.13			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	27	2.09			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	28	2.05			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	29	1.97			針葉樹	丸太			G－2	
SW33	30				広葉樹	割材			G－2	
SW33	31	2.13			針葉樹	割材			G－1	
SW33	32	2.11			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	33	2.19			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	34	2.17			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	35	2.06			針葉樹	割材			G－1	
SW33	36	2.07			広葉樹	丸太			G－1	
SW33	37	2.17			広葉樹	丸太			G－1	
SW34	01	2.39	86×5×5		広葉樹	割材	加工	854	I－2	
SW34	02	2.34		トネリコ属	広葉樹	丸太	加工	890	H－2	
SW34	02	2.27	80×6×6		広葉樹	割材	加工	697	H－2	
SW34	04	2.40	62×8×7		広葉樹	割材	加工	698	H－2	
SW34	05	2.42	85×9×7		広葉樹	割材	加工	699	H－2	
SW34	06	2.22	23×8×8		広葉樹	割材	加工	806	I－2	
SW34	07	2.44	89×7×6		広葉樹	丸太	加工	887	H－2	

別表12　杭一覧（２）五反田遺跡第２次

遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
ＳＷ34	09	2.46	96×８×７		広葉樹	割材	加工	798	Ｈ－２	
ＳＷ34	10	2.17	14×５×３		広葉樹	丸太		891	Ｈ－２	横板と組み合わせ
ＳＷ34	11	2.29	83×７×７	カバノキ属	広葉樹	丸太	加工	799	Ｈ－２	
ＳＷ34	12	2.14	32×６×４		広葉樹	丸太	加工	888	Ｈ－２	
ＳＷ34	13	2.26	62×７×７		広葉樹	丸太	加工	800	Ｈ－２	横木と組み合わせ
ＳＷ34	14	2.16	23×７×６		広葉樹	丸太	加工	889	Ｈ－２	
ＳＷ34	15	2.48	105×７×７		広葉樹	丸太	加工	671	Ｈ－２	
ＳＷ34	16	2.05	45×６×６	モクレン属	広葉樹	割材	加工	807	Ｉ－２	
ＳＷ34・35	08	2.30								横板と組み合わせ
ＳＷ35	01	2.50	40×５×５	クリ	広葉樹	丸太	加工	896	Ｈ－２	
ＳＷ35	02	2.70	52×６×３		針葉樹	割材		897	Ｈ－２	
ＳＷ35	03	2.60	32×７×７	コナラ属コナラ亜属コナラ節	広葉樹	丸太		895	Ｈ－２	
ＳＷ35	04	2.59	20×３×３		広葉樹	丸太		898	Ｈ－２	
ＳＷ35	05	2.58	23×５×５		広葉樹	丸太	加工	804	Ｈ－２	
ＳＷ35	06	2.70	45×８×８		広葉樹	丸太		892	Ｈ－２	
ＳＷ35	07	2.68								
ＳＷ35	09	2.50	41×６×６	コナラ属コナラ亜属コナラ節	広葉樹	丸太		894	Ｈ－２	
ＳＷ35	10	2.50	27×３×３		広葉樹	丸太	加工	893	Ｈ－２	
ＳＷ35	11	2.50	12×６×４		広葉樹	丸太		803	Ｈ－２	
ＳＷ35	12	2.53	51×５×３		広葉樹	割材	加工	802	Ｈ－２	
ＳＷ35	13	2.52	57×６×３		広葉樹	割材	加工	801	Ｈ－２	
ＳＷ35	14	2.43	45×４×４		広葉樹	割材	加工	805	Ｈ－２	
ＳＷ36	01	2.42	32×11×10	ハンノキ属ハンノキ亜属	広葉樹	丸太		855	Ｈ－２	
ＳＷ36	02	2.36	26×５×１		針葉樹	割材		856	Ｈ－２	
ＳＷ36	03	2.39	40×３×３		針葉樹	割材		857	Ｈ－２	
ＳＷ36	04	2.35	22×４×３		針葉樹	割材		858	Ｈ－２	
ＳＷ36	05	2.39	36×６×４	クリ	広葉樹	丸太	加工	859	Ｈ－２	
ＳＷ36	06	2.42	30×４×３		針葉樹	割材	加工	860	Ｈ－２	
ＳＷ36	07	2.32	36×４×２		針葉樹	割材	加工	861	Ｈ－２	
ＳＷ36	08	2.36	18×８×７	ハンノキ属ハンノキ亜属	広葉樹	丸太		862	Ｈ－２	
ＳＷ37	01	2.14	30×３×３		針葉樹	割材		708	Ｇ－２	
ＳＷ37	02	2.36	30×３×３		針葉樹	割材		707	Ｇ－２	
ＳＷ37	03	2.25	58×３×３		針葉樹	割材		706	Ｇ－２	
ＳＷ37	04	2.18	64×６×３		針葉樹	割材		655	Ｇ－２	
ＳＷ37	05	2.38	37×４×１		針葉樹	割材		705	Ｇ－２	
ＳＷ37	06	2.37	60×３×１		針葉樹	割材		704	Ｇ－２	
ＳＷ37	07	2.42	96×６×５		針葉樹	割材	加工	654	Ｇ－２	
ＳＷ37	08	2.14	71×３×３		針葉樹	割材		653	Ｇ－２	
ＳＷ37	09	2.02	56×４×３		針葉樹	割材		703	Ｇ－２	
ＳＷ37	10	2.24	50×５×１		針葉樹	割材		848	Ｆ－２	
ＳＷ37	11	2.56	91×６×５		針葉樹	転用		645	Ｆ－２	
ＳＷ37	12	2.38	125×５×３		針葉樹	割材		644	Ｆ－２	
ＳＷ37	13	2.44	80×６×３		針葉樹	割材		643	Ｆ－２	
ＳＷ37	14	2.56	91×８×６		針葉樹	割材		642	Ｆ－２	
ＳＷ37	15	2.36	60×３×１		針葉樹	割材		847	Ｆ－２	
ＳＷ37	16	2.56	76×４×２		針葉樹	割材	加工	641	Ｆ－２	
ＳＷ37	17	2.36	17×５×２		針葉樹	割材		850	Ｆ－２	
ＳＷ37	18	2.56	64×５×２		針葉樹	割材		649	Ｆ－２	
ＳＷ37	19	2.64	70×６×３		針葉樹	割材	加工	650	Ｆ－２	
ＳＷ37	20	2.29	48×８×５	トネリコ属	広葉樹	丸太		842	Ｆ－２	こげ
ＳＷ37	21	2.66	83×11×５		針葉樹	割材	加工	651	Ｆ－２	
ＳＷ37	22	2.52	62×４×２		針葉樹	割材		839	Ｆ－２	
ＳＷ37	23	2.44	30×５×２		針葉樹	割材		840	Ｆ－２	
ＳＷ37	24	2.38	38×４×１		針葉樹	割材		849	Ｆ－２	
ＳＷ37	25	2.44	52×４×２		針葉樹	割材		841	Ｆ－２	
ＳＷ37	26	2.74	90×10×６		針葉樹	割材	加工	652	Ｆ－２	
ＳＷ37	27	2.39	30×３×１		針葉樹	割材		734	Ｆ－２	
ＳＷ37	28	2.53	68×５×３		針葉樹	割材		664	Ｆ－２	
ＳＷ37	29	2.58	66×６×３		針葉樹	割材	加工	663	Ｆ－２	
ＳＷ37	30	2.56	70×５×４		針葉樹	割材		662	Ｆ－２	
ＳＷ37	31	2.50	44×６×５		針葉樹	割材		712	Ｆ－２	

別表13　杭一覧（３）五反田遺跡第２次

遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
ＳＷ37	32	2.56	60×５×５		針葉樹	割材	加工	661	Ｆ－２	
ＳＷ37	33	2.60	77×５×２		針葉樹	割材	加工	823	Ｆ－２	
ＳＷ37	34	2.43	36×８×７		針葉樹	割材		710	Ｆ－２	
ＳＷ37	35	2.65	84×６×３		針葉樹	割材		711	Ｆ－２	
ＳＷ37	36	2.58	61×６×２		針葉樹	割材	加工	660	Ｆ－２	
ＳＷ37	37	2.71	71×５×３		針葉樹	割材		659	Ｆ－２	
ＳＷ37	38	2.69	69×４×３		針葉樹	割材		658	Ｆ－２	
ＳＷ37	39	2.64	75×４×３		針葉樹	割材	加工	657	Ｅ－２	
ＳＷ37	40	2.28	38×３×３		針葉樹	割材		853	Ｅ－２	
ＳＷ37	41	2.22	39×７×６		広葉樹	丸太	加工	709	Ｅ－２	
ＳＷ37	42	2.36	57×５×２		針葉樹	割材	加工	852	Ｅ－２	
ＳＷ37	43	2.48	62×４×３	スギ	針葉樹	割材		851	Ｅ－２	
ＳＷ37	44	2.42	50×１×４		針葉樹	割材		844	Ｅ－２	
ＳＷ37	45	2.50	59×３×２		針葉樹	割材		656	Ｅ－２	
ＳＷ37	46	2.43	30×３×２	クリ	広葉樹	割材		843	Ｅ－２	
ＳＷ38	01	2.68	90×６×５		針葉樹	割材	加工	634	Ｆ－２	
ＳＷ38	02	2.58	84×９×５		針葉樹	割材	加工	635	Ｆ－２	
ＳＷ38	03	2.52	88×６×４		針葉樹	割材		636	Ｆ－２	
ＳＷ38	04	2.52	100×７×４		針葉樹	割材	加工	637	Ｆ－２	
ＳＷ38	05	2.17	43×６×１		針葉樹	割材		846	Ｆ－２	
ＳＷ38	06	2.28	92×５×３		針葉樹	割材		638	Ｆ－２	
ＳＷ38	07	2.46	130×５×４		針葉樹	割材	加工	639	Ｆ－２	
ＳＷ38	08	2.39	74×４×４		針葉樹	割材		640	Ｆ－２	
ＳＷ38	09	1.87	66×６×４	スギ	針葉樹	割材	加工	947	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	10	1.96	62×５×３					937	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	11	2.28	82×５×３		針葉樹	割材		949	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	12	2.35	110×６×５		針葉樹	割材		954	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	13	2.29	100×５×３		針葉樹	割材		952	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	14	1.99	22×３×２					933	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	15	2.10	72×４×３		針葉樹	割材	加工	951	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	16	2.26	70×５×４	スギ	針葉樹	割材		948	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	17	2.35	115×５×２		針葉樹	割材		950	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	18	2.52	123×６×４		針葉樹	割材		959	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	19	2.42	97×３×３		針葉樹	割材	加工	953	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	20	1.90	70×３×３					936	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	21	2.43	102×４×２		針葉樹	割材	加工	960	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	22	2.47							Ｆ－２拡	
ＳＷ38	23	2.37	52×３×２		針葉樹	割材		958	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	24	2.47	95×６×２		針葉樹	割材		957	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	25	2.39	86×４×３		針葉樹	割材		956	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	26	2.31	77×８×４		広葉樹			934	Ｆ－２拡	
ＳＷ38	27	2.50	101×５×３		針葉樹	割材	加工	955	Ｆ－２拡	
ＳＷ45	01	2.16	36×６×６		針葉樹	割材		873	Ｄ－２	
ＳＷ45	02	2.39	35×６×３		針葉樹	割材	加工	868	Ｄ－２	
ＳＷ45	03	2.26	70×６×５		針葉樹	割材		646	Ｄ－２	
ＳＷ45	04	2.36	37×５×５		針葉樹	割材		874	Ｄ－２	
ＳＷ45	05									
ＳＷ45	06	2.23	37×６×２		針葉樹	割材		869	Ｄ－２	
ＳＷ45	07									
ＳＷ45	08	2.31	46×３×２		針葉樹	割材		875	Ｄ－２	
ＳＷ45	09									
ＳＷ45	10	2.24	42×６×４		針葉樹	割材		870	Ｄ－２	
ＳＷ45	11									
ＳＷ45	12	2.16	36×６×６		広葉樹	割材	加工	883	Ｃ－２	
ＳＷ45	13		65×６×３		針葉樹	割材		630	Ｄ－２	
ＳＷ45	14									
ＳＷ45	15	2.70	105×７×６		針葉樹	割材	加工	672	Ｃ－２	こげ
ＳＷ45	16	2.33	56×４×２		針葉樹	割材	加工	648	Ｃ－２	こげ
ＳＷ45	17	2.70	85×７×６		針葉樹	割材	加工	667	Ｃ－２	
ＳＷ45	18									
ＳＷ45	19									

別表14　杭一覧（４）五反田遺跡第２次

遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
ＳＷ45	20	2.64	100×10×５		針葉樹	割材	加工	673	Ｃ－２	
ＳＷ45	21									
ＳＷ45	22	2.56	110×７×５		針葉樹	割材	加工	674	Ｃ－２	
ＳＷ45	23									
ＳＷ45	24									
ＳＷ45	25	2.63	88×５×５		針葉樹	割材		675	Ｃ－２	
ＳＷ45	26	2.29	50×11×７		針葉樹	板材	加工	884	Ｃ－２	
ＳＷ45	27	2.26	38×９×４		針葉樹	板材		885	Ｃ－２	
ＳＷ45	28	2.28	65×６×４		広葉樹	割材	加工	882	Ｃ－２	
ＳＷ45	29	2.19	30×７×２		針葉樹	割材		886	Ｃ－２	
ＳＷ45	30	2.50	70×７×３		針葉樹	割材	加工	631	Ｃ－２	
ＳＷ45	31	2.26	44×７×３		針葉樹	割材		876	Ｄ－２	
ＳＷ45	32									
ＳＷ45	33									
ＳＷ45	34	2.52	80×６×４		針葉樹	割材	加工	632	Ｃ－２	
ＳＷ45	35	2.24	40×８×８	クリ	広葉樹	割材		877	Ｄ－２	
ＳＷ45	36	2.52	73×７×３		針葉樹	割材	加工	647	Ｃ－２	
ＳＷ45	37	2.24	50×６×５		広葉樹	割材	加工	878	Ｃ－２	
ＳＷ45	38	2.56	70×７×６		針葉樹	割材	加工	668	Ｃ－１	こげ
ＳＷ45	39	2.22	23×３×２		針葉樹	割材		879	Ｃ－２	
ＳＷ45	40	2.26	34×５×２		針葉樹	割材		880	Ｃ－２	
ＳＷ45	41									
ＳＷ45	42	2.22	42×６×４		広葉樹	割材		727	Ｃ－２	
ＳＷ45	43	2.50	102×７×６		針葉樹	割材	加工	872	Ｃ－１	
ＳＷ45	44	2.19	25×５×２		針葉樹	割材		881	Ｃ－２	
ＳＷ45	45	2.10	46×10×７		広葉樹	割材		728	Ｃ－２	
ＳＷ45	46									
ＳＷ45	47		61×４×３	クリ	広葉樹	割材	加工	696	Ｃ－１	
ＳＷ45	48	2.16	30×５×３		針葉樹	割材	加工	722	Ｃ－１	
ＳＷ45	49	2.12	26×７×７	ナツツバキ属	広葉樹	丸太	加工	729	Ｃ－２	
ＳＷ45	50	2.12	51×６×５	クリ	広葉樹	割材	加工	723	Ｃ－１	
ＳＷ45	51	2.56	106×８×５		針葉樹	割材	加工	676	Ｃ－１	
ＳＷ45	52	2.36	42×６×２		針葉樹	割材		871	Ｃ－２	
ＳＷ45	53	2.41	60×５×３		針葉樹	割材	加工	633	Ｃ－２	
ＳＷ45	54	2.54	112×８×５		針葉樹	割材	加工	677	Ｃ－１	
ＳＷ45	55	2.00	42×８×５		広葉樹	割材	加工	724	Ｂ－１	
ＳＷ45	56	2.62	108×６×３		針葉樹	割材	加工	670	Ｂ－１	
ＳＷ45	57	2.18	38×５×４		針葉樹	割材		725	Ｂ－１	
ＳＷ45	58	2.06	32×６×５		針葉樹	割材		726	Ｂ－１	
ＳＷ46	01	2.49						643		
ＳＷ46	02	2.49						644		
ＳＷ46	03	2.35						645		
ＳＷ46	04	2.26						649		
ＳＷ46	05	2.56						650		
ＳＷ46	06	2.54						651		
ＳＷ46	07	2.50						652		
ＳＷ46	08	2.36						703		
ＳＷ46	09	2.30						653		
ＳＷ46	10	2.28						654		
ＳＷ46	11	2.37						704		
ＳＷ46	12	2.31						705		
ＳＷ46	13	2.24						655		
ＳＷ46	14	2.30						706		
ＳＷ46	15	2.25						707		
ＳＷ46	16	2.25						708		
ＳＷ46	17	2.38						656		
ＳＷ46	18	2.25						709		
ＳＷ46	19	2.35						657		
ＳＷ46	20	2.26						658		
ＳＷ46	21	2.58						659		
ＳＷ46	22	2.24						660		

別表15　杭一覧（５）五反田遺跡第２次

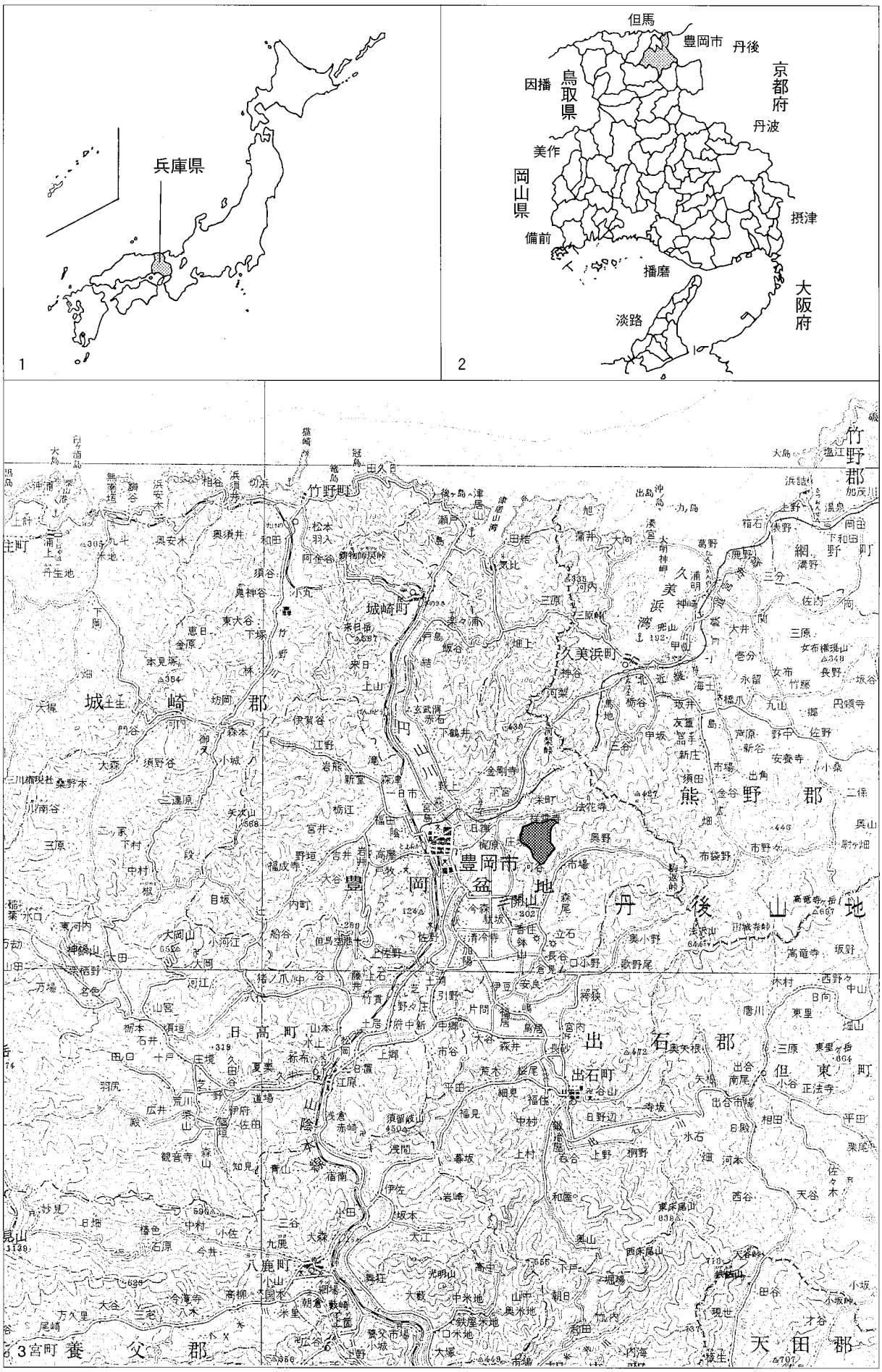
遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
ＳＷ46	23	2.28						711		
ＳＷ46	24	2.29						710		
ＳＷ46	25	2.29						661		
ＳＷ46	26	2.24								
ＳＷ46	27	2.22								
ＳＷ46	28	2.34								
ＳＷ46	29	2.35								
ＳＷ46	30	2.42								
ＳＷ46	31	2.41								
ＳＷ46	32	2.28								
ＳＷ46	33	2.25								
ＳＷ46	34	2.19								
ＳＷ46	35	2.21								
ＳＷ46	36	2.26								
ＳＷ46	37	2.43								
ＳＷ46	38	2.25								
ＳＷ46	39	2.43								
ＳＷ46	40	2.21								
ＳＷ46	41	2.17								
ＳＷ46	42	2.28								
ＳＷ46	43	2.21								
ＳＷ46	44	2.20								
ＳＷ46	45	2.27								
ＳＷ46	46	2.10								
ＳＷ46	47									
ＳＷ46	48	2.17								
ＳＷ46	49	2.34								
ＳＷ46	50	2.38								
ＳＷ46	51	2.34								
ＳＺ39	Ｅ01	2.45	35×３×２		針葉樹	割材		721	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ02	2.44	34×２×２		針葉樹	割材		720	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ03	2.45	51×６×５	スギ	針葉樹	割材	加工	719	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ04	2.42	19×５×１		針葉樹	板		718	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ05	2.45	55×４×２		針葉樹	割材	加工	629	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ06	2.30	48×５×４		針葉樹	割材	加工	717	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ07	2.52	68×３×３		針葉樹	割材	加工	628	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｅ08	2.36	37×４×２		針葉樹	割材	加工	716	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｗ01	2.49	49×５×２		針葉樹	割材	加工	723	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｗ02	2.49	130×７×５		針葉樹	割材	加工	666	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｗ03	2.44	48×４×３		針葉樹	割材	加工	714	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｗ04	2.47	48×５×２		針葉樹	割材	加工	715	Ｂ－１	
ＳＺ39	Ｗ05	2.52	65×５×２	スギ	針葉樹	割材		695	Ｂ－１	

別表16　杭一覧（６）五反田遺跡第３次

遺　構	杭番号	レベル	法量（cm）	樹　種　同　定	樹　種	形　態	先　端	登録No.	地　区	備　　考
ＳＤ１	Ｅ01	4.66	33×５×２		針葉樹	割材	加工	31	２区	
ＳＤ１	Ｅ02	4.79	42×８×２		針葉樹	板材	加工	33	２区	
ＳＤ１	Ｅ03	4.85	33×４×３		針葉樹	割材	加工	34	２区	
ＳＤ１	Ｅ04	4.87	34×５×２		針葉樹	割材	加工	36	２区	
ＳＤ１	Ｅ05	4.87	36×７×２		針葉樹	板材	加工	35	２区	
ＳＤ１	W01	4.72							２区	
ＳＤ１	W02	4.72							２区	
ＳＤ１	W03	4.81	71×７×５	クリ	広葉樹	割材	加工	32	２区	
ＳＤ１	W04	5.00							２区	
ＳＤ１	W05	4.98							２区	
ＳＤ２	Ｎ01	4.84							２区	
ＳＤ２	Ｎ02	4.88	37×３×３		針葉樹	割材		37	２区	
ＳＤ２	Ｎ03	5.07	44×３×３		針葉樹	割材	加工	40	２区	
ＳＤ２	Ｎ04	4.99	22×５×４		針葉樹	転用		52	２区	田下駄Ｄ類方形枠支柱
ＳＤ２	Ｎ05	5.10	26×４×３	コナラ属アカガシ亜属	広葉樹	丸太	加工	53	２区	
ＳＤ２	Ｎ06	4.98	44×６×４		針葉樹	割材	加工	44	２区	
ＳＤ２	Ｎ07	4.99	25×６×４	コナラ属アカガシ亜属	広葉樹	丸太		45	２区	
ＳＤ２	Ｎ08	5.07	50×７×４		針葉樹	板材	加工	46	２区	
ＳＤ２	Ｎ09	5.14	52×４×６		針葉樹	割材		47	２区	
ＳＤ２	Ｎ10	5.13	44×３×３		針葉樹	割材	加工	48	２区	
ＳＤ２	Ｎ11	5.15	41×６×３		針葉樹	割材	加工	49	２区	
ＳＤ２	Ｎ12	5.17	57×８×５		針葉樹	割材	加工	50	２区	
ＳＤ２	Ｎ13	5.18	48×４×４		針葉樹	割材	加工	51	２区	
ＳＤ２	Ｓ01	4.90	52×９×４		針葉樹	板材	加工	38	２区	
ＳＤ２	Ｓ02	4.89	38×９×２		針葉樹	板材	加工	39	２区	
ＳＤ２	Ｓ03	4.94							２区	
ＳＤ２	Ｓ04	4.98	41×４×３		針葉樹	割材	加工	41	２区	
ＳＤ２	Ｓ05	4.97							２区	
ＳＤ２	Ｓ06	4.99	46×５×５		針葉樹	割材	加工	42	２区	
ＳＤ２	Ｓ07	5.07	31×９×３					43	２区	
ＳＤ２	Ｓ07	5.07							２区	
ＳＤ２	Ｓ08	5.18							２区	
ＳＤ２	Ｓ09	5.12							２区	
ＳＤ２	Ｓ10	5.09							２区	
ＳＤ２	Ｓ11	5.12							２区	
ＳＤ２	Ｓ12	5.10							２区	
ＳＤ２	Ｓ13	5.14							２区	
ＳＤ２	Ｓ14	5.17							２区	
ＳＤ２	Ｓ15	5.15							２区	
ＳＤ２	Ｓ16	5.28							２区	
ＳＤ２	Ｓ17	5.28							２区	

図　　版

図版1



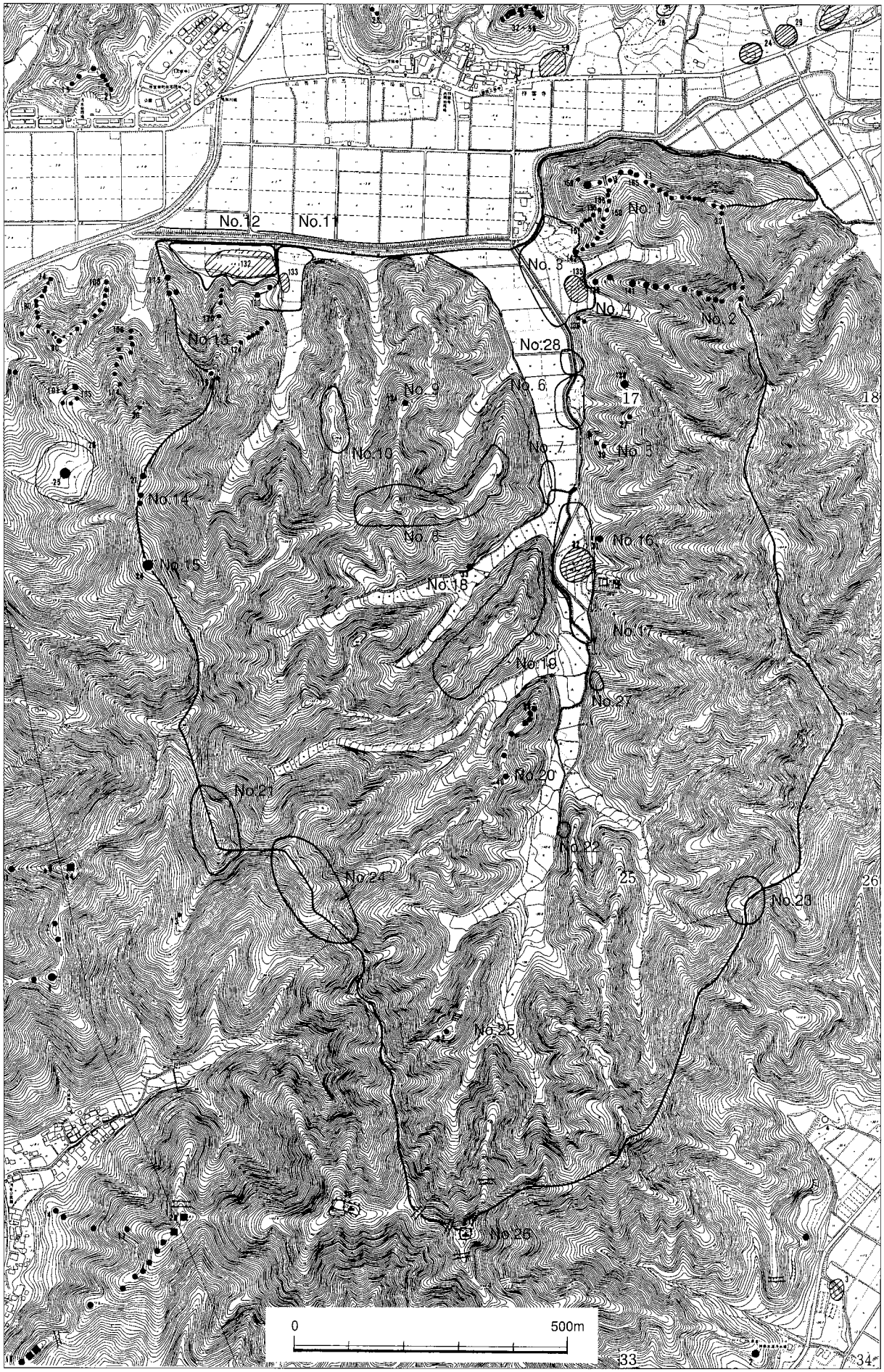
1．兵庫県の位置
2．豊岡市の位置
3．コウノトリの郷公園の位置（1/200,000）

図版2

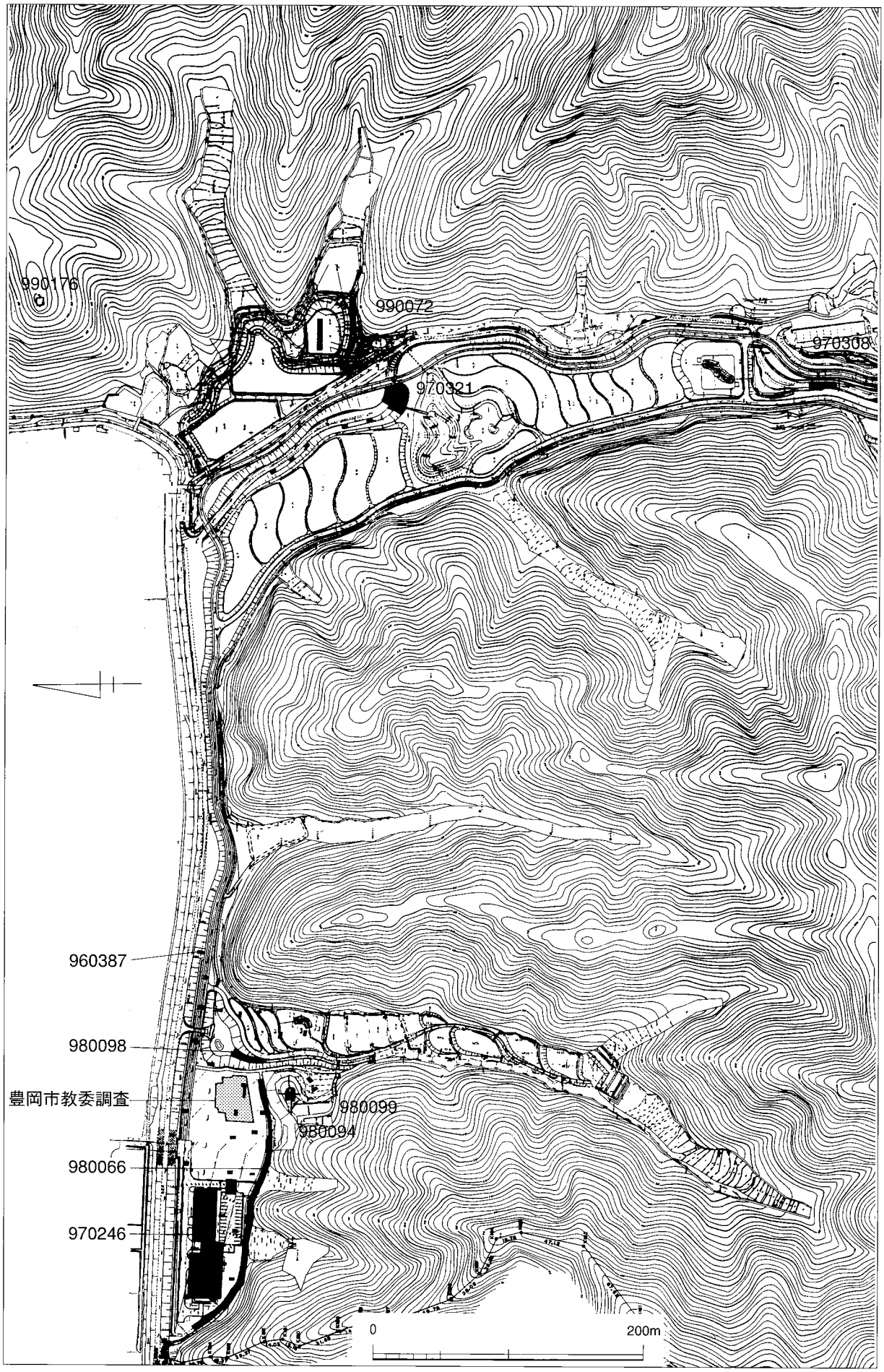
図版3・4	県遺跡番号	豊岡市分布地図		遺跡の名称	所在地	種類	時代	文献
		図番	遺跡番号					
1	101043	17	142～165	佐久羅古墳群１～21号墳	祥雲寺・法花寺	古墳	古墳	
2	101066	18	1～23	佐久羅古墳群22～44号墳	祥雲寺	古墳・山城	古墳・中世	
3	101016	17	135	堂林遺跡	祥雲寺	散布地	古墳ー中世	本書
4	101022	17	136～141	堂林古墳群１～６号墳	祥雲寺	古墳	古墳	
5	101368	25	27～30	杉戸古墳群１～４号墳	祥雲寺	古墳	古墳	
6					祥雲寺	散布地		
7					祥雲寺	散布地		
8					祥雲寺	古墳？		
9	101015	17	134	口細古墳	祥雲寺	古墳	古墳	
10					祥雲寺	古墳？		
11	101014	17	133	於富美遺跡	祥雲寺	散布地	古墳ー中世	本書
12	101013	17	132	五反田遺跡	祥雲寺	生産遺跡・集落	弥生ー中世	本書・2000年「兵庫県五反田遺跡」『祭祀考古』第16・17合併号
13	101012	17	115～131	二ケ谷古墳群１～17号墳	祥雲寺・庄境	古墳	古墳	1976年『鎌田古墳群・下陰古墳群』14
14	101362	25	20～24	大山田古墳群	庄境・祥雲寺	古墳	古墳	
15					庄境・祥雲寺	寺院	近世	
16	101369	25	31	平畑古墳	祥雲寺	古墳	古墳	
17	101370	25	32	平畑遺跡	祥雲寺	散布地	弥生ー中世	本書
18	101371	25	33	大穴谷古墳	祥雲寺		古墳？	
19					祥雲寺	古墳？		
20	101378	25	34～40	宍谷古墳群１～７号墳	祥雲寺	古墳	古墳	
21								
22					祥雲寺	横穴		
23					祥雲寺・市場	城郭	中世	
24					祥雲寺・河谷	城郭	中世	
25	101540	33	32	宍谷古墳	祥雲寺	古墳	古墳	
26	101539	33	31	衣笠狼煙台	河谷・中谷・三宅	城郭	中世	1975年『伝衣笠山のろし台調査報告』
27					祥雲寺	炭窯	近世	
28					祥雲寺	炭窯	近世	
29	100137			法花寺窯跡群	法花寺	生産遺跡	奈良	1998年『とよおか発掘情報』第6号
30	100161			カマドバナ窯跡	法花寺	生産遺跡	古墳	1998年『とよおか発掘情報』第6号
31	100522	17	1～4	鎌田古墳群１～９号墳	下宮	古墳	古墳	1975年『鎌田古墳群・下陰古墳群』
32	100644	15	3	正福寺谷中世墓	日撫	その他の墓	中世	1987年『日撫・正福寺谷横穴墓群』
33	100680	15	6～9	正福寺谷横穴墓群Ⅰ～Ⅳ	日撫	横穴墓	古墳	1987年『日撫・正福寺谷横穴墓群』
34	100687	15	20	備後衆山砦址	日撫	城砦跡	中世	1987年『日撫・備後衆山砦址』
35	100788	16	20～31	若宮古墳群20～31号墳	鎌田	古墳	古墳	1986年『豊岡市文化財調査概報集』
36	101454	30	1	七ツ塚古墳群１～10号墳	正法寺	古墳	古墳	1978年『七ツ塚古墳群』
37	101463	30	6	妙楽寺経塚群	妙楽寺	その他の遺跡	平安ー中世	1975年『但馬妙楽寺遺跡群』
38	101465	30	8	豊岡城址	京町	城砦跡	中世	1993年『但馬豊岡城』
39	101469			見手山横穴墓群１～４号墓	妙楽寺	横穴墓	古墳	1985年『妙楽寺・見手山横穴墓群』
40	101472			豊岡城周辺遺跡家老屋敷群推定地	京町	城砦跡	中世	1996年『とよおか発掘情報』第1号
41	101474	31	2	大磯遺跡	大磯町	散布地	弥生ー中世	1993年『豊岡市史』資料編下巻
42	101550	36	2	見手山古墳	妙楽寺	古墳	古墳	1983年『豊岡市見手山古墳群発掘調査概要再調査の記録』
43	101554	36	3～5	見手山古墳群１～４号墳	妙楽寺	古墳	古墳	1999年『見手山古墳群発掘調査概要』
44	101635	36	7・8	妙楽寺墳墓群	妙楽寺	その他の墓	弥生ー古墳	1975年『但馬妙楽寺遺跡群』
45	101683	39	3	中谷貝塚	中谷	貝塚	縄文	1993年『豊岡市史』資料編下巻
46	101699	39	16	半坂遺跡	大篠岡	その他の墓	弥生	1993年『豊岡市史』資料編下巻
47	101918	45	1	三開山城址	木内	城砦跡	中世	1985年『兵庫県の中世城館・荘園遺跡』
48	101931	45	14・15	半坂峠南尾根古墳群１・２号墳	大篠岡	古墳	古墳	1983年『半坂峠古墳群辻遺跡』
49	101938	45	22	カチヤ古墳	三宅	古墳	古墳	1983年『半坂峠古墳群辻遺跡』
50	101942	45	24～51	ヱノ田遺跡群（井走遺跡ほか）	香住	集落跡	縄文ー中世	1996年『とよおか発掘情報』第1号
51	102022			ヱノ田遺跡群（門谷墳墓群）	香住	その他の墓	弥生	1993年『豊岡市史』資料編下巻
52	102027			ヱノ田古墳群	香住	古墳	古墳	1993年『豊岡市史』資料編下巻
53	102033	46	1	森尾古墳跡	森尾	古墳	古墳	1998年『とよおか発掘情報』 第6号
54	102160	48	1	女代神社遺跡	九日市上町	散布地	弥生	1974年『兵庫県埋蔵文化財集報』第2集
55	102161	48	2	女代神社南遺跡	九日市上町	散布地	弥生ー中世	1998年『とよおか発掘情報』 第6号
56	102424	50	1	川原遺跡	駄坂	散布地	弥生	1993年『豊岡市史』資料編下巻
57	102466	51	55・56	山崎古墳群１～16号墳	立石	古墳	古墳	1994年『立石山崎古墳群』
58	102480			舟隠墳墓群	駄坂	その他の墓	弥生	1989年『駄坂・舟隠遺跡群』
59	102490	50	15・16	舟隠古墳群	駄坂	古墳	古墳	1989年『駄坂・舟隠遺跡群』
60	102491			舟隠遺跡	駄坂	社寺跡	古代ー中世	1989年『駄坂・舟隠遺跡群』
61	102550	52	43～59	北浦古墳群25～41号墳	森尾	古墳	古墳	1987年『北浦古墳群・立石墳墓群』
62	102560	52	60～69	北浦横穴墓群	森尾	横穴墓	古墳	1987年『北浦古墳群・立石墳墓群』
63	102614	52	118～133	立石古墳群104～109号墳	立石	古墳	古墳	1979年『兵庫県埋蔵文化財集報』第4集・1987年『北浦古墳群・立石墳墓群』
64	102674	52		立石墳墓群96～103号地点	立石	その他の墓	弥生ー古墳	1987年『北浦古墳群・立石墳墓群』
65	102684			立石中世墓群	立石	その他の墓	中世	1987年『北浦古墳群・立石墳墓群』
66	102894	56	2	加陽遺跡	加陽	散布地	縄文ー中世	1982年『昭和55年度兵庫県埋蔵文化財調査年報』
67	102969			大市山遺跡	加陽	社寺跡	奈良ー中世	
68	103015			ホウジ古墳群１～２号墳	長谷	古墳	古墳	1986年『長谷・ホウジ古墳群妙楽寺・見手山横穴墓群』
69	103060	58	2	東山墳墓群	上鉢山	その他の墓	弥生	1992年『上鉢山・東山墳墓群』
70	103123	58	4～65	東山横穴墓群	上鉢山	横穴墓	古墳	1992年『上鉢山・東山墳墓群』
71	103168	58	110	長谷貝塚	長谷	貝塚	縄文	1988年『長谷貝塚』
72	103181	58	114～123	ハナ古墳群１～10号墳	長谷	古墳	古墳	1984年『長谷・ハナ古墳群』
73		39	36	三宅廃寺	三宅	社寺跡	古代	1993年『豊岡市史』資料編下巻
74				三宅瓦窯	三宅	生産遺跡	古代	2001年『北近畿の考古学』

4．周辺の遺跡（1/35,000）

図版4

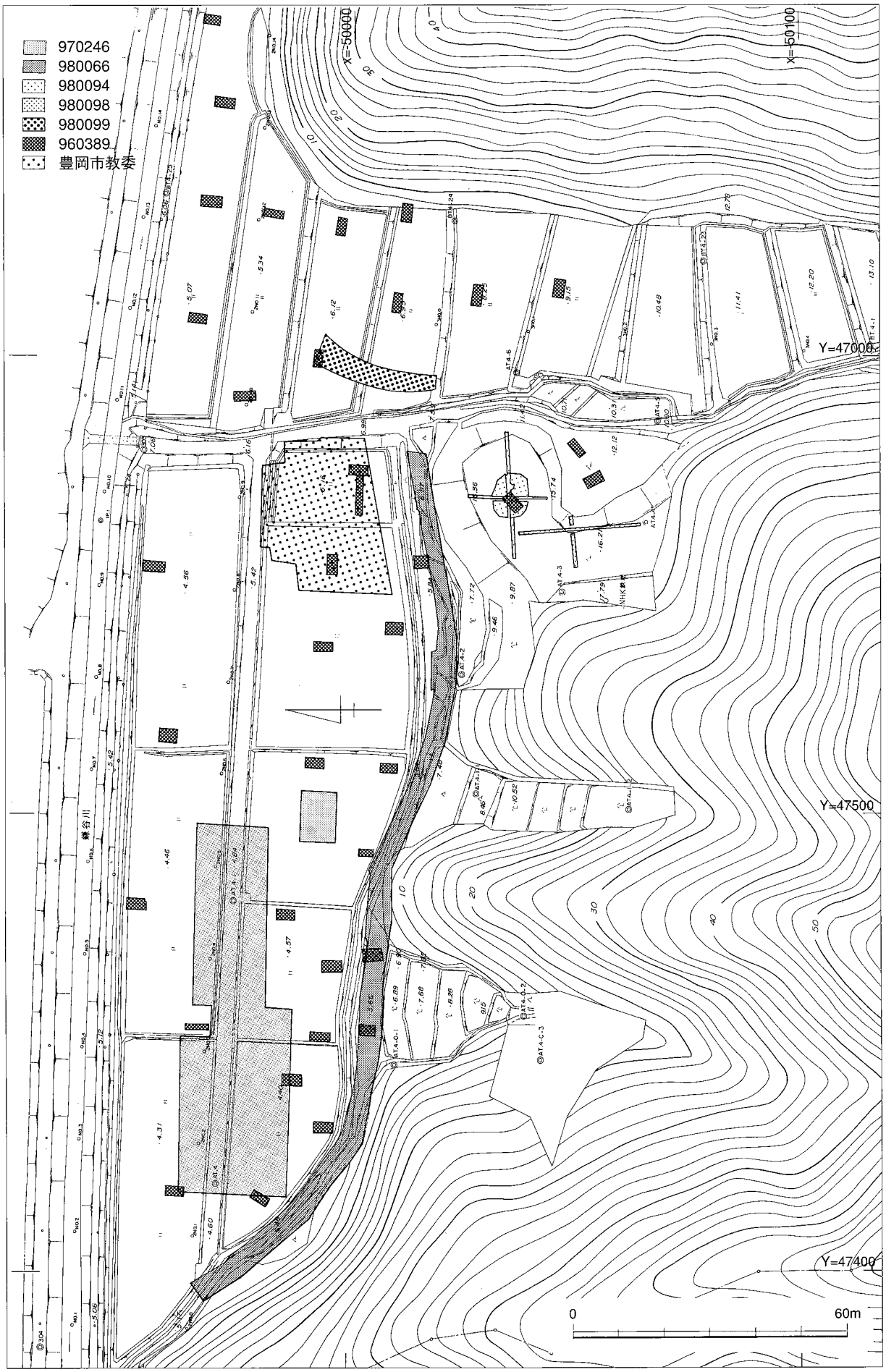


5．コウノトリの郷公園事業地と周辺の遺跡（1/1,000）



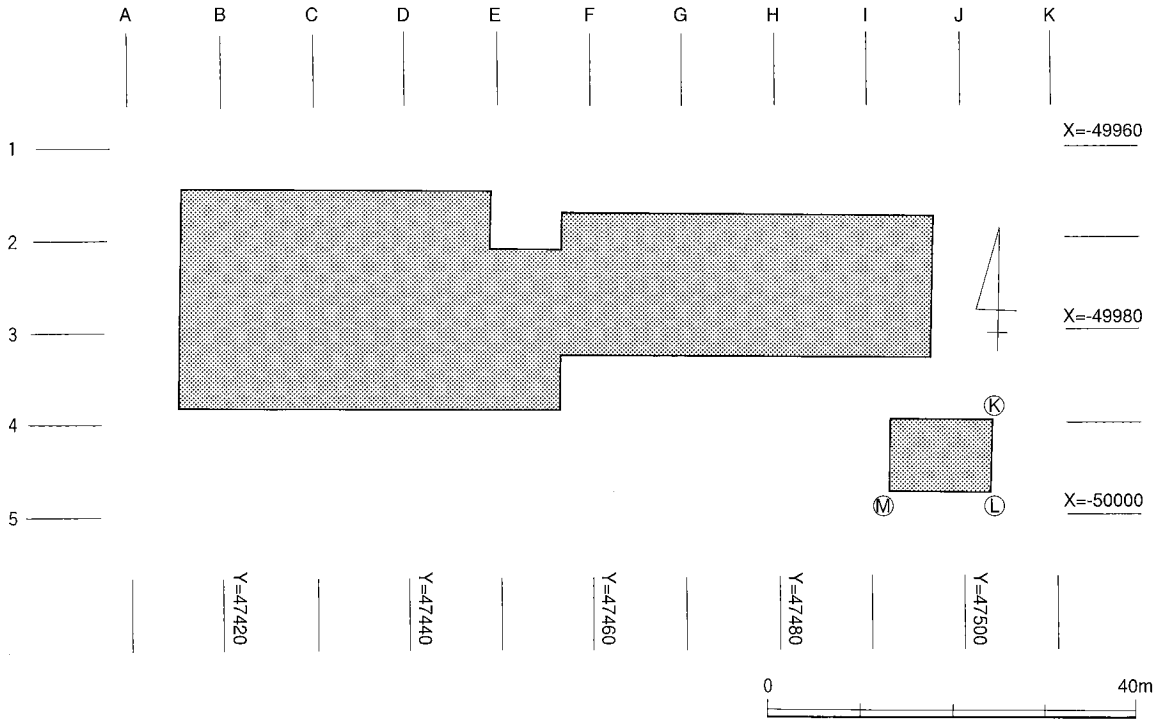
6．調査遺跡の位置（1/4,000）

図版6

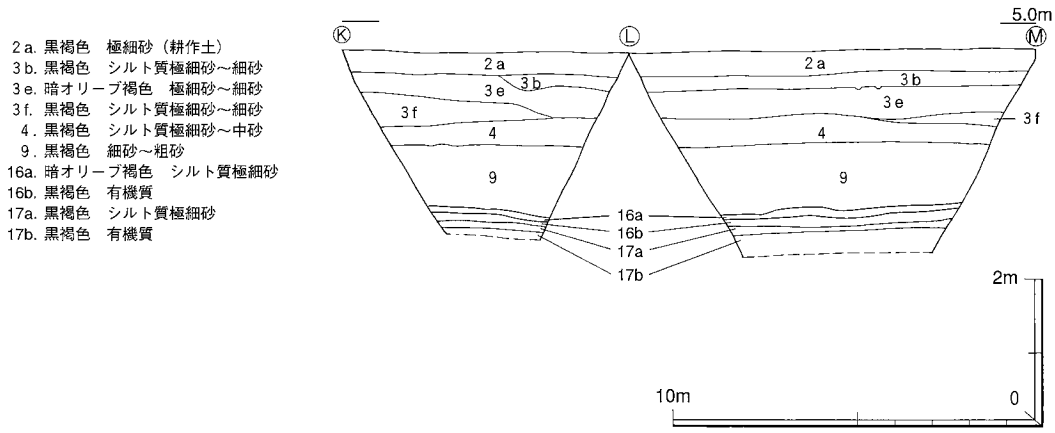


7．確認調査と全面調査の位置（1/1,200）

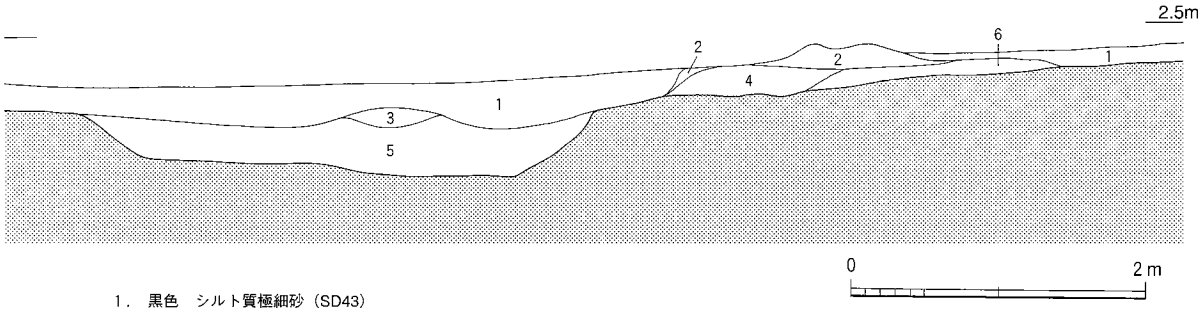
図版7　五反田第2次　遺構



8 .調査区の設定



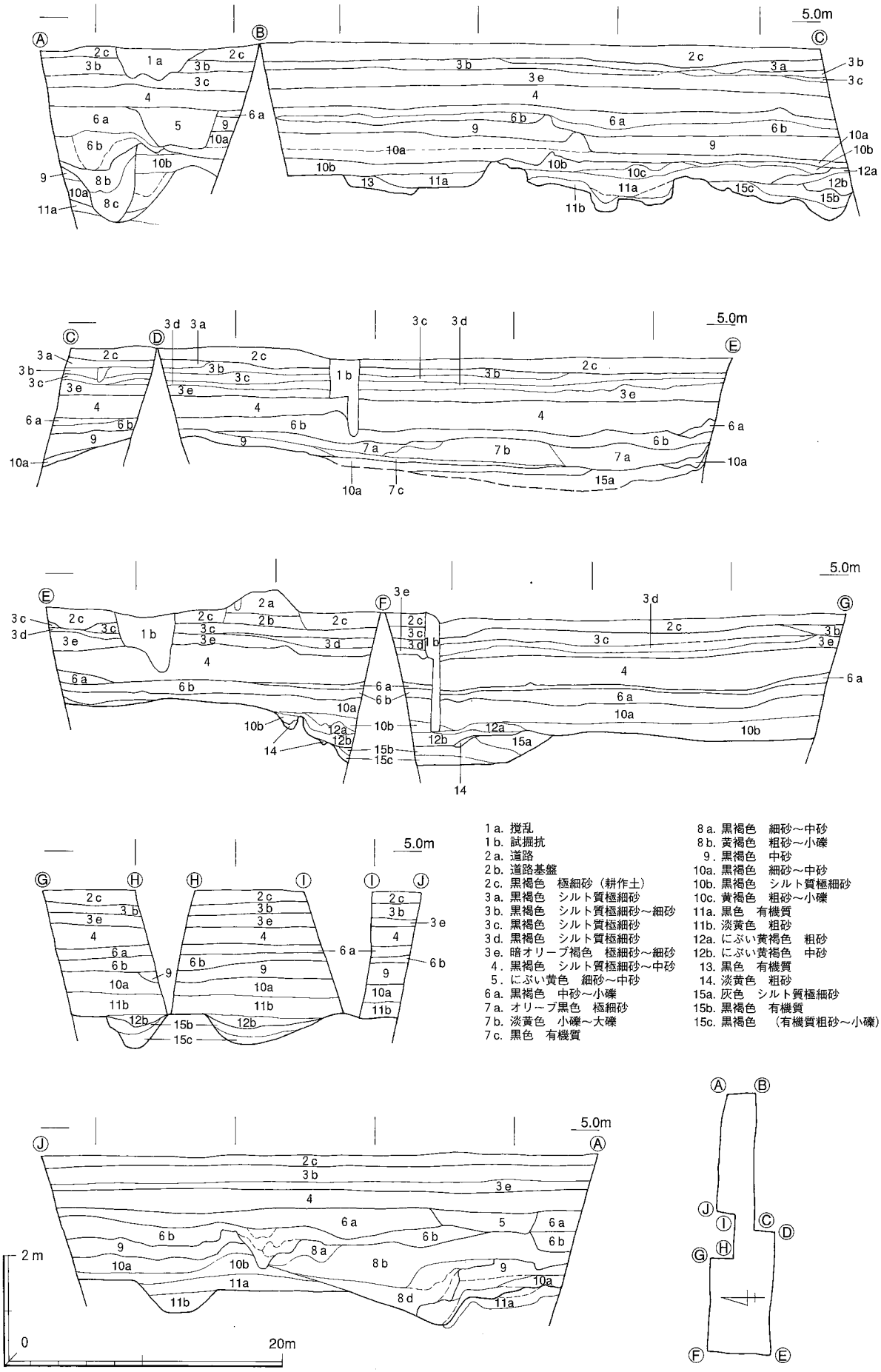
9 .防火水槽の調査区の土層断面



1. 黒色　シルト質極細砂（SD43）
2. オリーブ黒色　シルト（SS44）
3. 黄褐色　粗砂（SD53）
4. 黄褐色　粗砂（SD52）
5. 黒褐色　有機質（SD61）
6. 黒色　シルト質極細砂

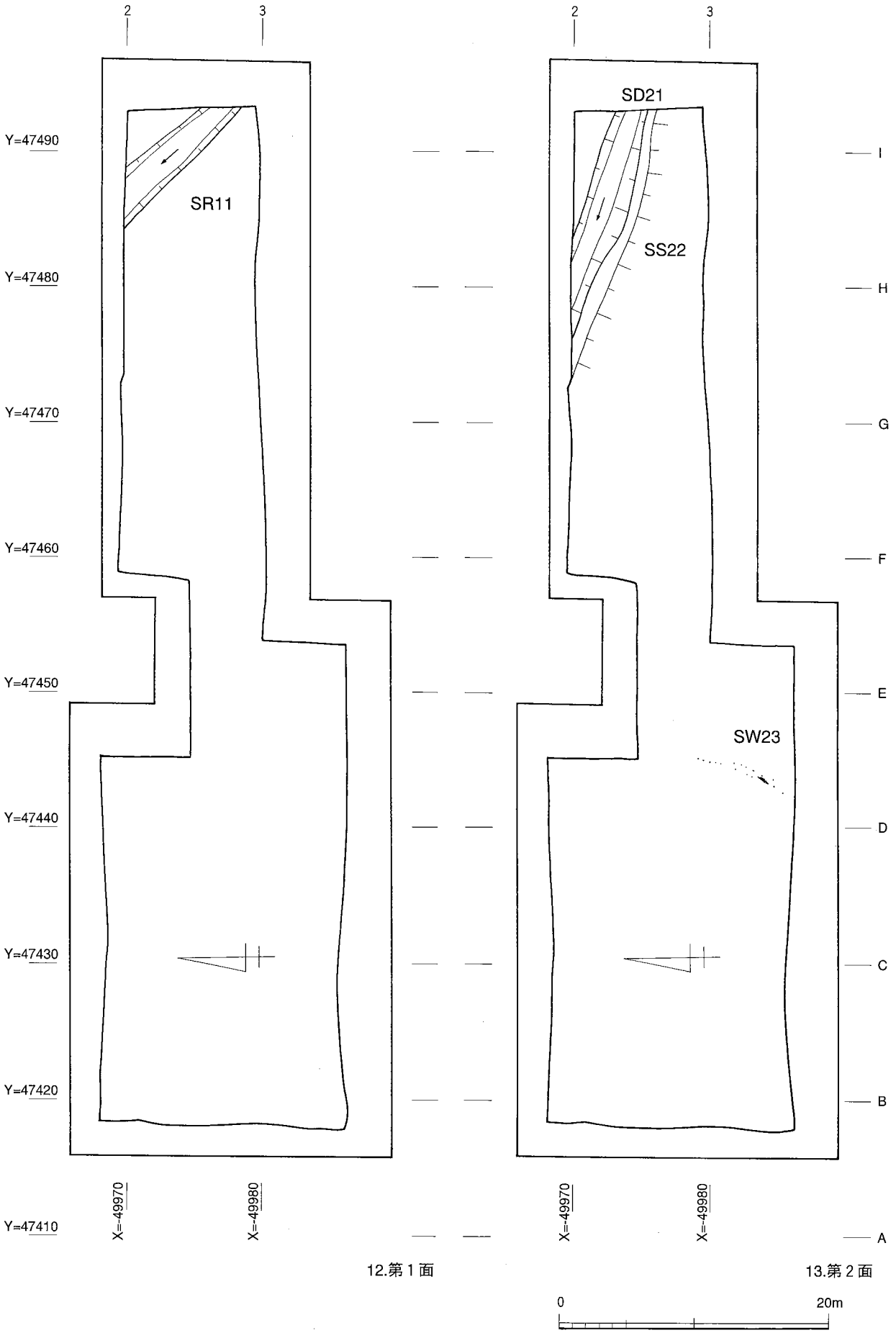
10.SD43・SS44・SD52・SD53・SD61土層断面

8．調査区の設定（1/800）
9．防火水槽調査区の土層断面（1/200・1/100）
10．SD43・SS44・SD52・SD53・SD61土層断面（1/50）

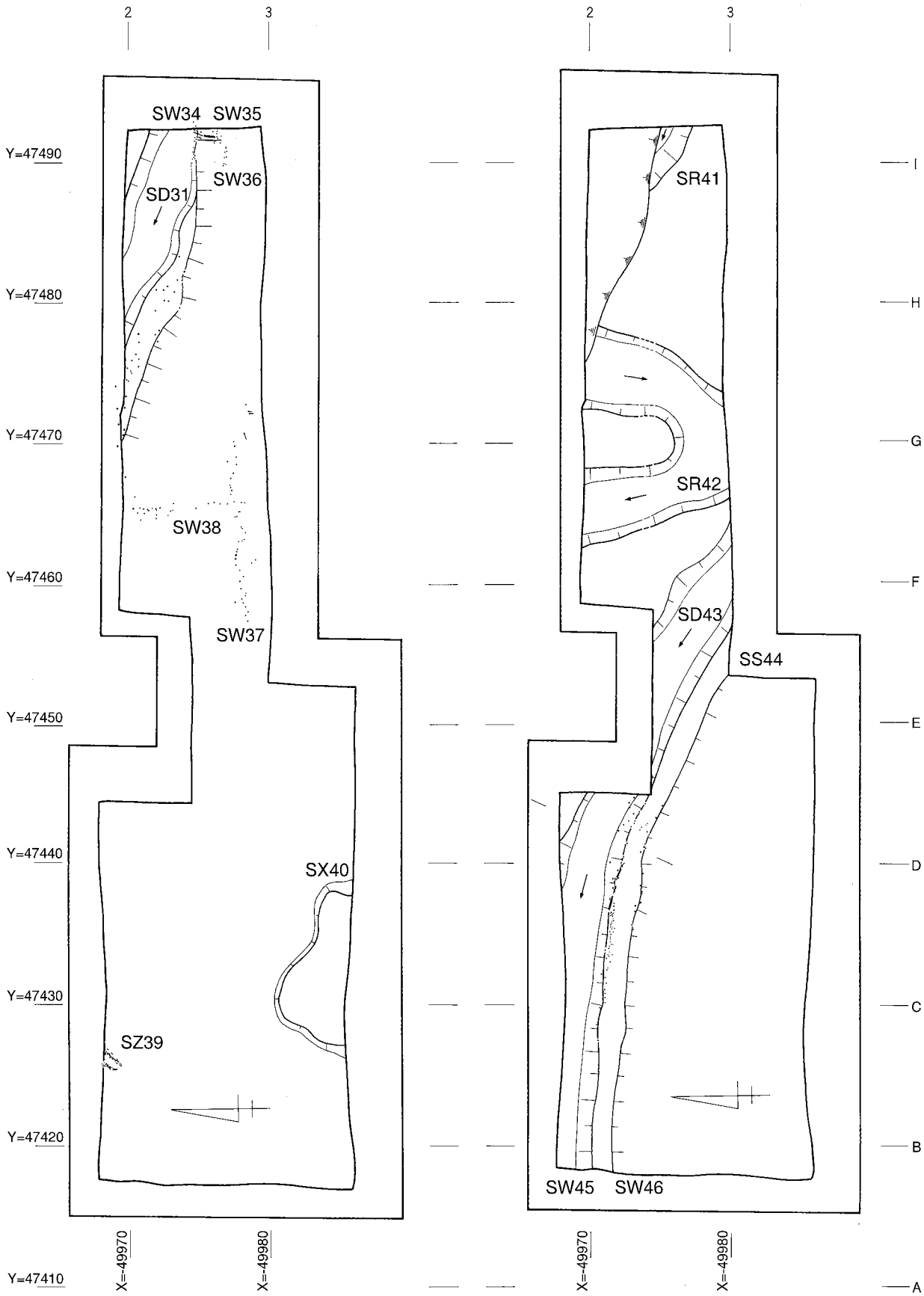


1a. 撹乱
1b. 試掘抗
2a. 道路
2b. 道路基盤
2c. 黒褐色　極細砂（耕作土）
3a. 黒褐色　シルト質極細砂
3b. 黒褐色　シルト質極細砂～細砂
3c. 黒褐色　シルト質極細砂
3d. 黒褐色　シルト質極細砂
3e. 暗オリーブ褐色　極細砂～細砂
4. 黒褐色　シルト質極細砂～中砂
5. にぶい黄色　細砂～中砂
6a. 黒褐色　中砂～小礫
7a. オリーブ黒色　極細砂
7b. 淡黄色　小礫～大礫
7c. 黒色　有機質
8a. 黒褐色　細砂～中砂
8b. 黄褐色　粗砂～小礫
9. 黒褐色　中砂
10a. 黒褐色　細砂～中砂
10b. 黒褐色　シルト質極細砂
10c. 黄褐色　粗砂～小礫
11a. 黒色　有機質
11b. 淡黄色　粗砂
12a. にぶい黄褐色　粗砂
12b. にぶい黄褐色　中砂
13. 黒色　有機質
14. 淡黄色　粗砂
15a. 灰色　シルト質極細砂
15b. 黒褐色　有機質
15c. 黒褐色　（有機質粗砂～小礫）

11. 土層断面（1/400・1/100）



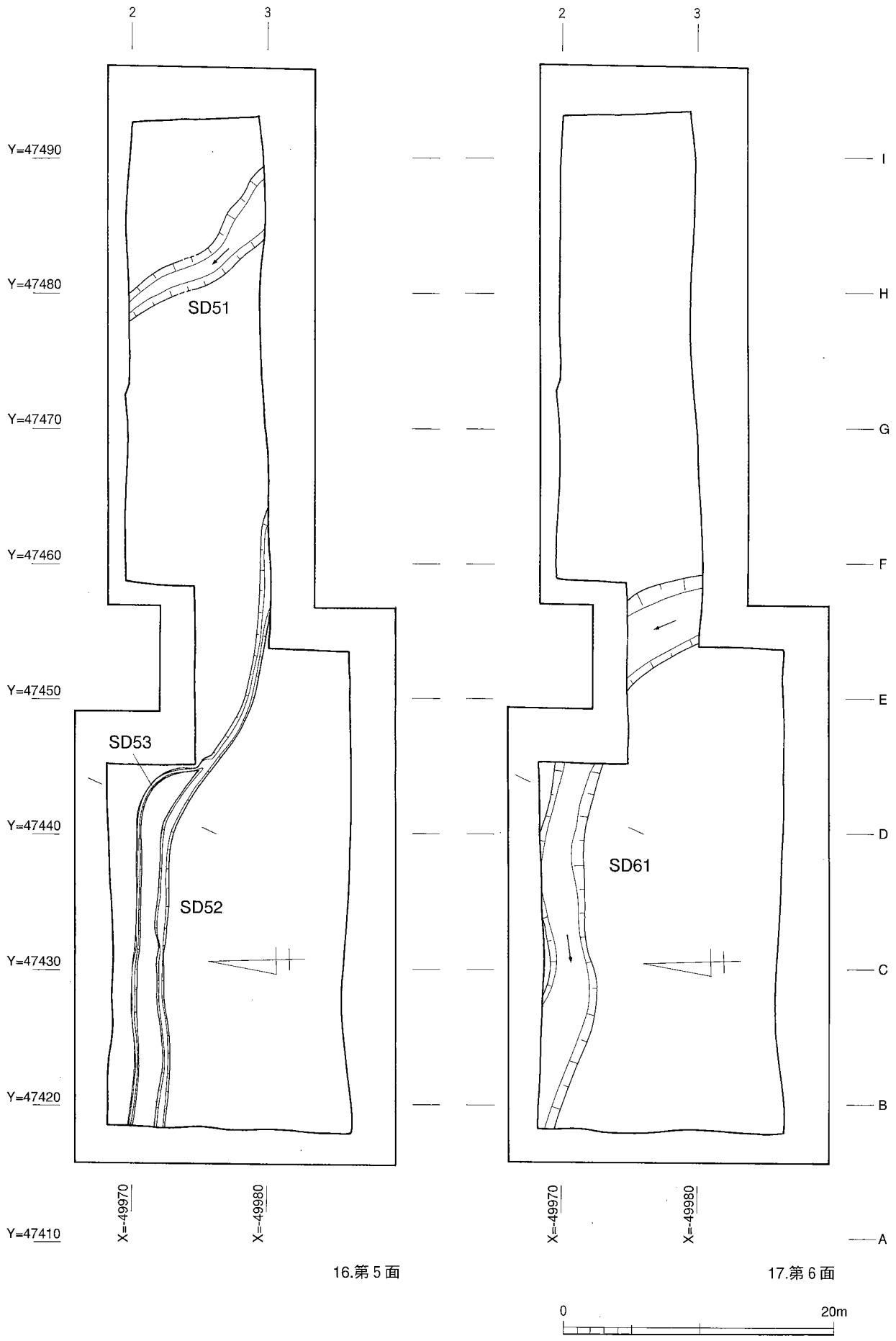
12. 第1面の遺構（1/400）
13. 第2面の遺構（1/400）



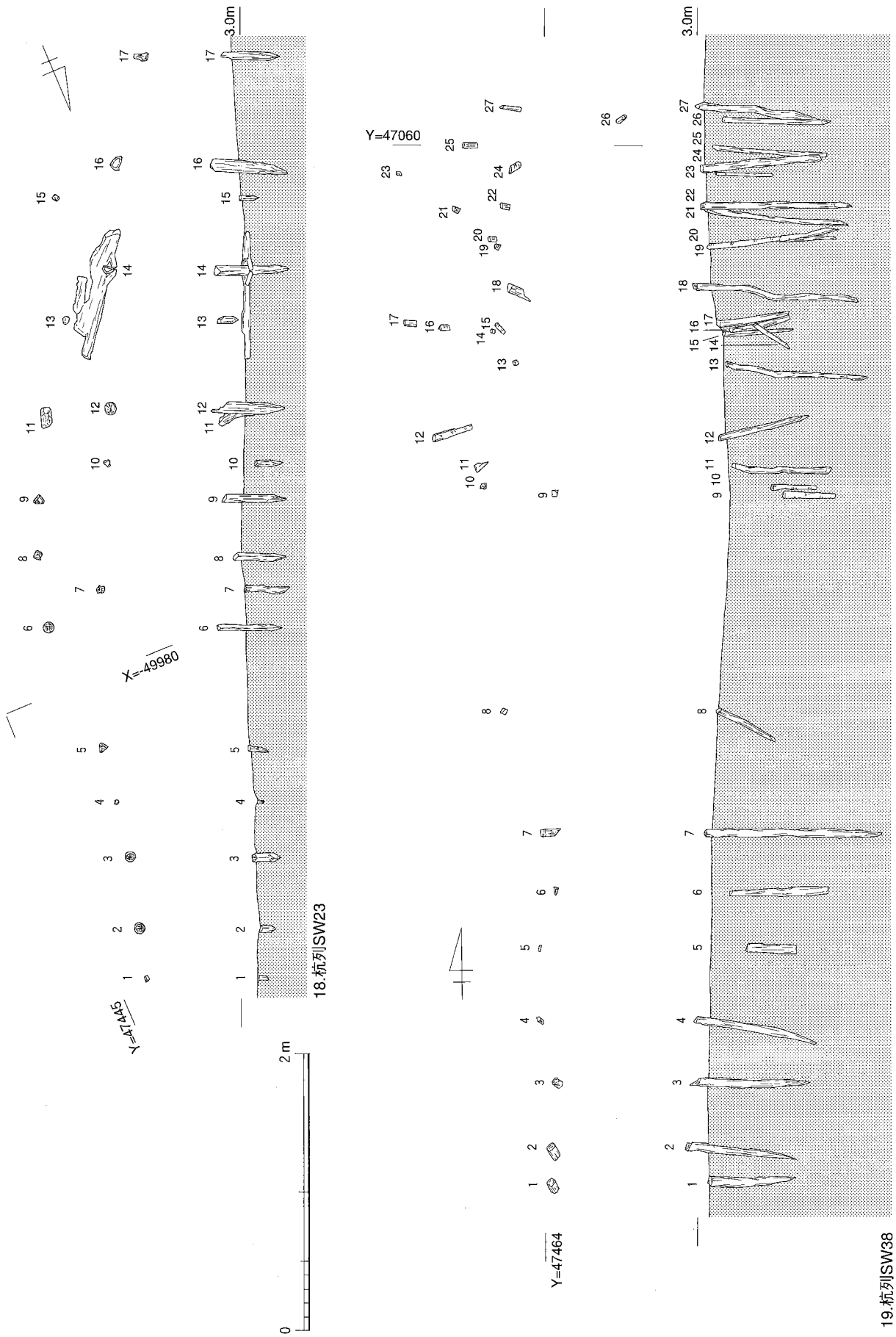
14.第3面　　15.第4面

0　20m

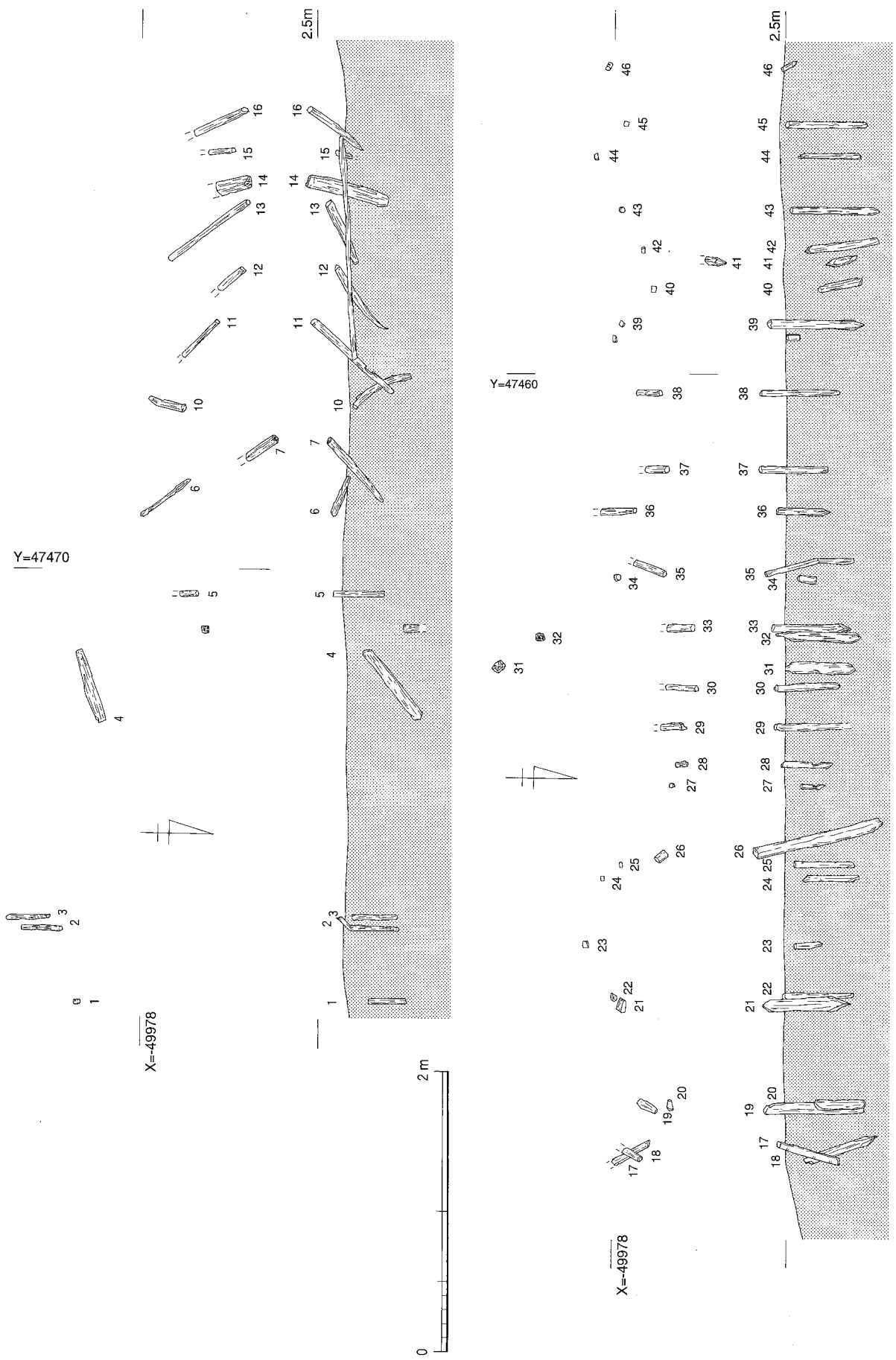
14. 第3面の遺構（1/400）
15. 第4面の遺構（1/400）



16. 第5面の遺構（1/400）
17. 第6面の遺構（1/400）

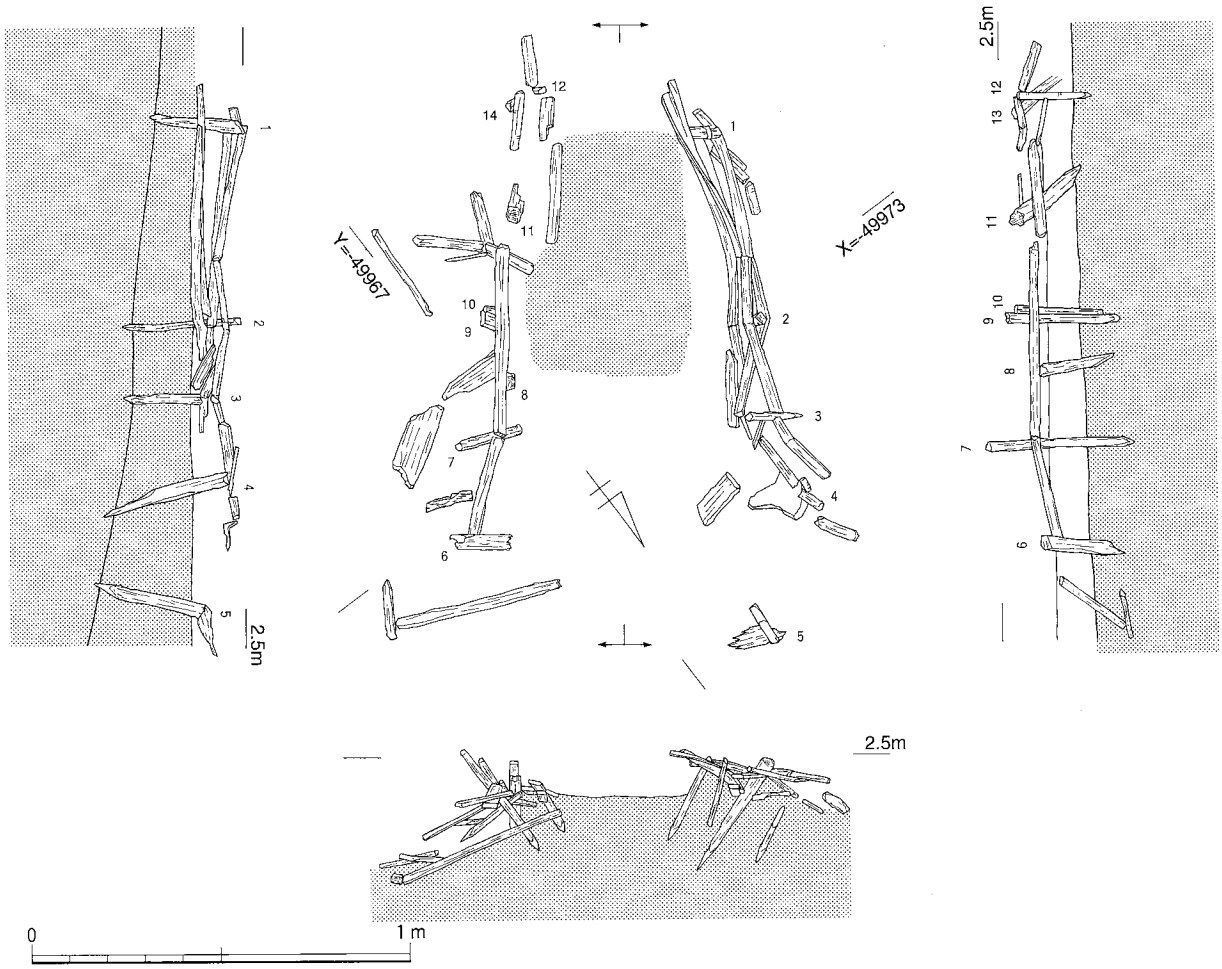


18. 杭列SW23平面・断面（1/40）
19. 杭列SW38平面・断面（1/40）

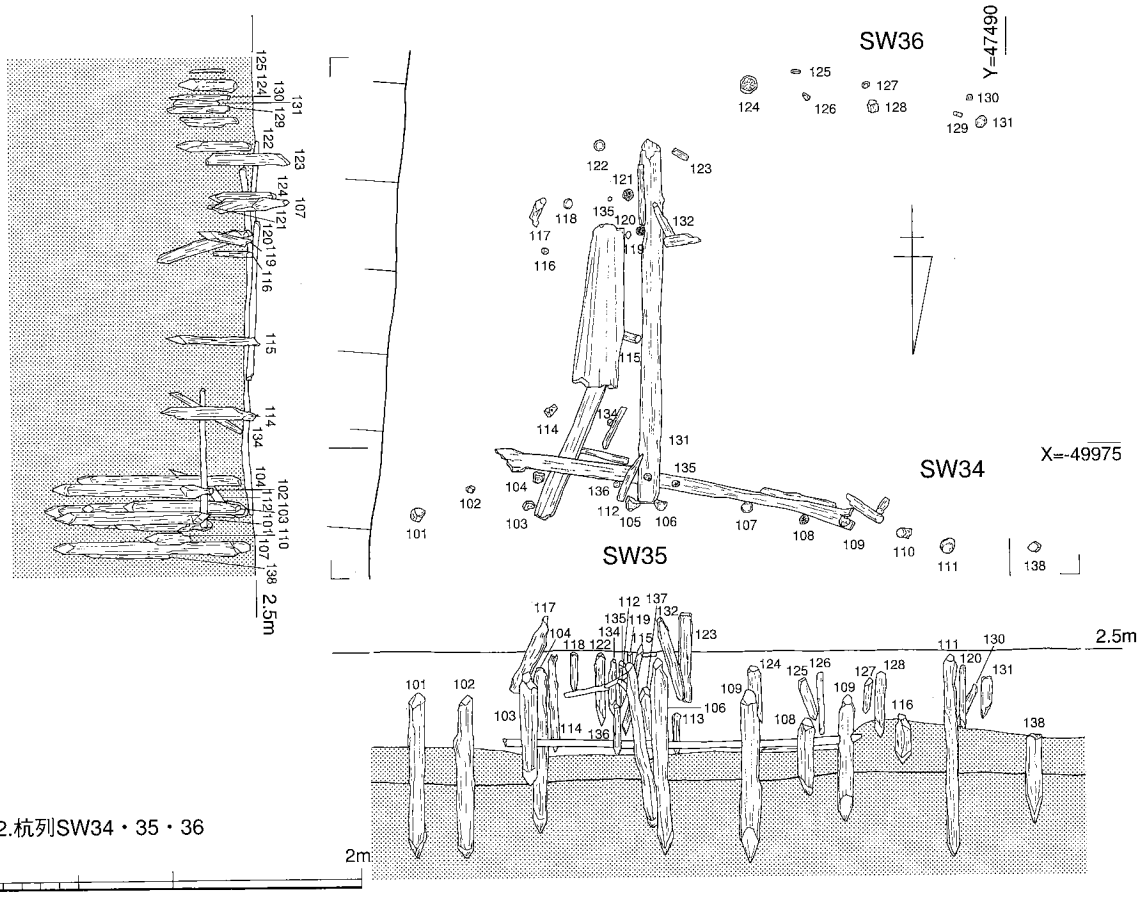


20. 杭列SW37平面・断面（1/40）

図版14　五反田第2次　遺構

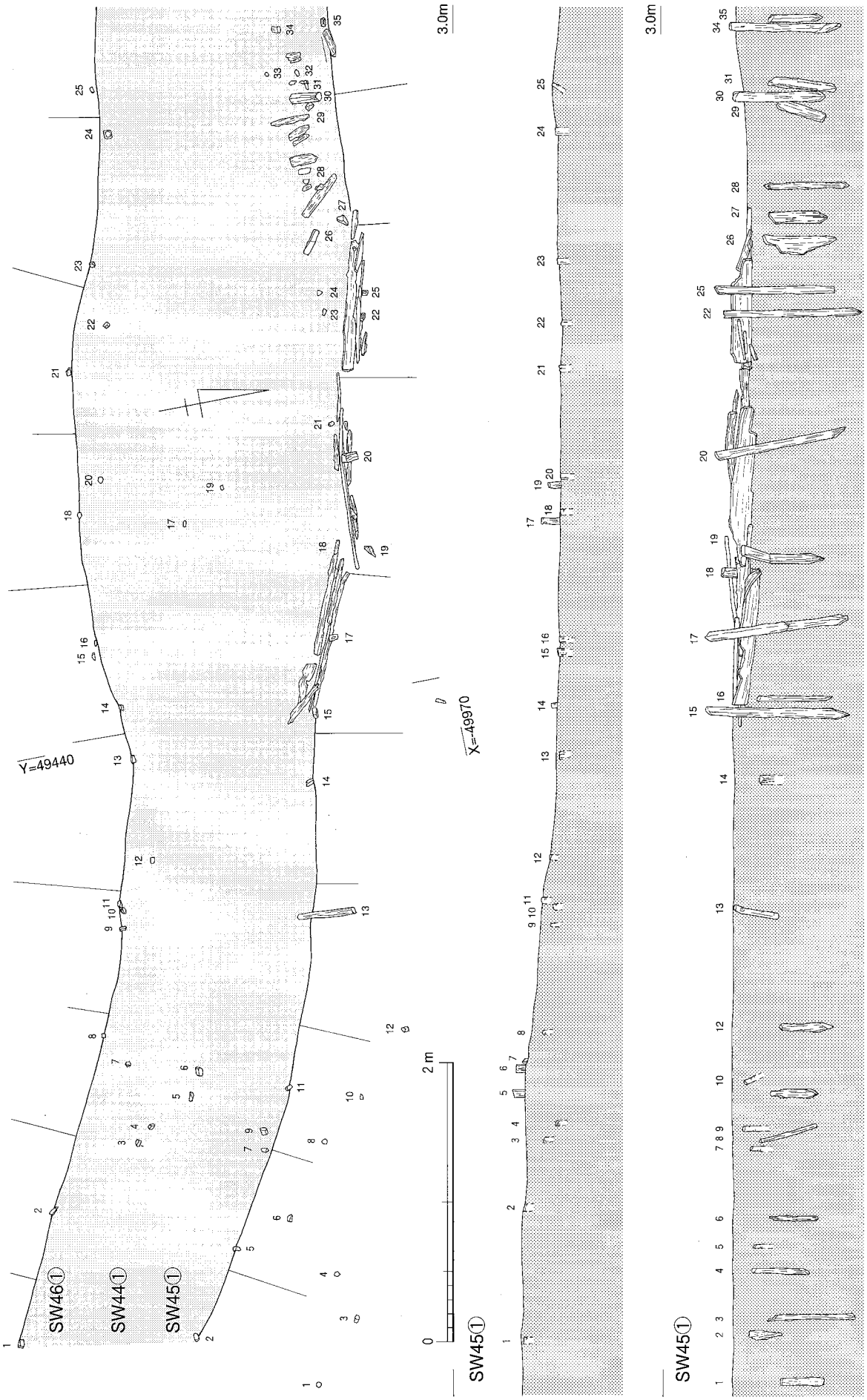


21.木組SZ39

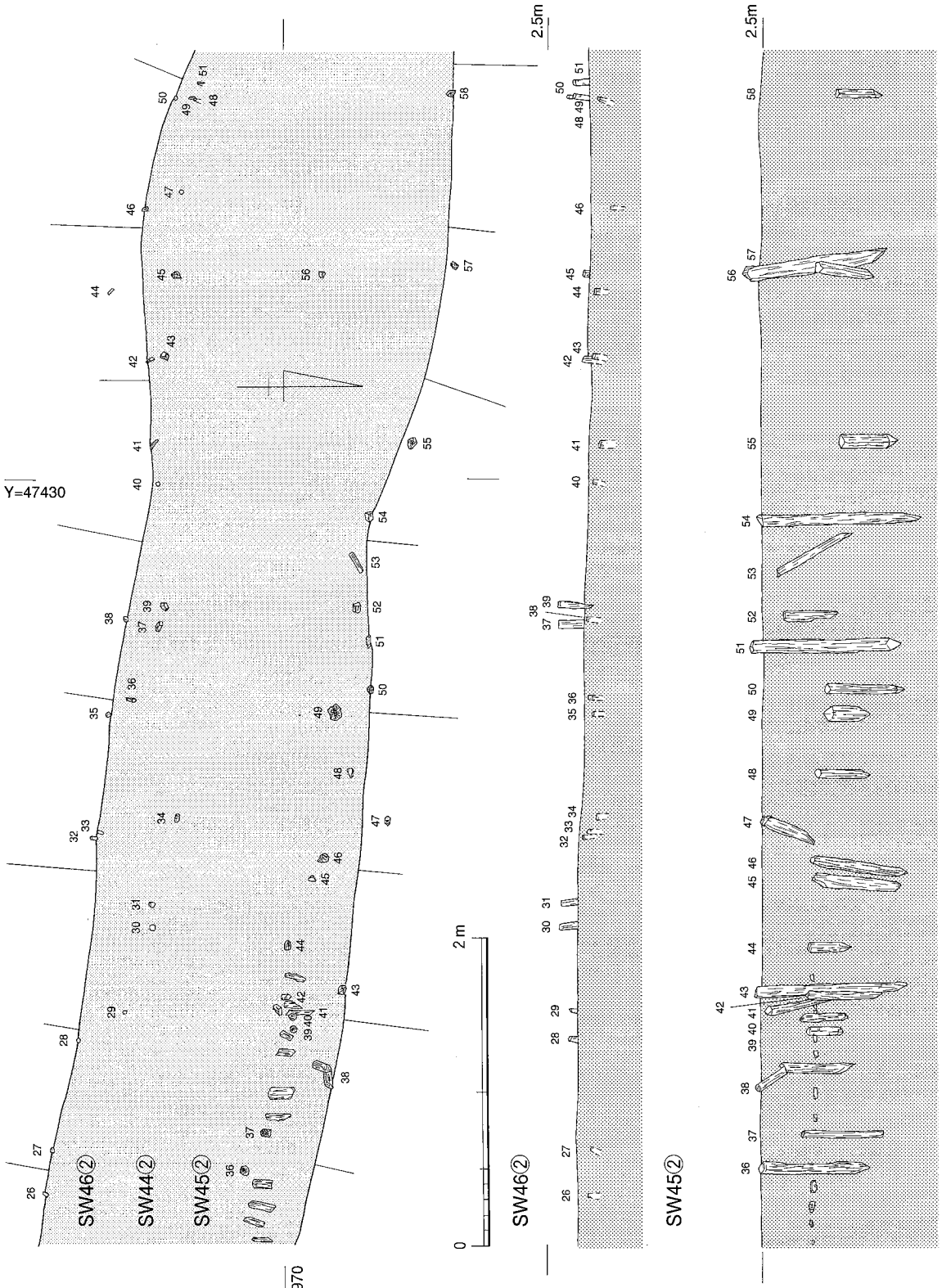


22.杭列SW34・35・36

21．木組SZ39平面・断面（1/20）
22．杭列SW34・35・36平面・断面（1/40）

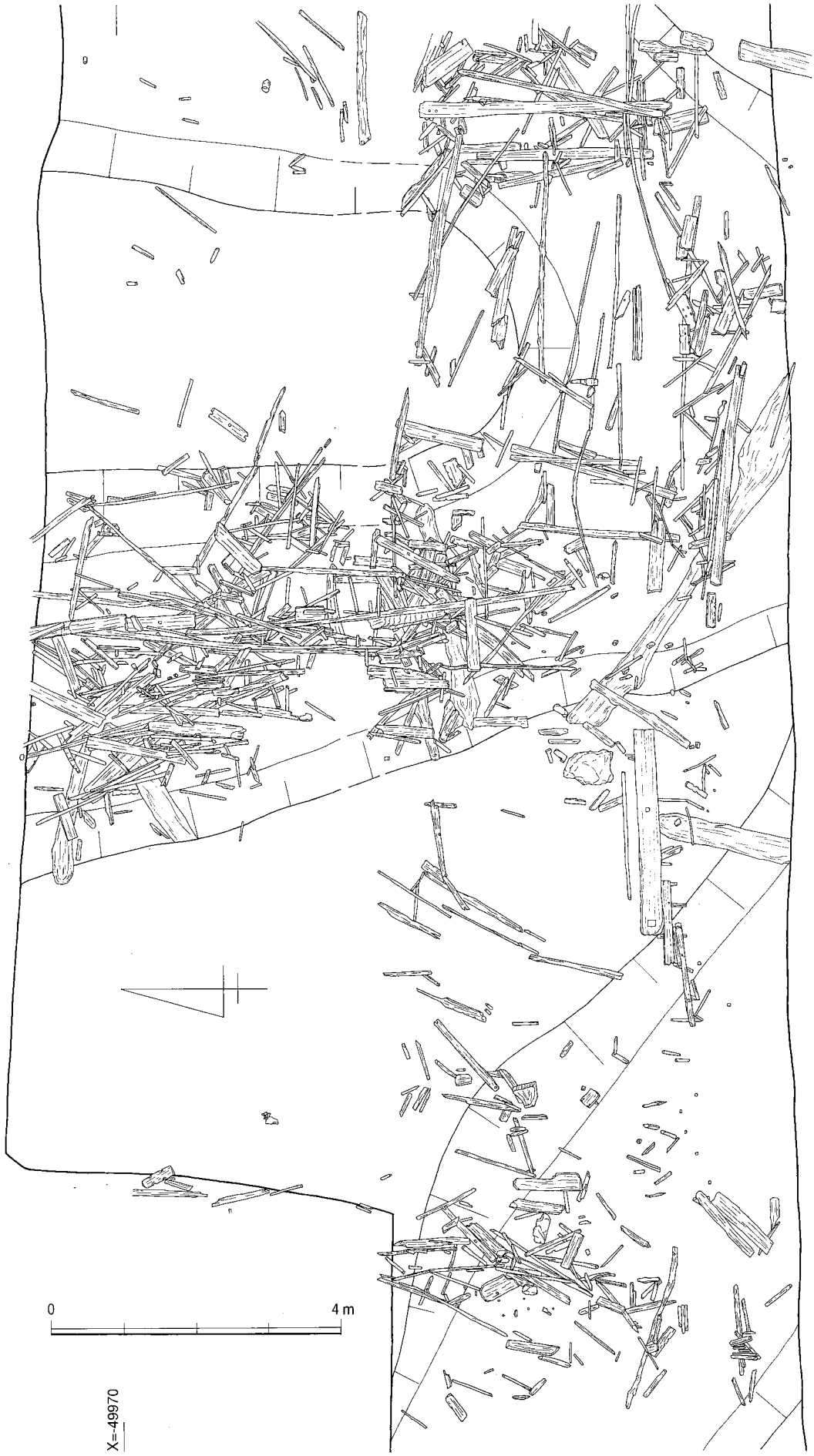


23．畦畔SS44・杭列SW45・46平面・断面①（1/40）

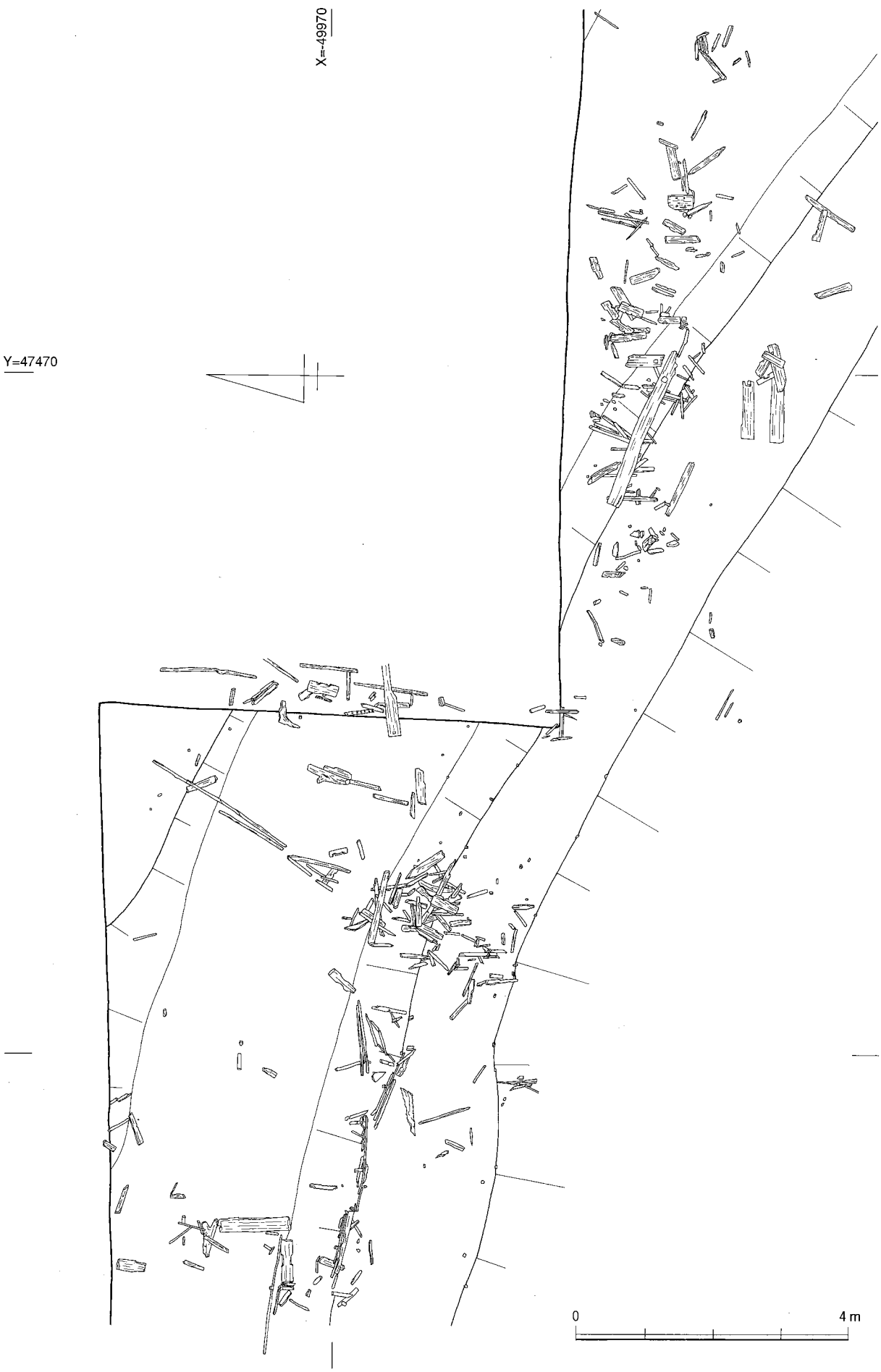


24. 畦畔SS44・杭列SW45・46平面・断面②（1/40）

25．第4面木器出土状況①（1/80）

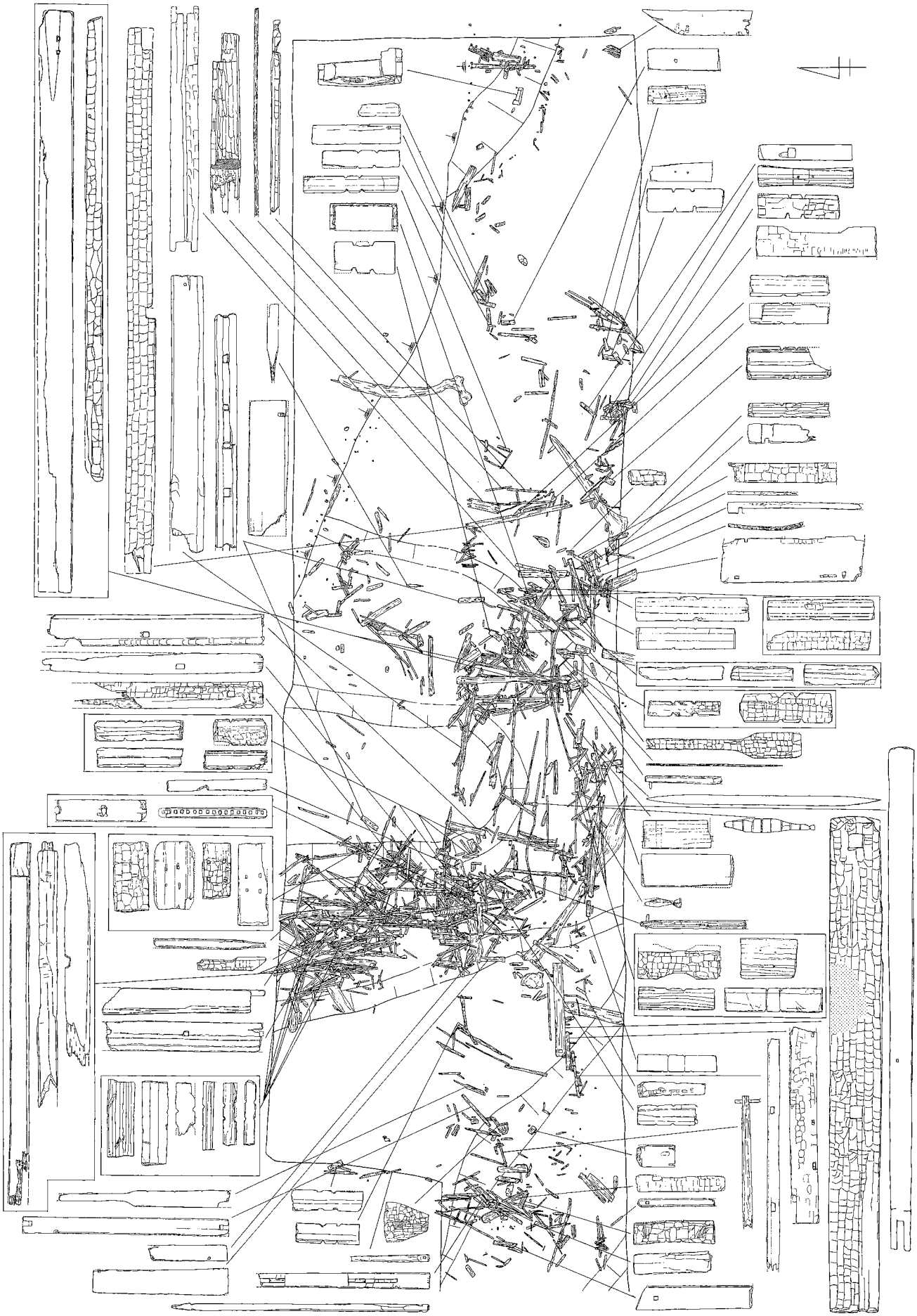


26．第4面木器出土状況②（1/80）

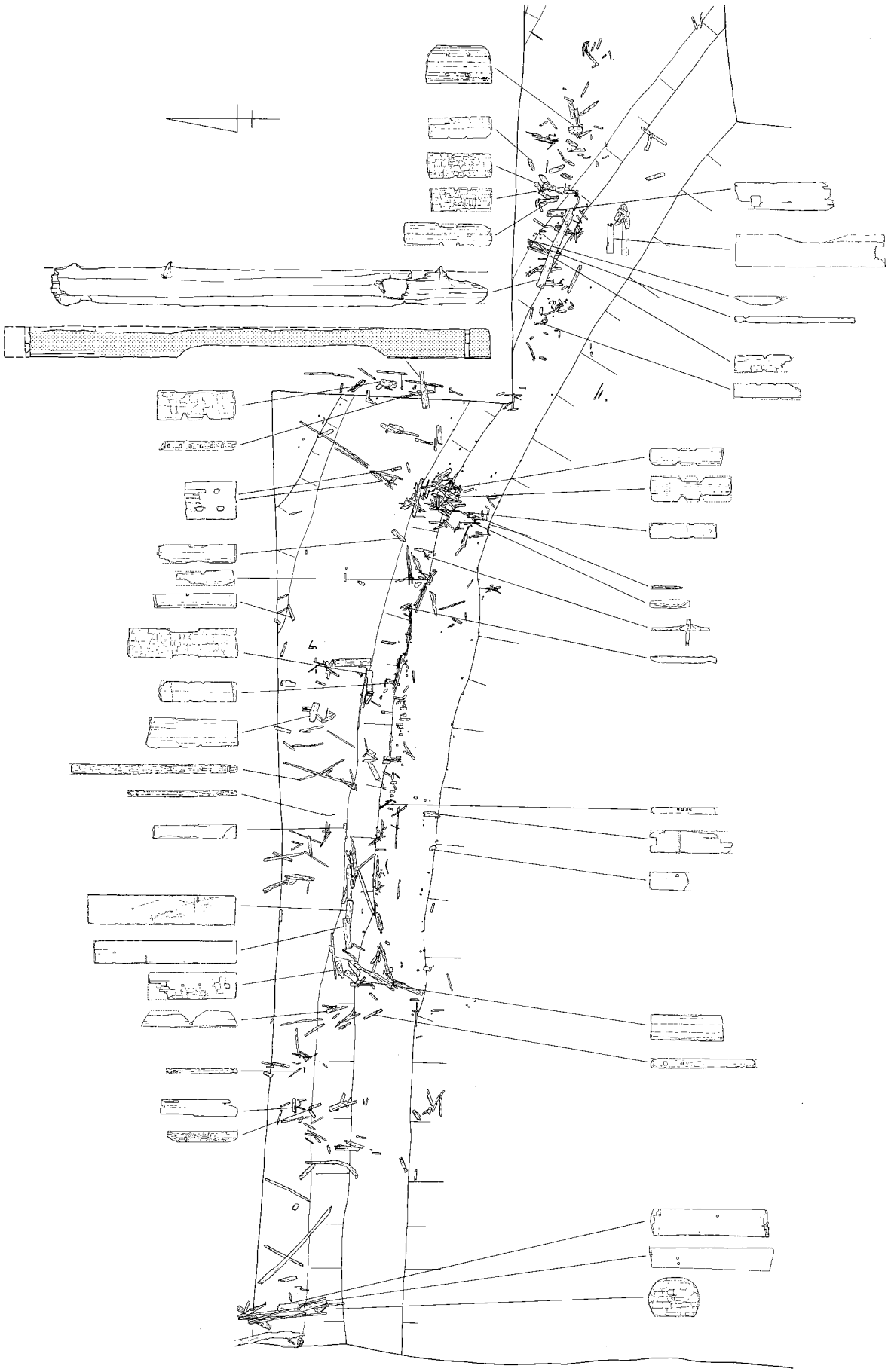


27．第4面木器出土状況③（1/80）

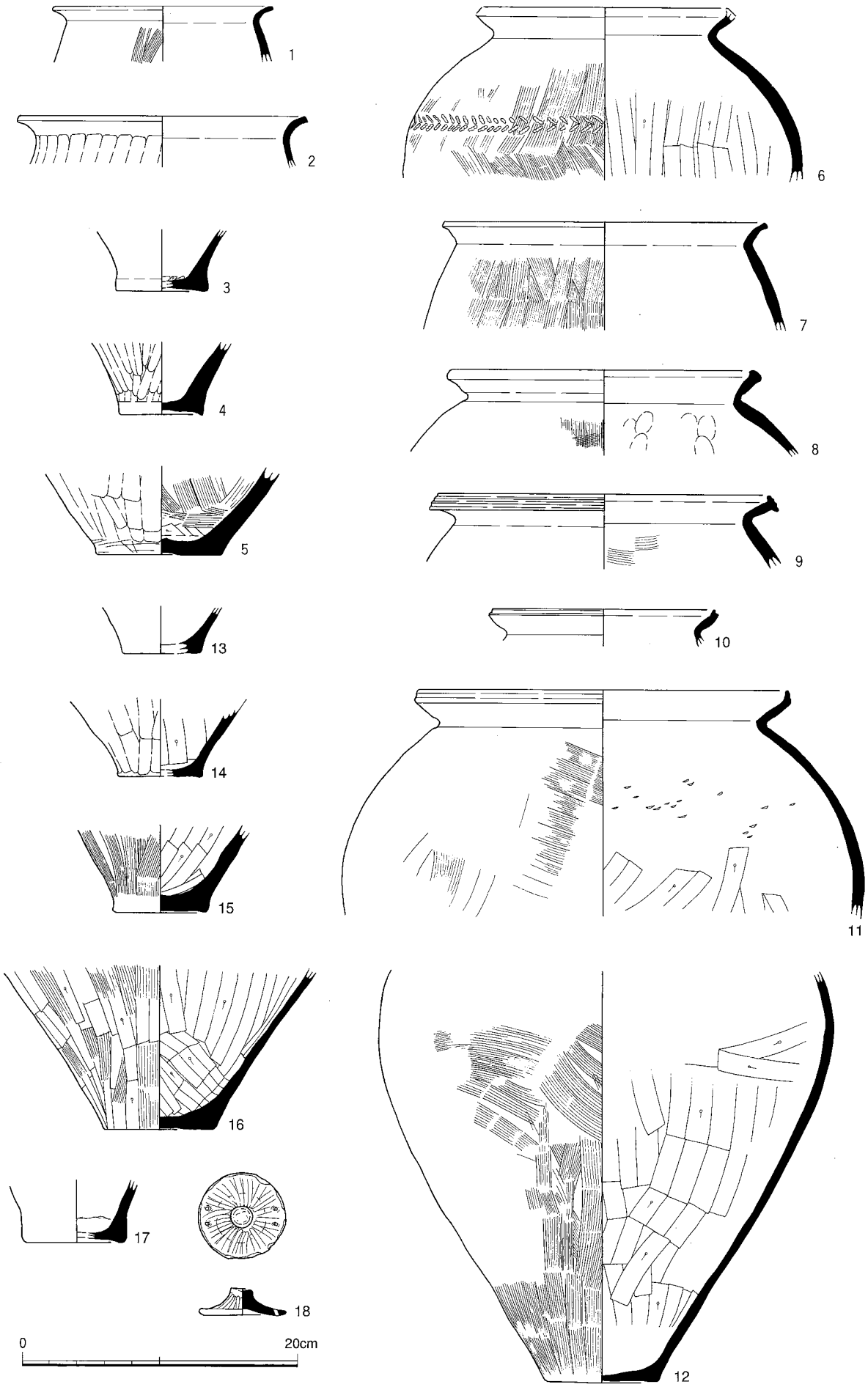
28. 第4面木器出土状況④（1/80）



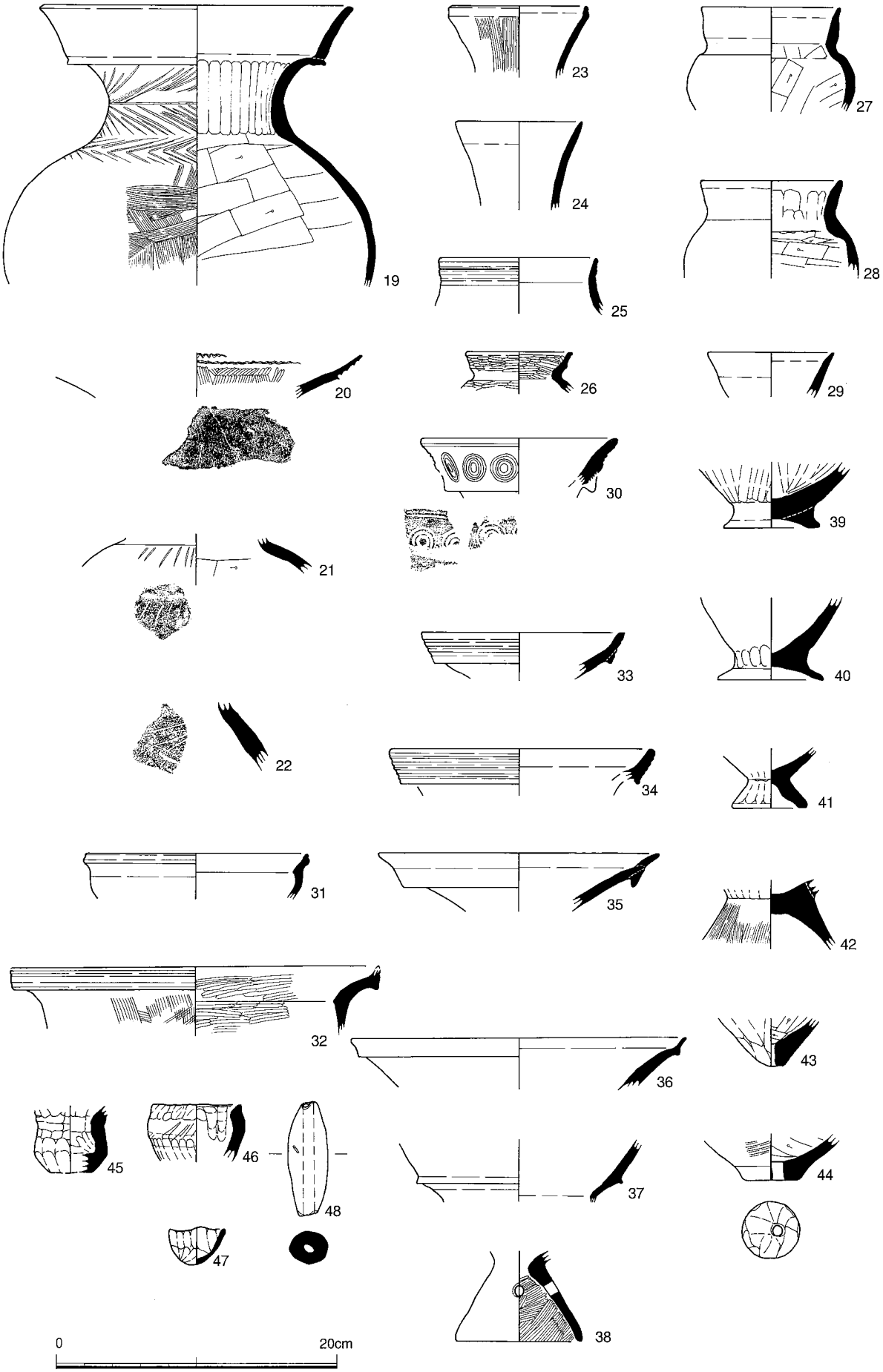
29. 第4面木器出土状況と木器①（1/160・1/32）



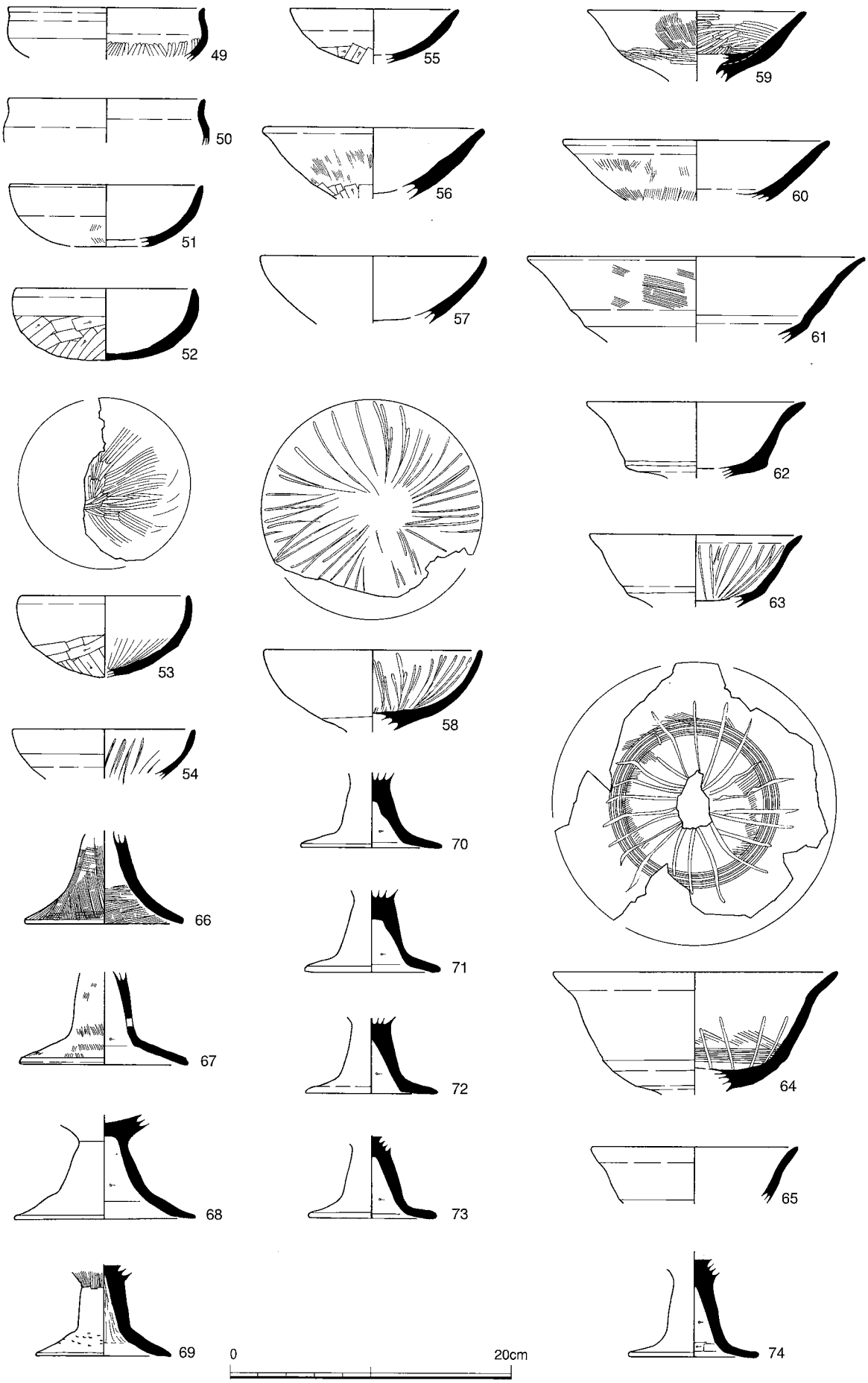
30．第4面木器出土状況と木器②（1/60・1/32）



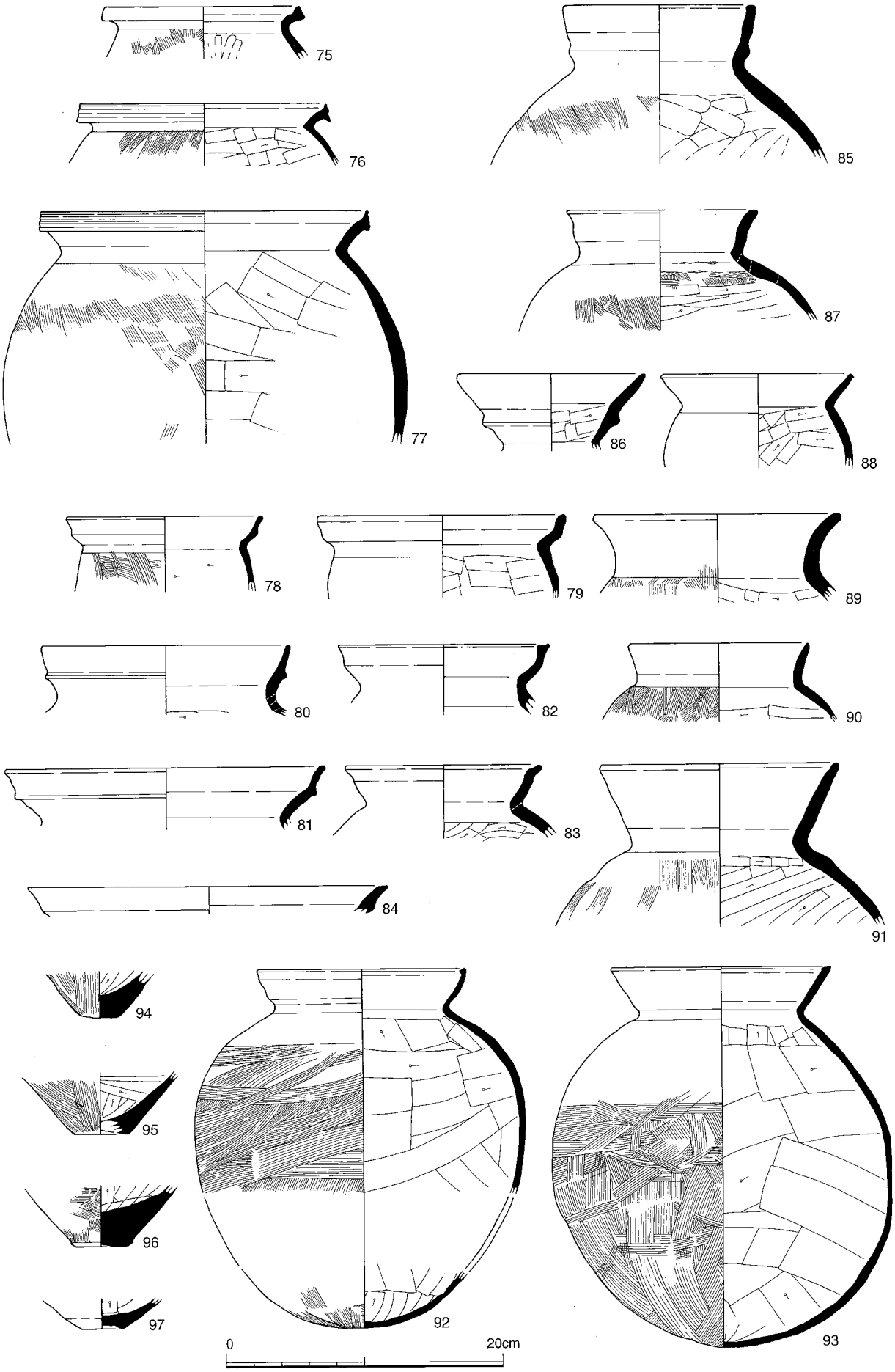
土器1　弥生土器（1～18）



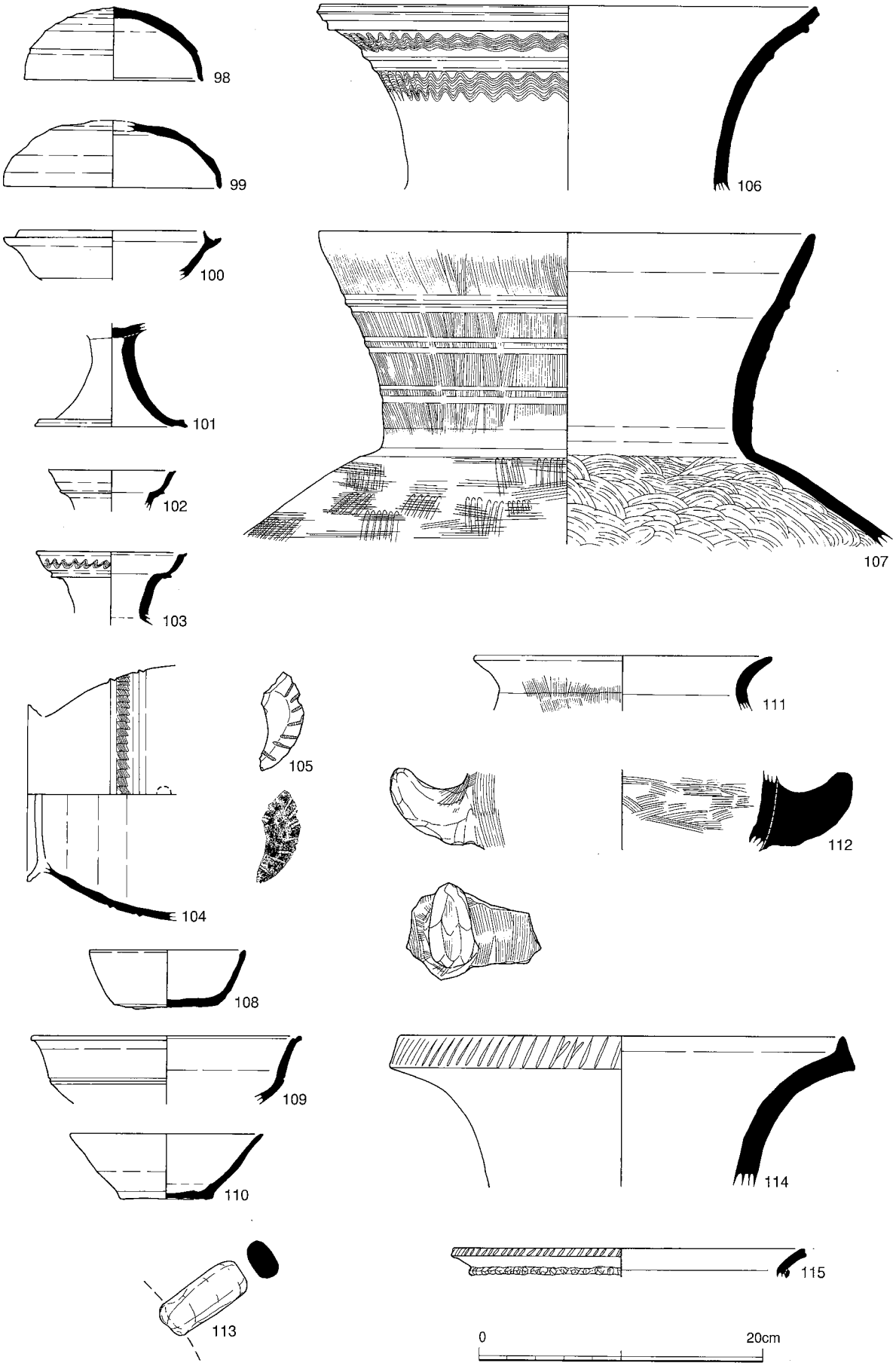
土器2　壺・器台他（19～48）


49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
0
20cm

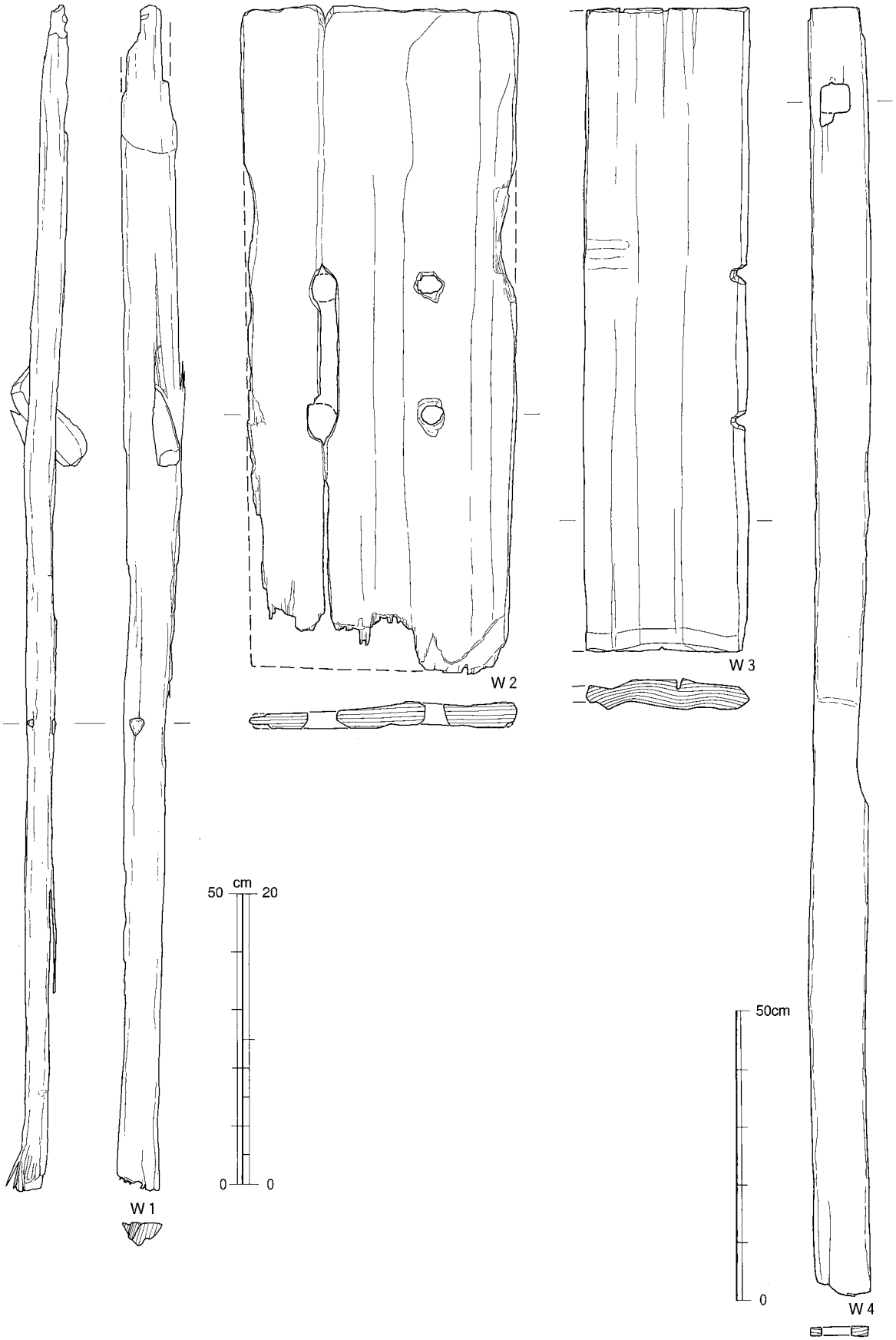
土器3　高坏・椀（49～74）


75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
0
20cm

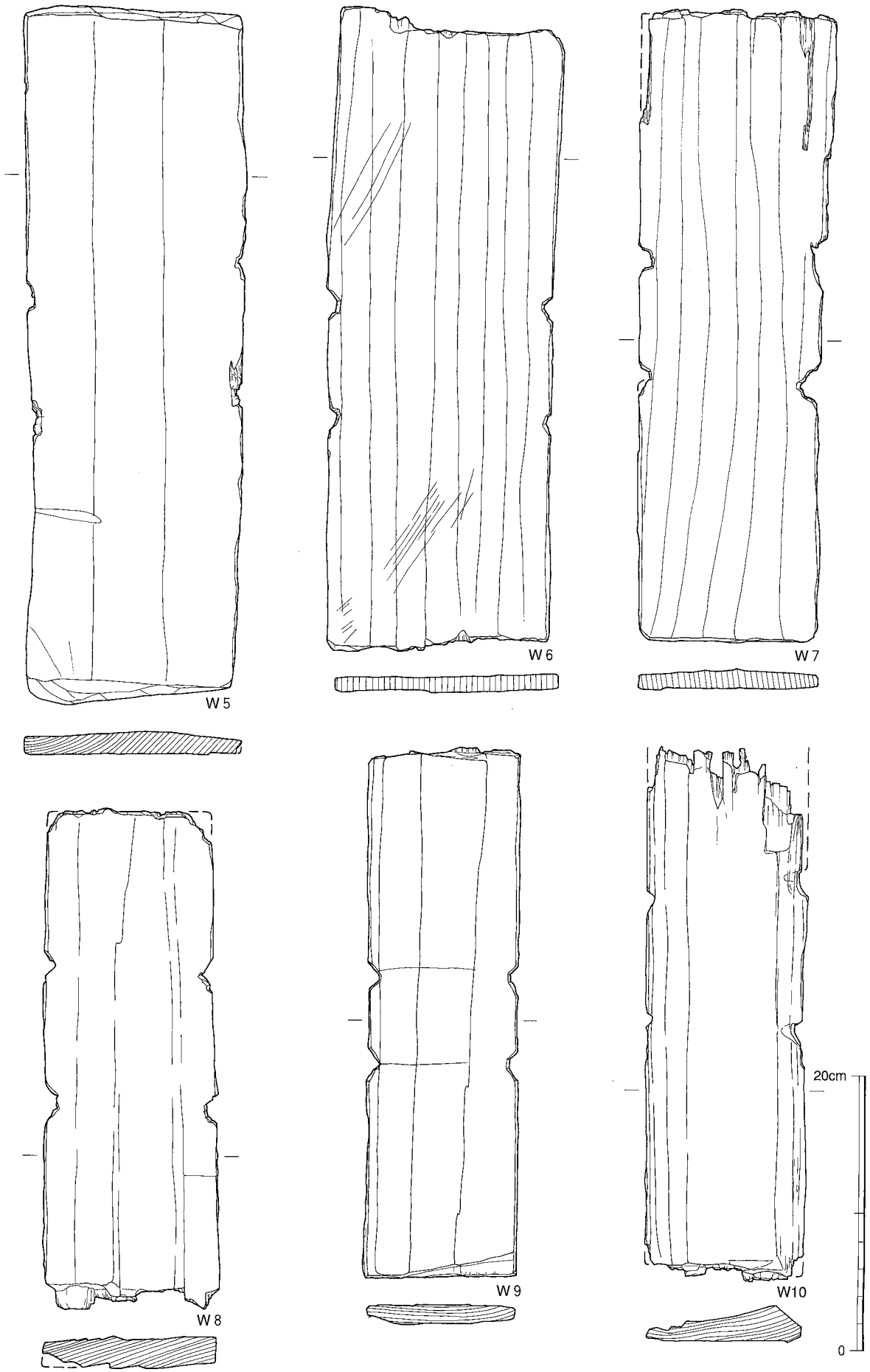
土器4　甕（75～97）



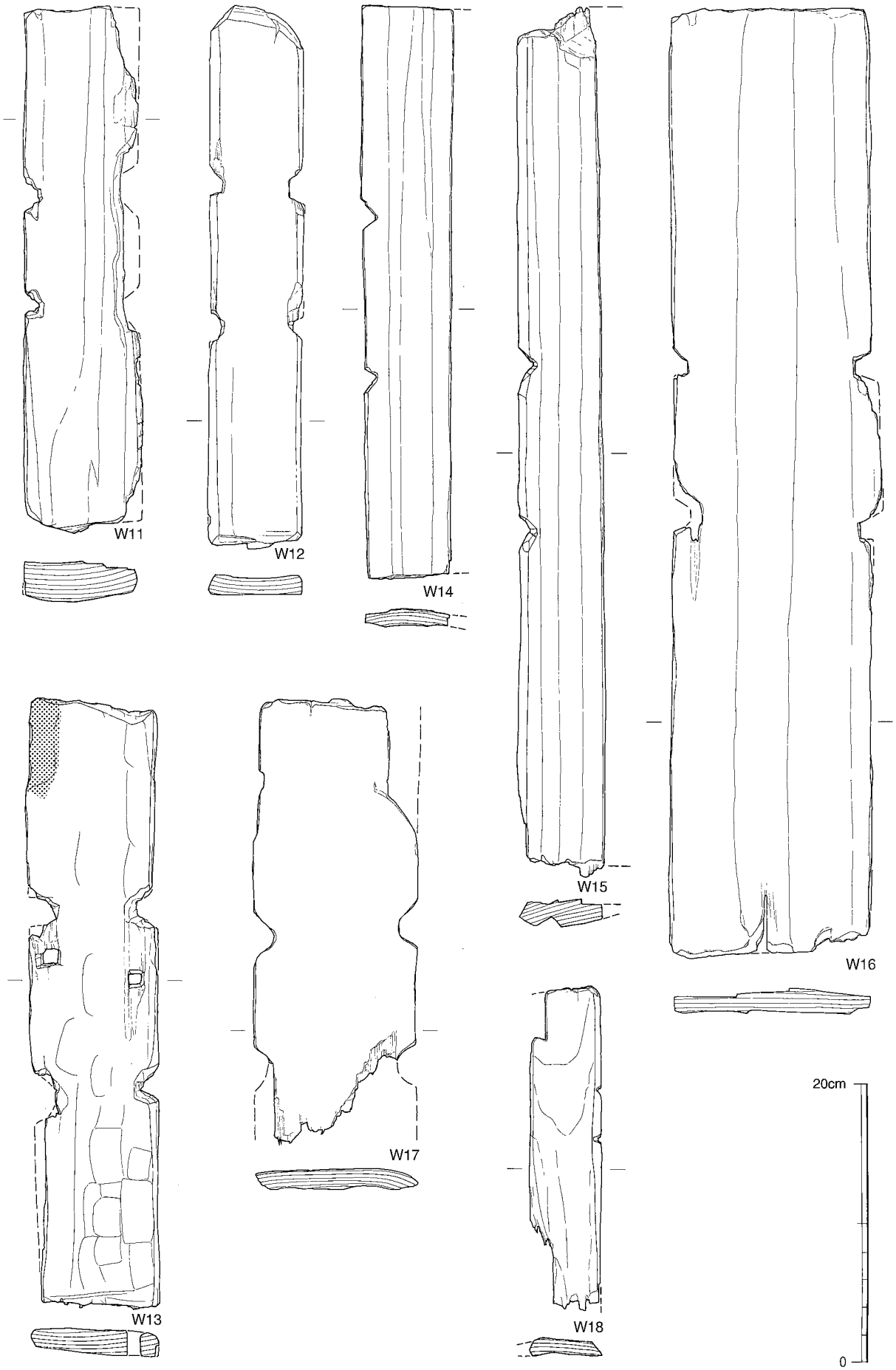
土器5　須恵器他（98～115）



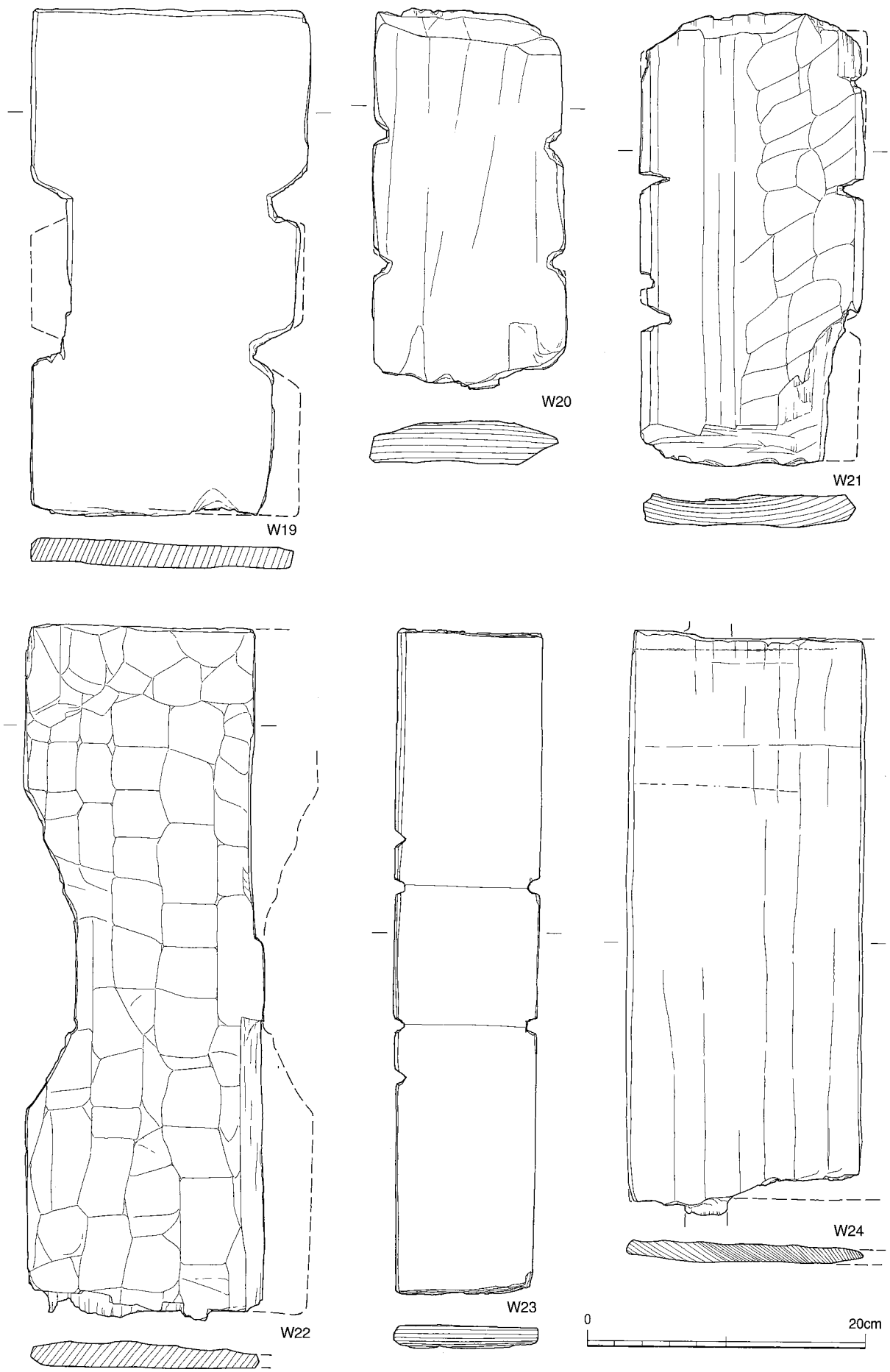
木器1　SD31その他（W1～W4）



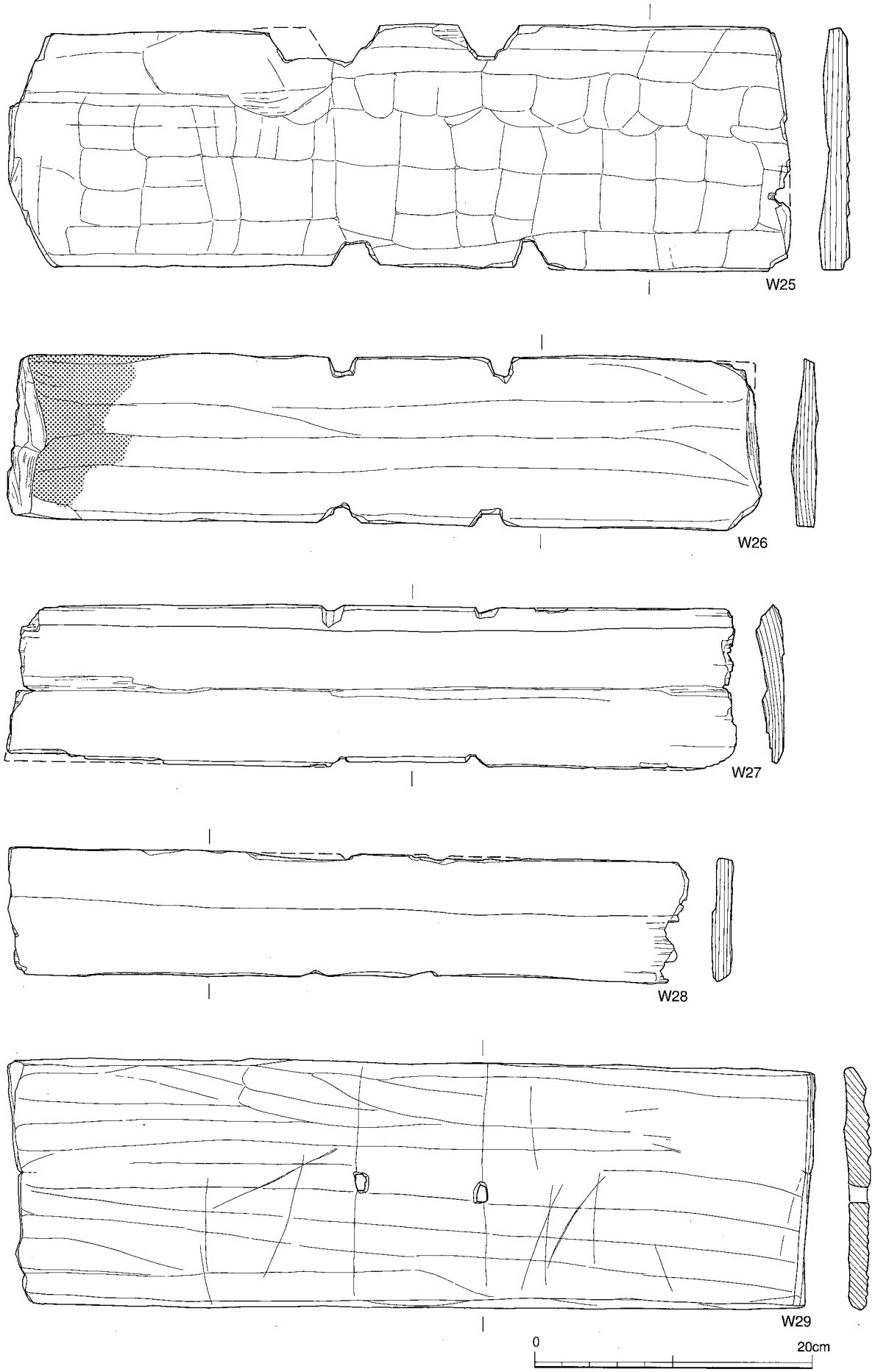
木器2　SR42①（W5～W10）



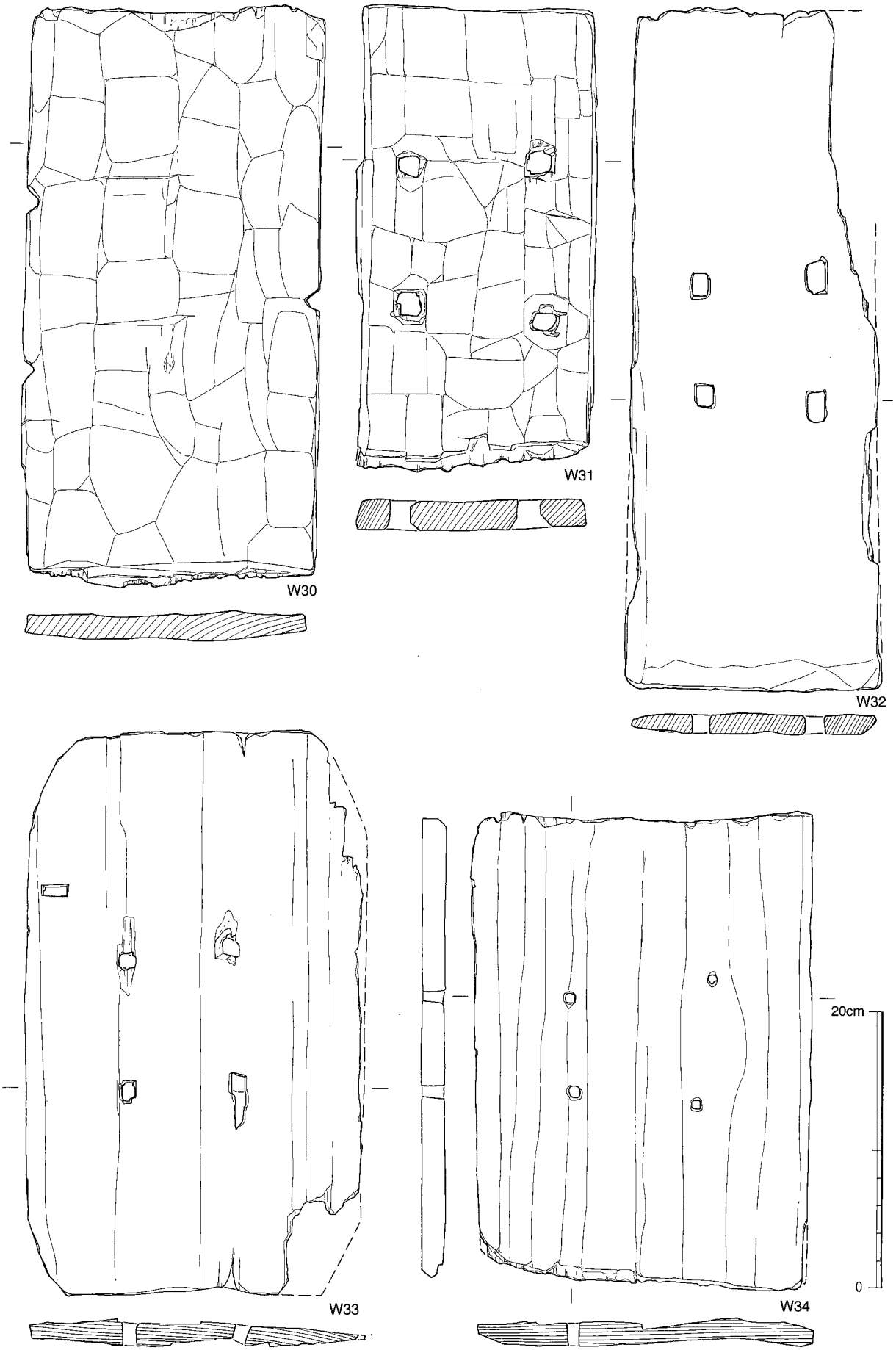
木器3　SR42②（W11～18）



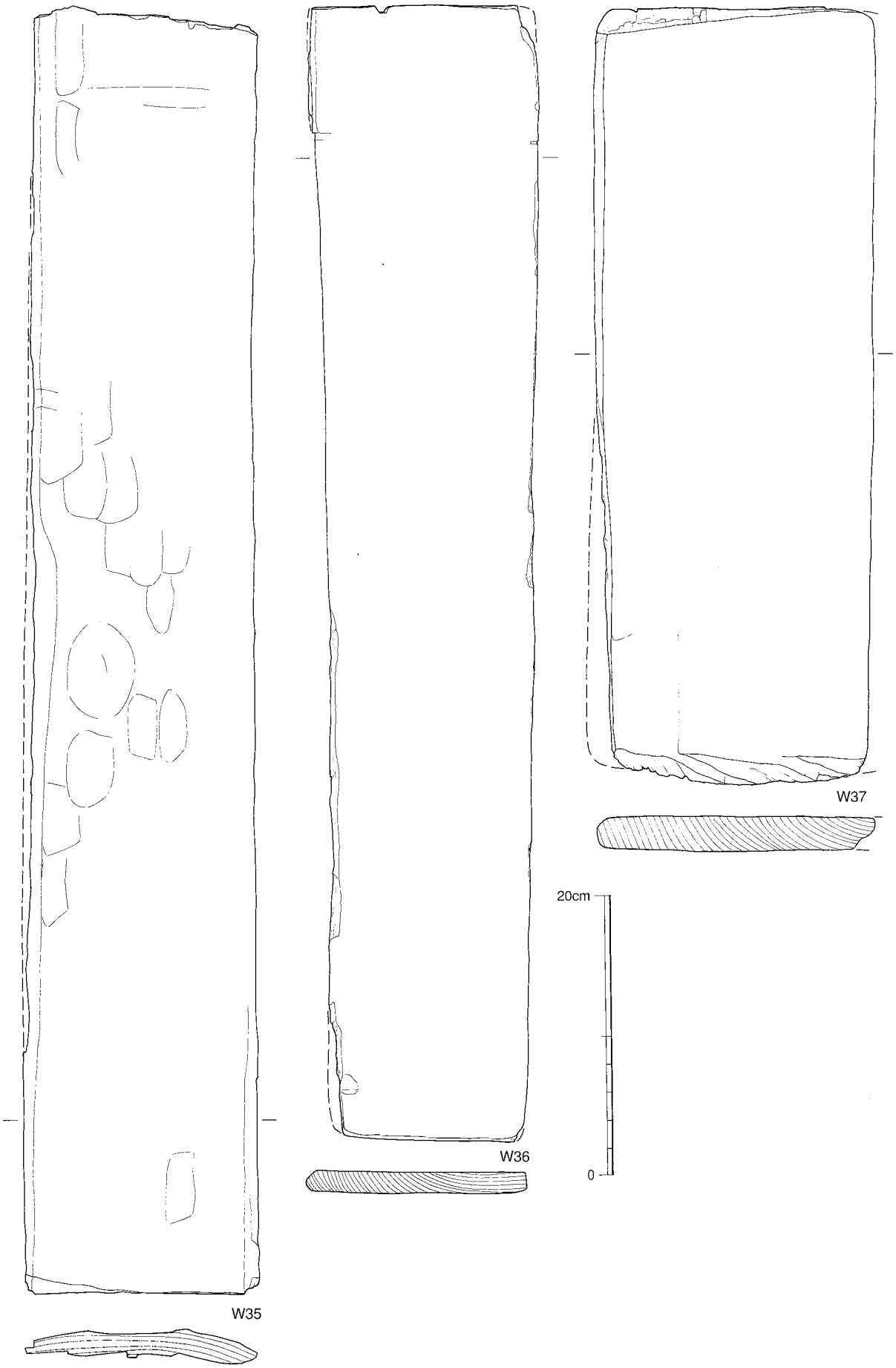
木器4　SR42③（W19～W24）



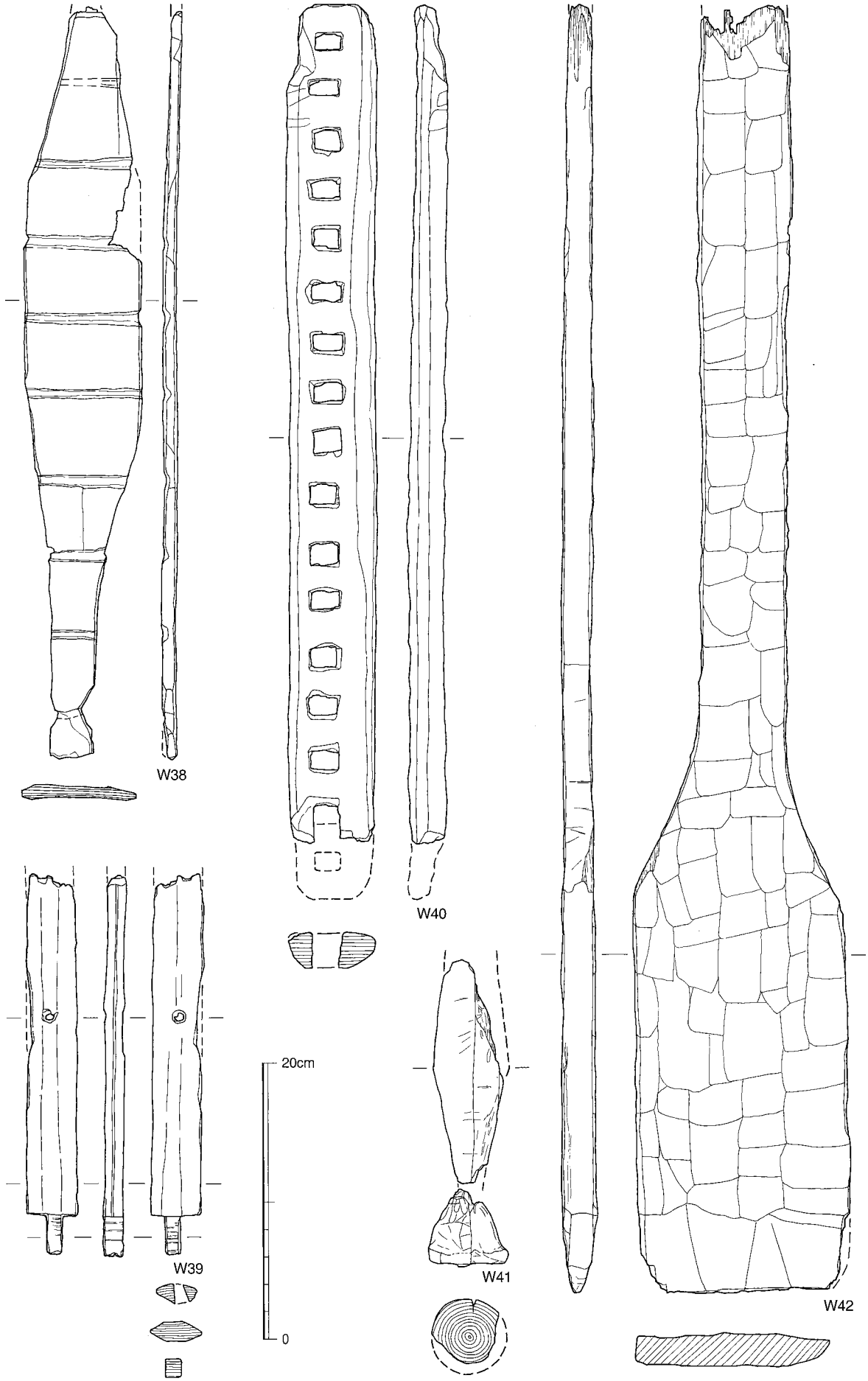
木器5　SR42④（W25～W29）



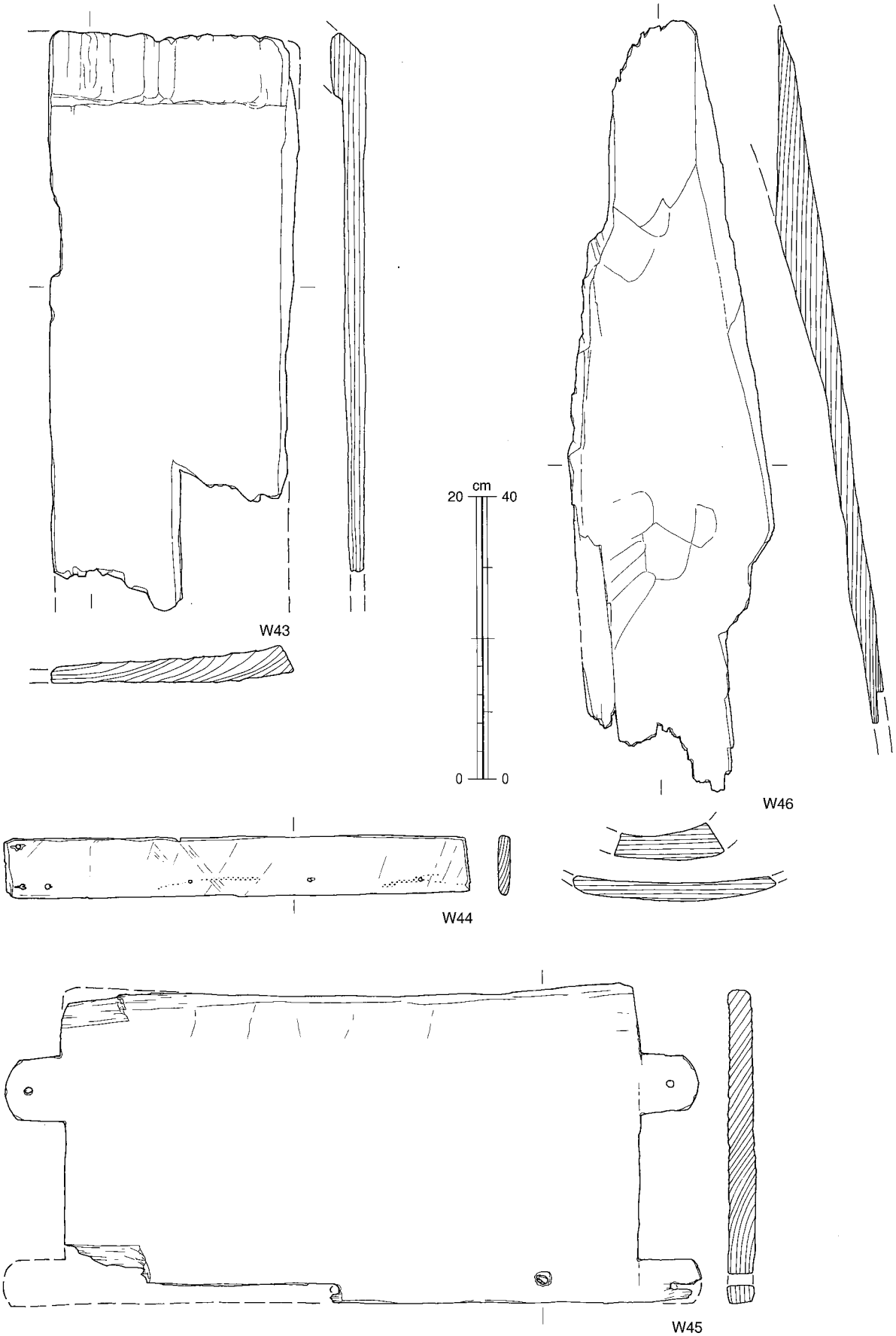
木器6　SR42⑤（W30～W34）



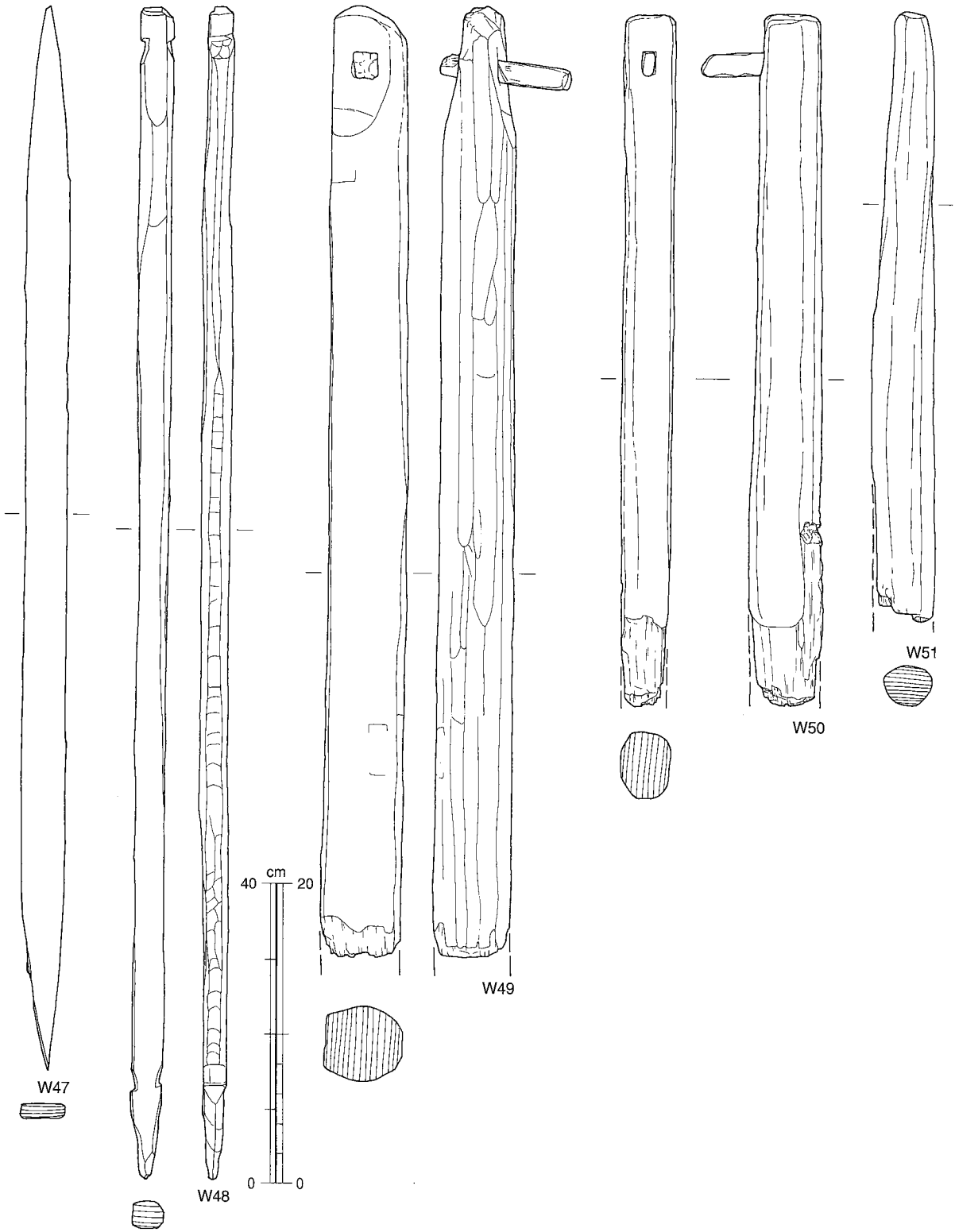
木器7　SR42⑥（W35～W37）



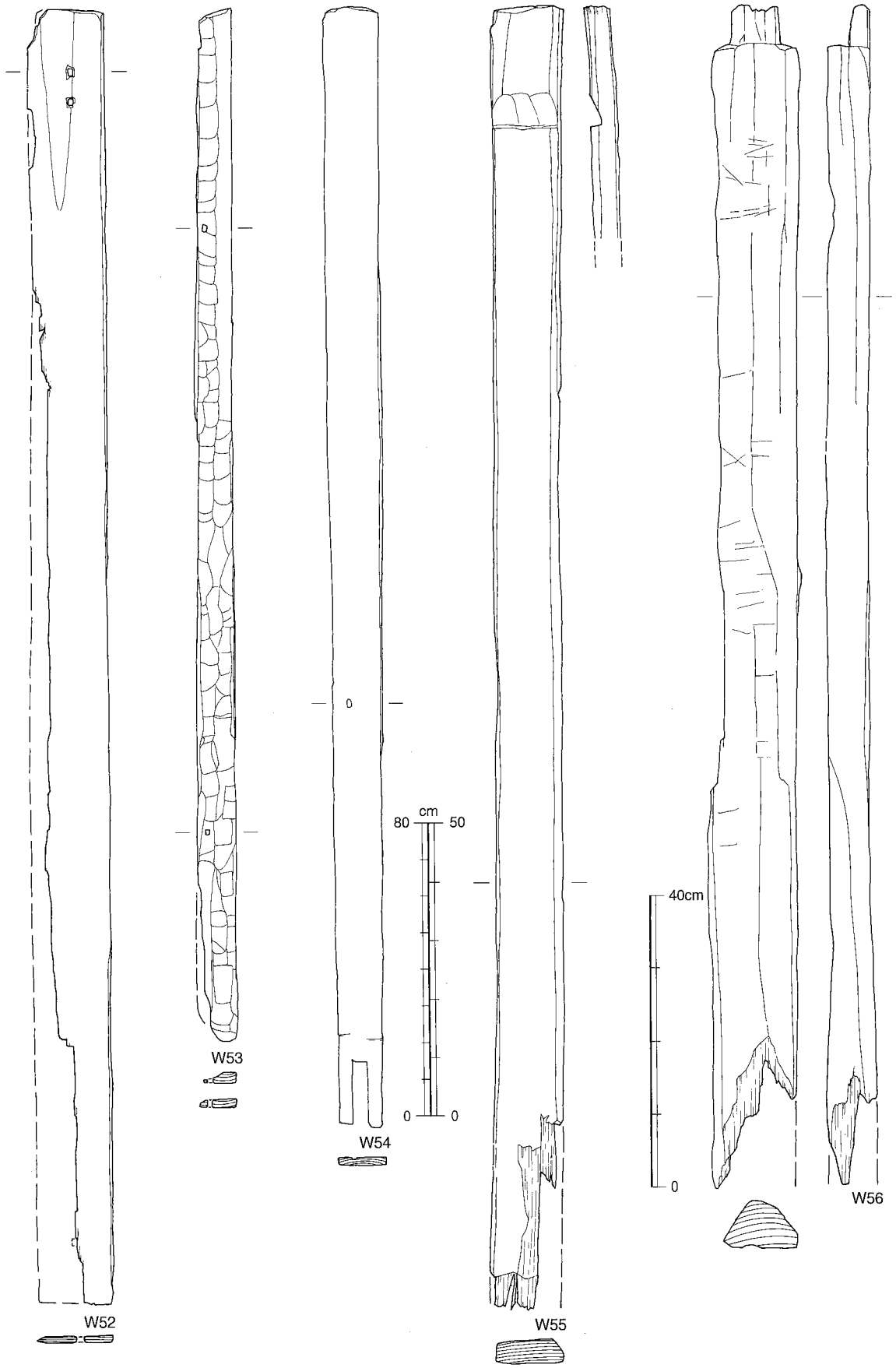
木器8　SR42⑦（W38～W42）



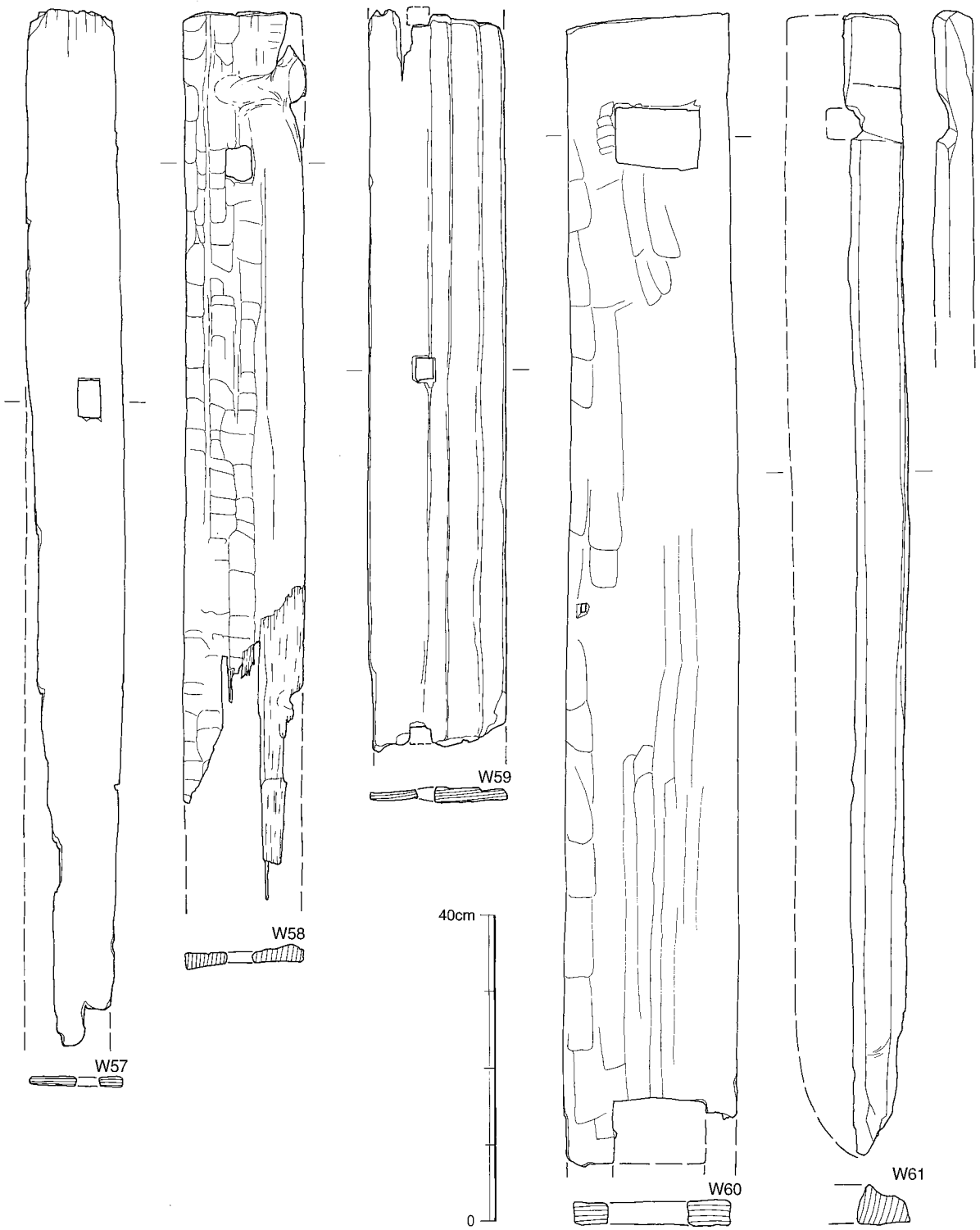
木器9　SR42⑧（W43～W46）



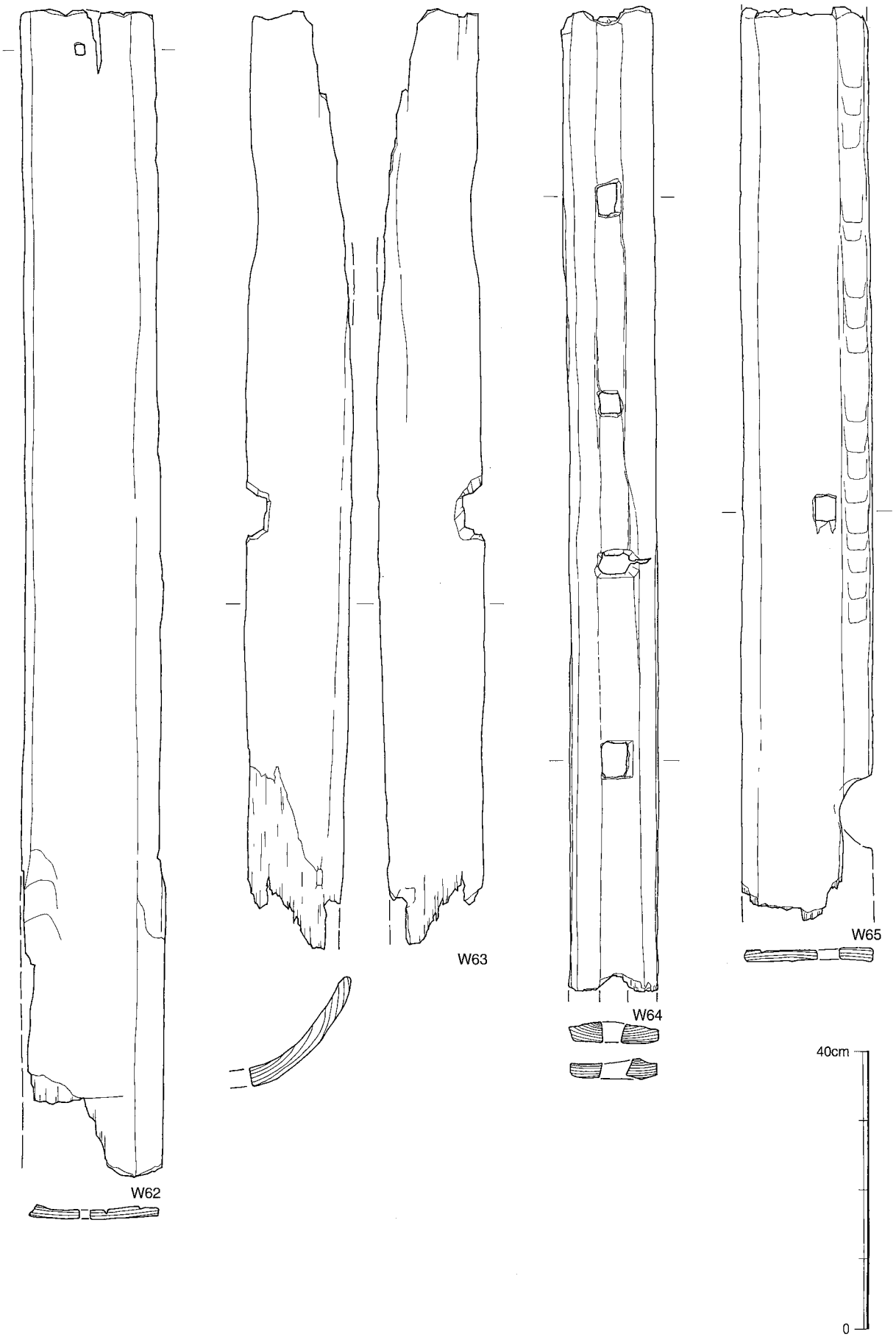
木器10　SR42⑨（W47～W51）



木器11　SR42⑩（W52～W56）

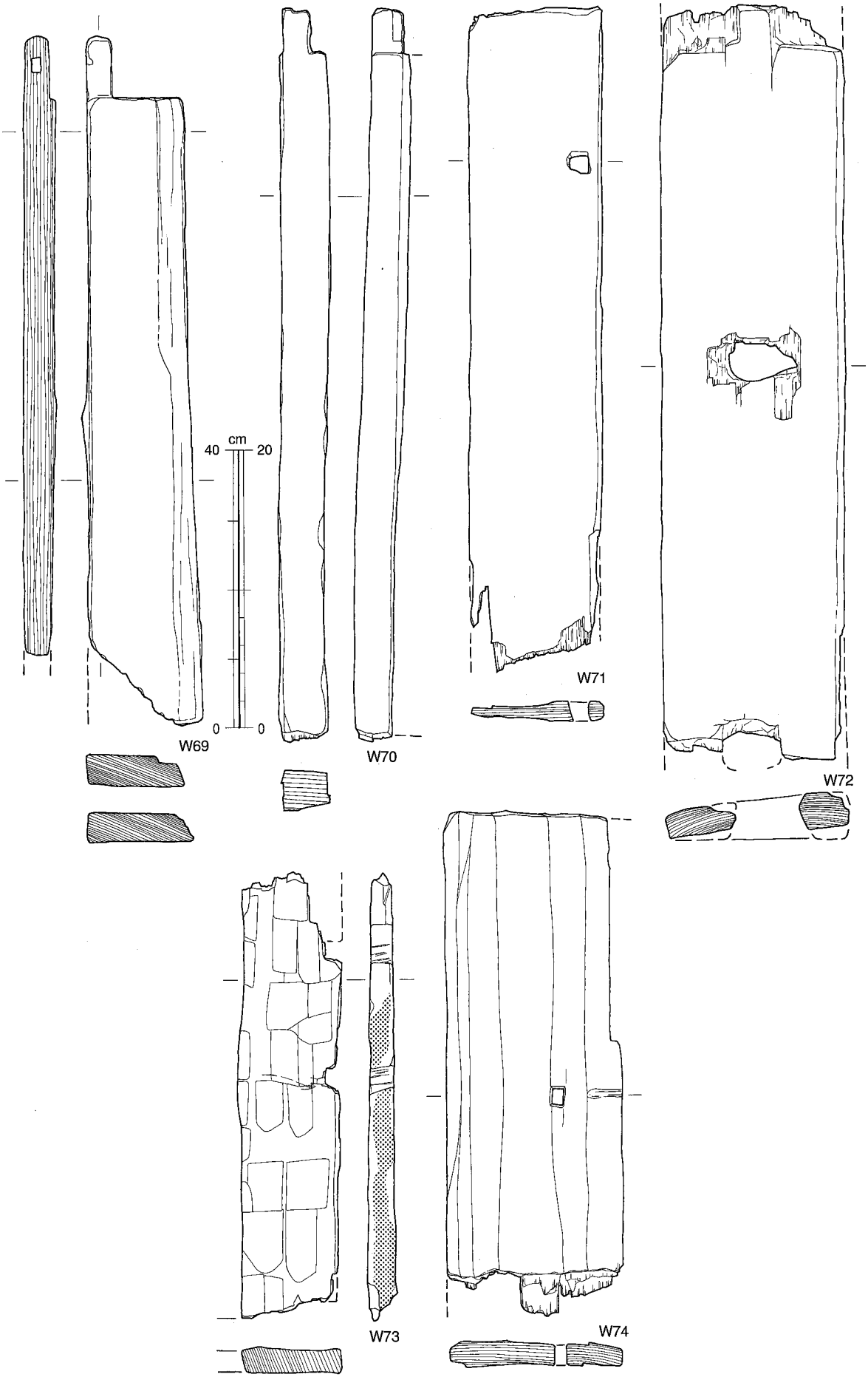


木器12　SR42⑪（W57～W61）

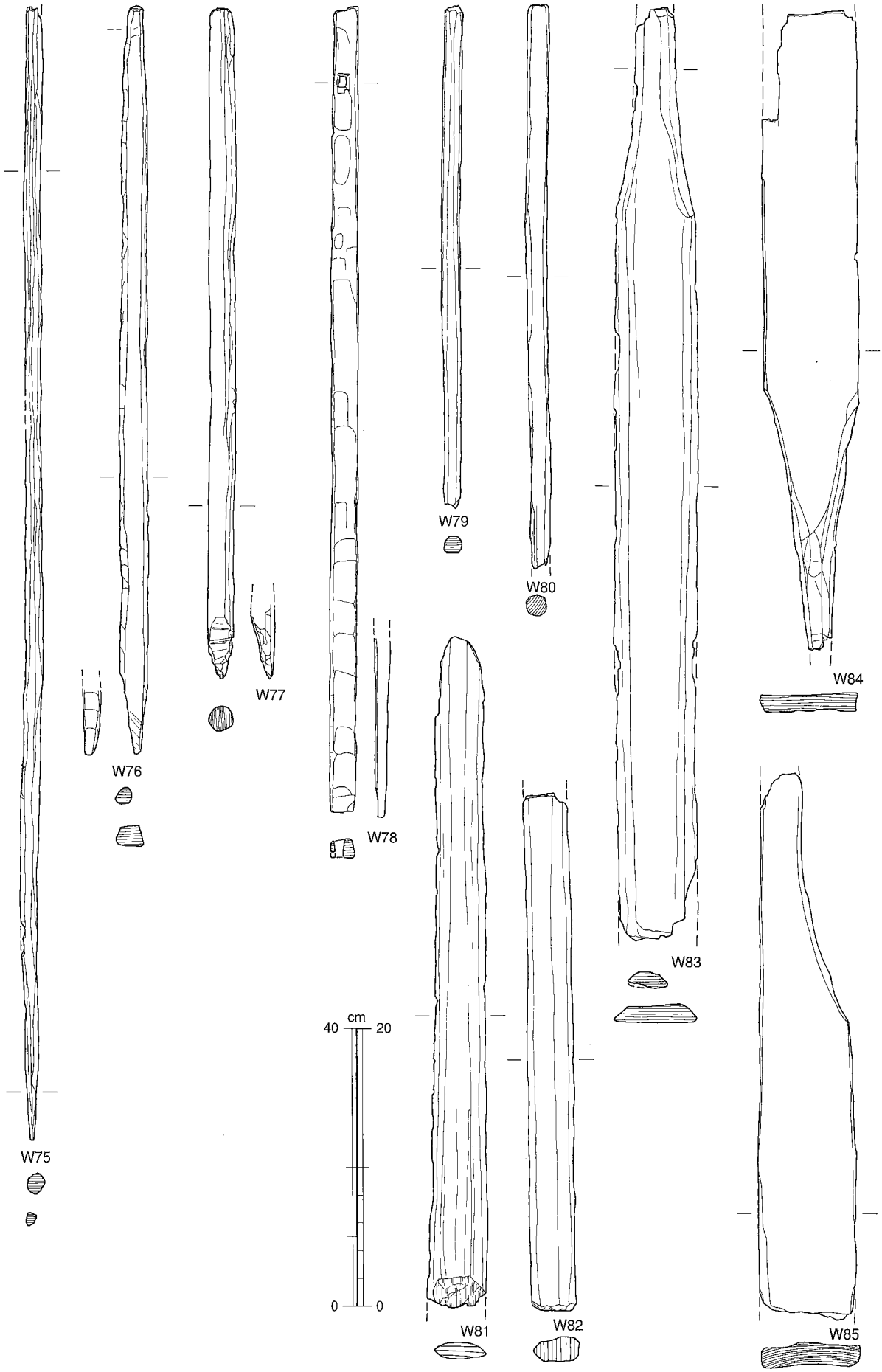


木器13　SR42⑫（W62～W65）

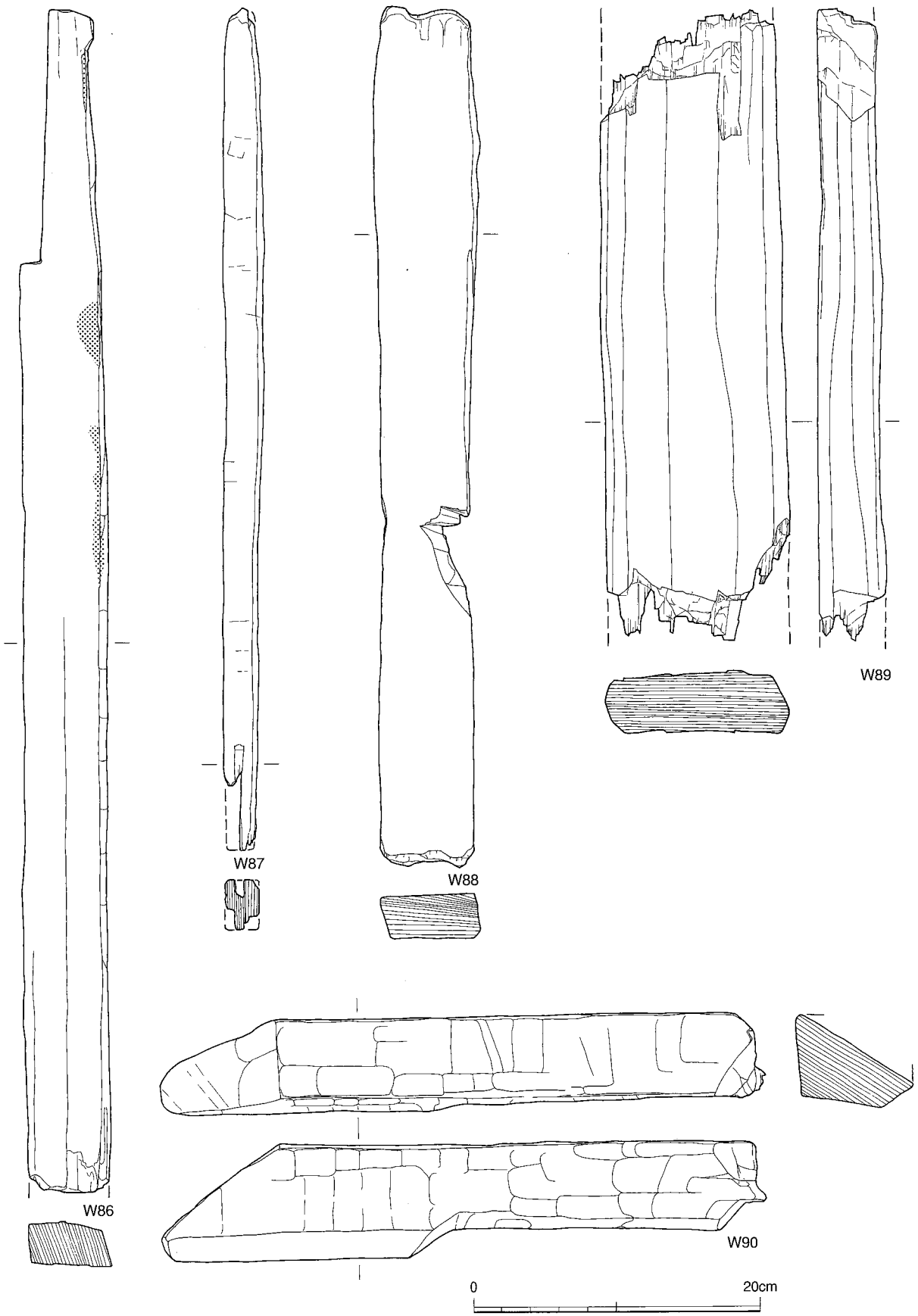
木器14　SR42⑬（W66～W68）



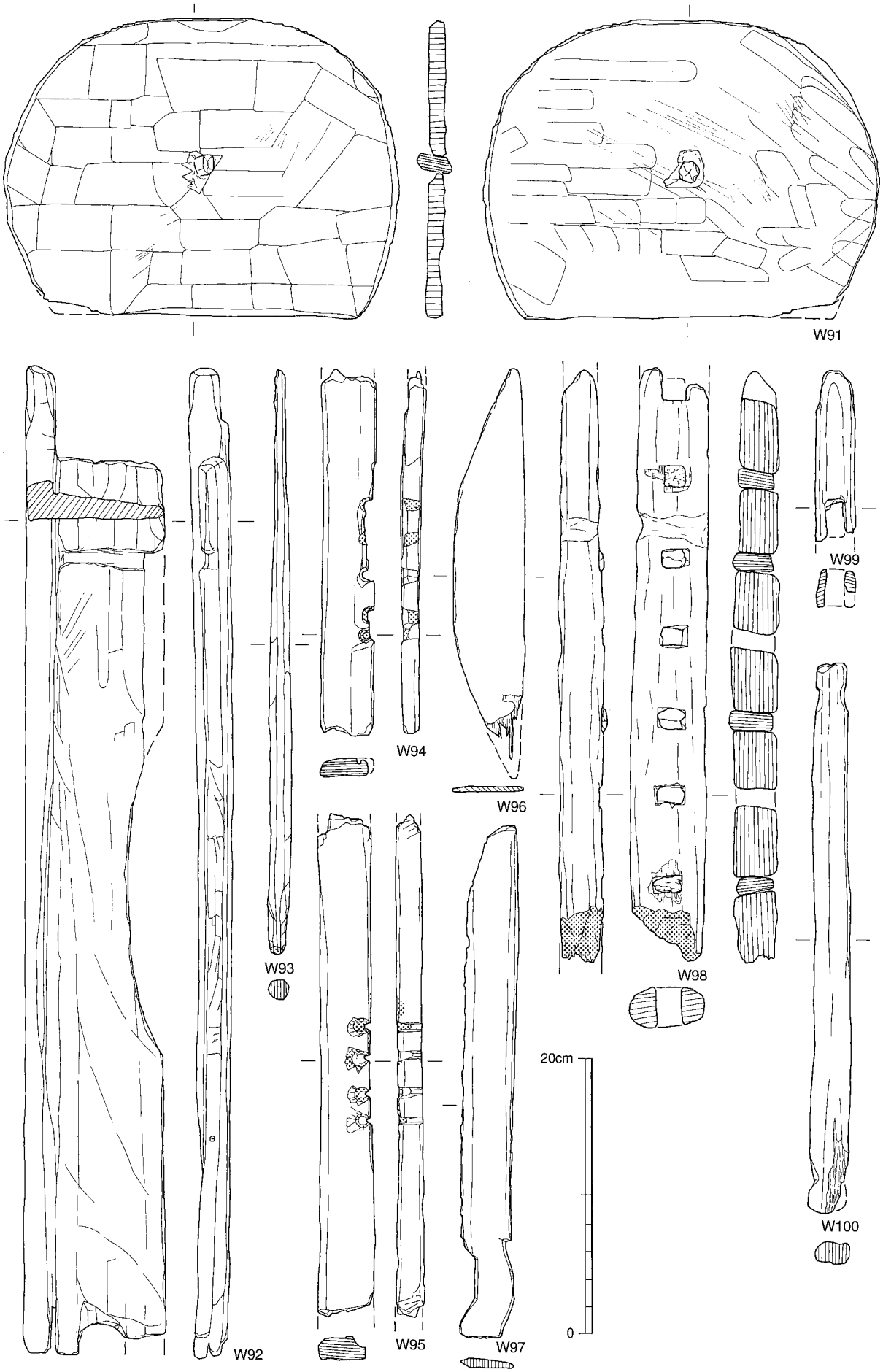
木器15　SR42⑭（W69～W74）



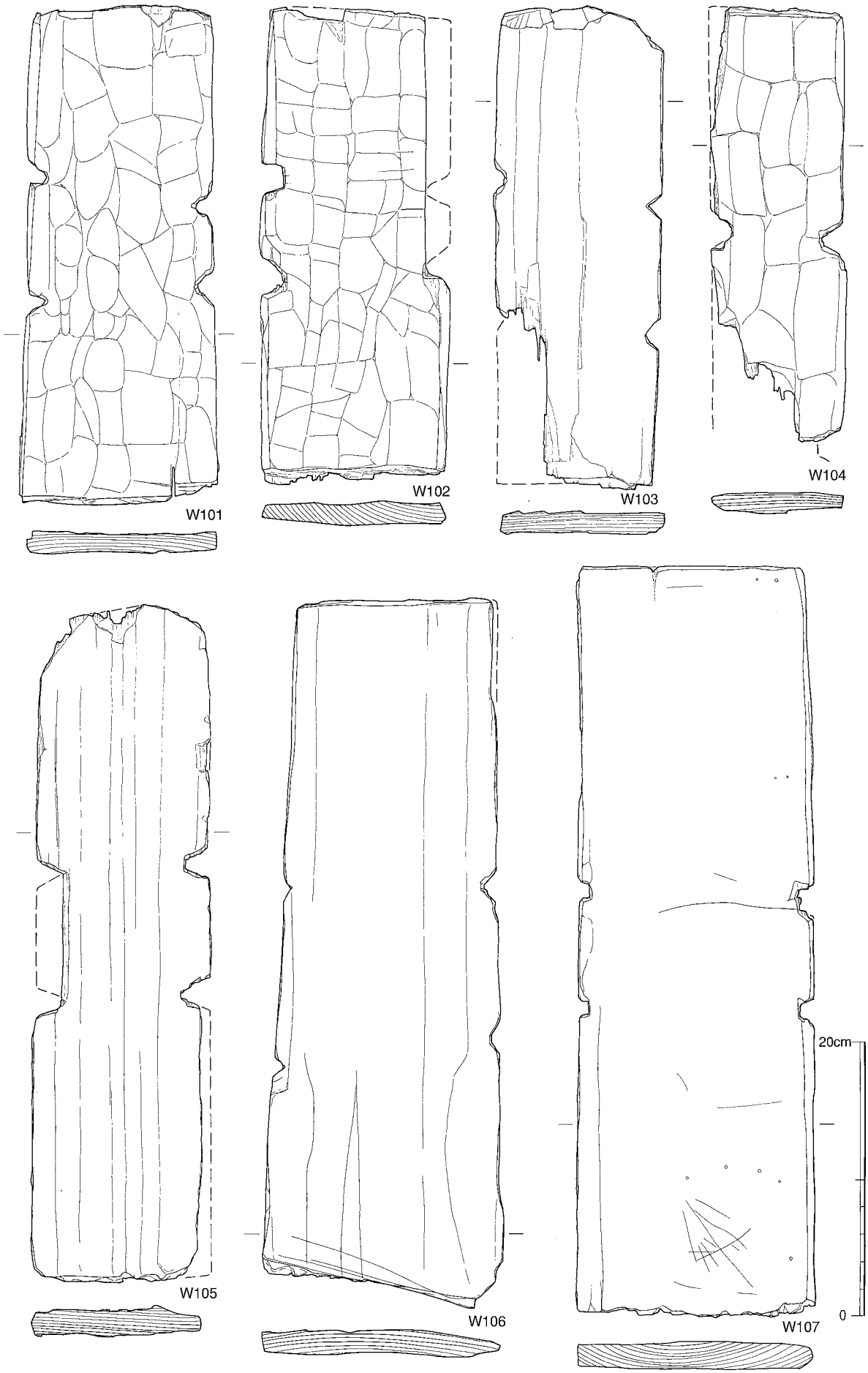
木器16　SR42⑮（W75～W85）



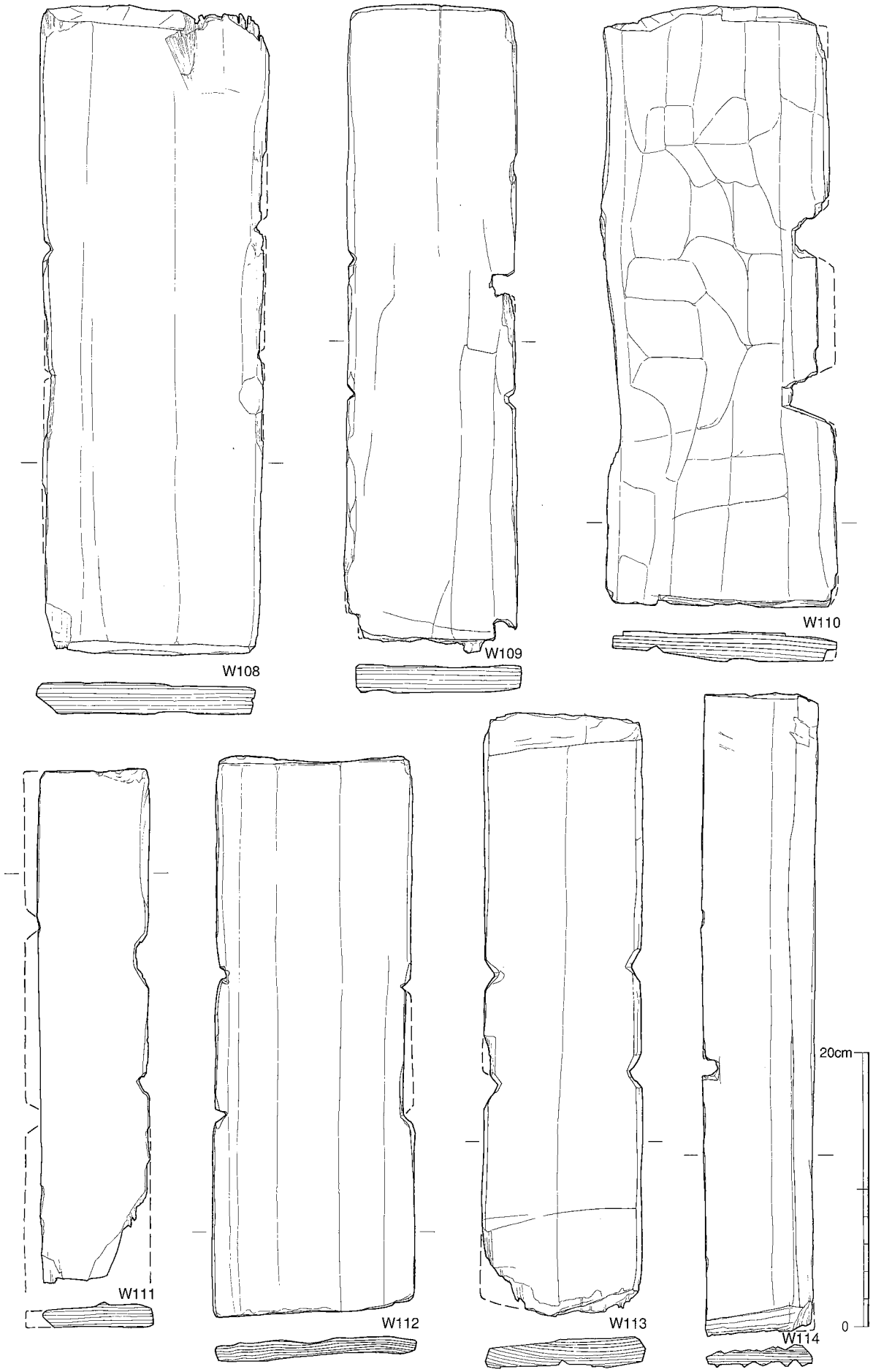
木器17　SR42⑯（W86～W90）



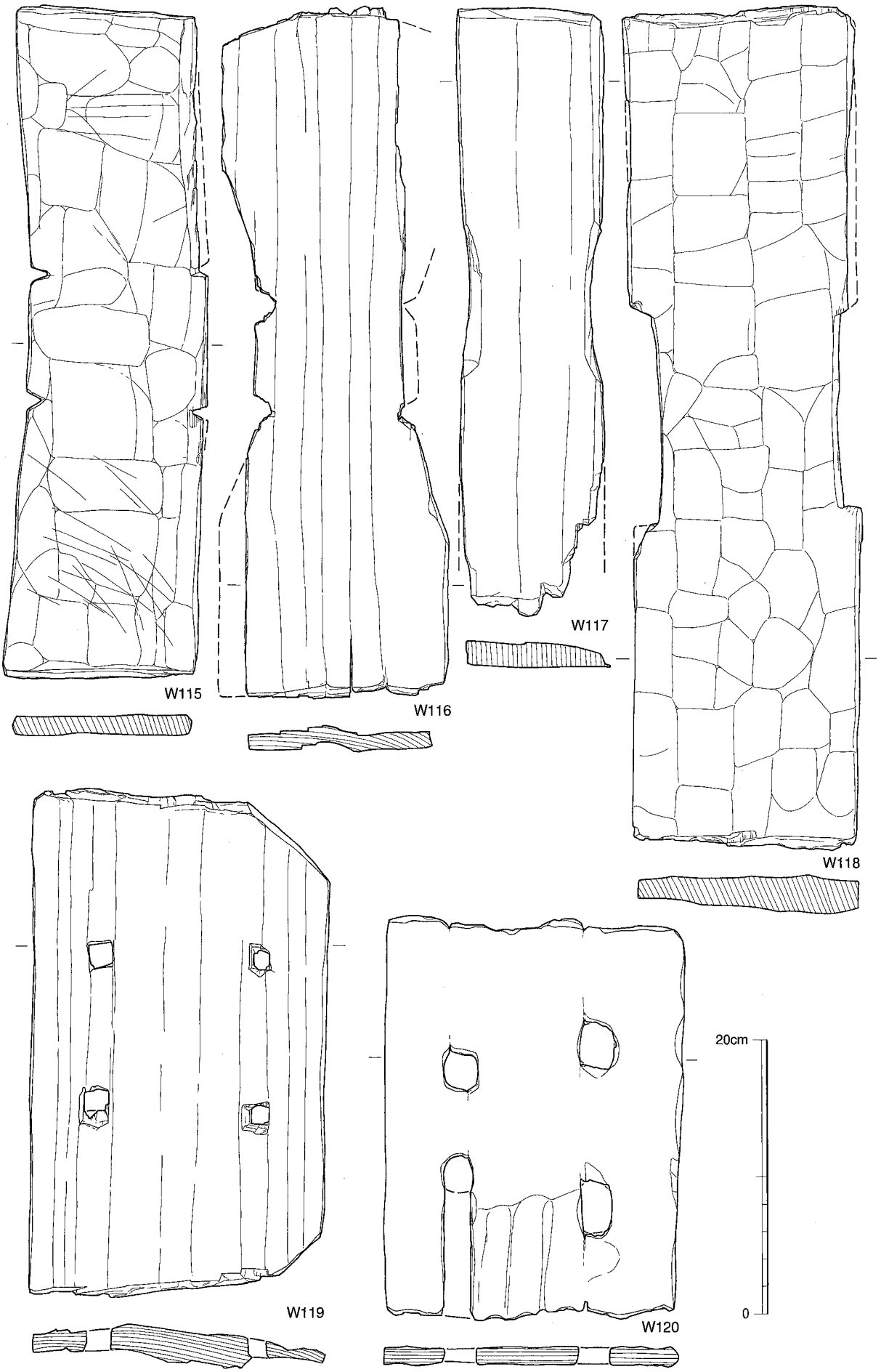
木器18　SD43①（W91～W100）



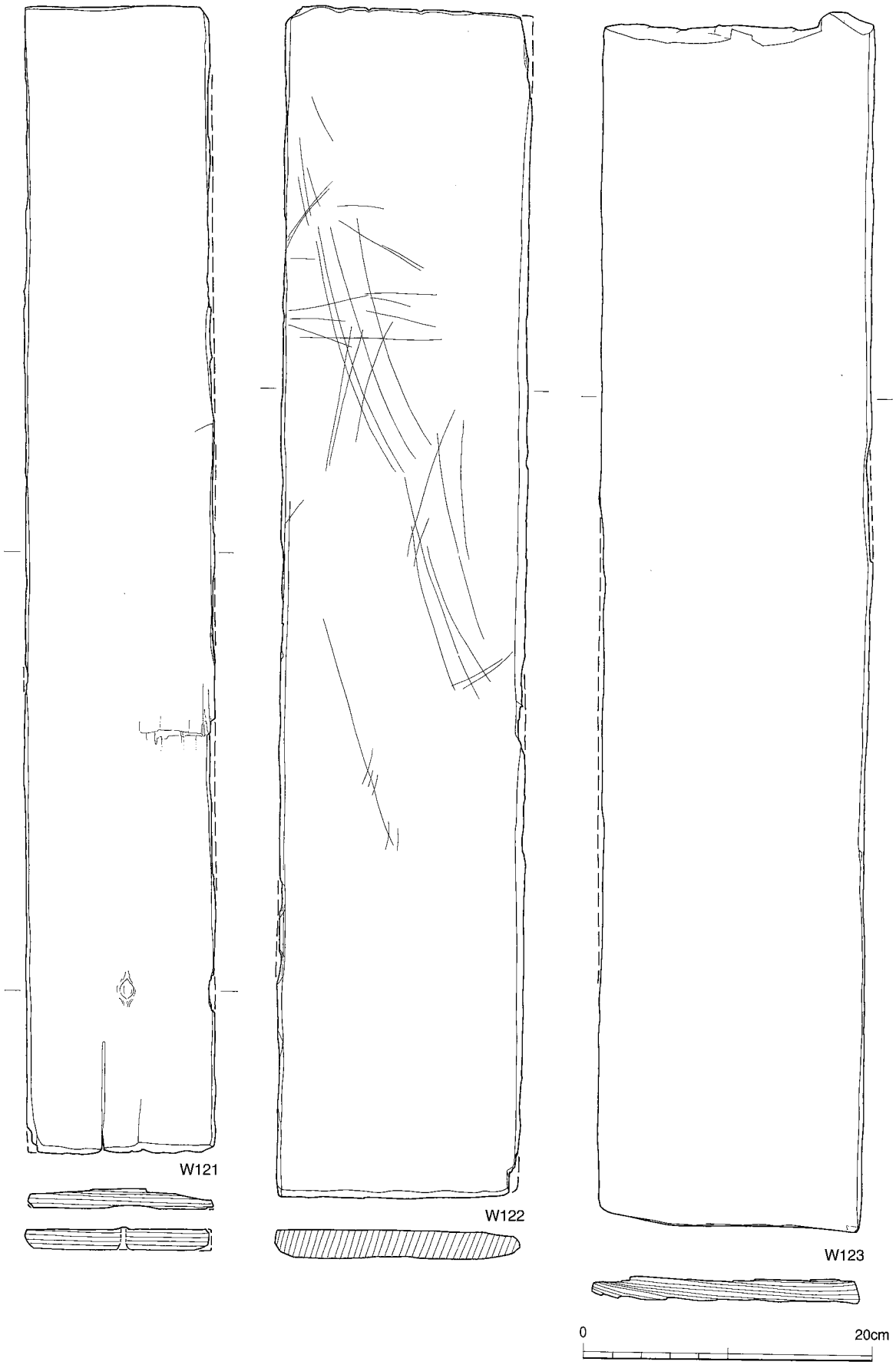
木器19　SD43②（W101～W107）



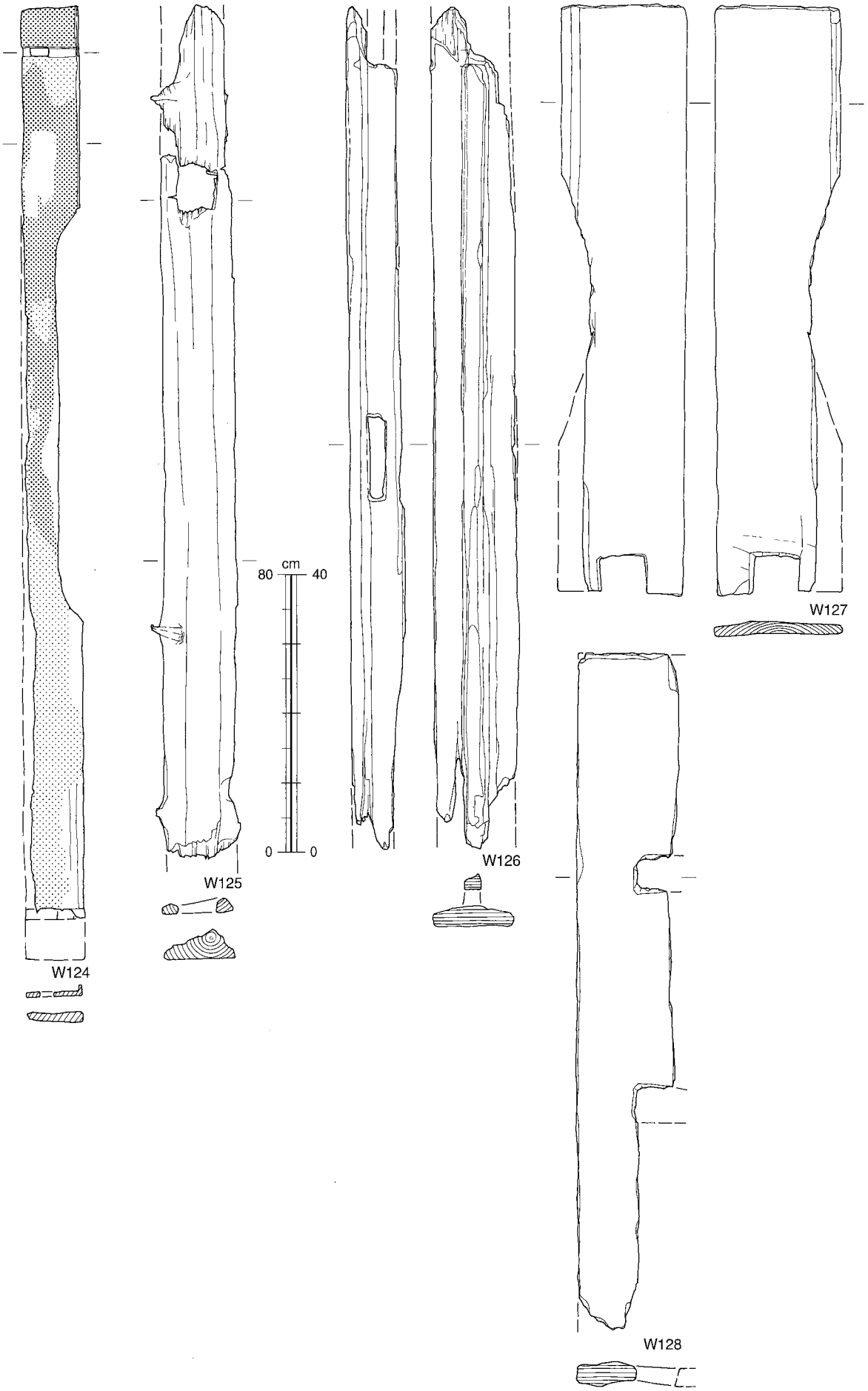
木器20　SD43③（W108～W114）



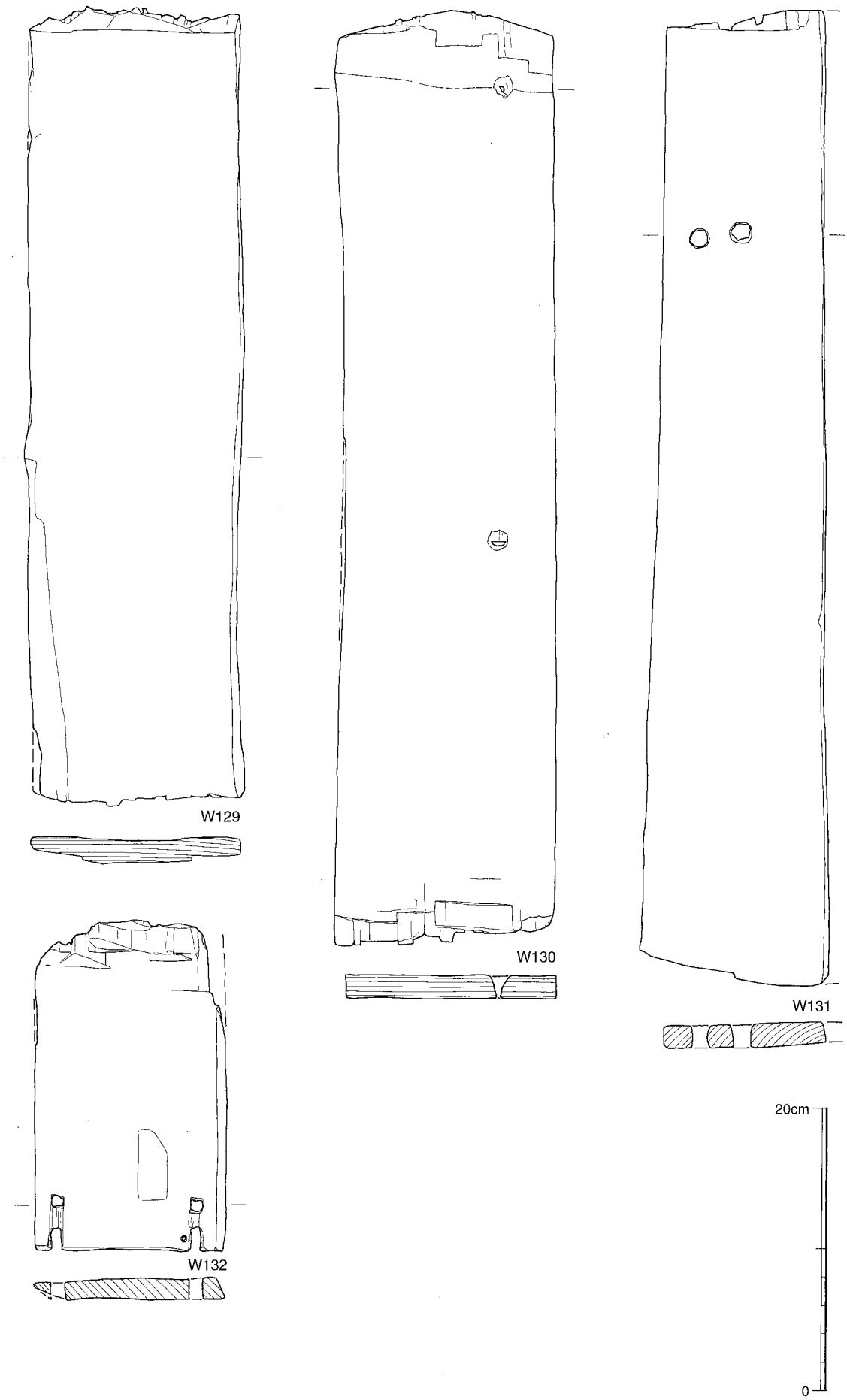
木器21　SD43④（W115～W120）



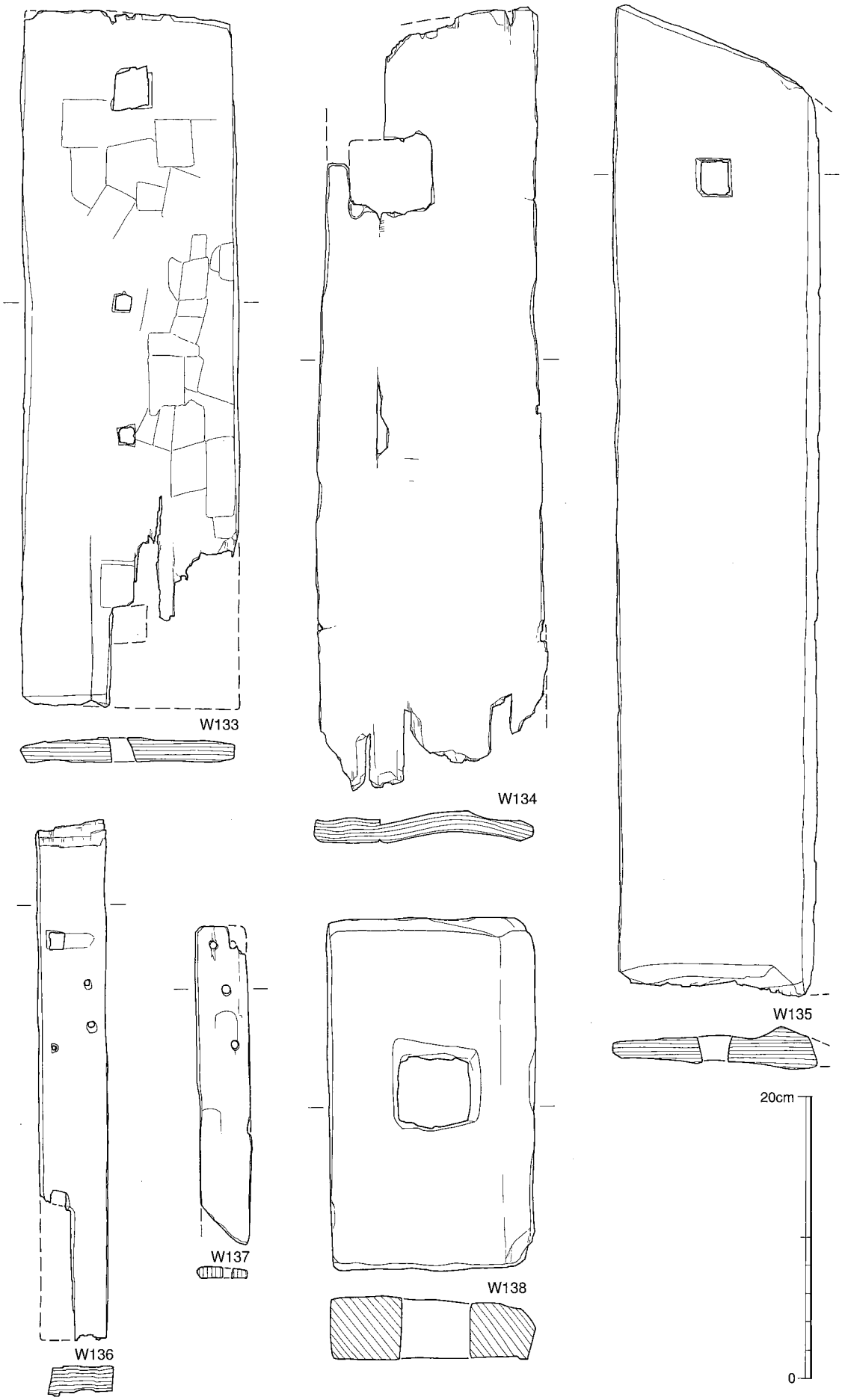
木器22　SD43⑤（W121～W123）



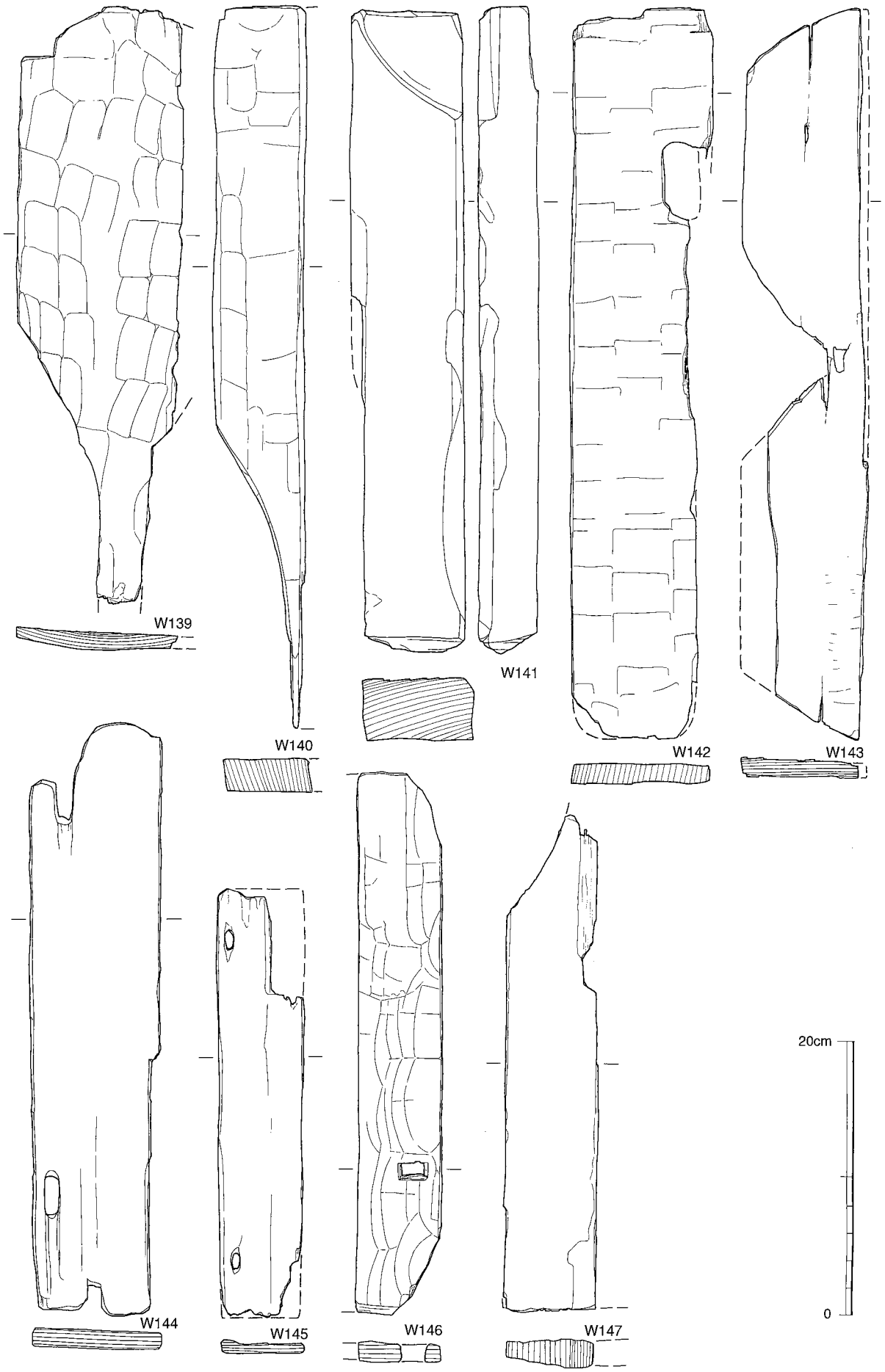
木器23　SD43⑥（W124～W128）



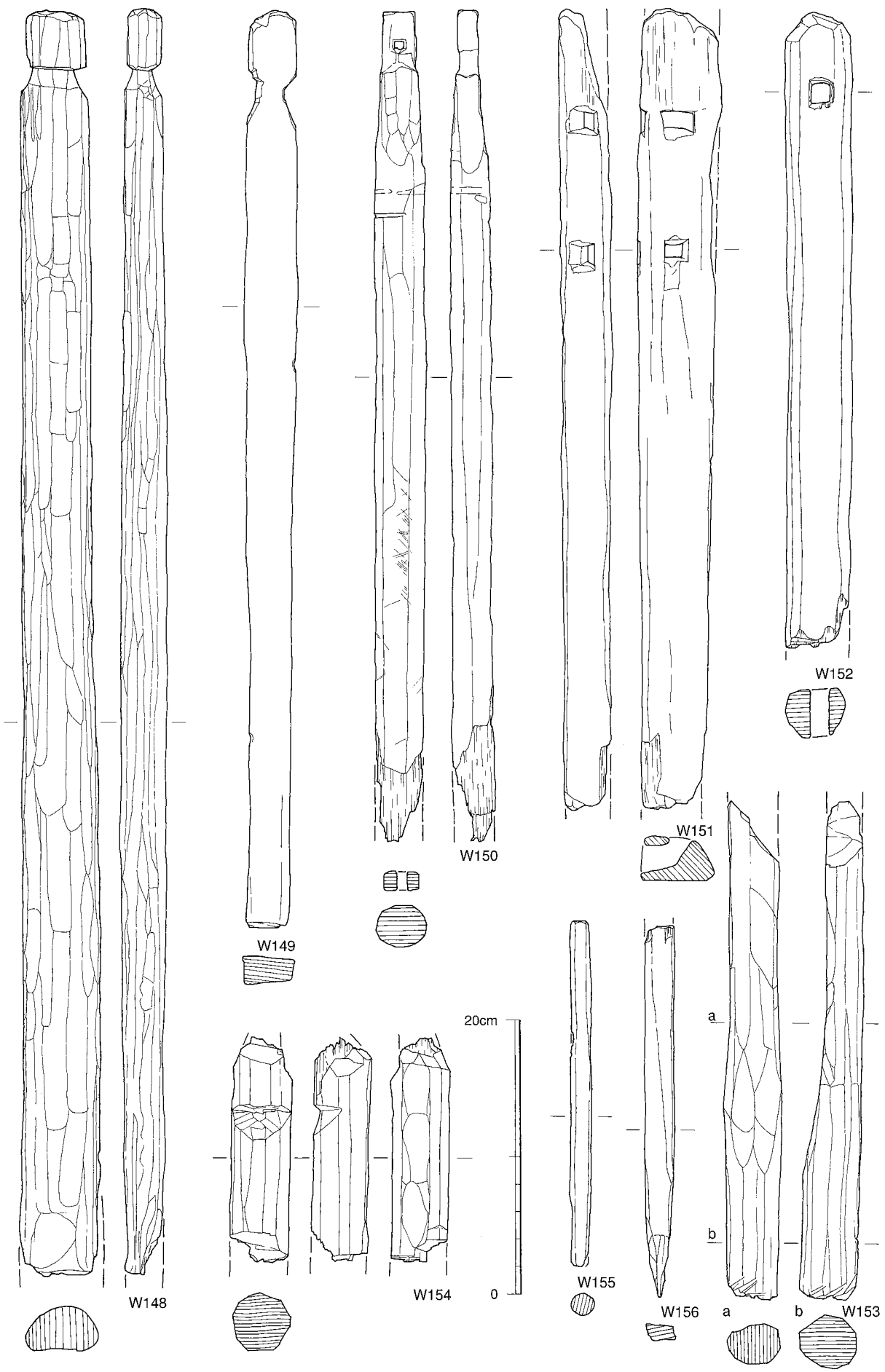
木器24　SD43⑦（W129～W132）



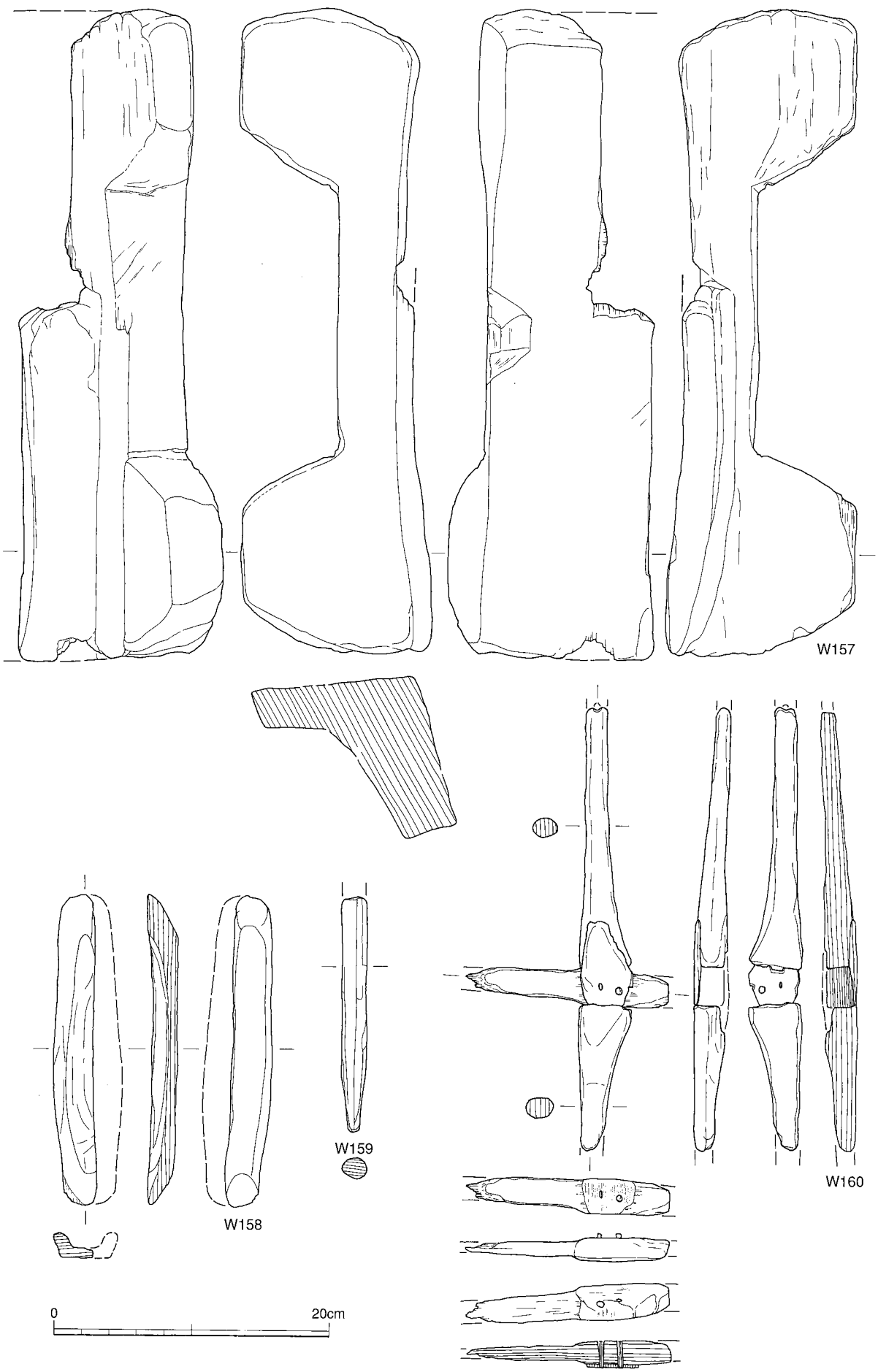
木器25　SD43⑧（W133～W138）



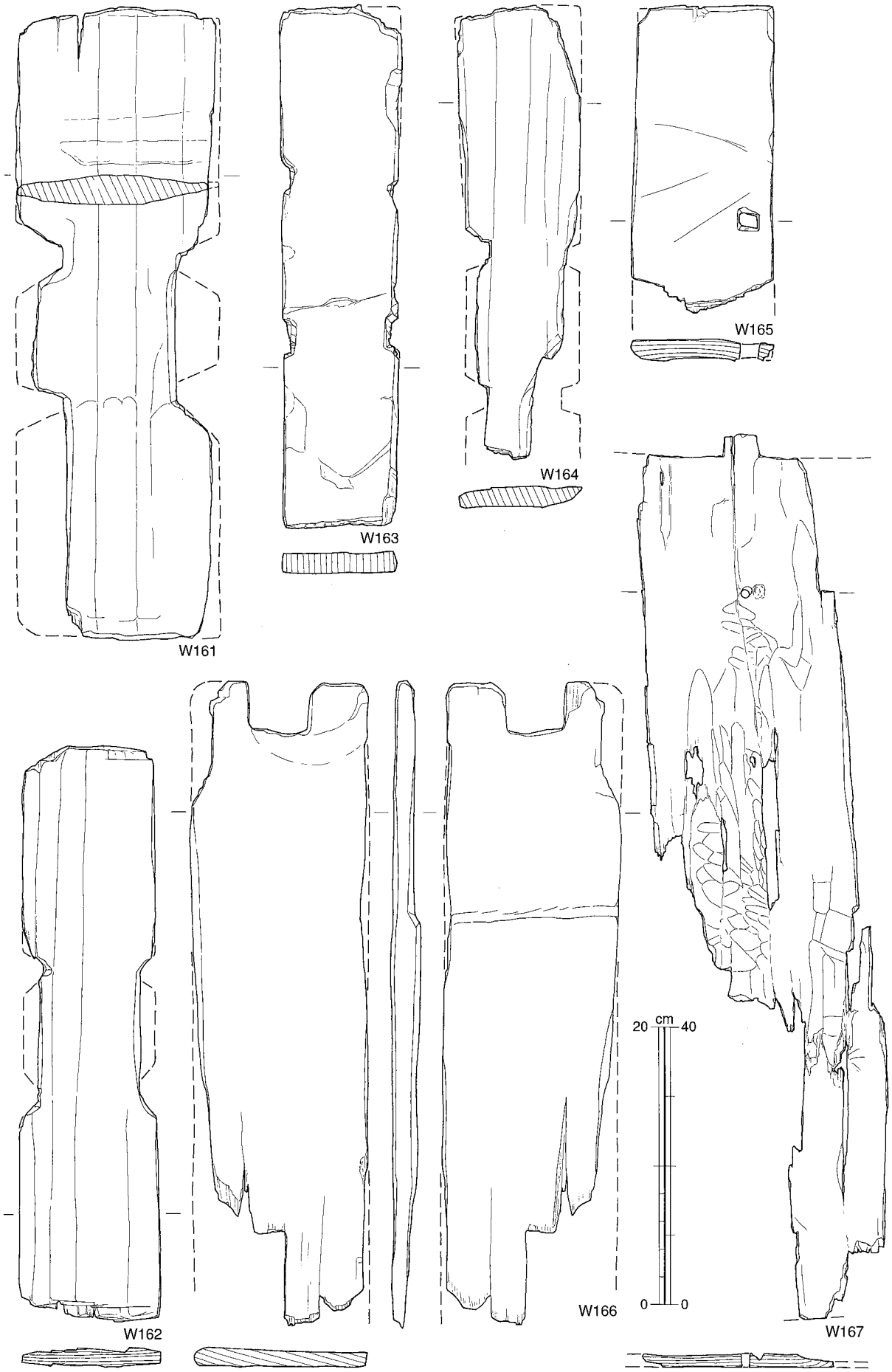
木器26　SD43⑨（W139～W147）



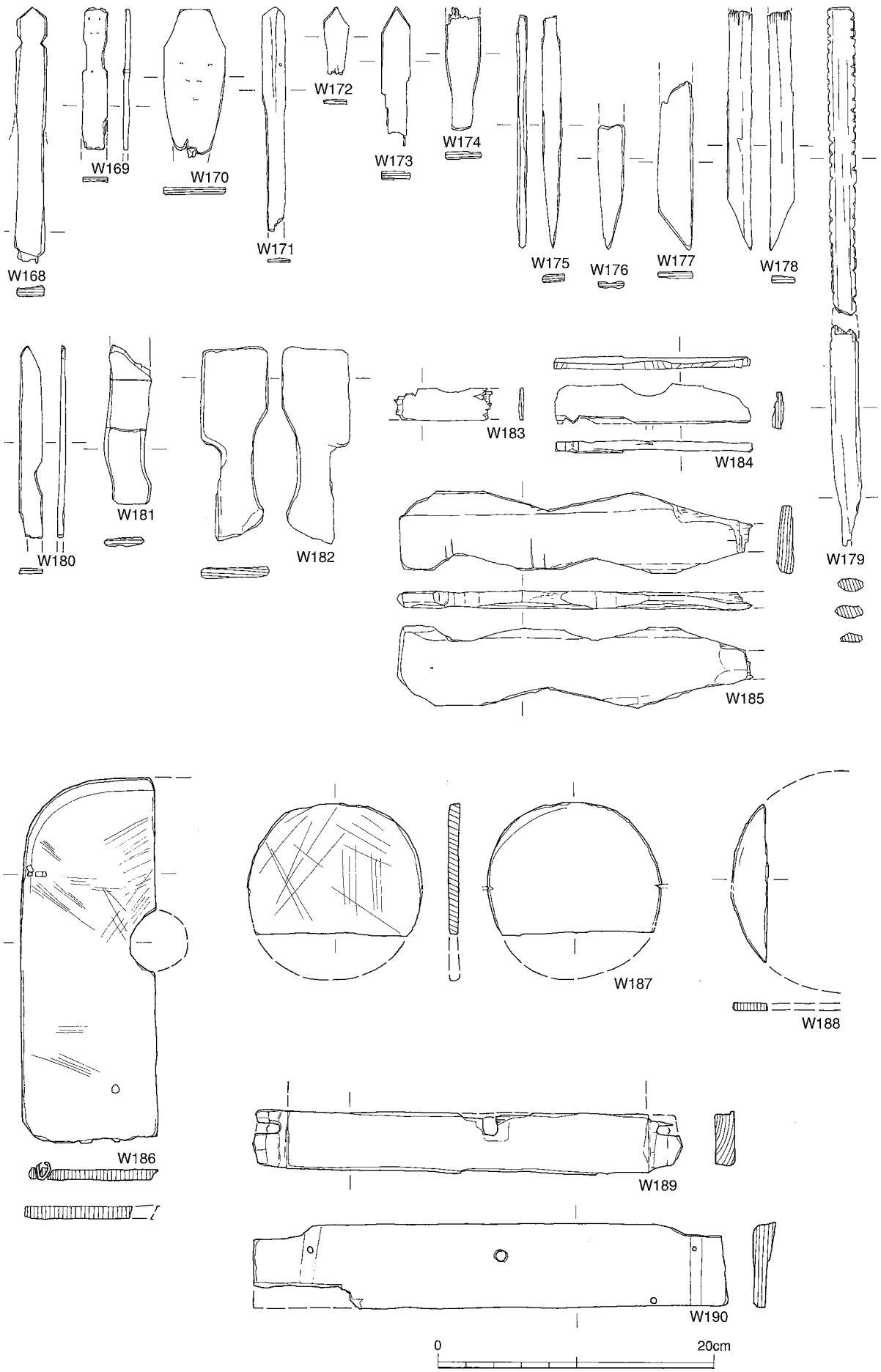
木器27　SD43⑩（W148～W156）



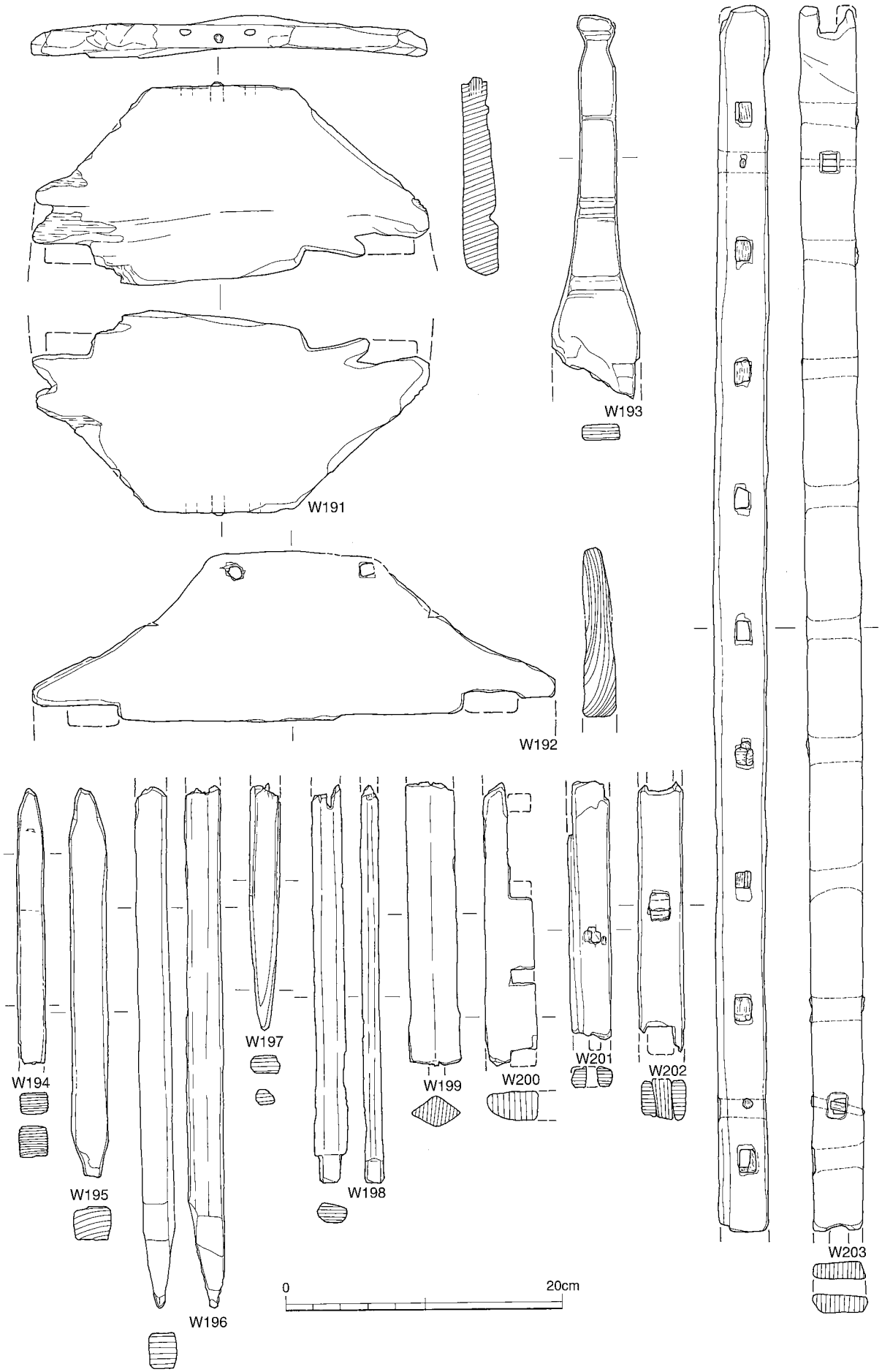
木器28　SD43⑪SS44①（W157～W160）



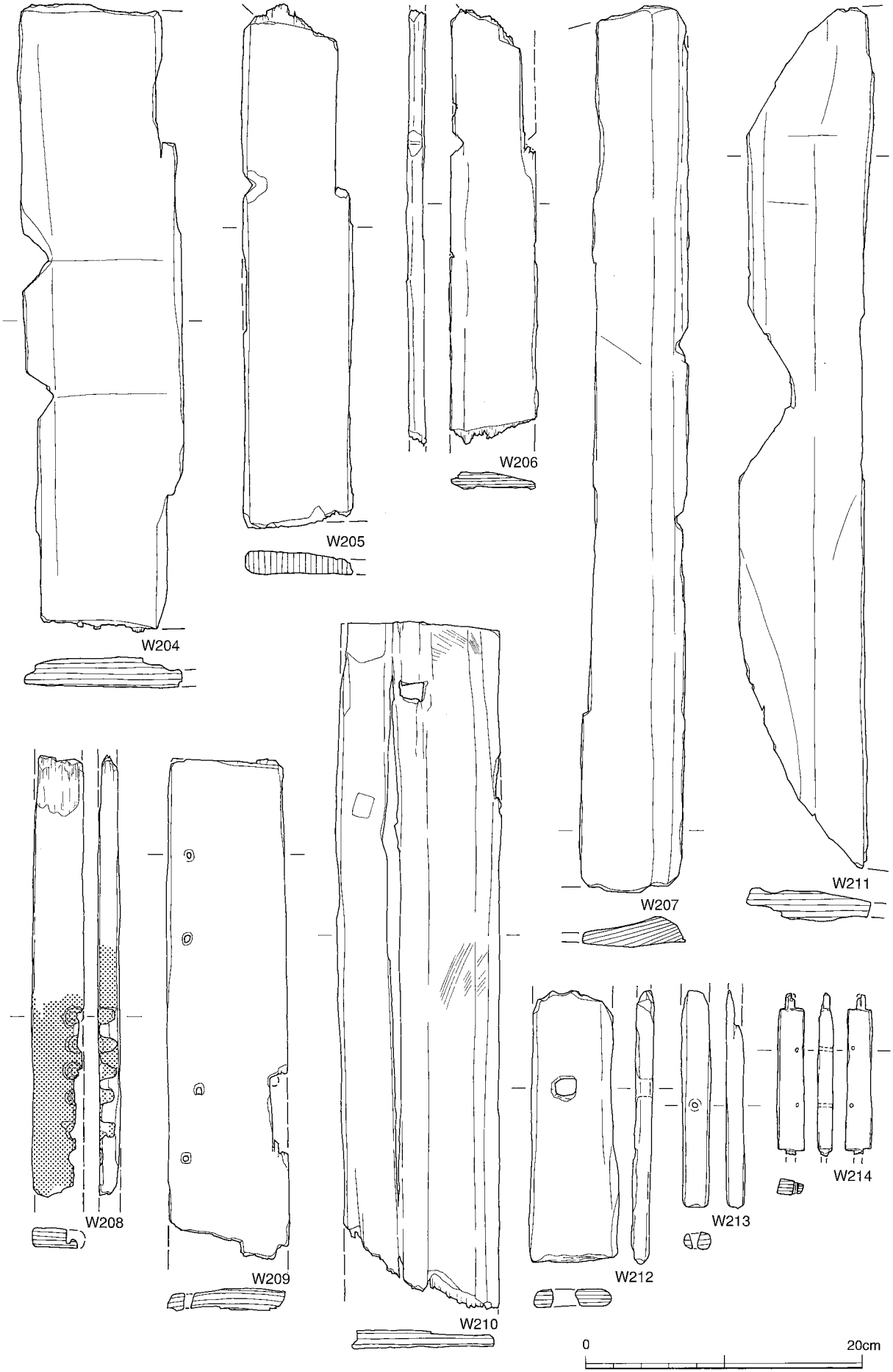
木器29　SS44②（W161～W167）



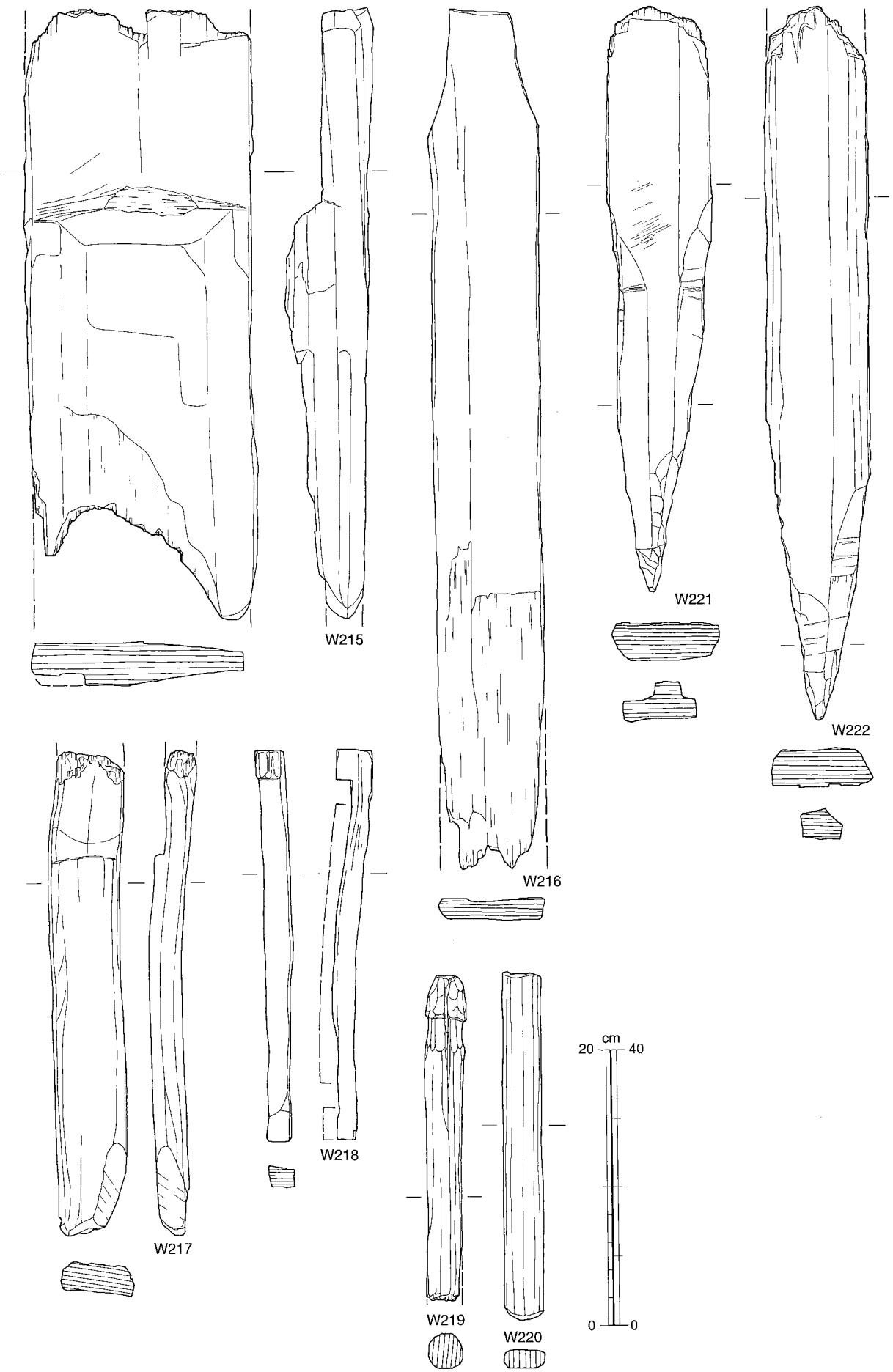
木器30　第2面①（W168～W190）



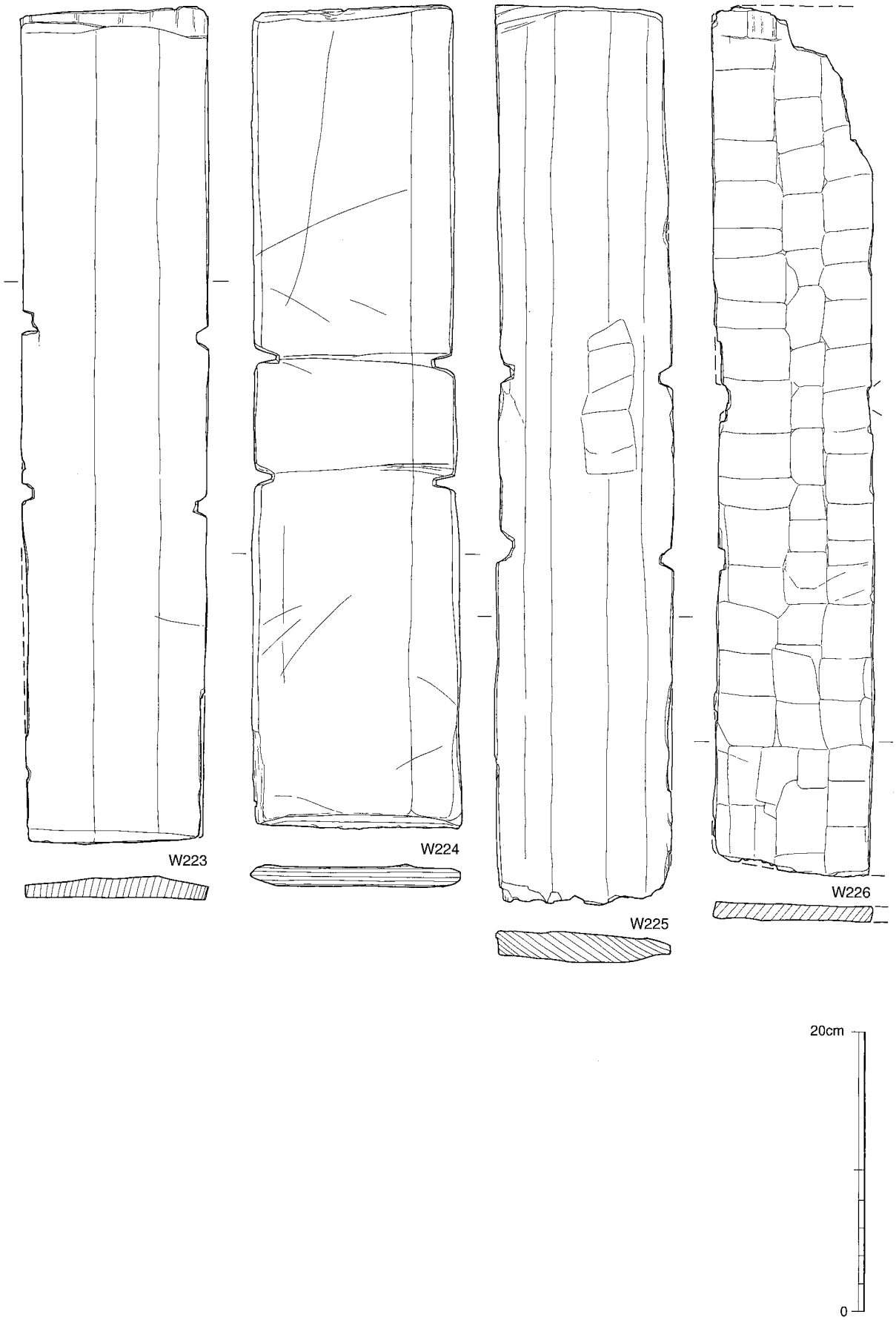
木器31　第2面②（W191～W203）



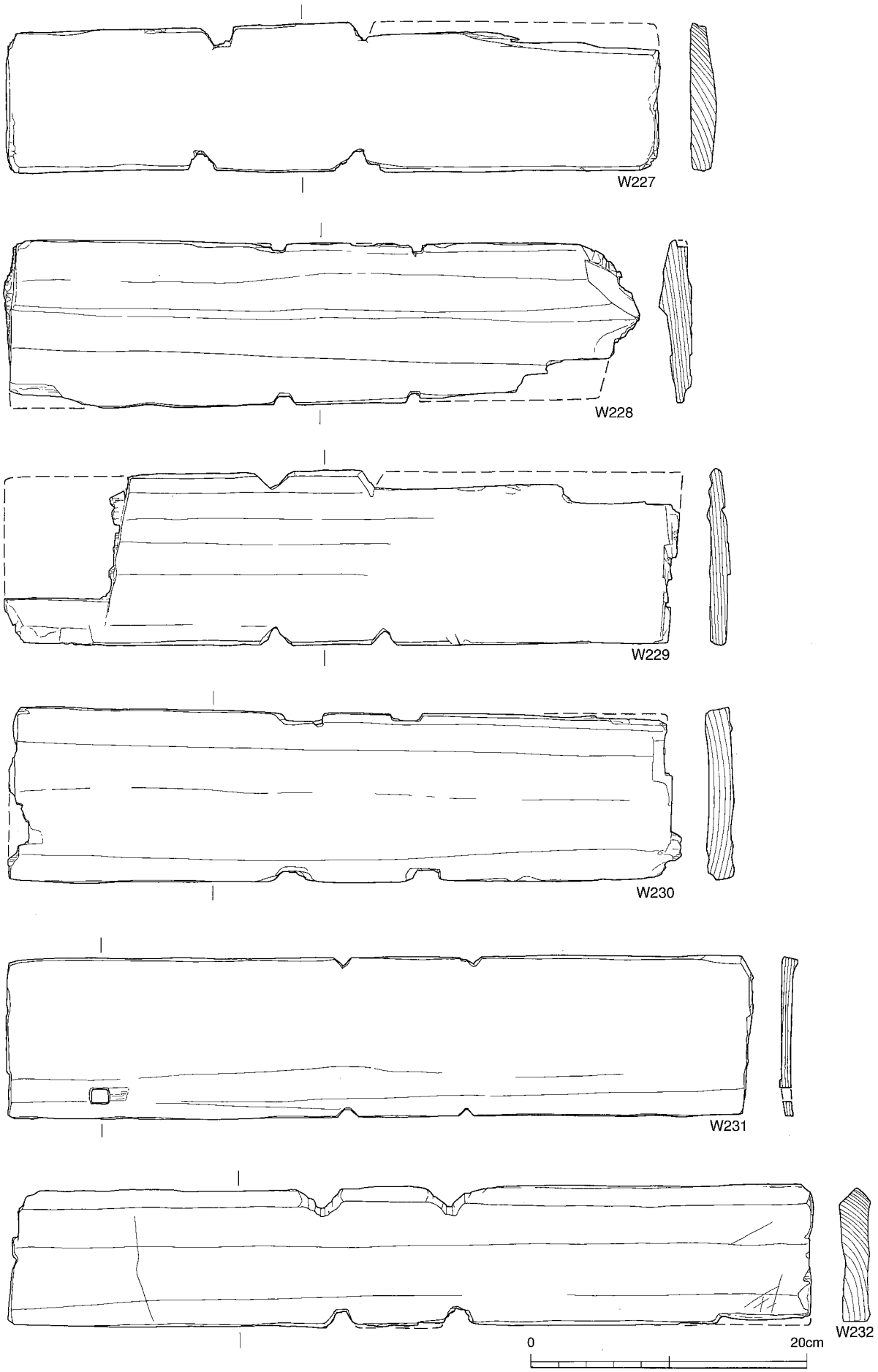
木器32　第2面③（W204～W214）



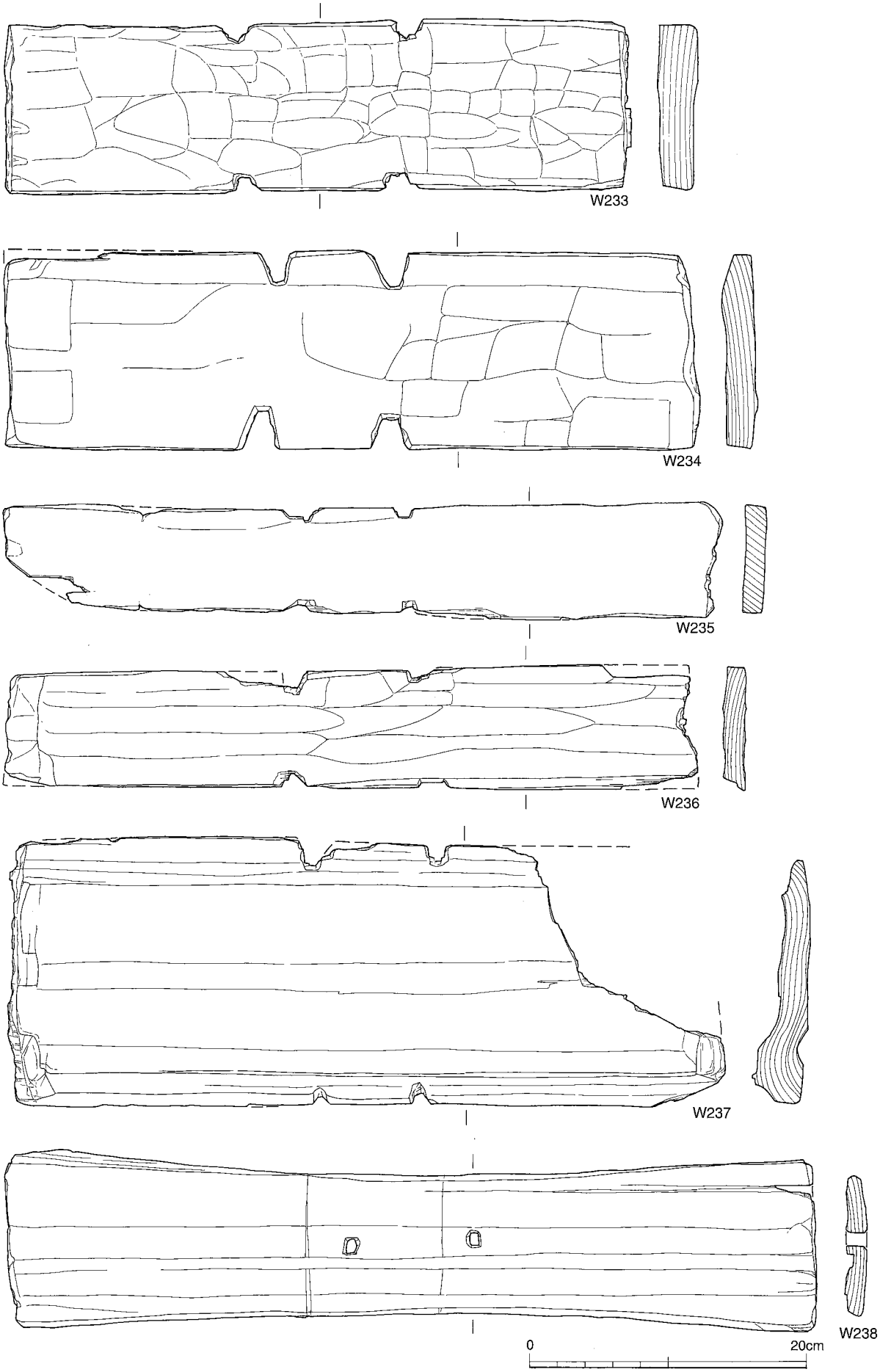
木器33　第2面④（W215～W222）



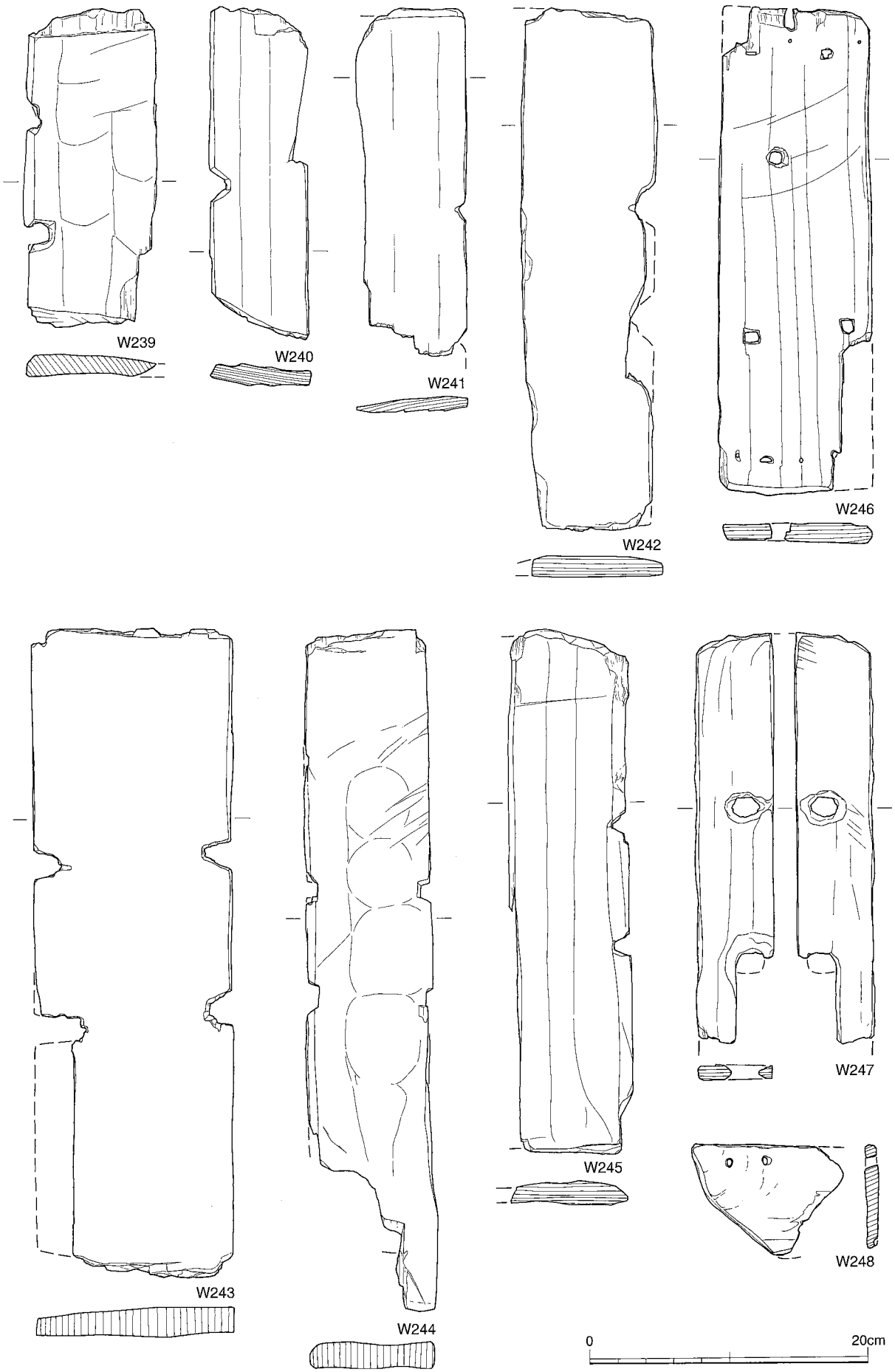
木器34　第4面A区①（W223～W226）



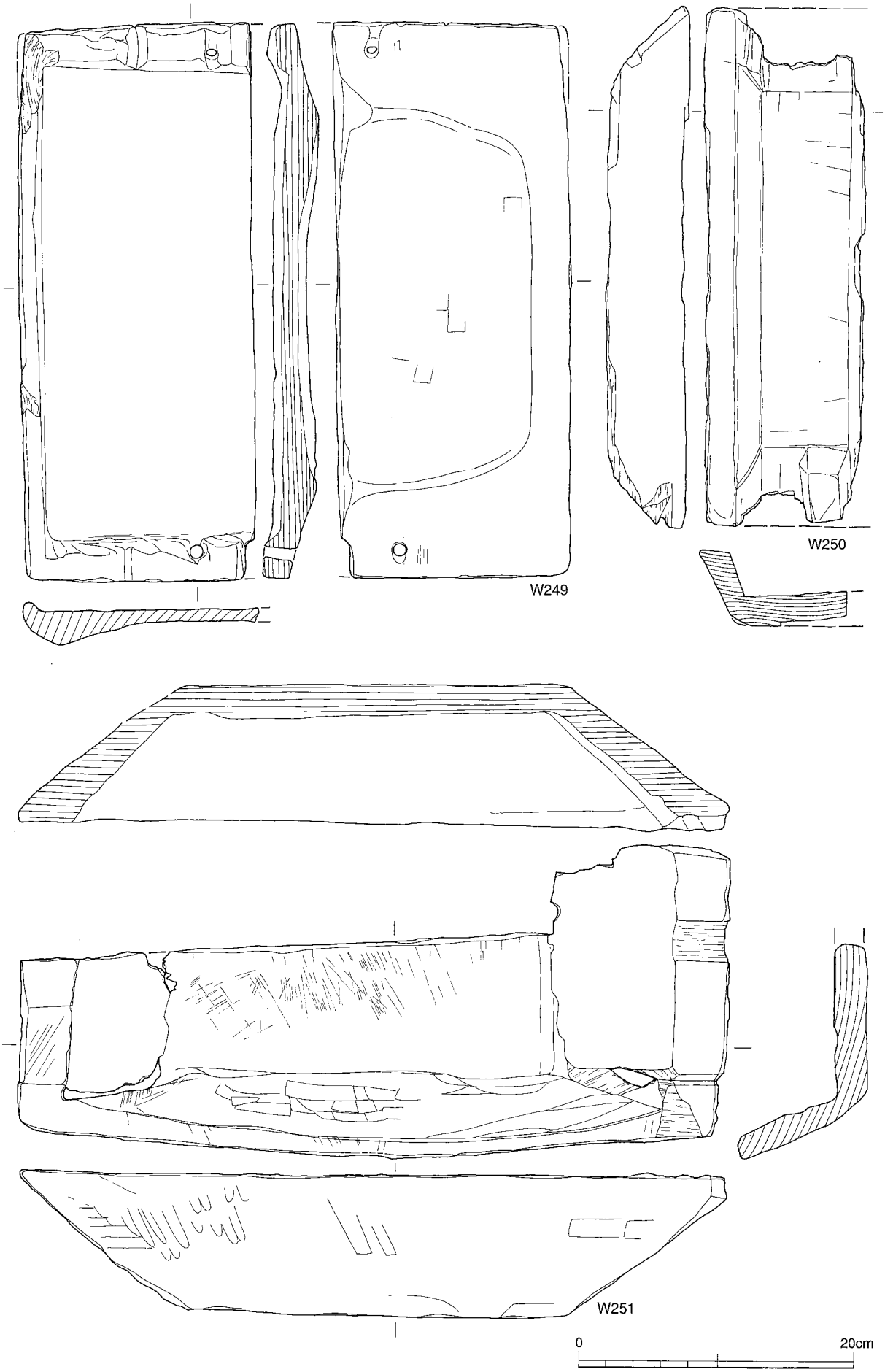
木器35　第4面A区②（W227～W232）



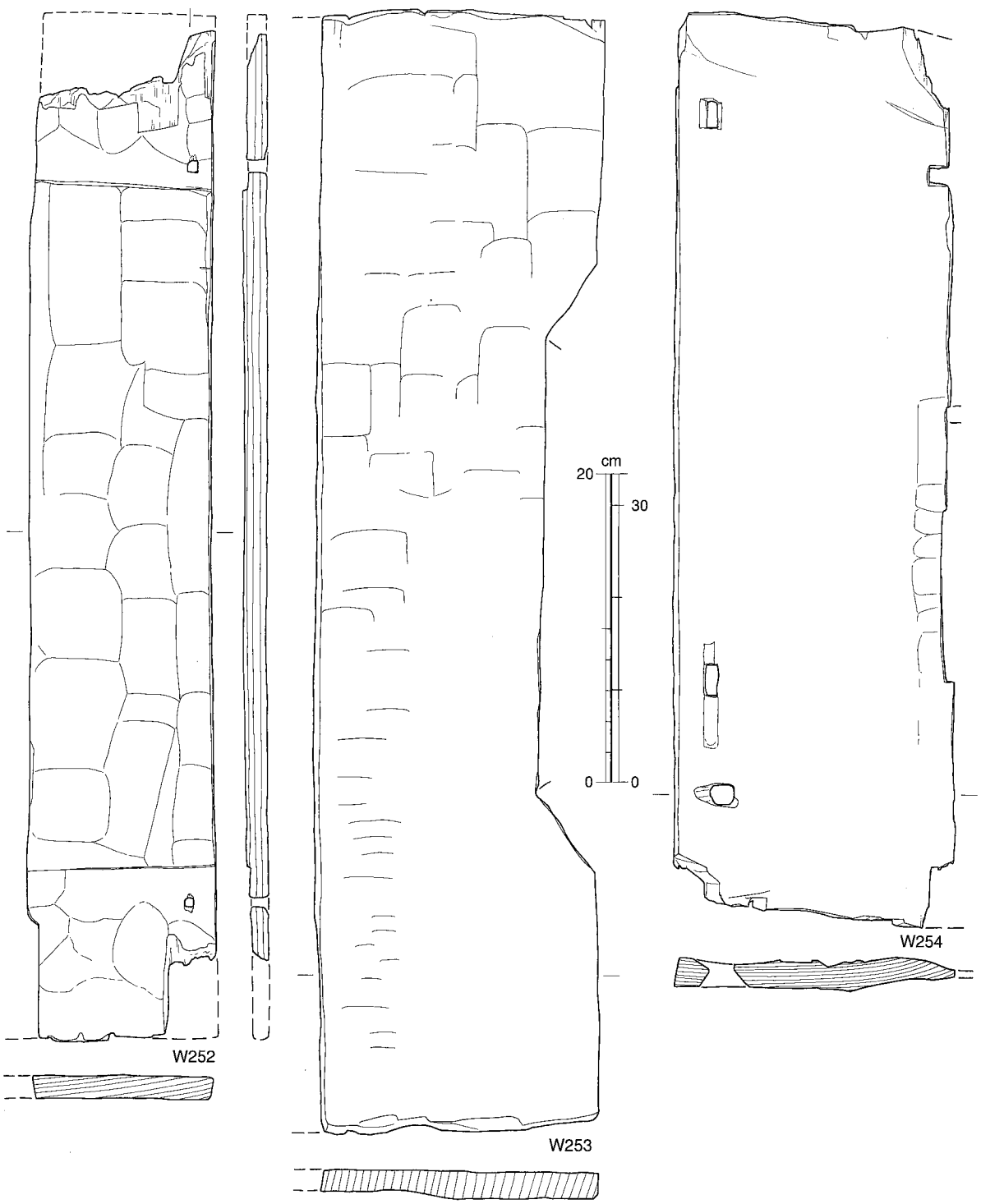
木器36　第4面A区③（W233～W238）



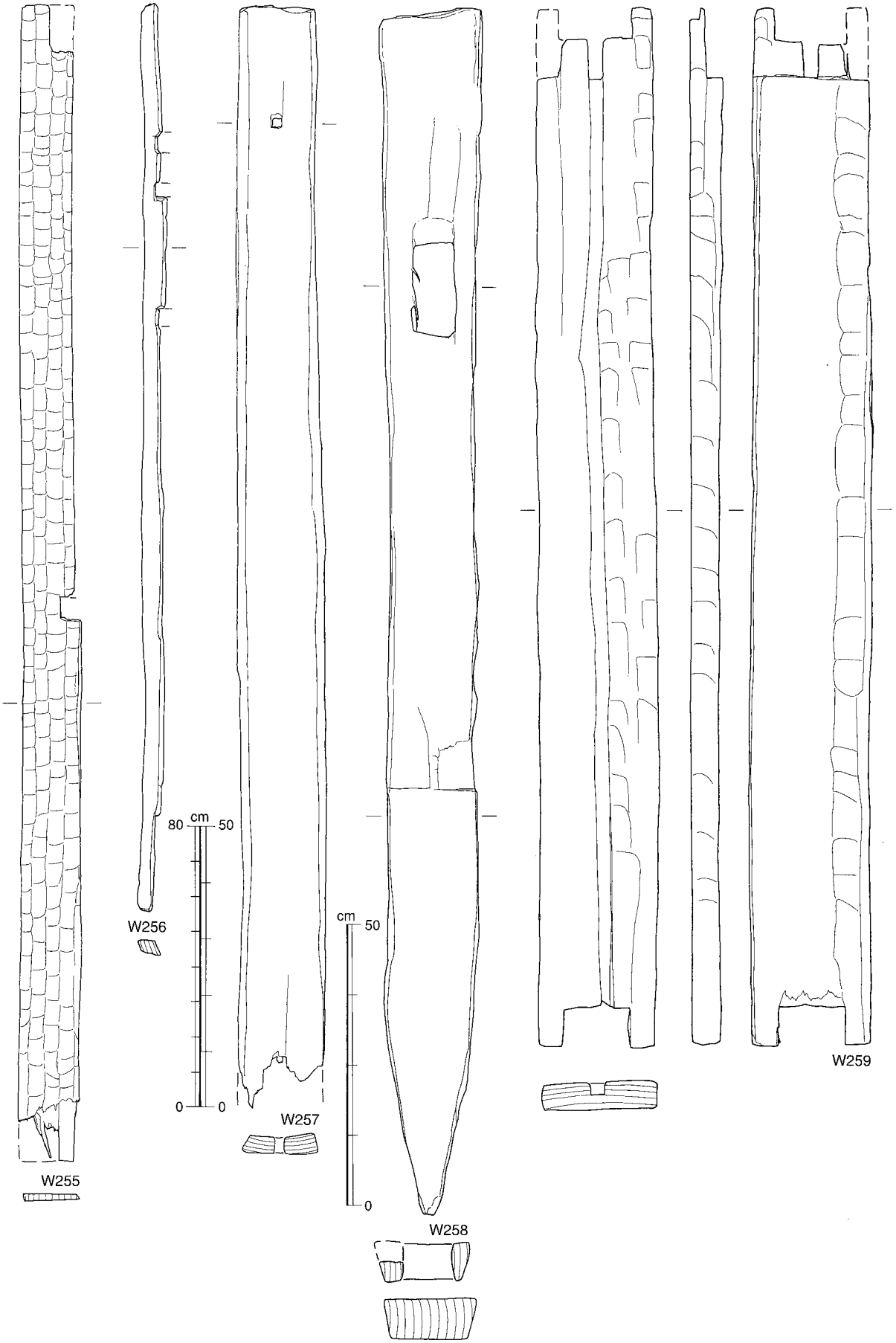
木器37　第4面A区④（W239～W248）



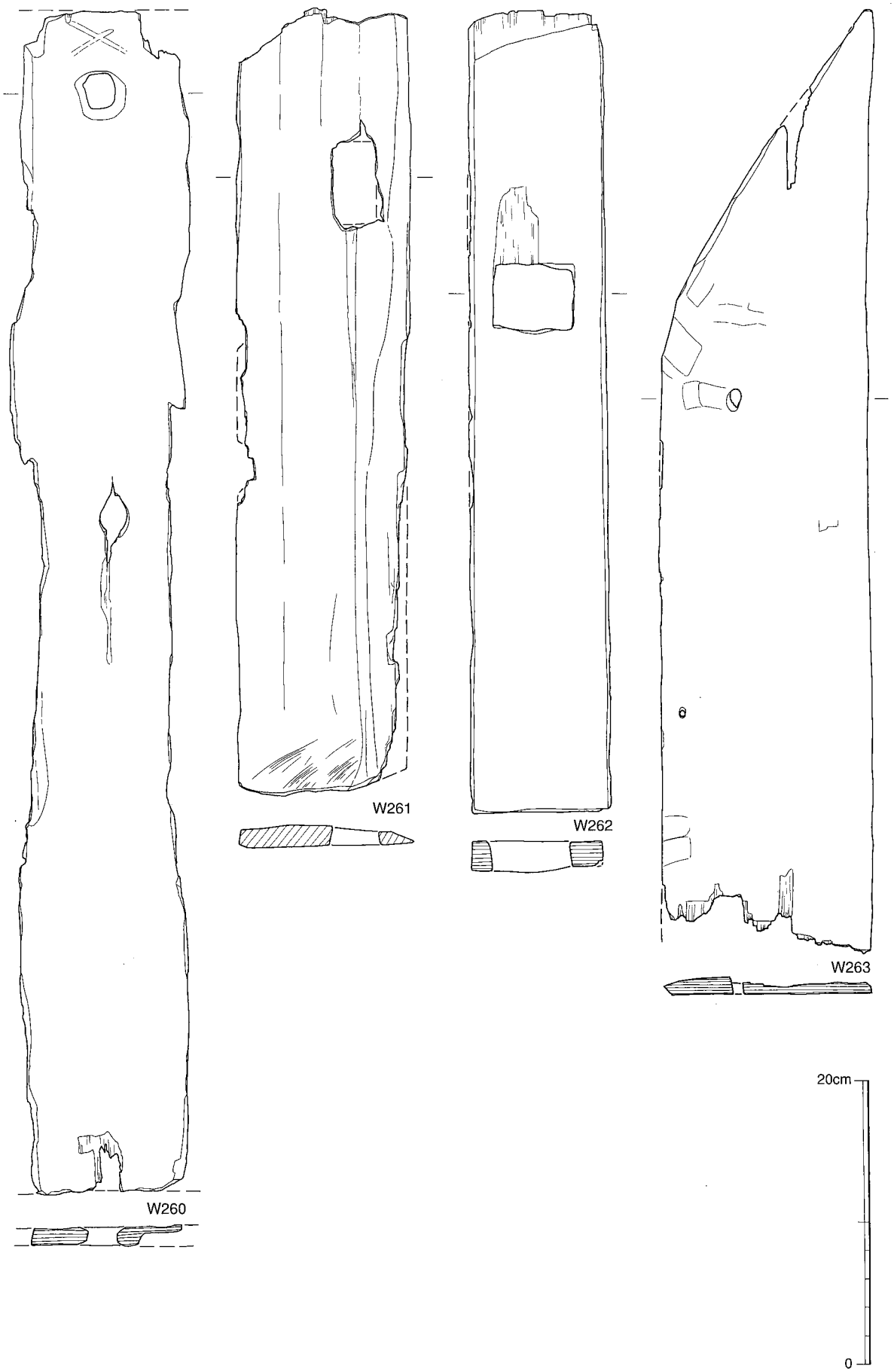
木器38　第4面A区⑤（W249～W251）



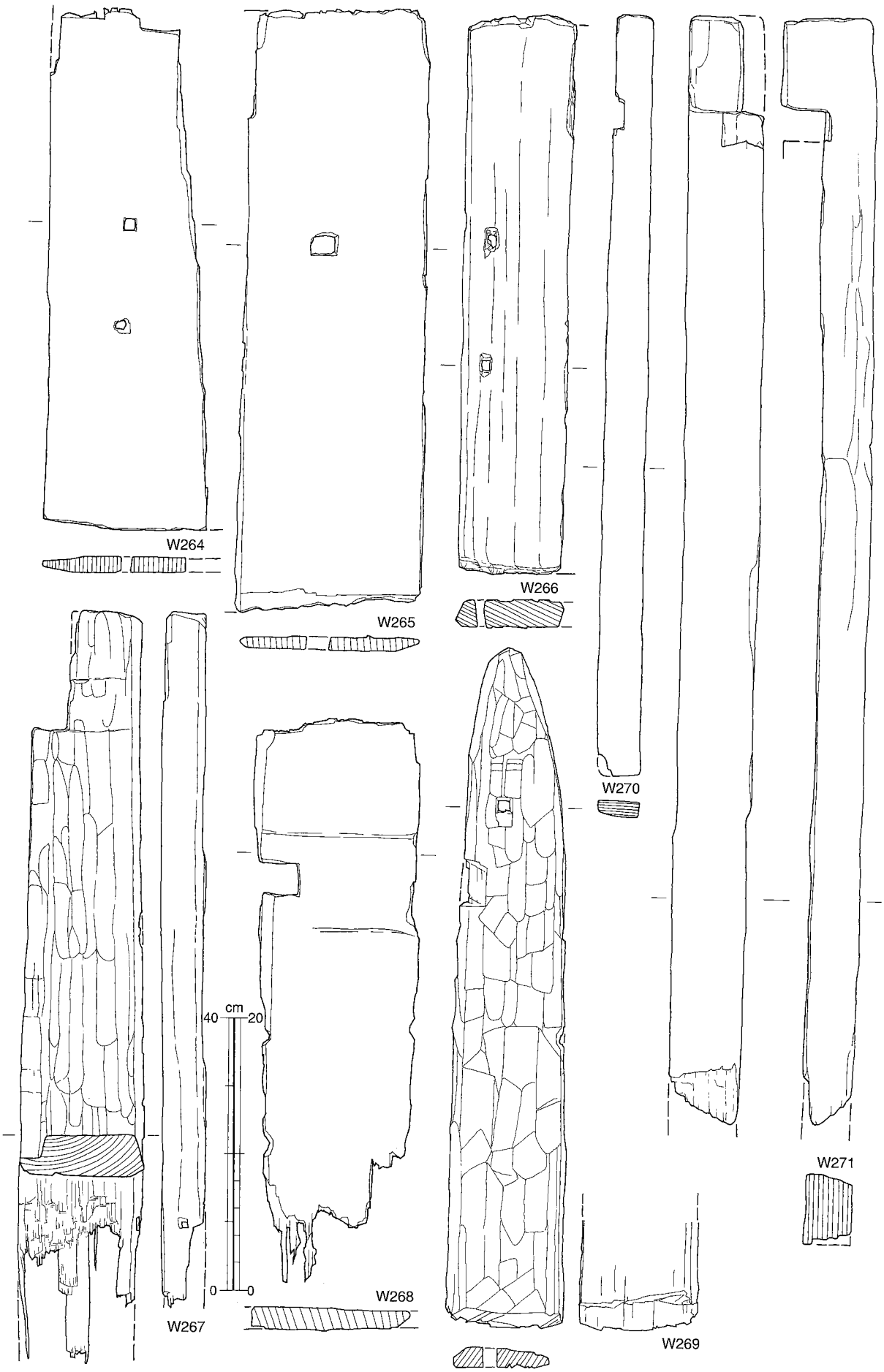
木器39　第4面A区⑥（W252～W254）



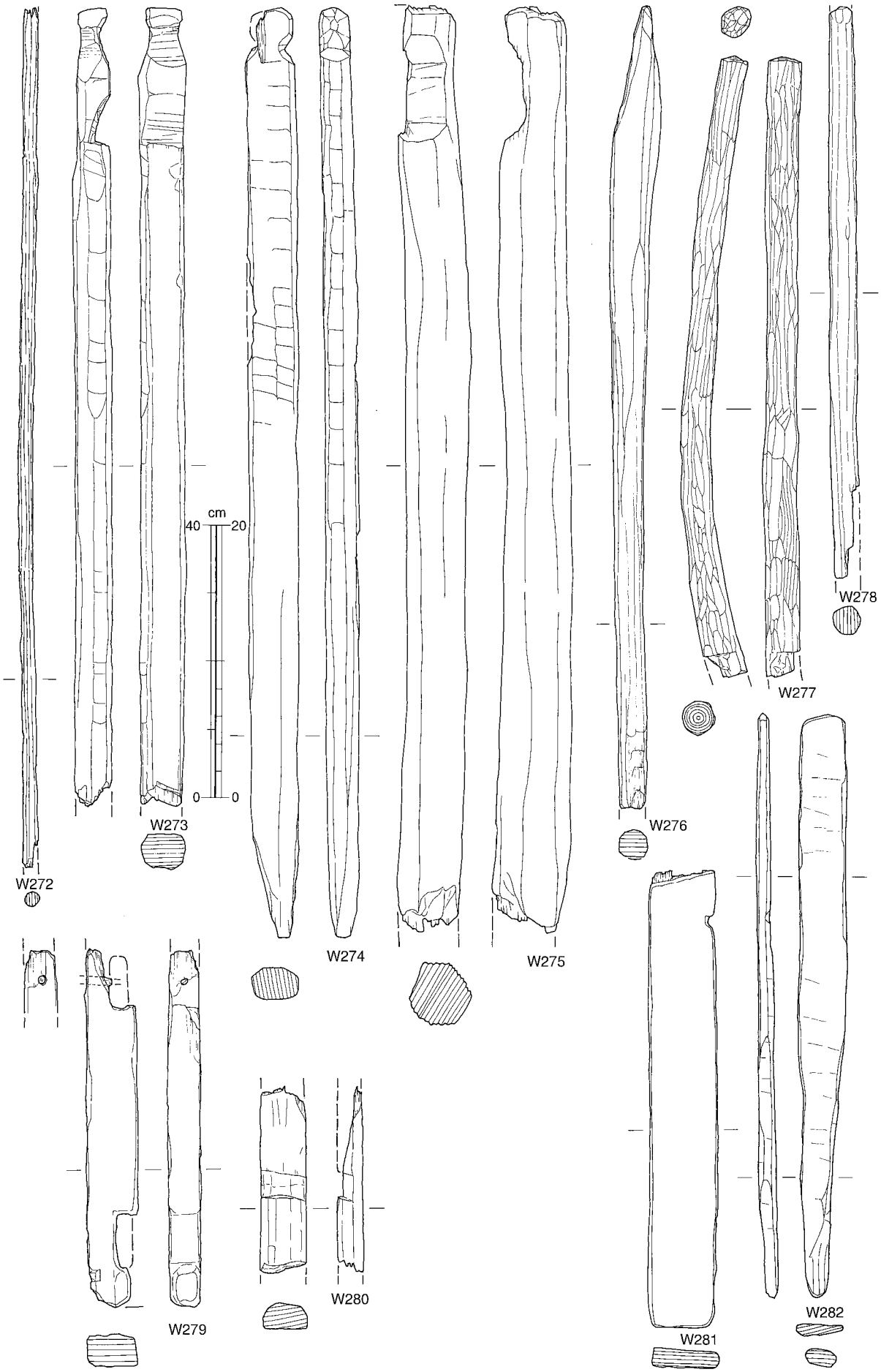
木器40　第4面A区⑦（W255～W259）



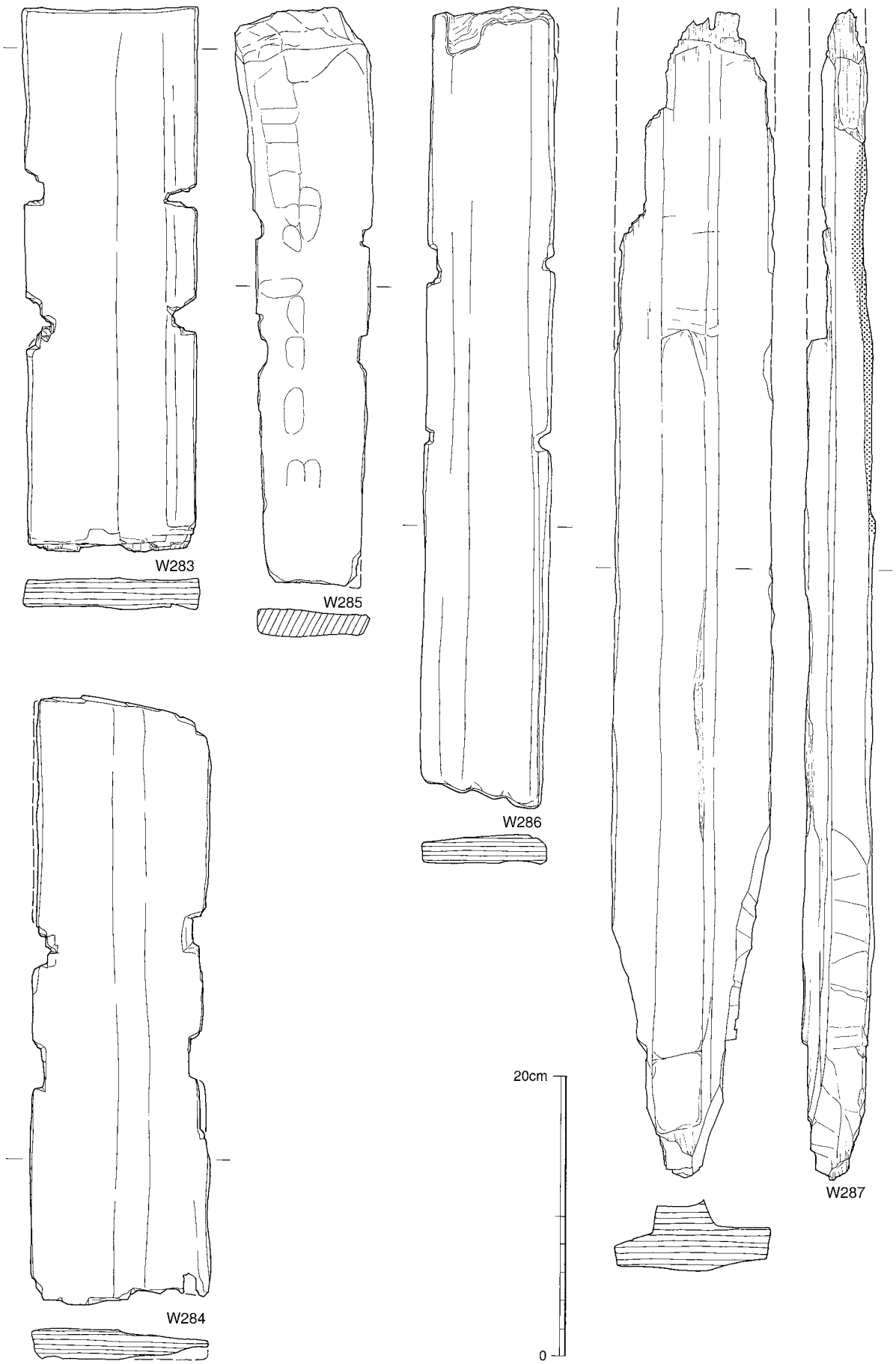
木器41　第4面A区⑧（W260～W263）



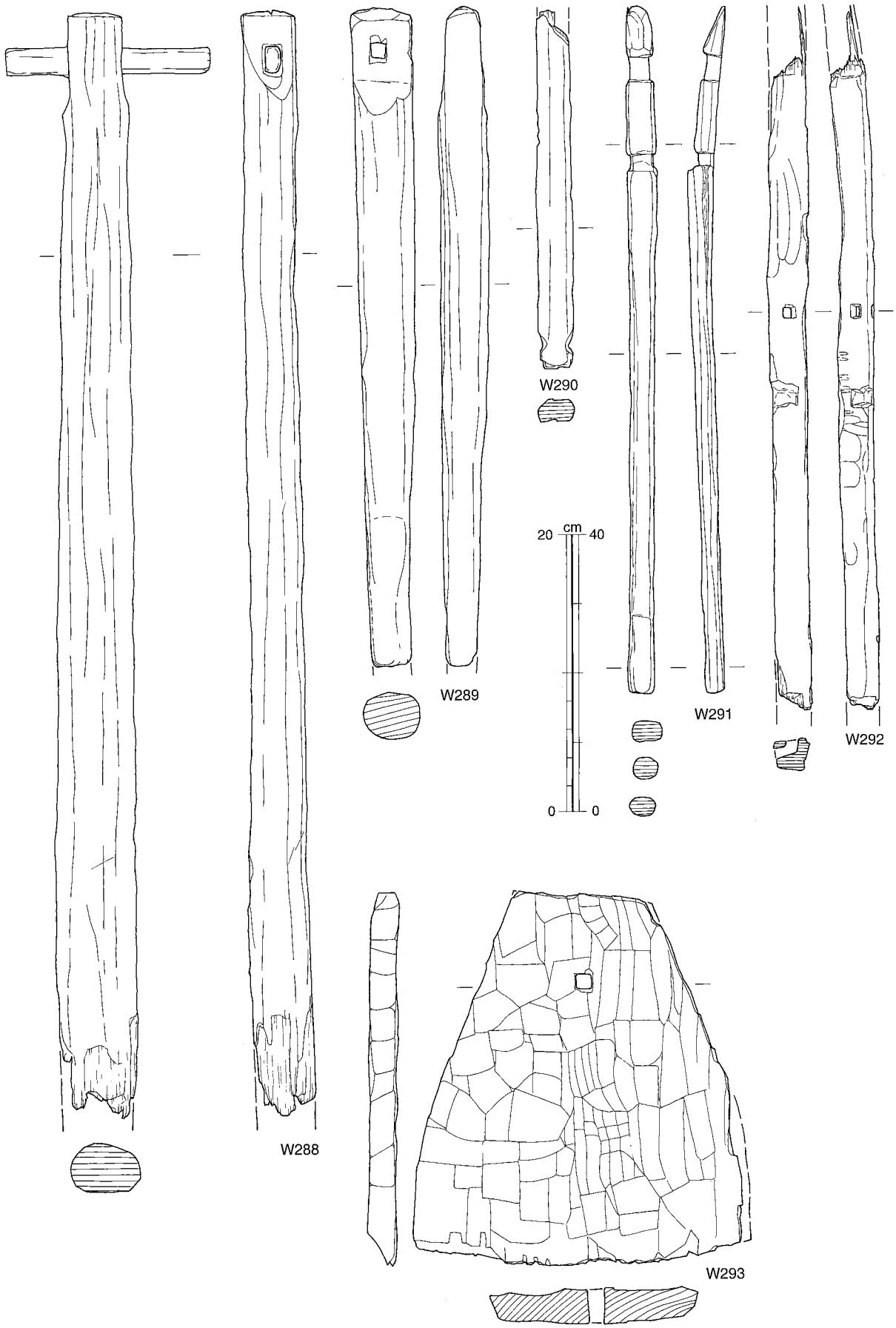
木器42　第4面A区⑨（W264～W271）



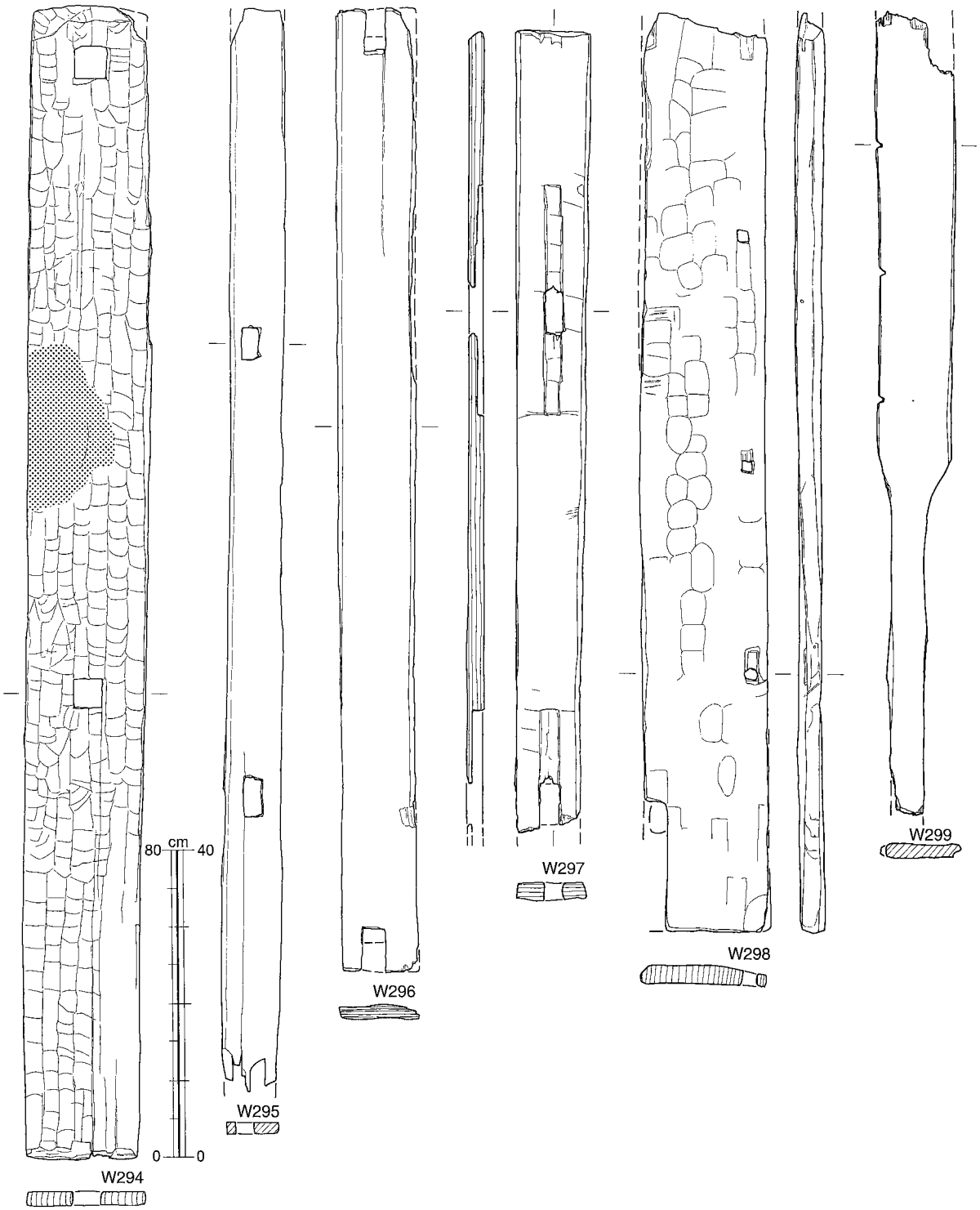
木器43　第4面A区⑩（W272～W282）



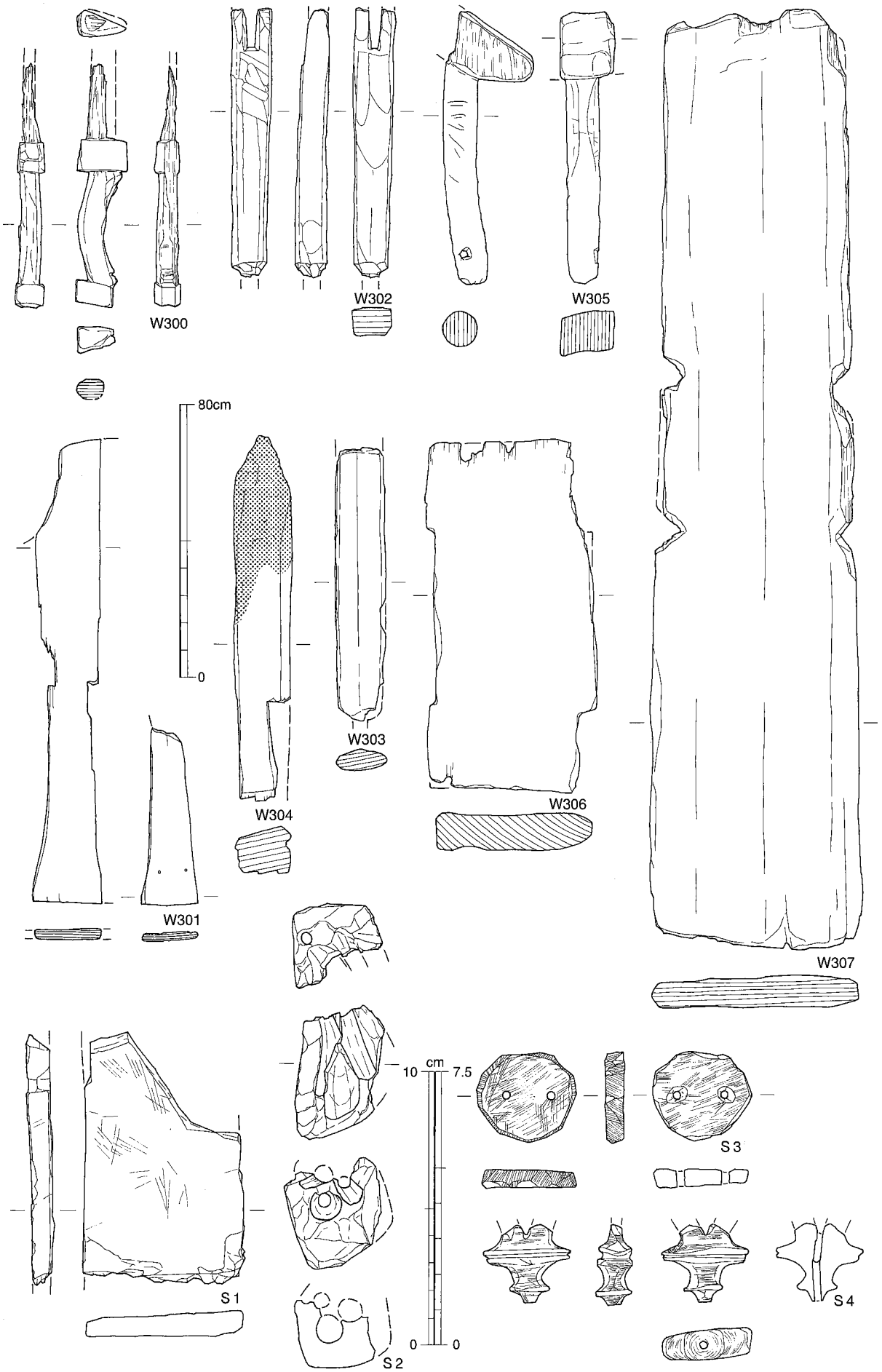
木器44　第4面B区①（W283～W287）



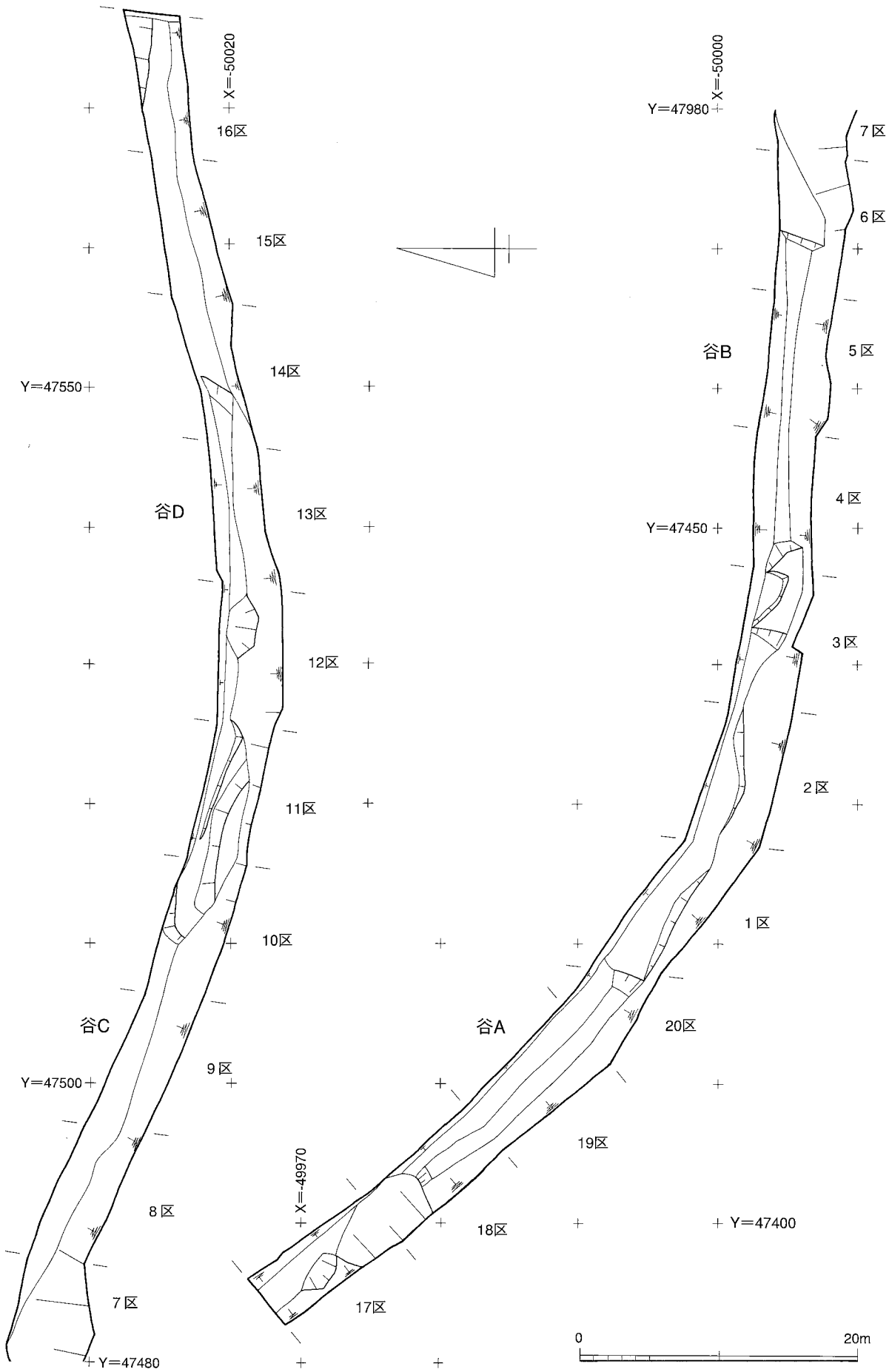
木器45　第4面B区②（W288～W293）



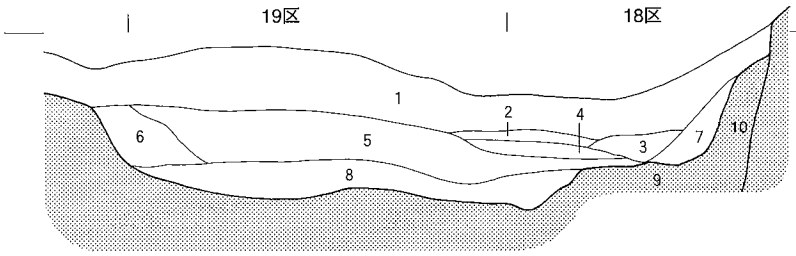
木器46　第4面B区③（W294～W299）



木器47　第4面C区（W300～W307）・石器（S1～S4）

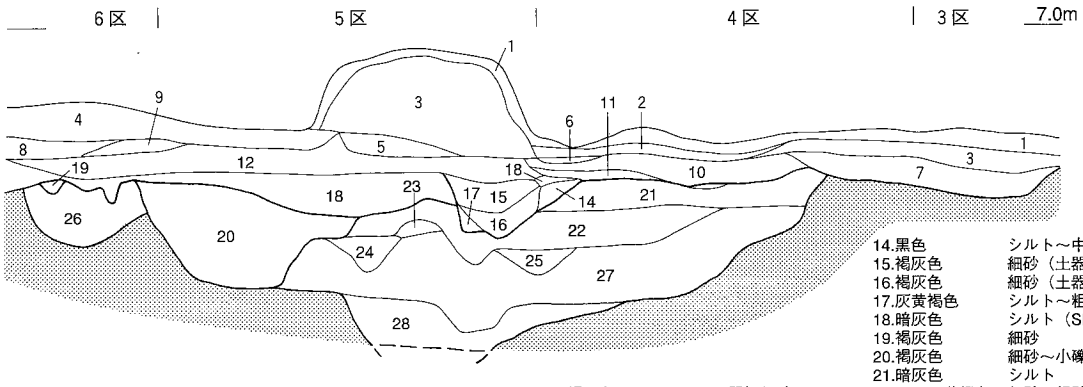

X=-50020
X=-50000
Y=47980
Y=47550
Y=47450
Y=47500
Y=47400
Y=47480
X=-49970
16区
15区
14区
13区
12区
11区
10区
9区
8区
7区
6区
5区
4区
3区
2区
1区
20区
19区
18区
17区
谷A
谷B
谷C
谷D
0
20m

31．遺構全体（1/400）



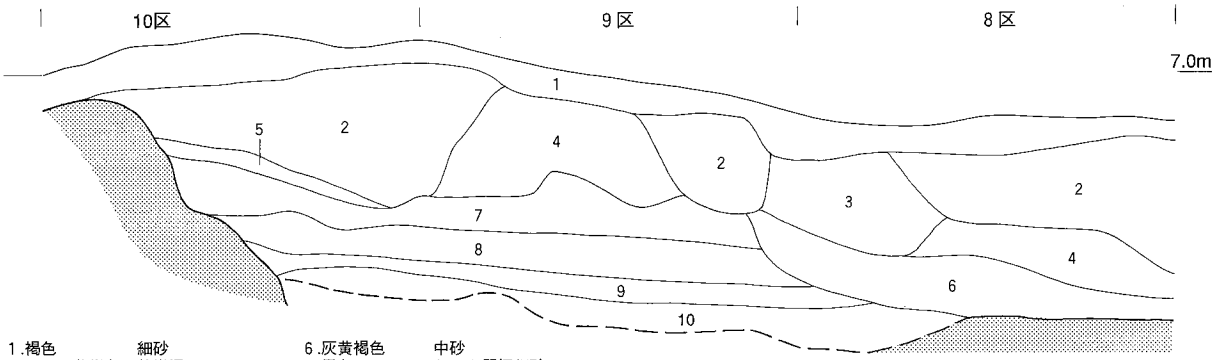
1.明黄褐色　シルト質極細砂
2.黄褐色　シルト質極細砂（黒褐色ブロック含）
3.にぶい黄橙色　シルト質極細砂（明黄褐色ブロック含）
4.褐灰色　シルト質極細砂（炭僅かに含）
5.灰黄褐色　シルト質極細砂
6.褐灰色　シルト質極細砂
7.褐色　シルト質極細砂
8.黒色　シルト質極細砂（明黄褐色砂礫含）
9.明黄褐色　シルト質極細砂
10.岩盤

32.18・19区



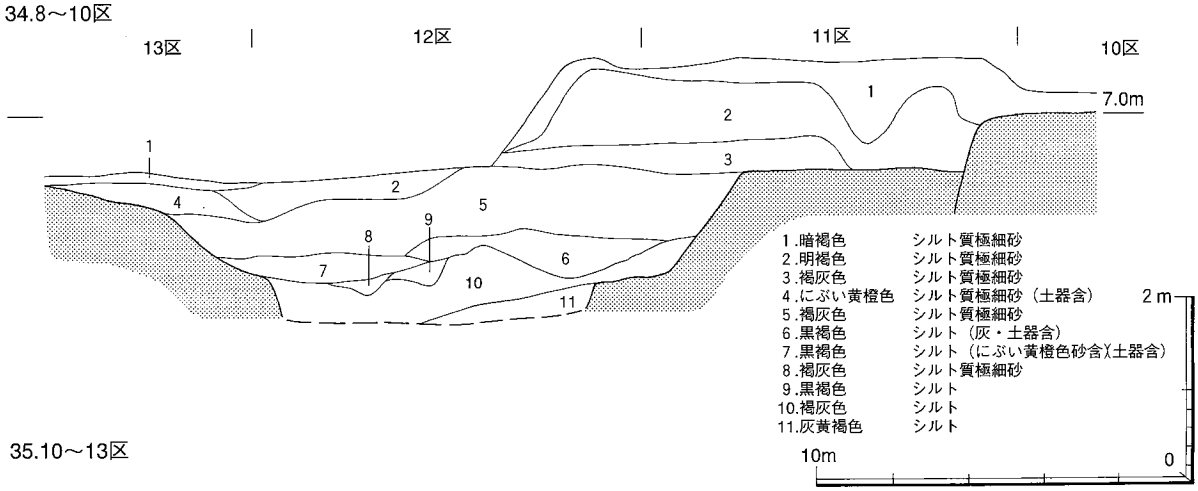
1.褐灰色　シルト質極細砂
2.黒色　シルト（明黄褐色礫含）
3.褐灰色　シルト質極細砂
4.褐灰色　極細砂～細砂
5.黒色　シルト質極細砂
6.褐灰色　極細砂～細砂
7.褐灰色　シルト質極細砂
8.褐灰色　極細砂
9.褐灰色　極細砂
10.黒褐色　シルト
11.灰黄褐色　細砂～中砂
12.にぶい黄橙色　細砂～小礫
13.黒色　シルト
14.黒色　シルト～中砂
15.褐灰色　細砂（土器含）（SD1）
16.褐灰色　細砂（土器含）（SD2）
17.灰黄褐色　シルト～粗砂
18.暗灰色　シルト（SD2）
19.褐灰色　細砂
20.褐灰色　細砂～小礫（SD4）
21.暗灰色　シルト
22.にぶい黄橙色　細砂～粗砂
23.灰黄褐色　細砂～小礫
24.灰黄褐色　中砂～小礫
25.褐灰色　細砂～粗砂
26.灰黄褐色　細砂～粗砂
27.褐灰色　小礫～大礫
28.黒色　中砂～粗砂

33.3～6区



1.褐色　細砂
2.にぶい黄橙色　軟岩混
3.灰黄褐色　細砂
4.灰黄褐色　極細砂
5.灰黄褐色　シルト質極細砂
6.灰黄褐色　中砂
7.黒色　シルト質極細砂
8.黒褐色　シルト
9.にぶい黄橙色　粗砂～小礫
10.黒色　シルト（土器含）

34.8～10区

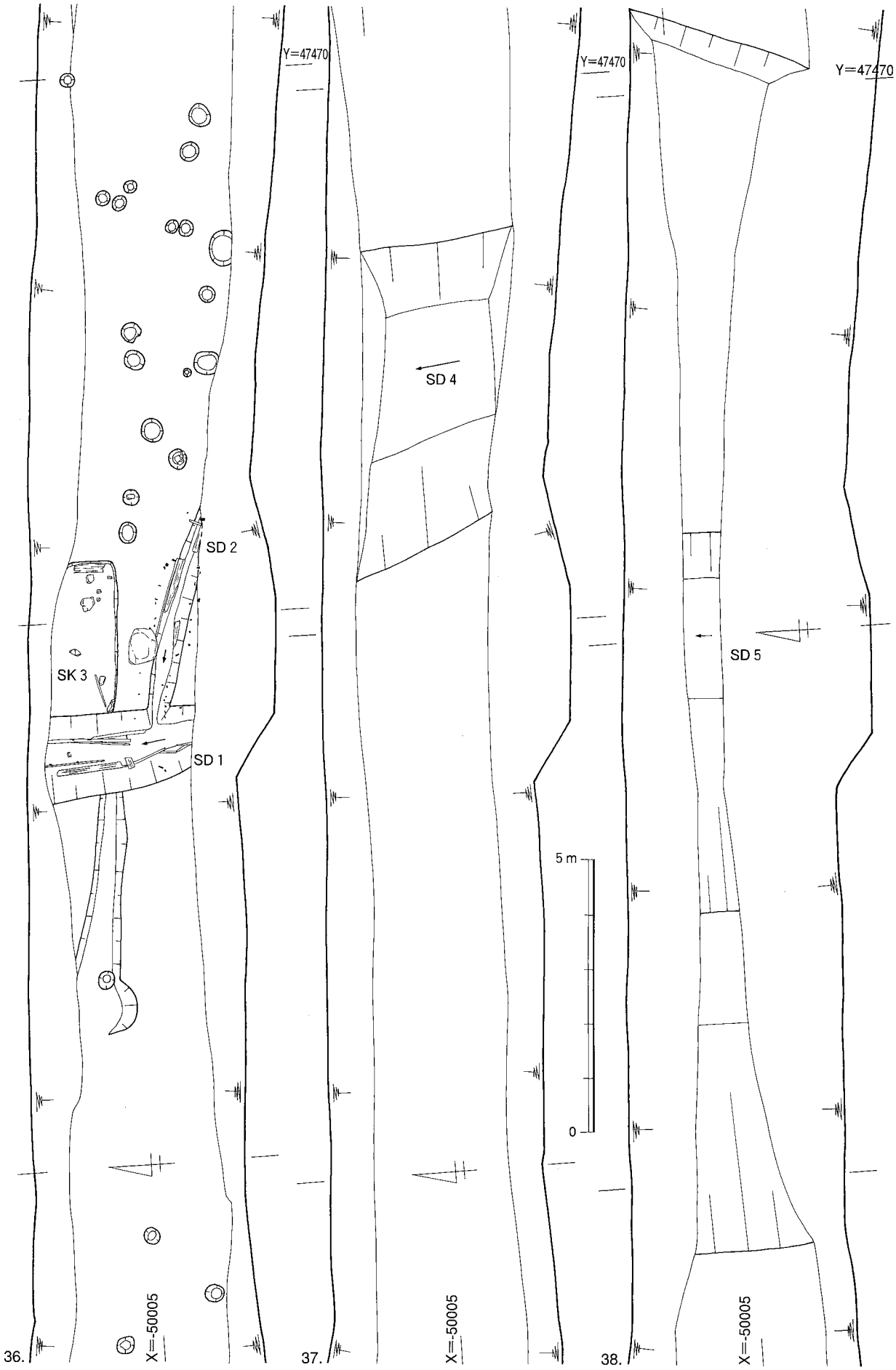


1.暗褐色　シルト質極細砂
2.明褐色　シルト質極細砂
3.褐灰色　シルト質極細砂
4.にぶい黄橙色　シルト質極細砂（土器含）
5.褐灰色　シルト質極細砂
6.黒褐色　シルト（灰・土器含）
7.黒褐色　シルト（にぶい黄橙色砂含)(土器含）
8.褐灰色　シルト質極細砂
9.黒褐色　シルト
10.褐灰色　シルト
11.灰黄褐色　シルト

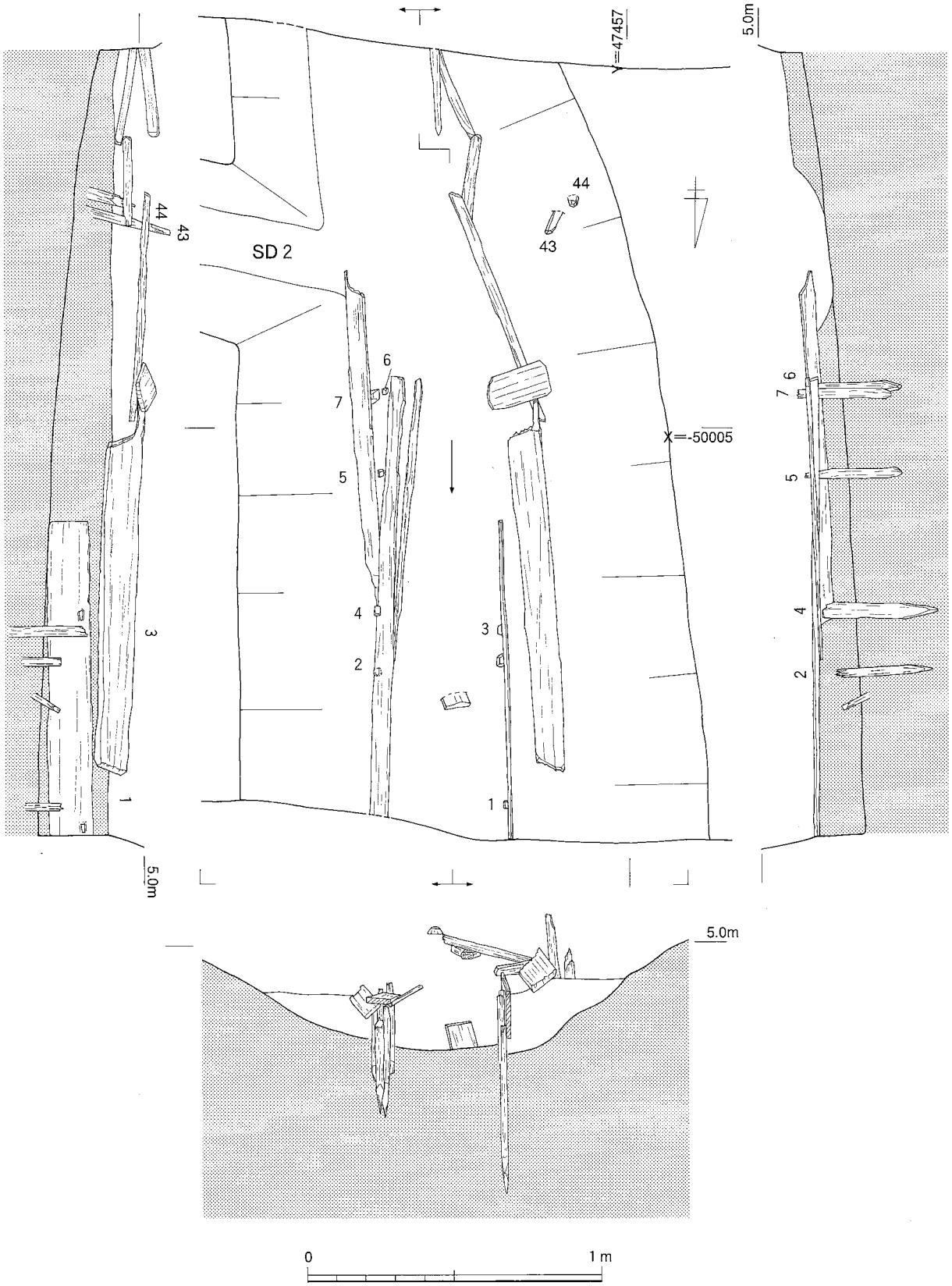
35.10～13区

32. 18・19区土層断面　33. 3～6区土層断面
34. 8～10区土層断面　35. 10～13区土層断面（1/100・1/40）

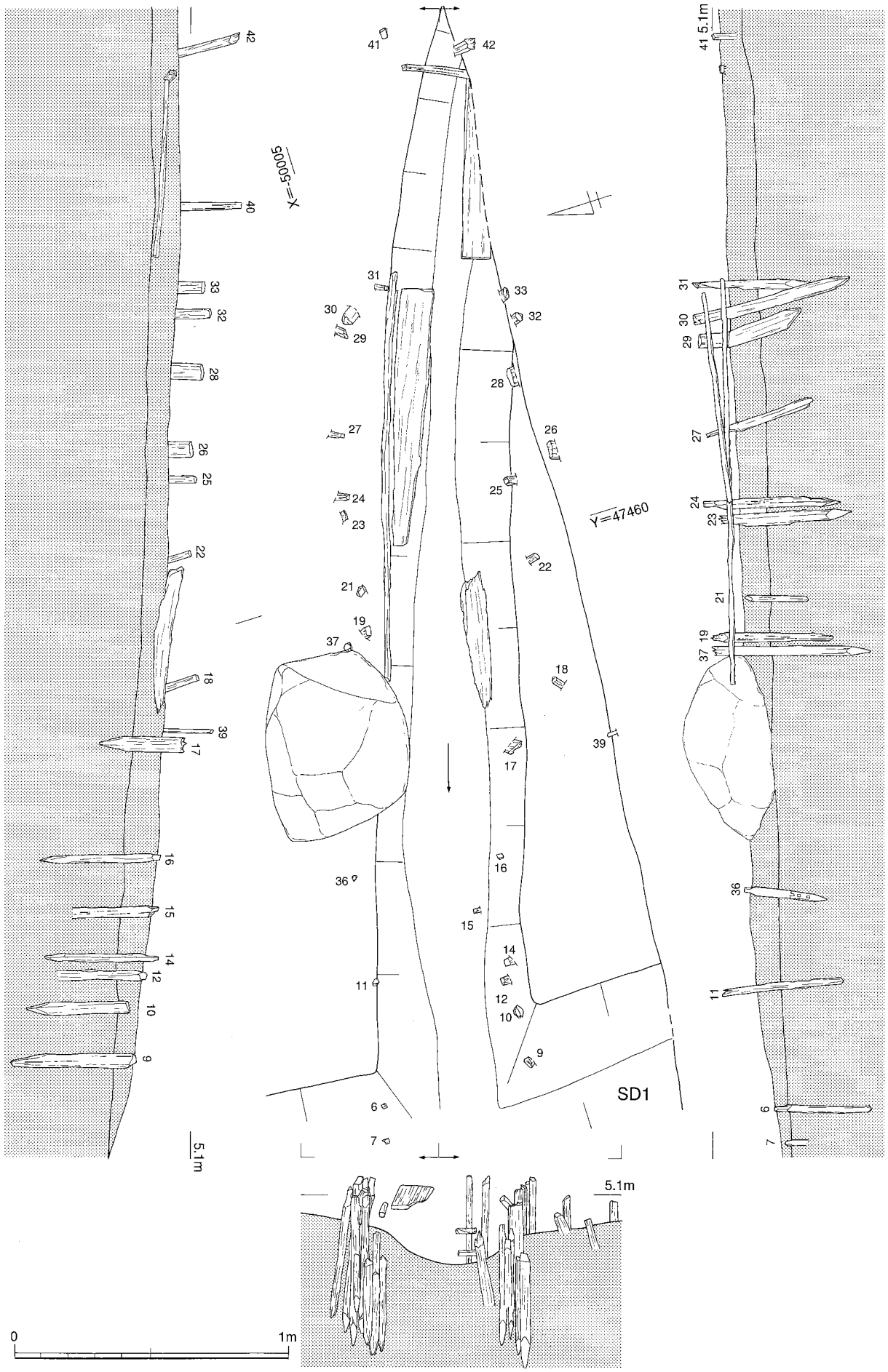
図版77　五反田第3次　遺構



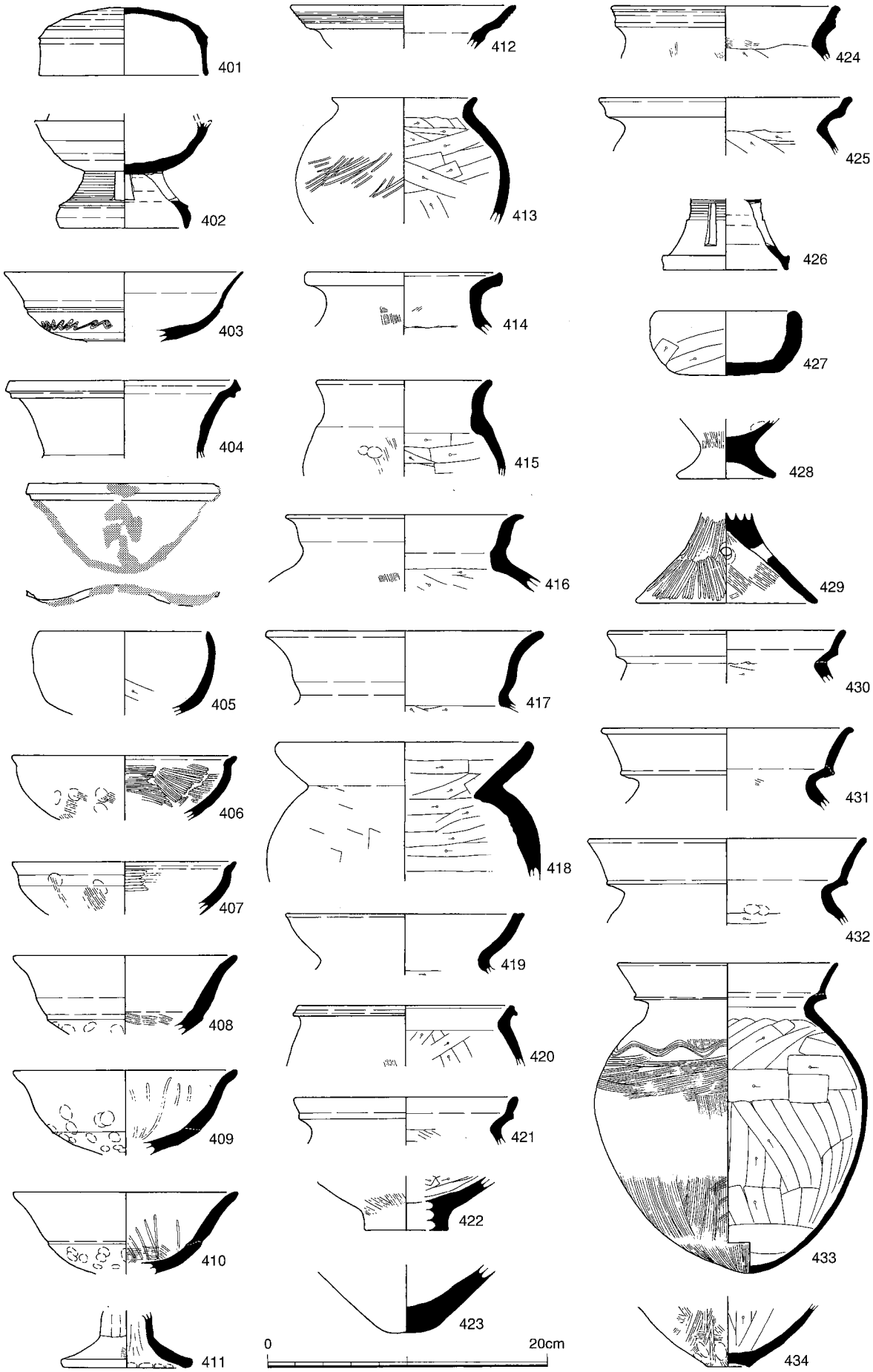
36.　4～6区上層遺構
37.　4～6区中層遺構
38.　4～6区下層遺構（1/100）



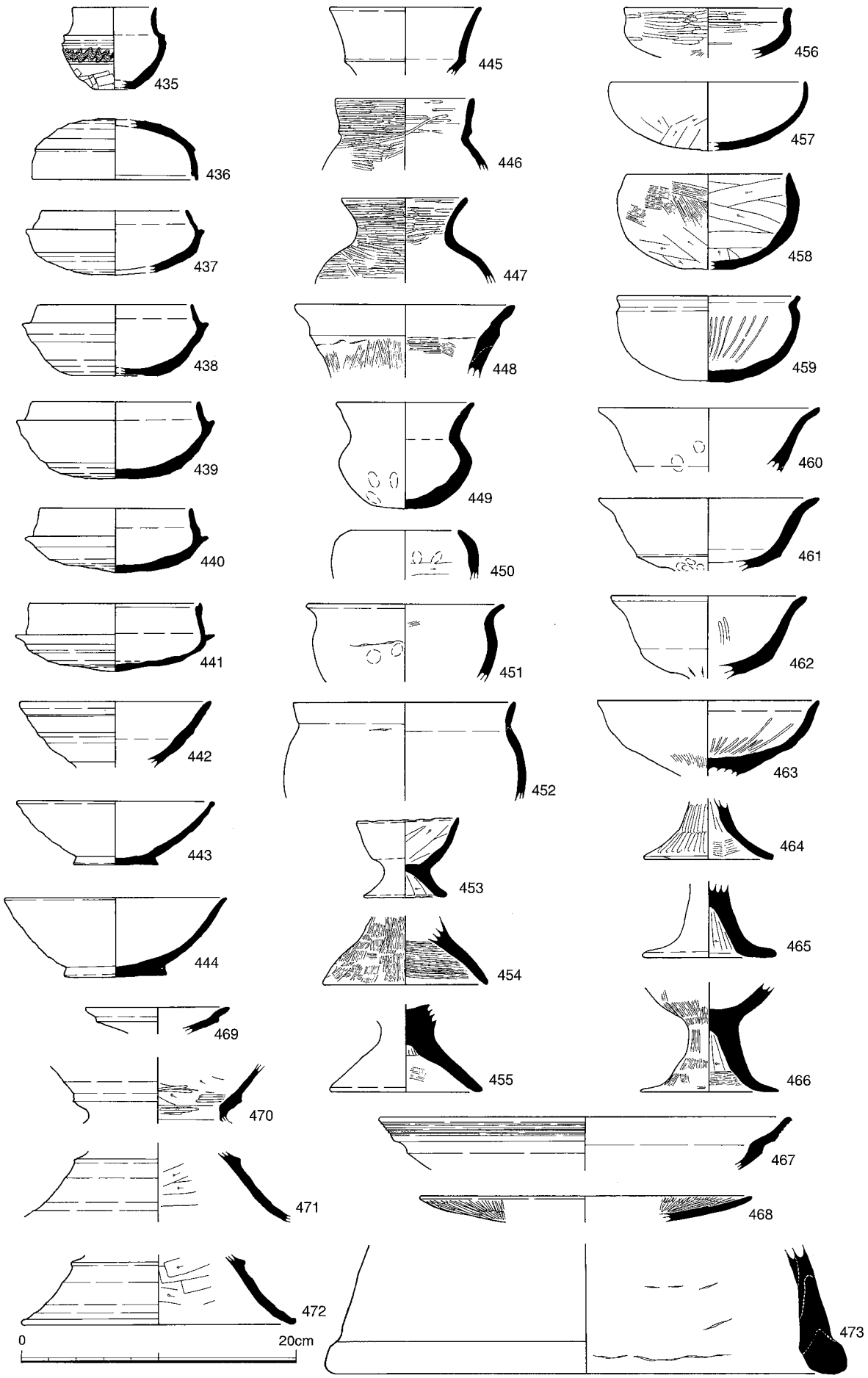
39. 溝SD 1 平面・断面（1/20）



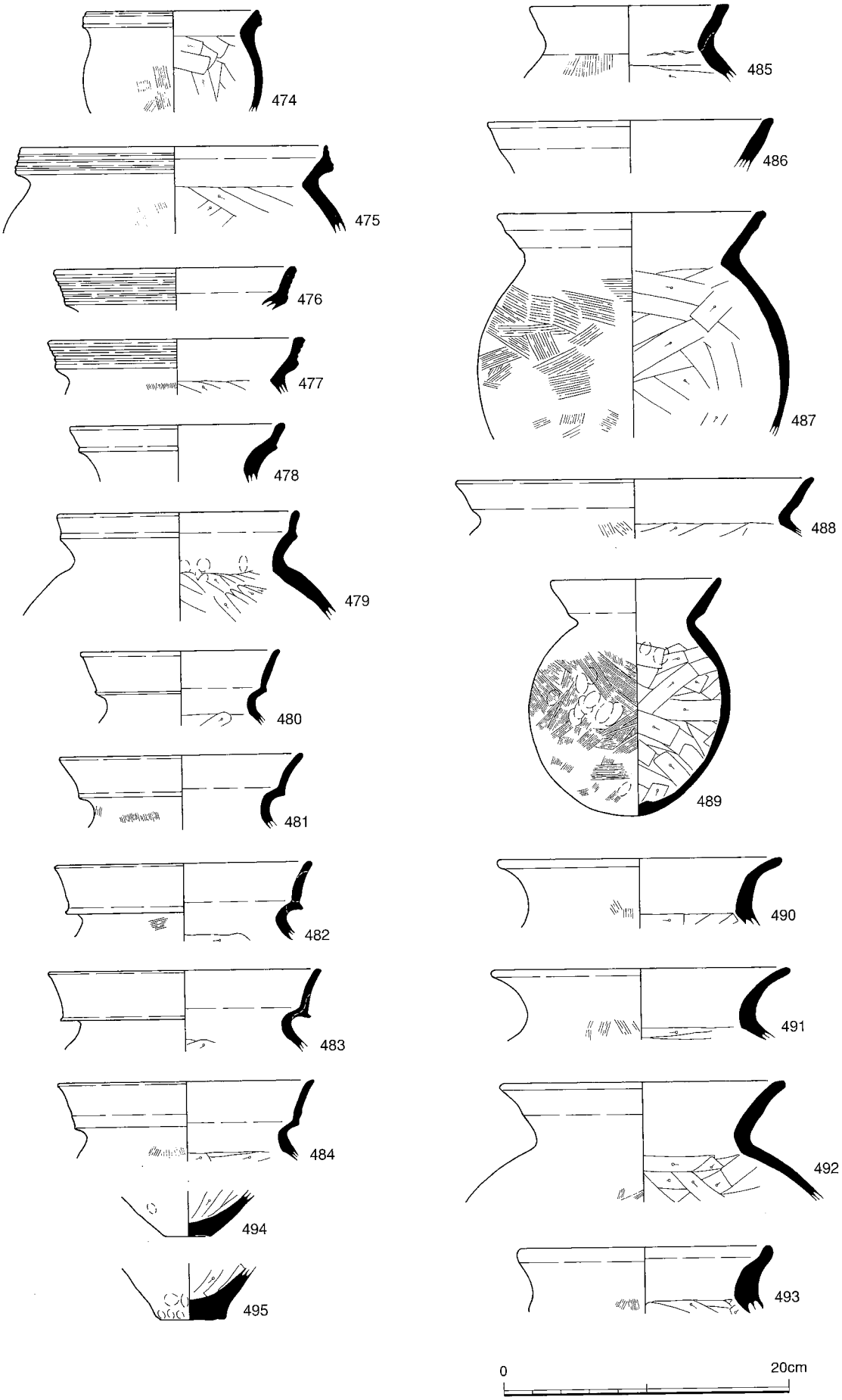
40．溝SD２平面・断面（1/20）



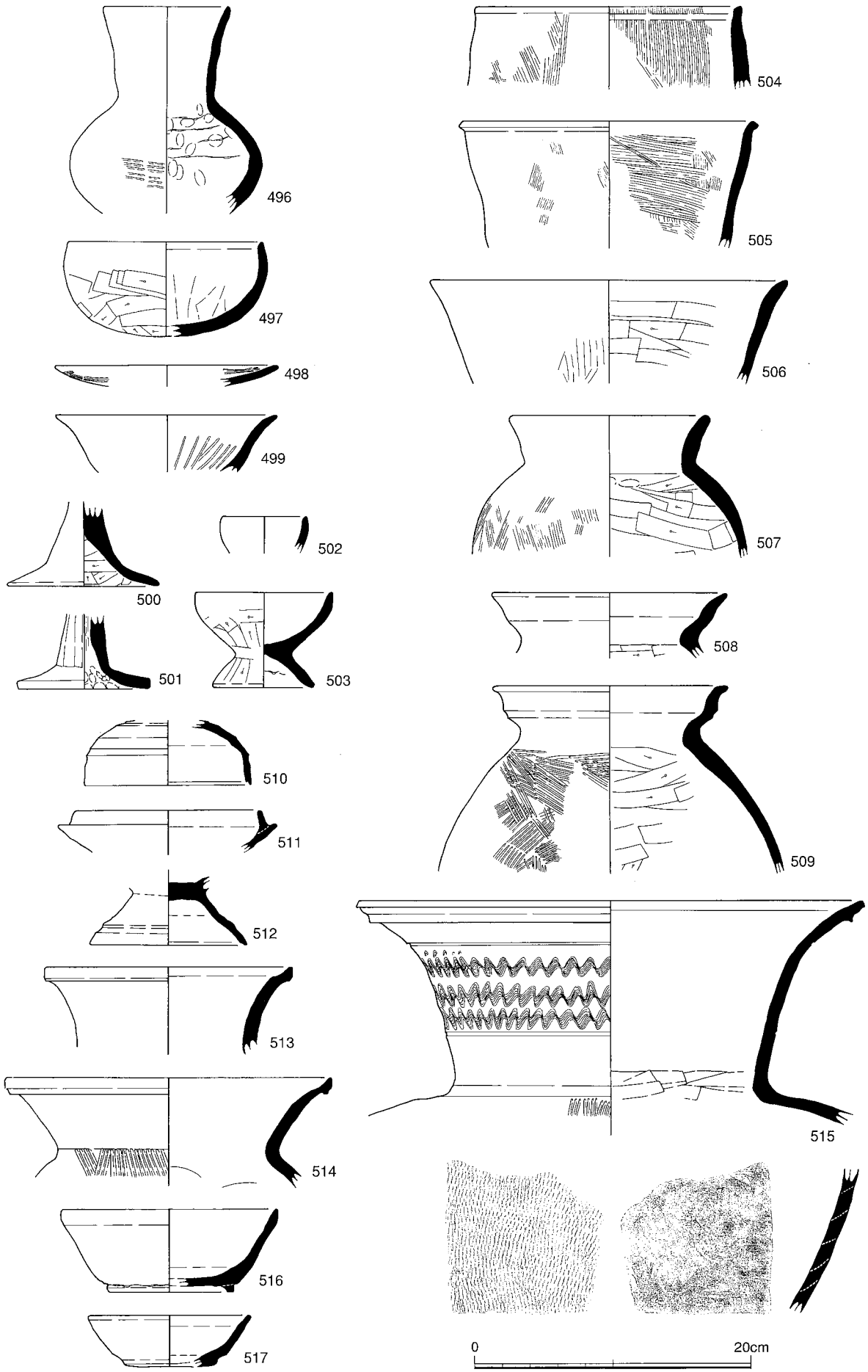
土器1　SD1・SD2（401～434）



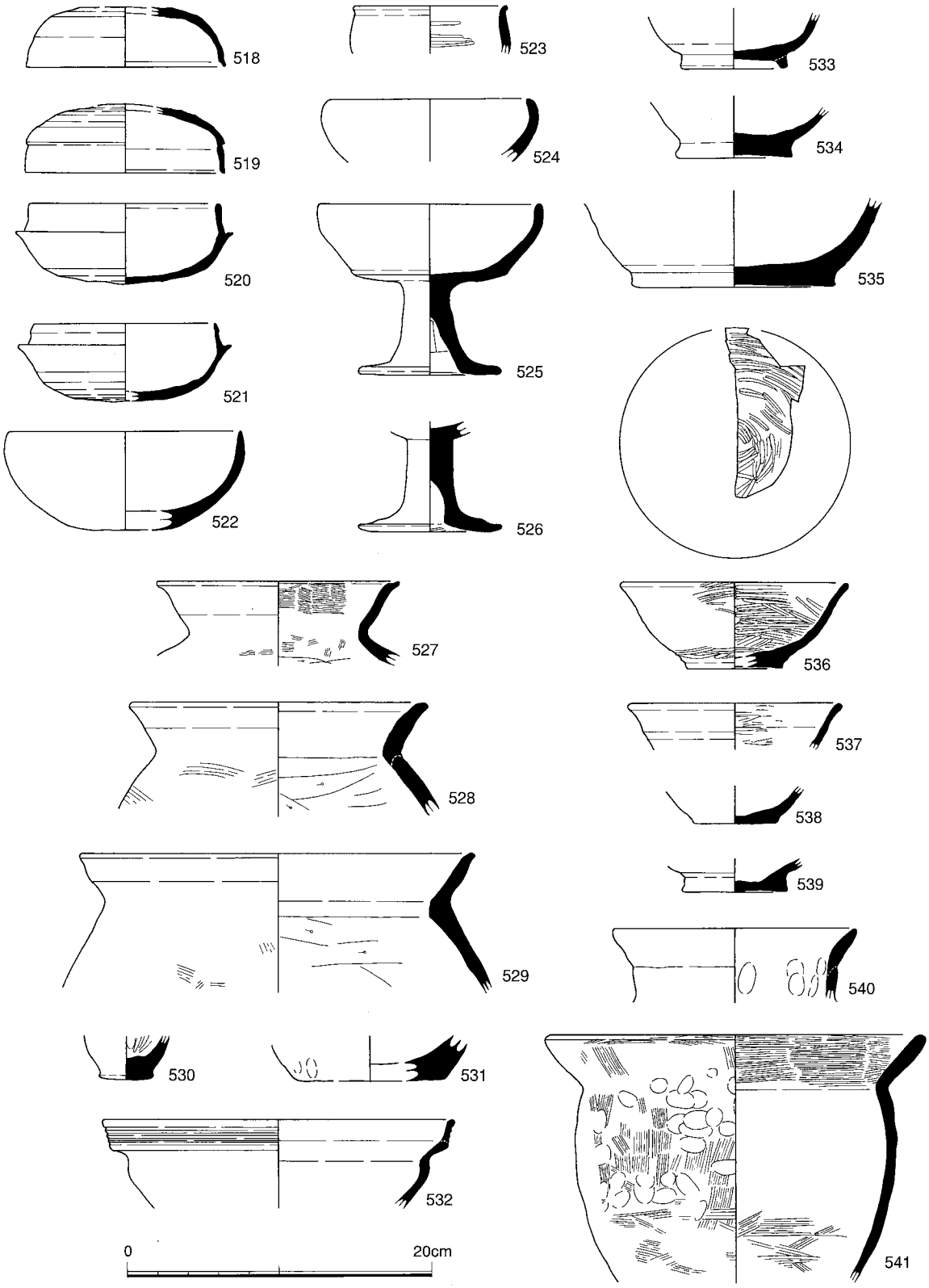
土器2　B地区包含層①（435～473）



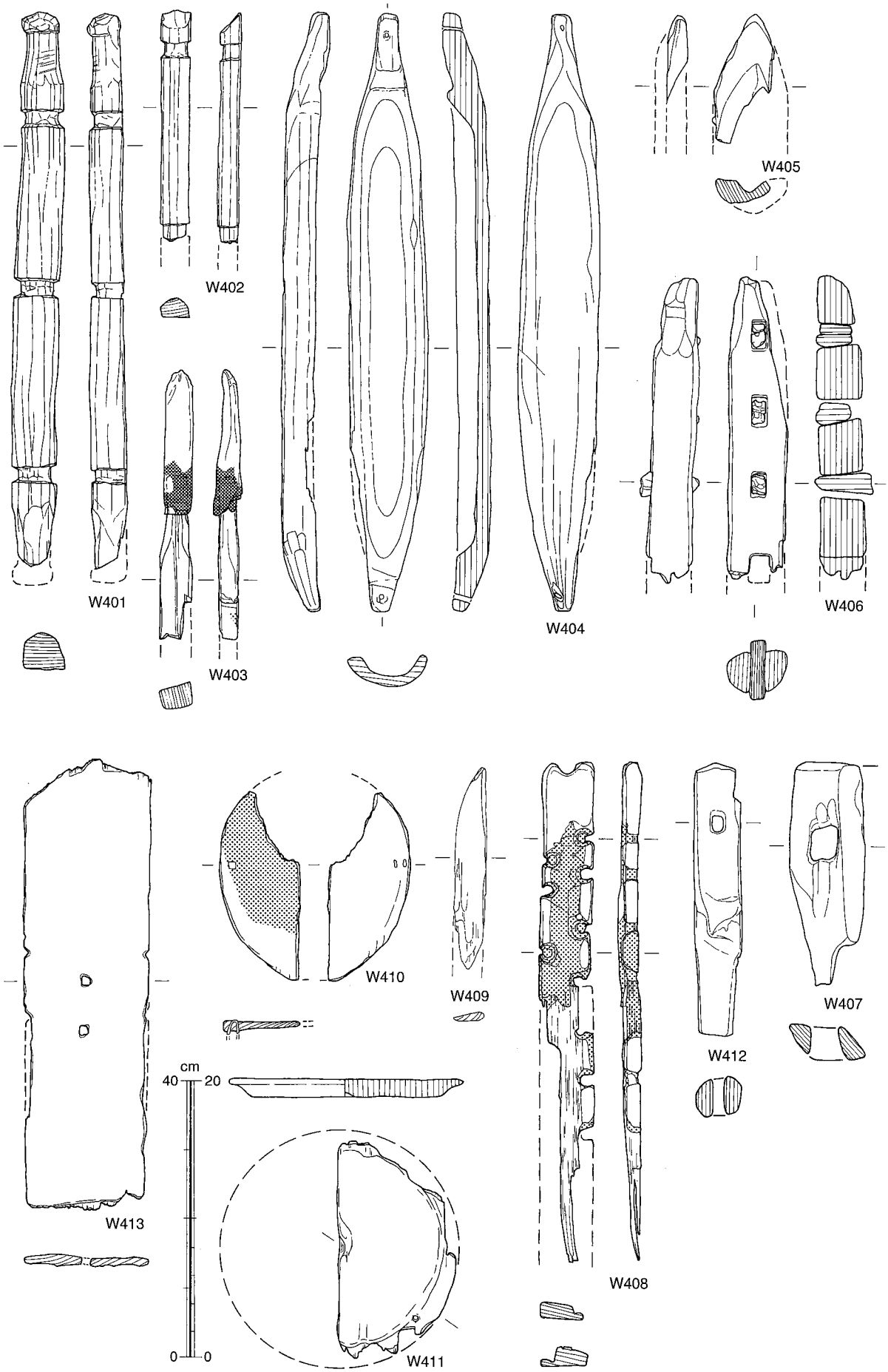
土器3　B地区包含層②（474～495）



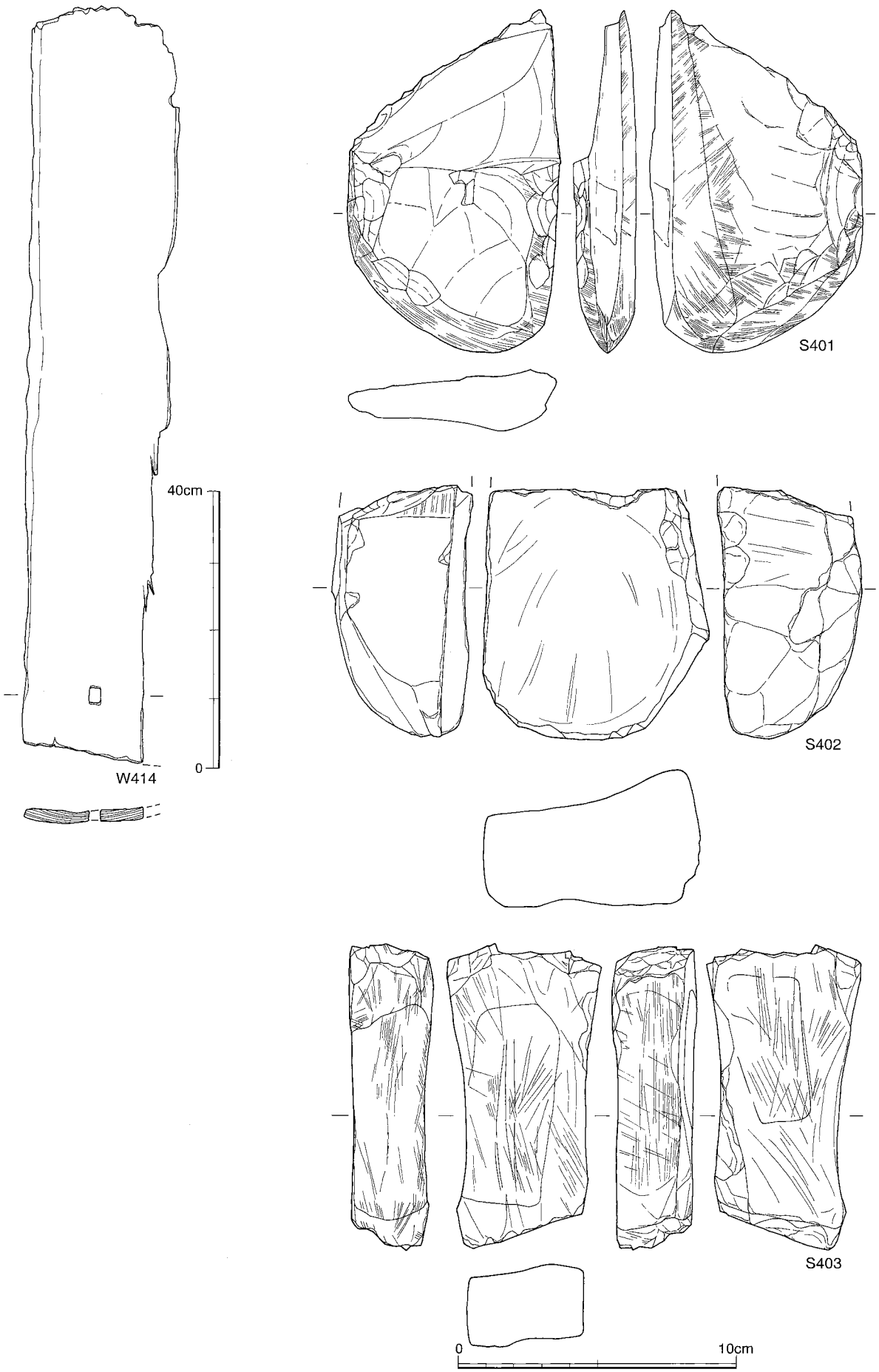
土器4　C地区包含層①（496～517）



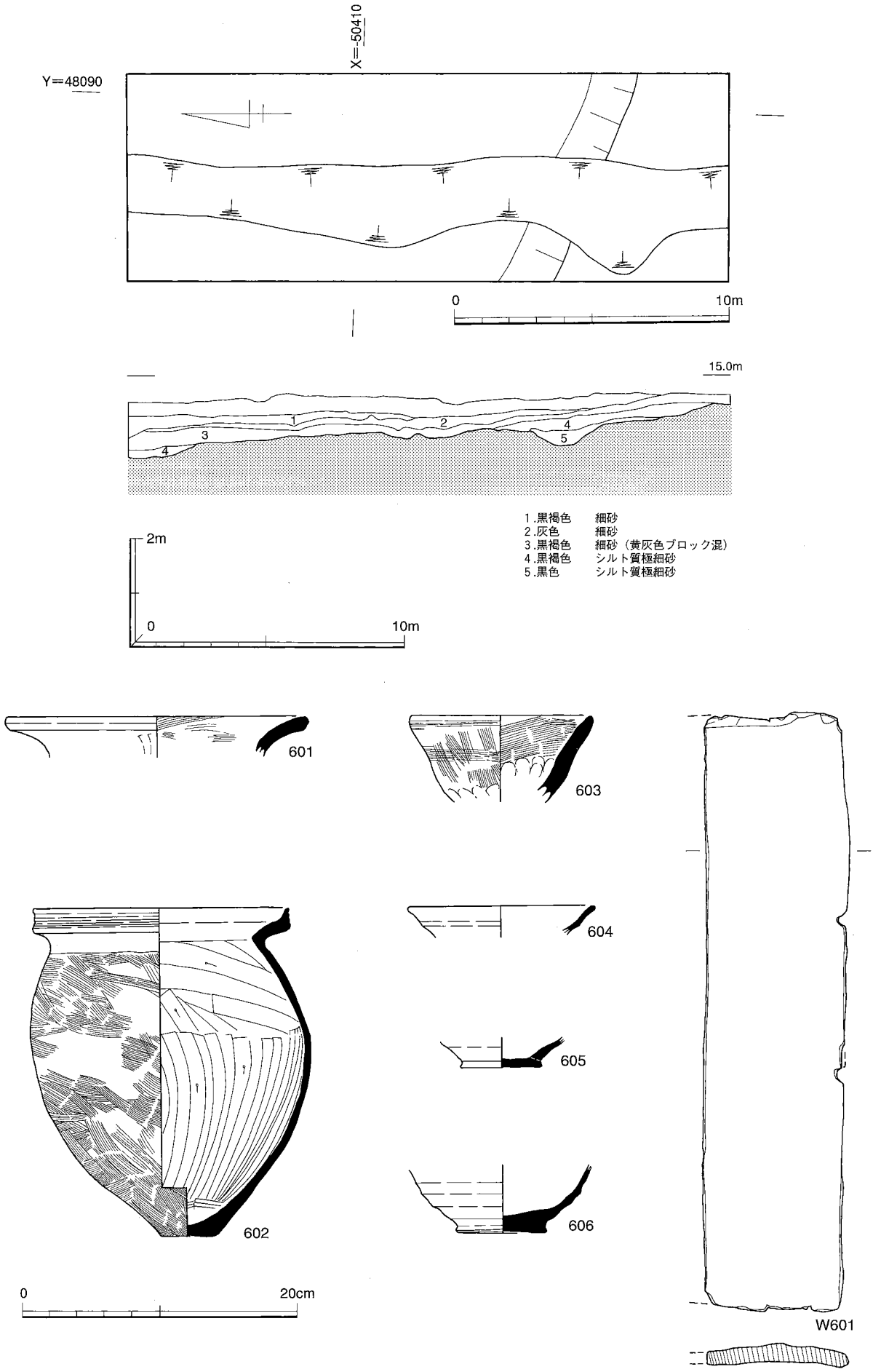
土器5　C地区包含層②（518～541）



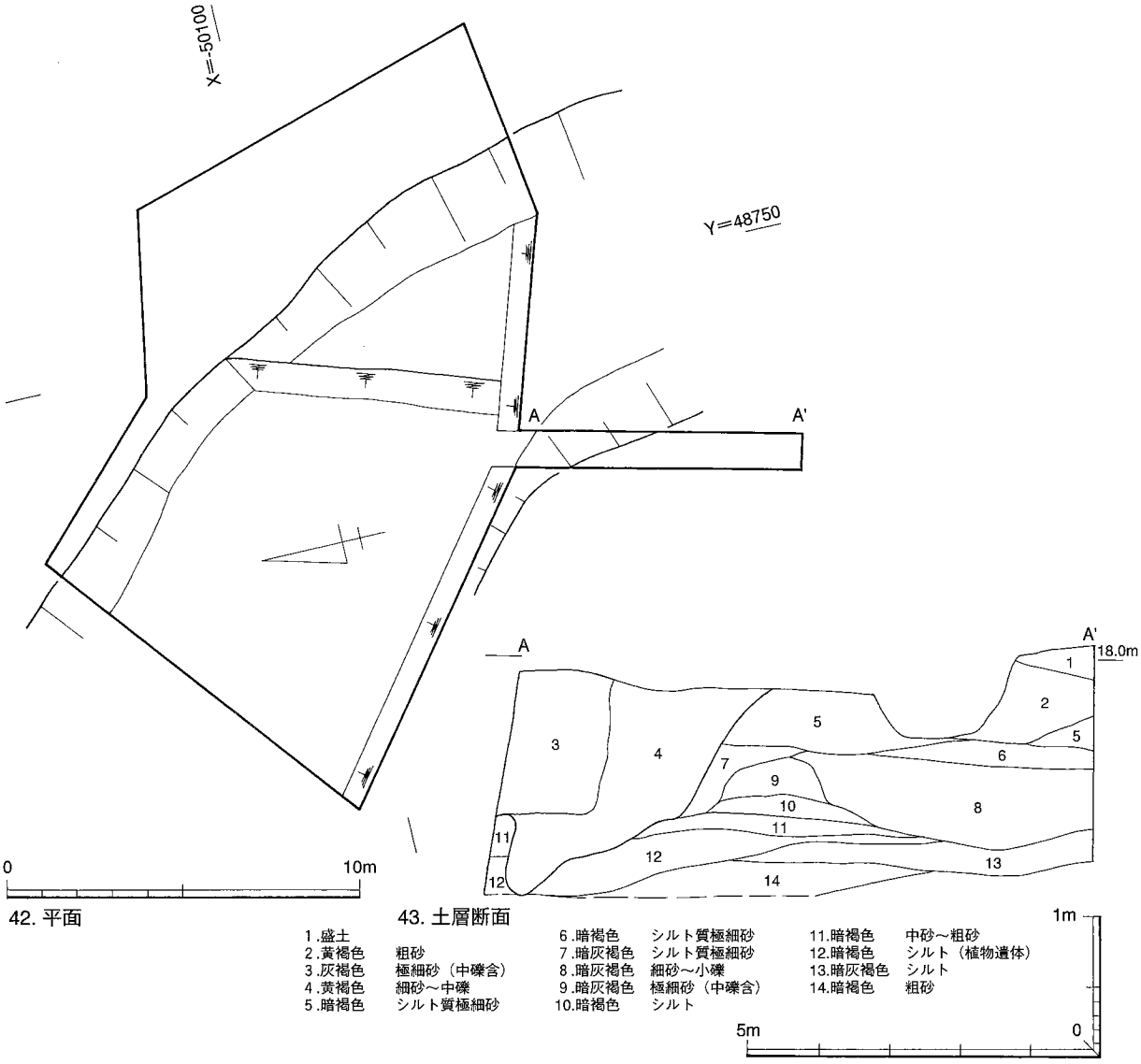
木器1（W401～W413）



木器2（W414）・石器（S401～S403）



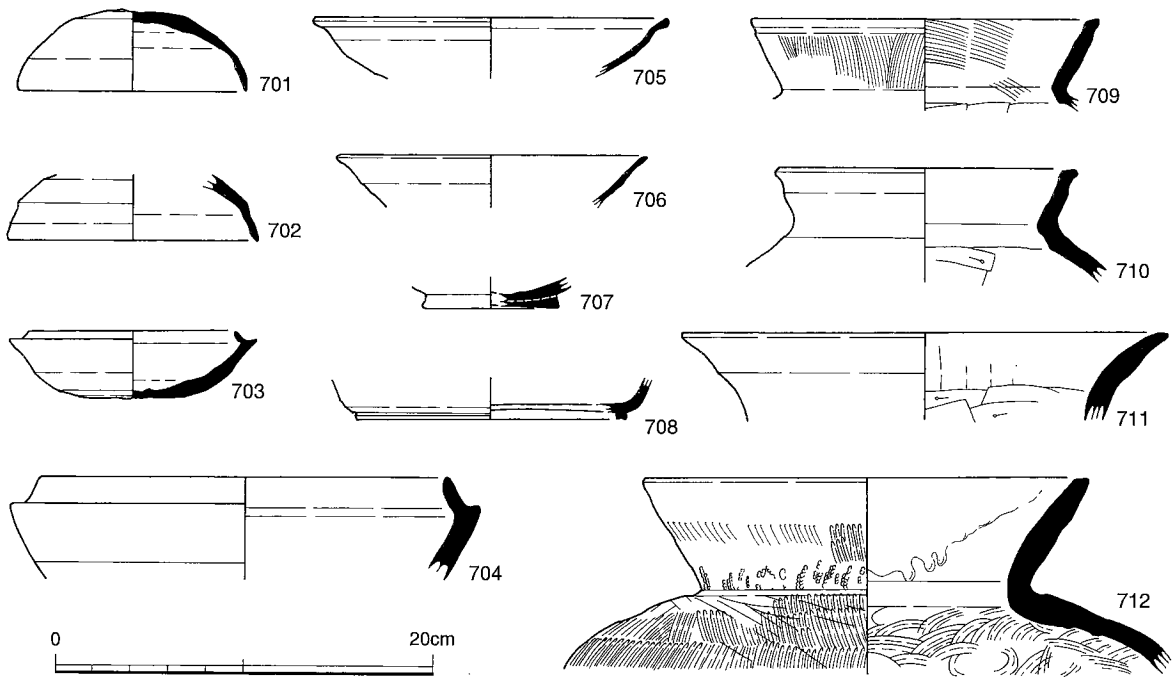
41. 平面・断面（1/200・1/100） 土器（601～606）・木器（W601）



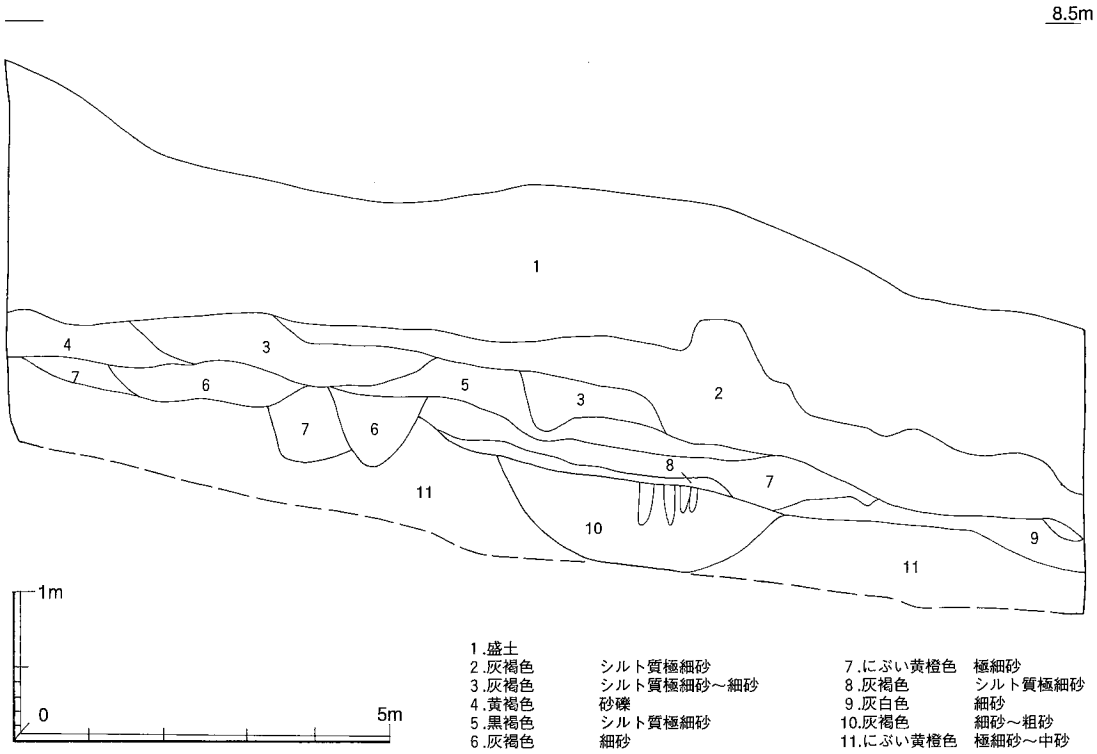
42. 平面

43. 土層断面

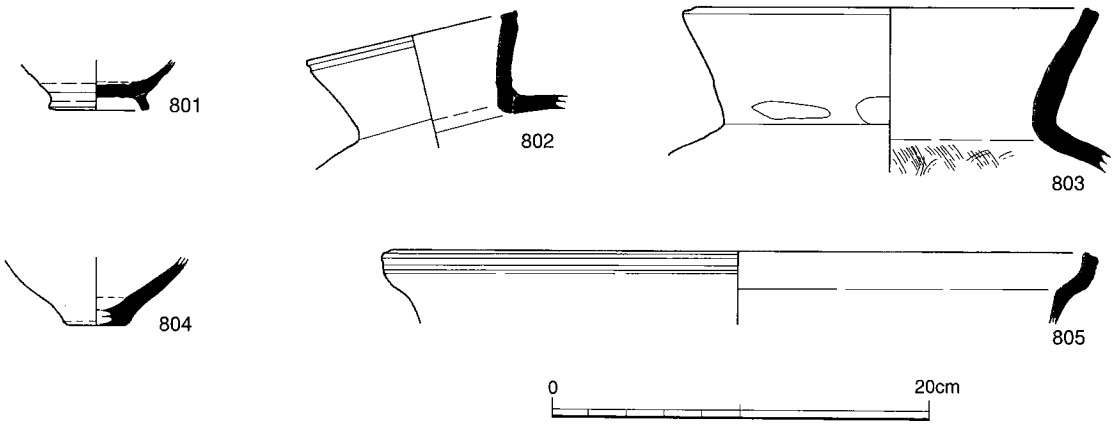
1.盛土
2.黄褐色　粗砂
3.灰褐色　極細砂（中礫含）
4.黄褐色　細砂～中礫
5.暗褐色　シルト質極細砂
6.暗褐色　シルト質極細砂
7.暗灰褐色　シルト質極細砂
8.暗灰褐色　細砂～小礫
9.暗灰褐色　極細砂（中礫含）
10.暗褐色　シルト
11.暗褐色　中砂～粗砂
12.暗褐色　シルト（植物遺体）
13.暗灰褐色　シルト
14.暗褐色　粗砂



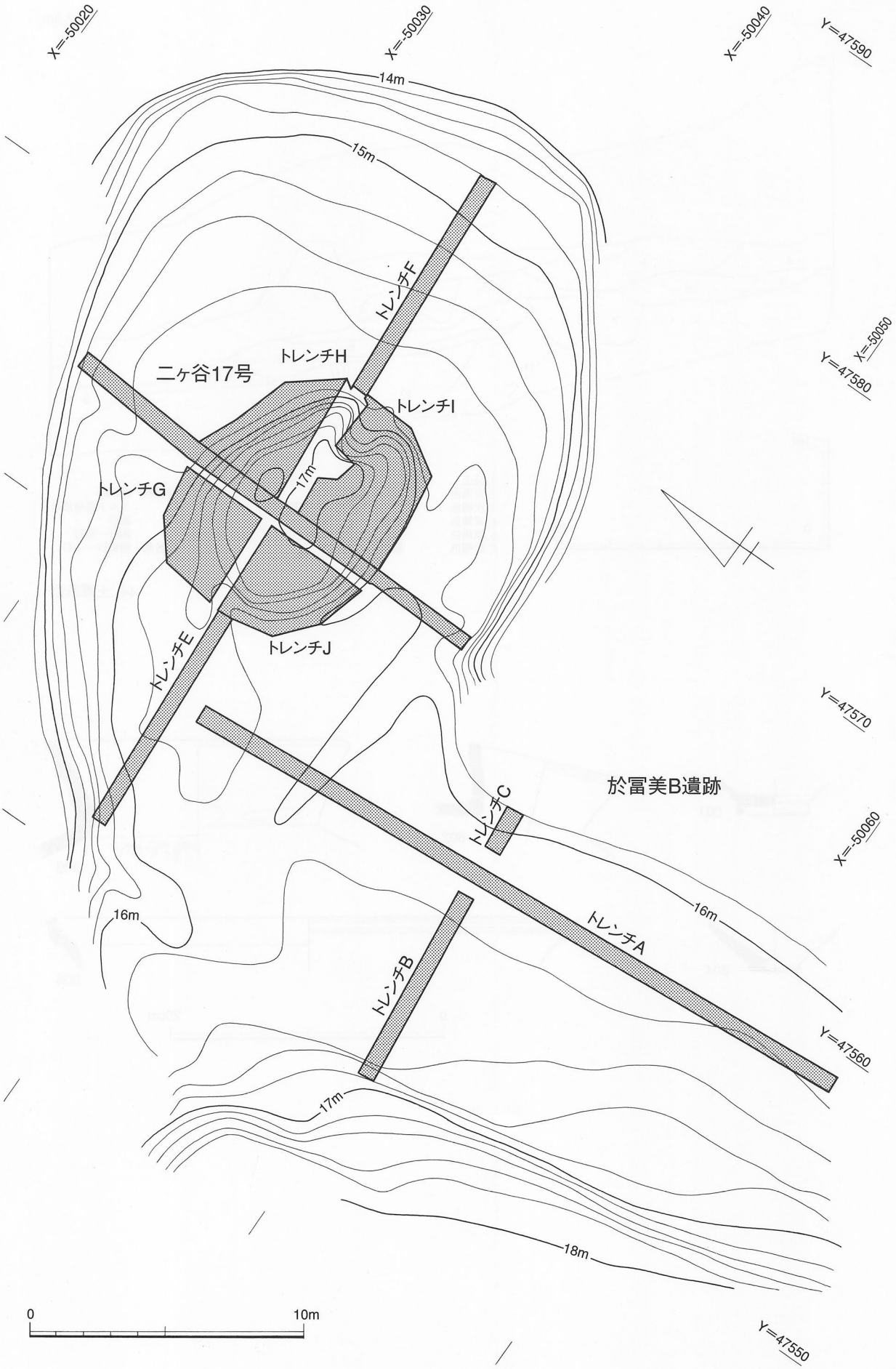
42. 平面（1/200）　43. 土層断面（1/100・1/50）　土器（701～712）



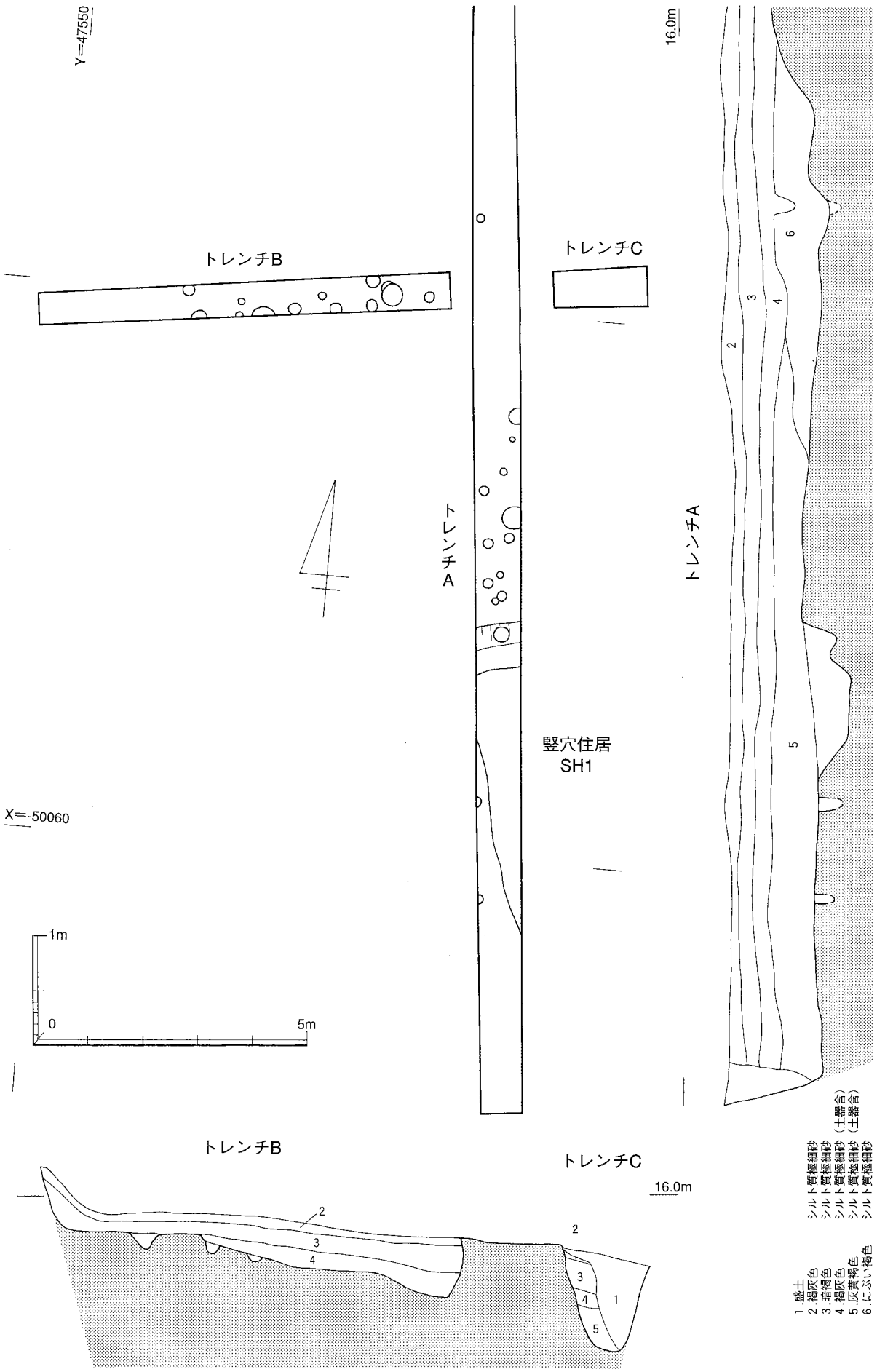
44. 土層断面



44. 土層断面（1/100・1/50） 土器（801～805）

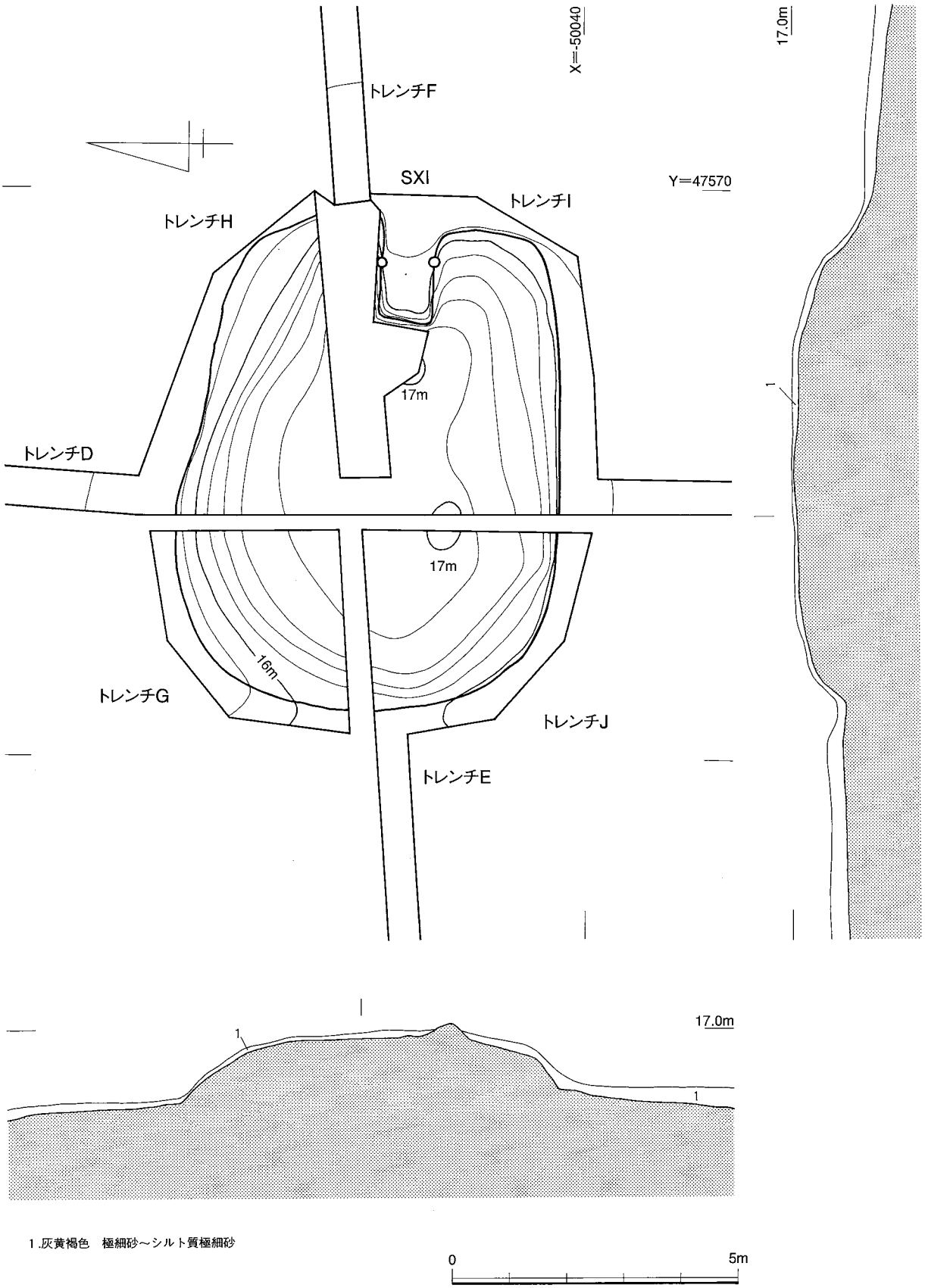

X=-50020
X=-50030
X=-50040
X=-50050
X=-50060
Y=47590
Y=47580
Y=47570
Y=47560
Y=47550
14m
15m
16m
17m
18m
トレンチF
トレンチH
トレンチI
二ケ谷17号
トレンチG
トレンチE
トレンチJ
トレンチC
於冨美B遺跡
トレンチA
トレンチB
0
10m

45．調査位置（1/200）



46. 平面・断面（1/100・1/50）

図版92　二ケ谷17号



47. 平面・断面（1/100）

写真図版

1. 遠 景（西から）

2. 遠 景（北から）

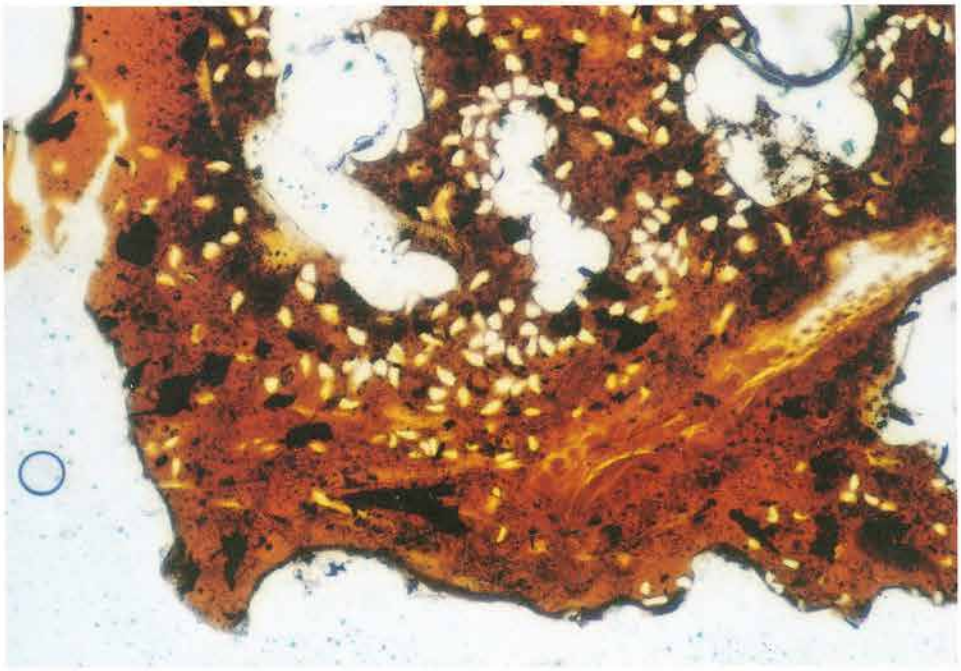
3. 遠 景（東から）

4. 五反田遺跡第 2 次調査区（真上から）

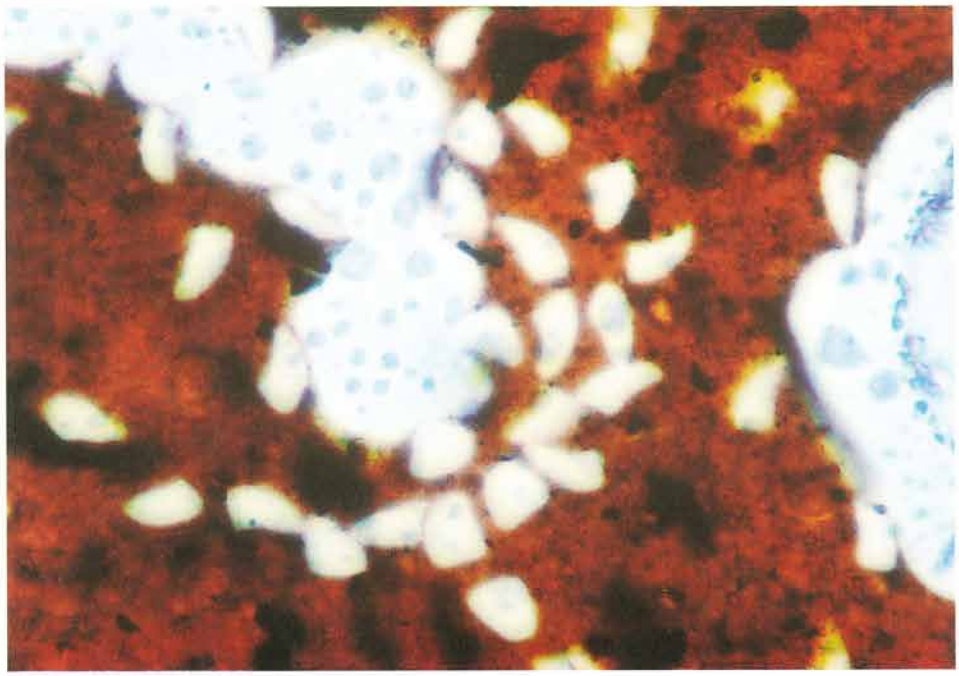
5. 流路SR42木器出土状況（西から）

6.建築材点画（W68）

7. 舟形木製品（W404）



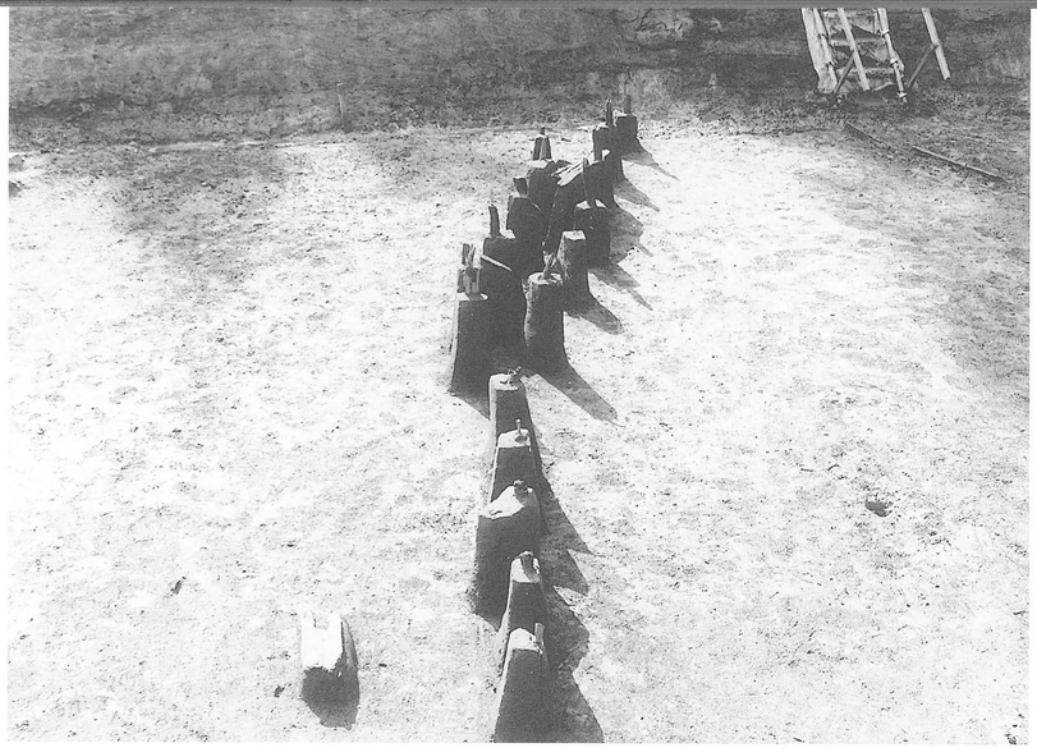
8. 漆膜断面（×400）



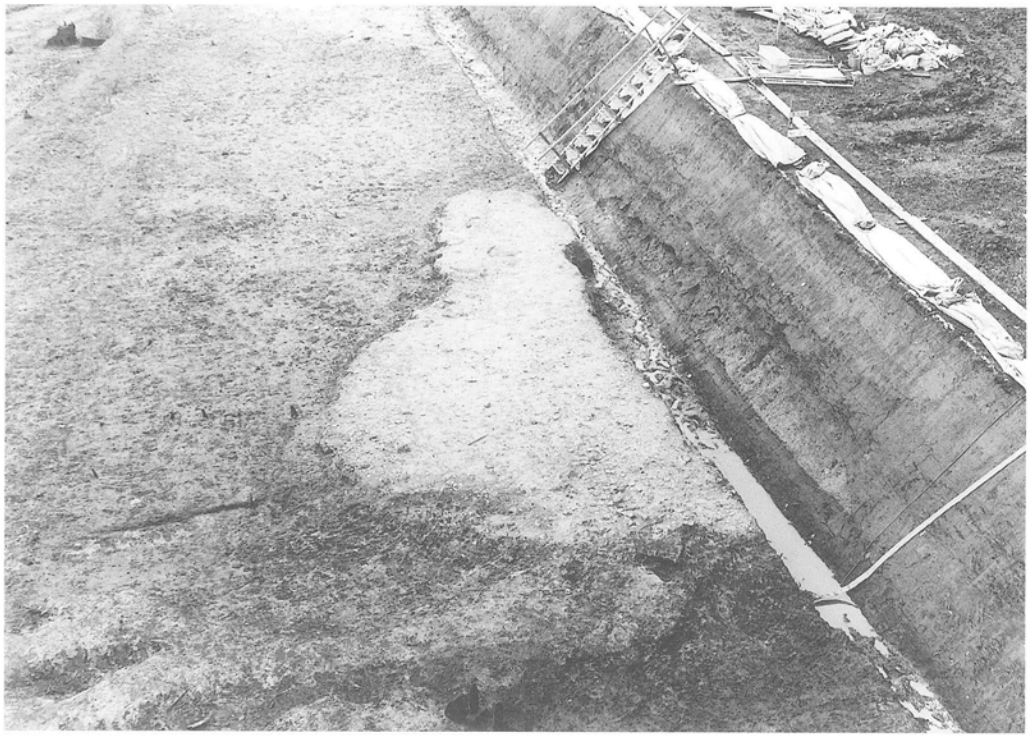
9. 漆膜断面拡大（×800）

10. コウノトリの郷公園事業地（真上から）

写真図版6　五反田第2次　遺構

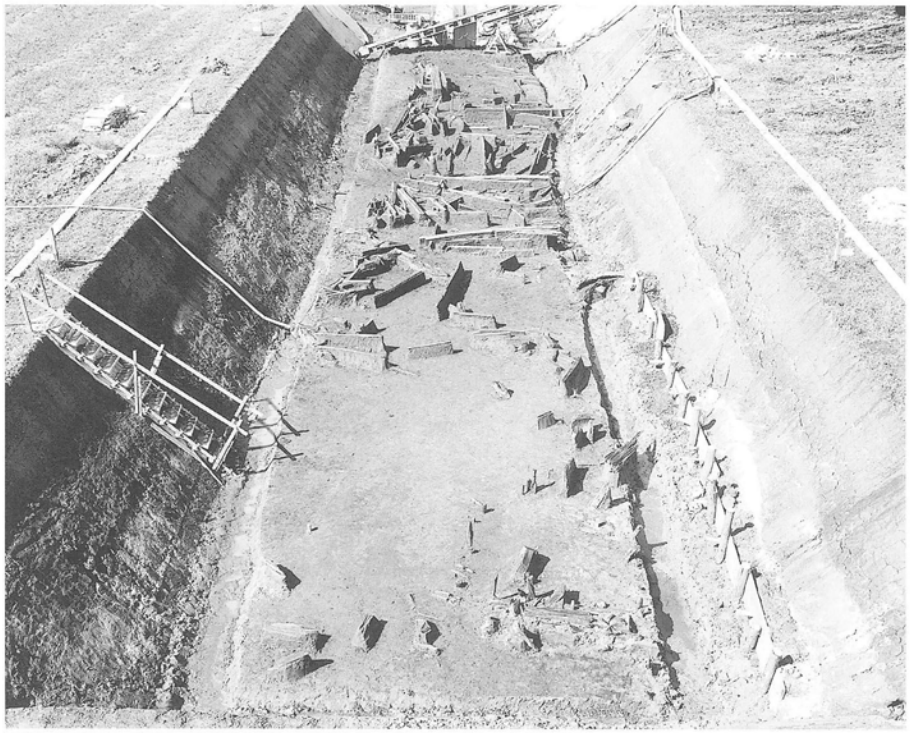


11. 杭列SW23（北から）

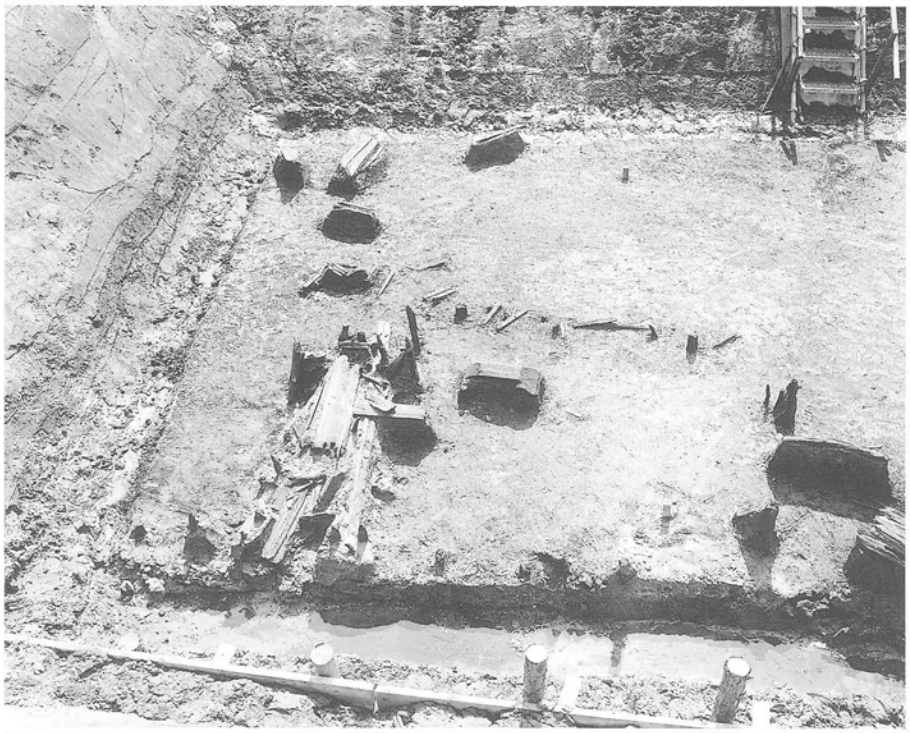


12. 土石流SX40（西から）

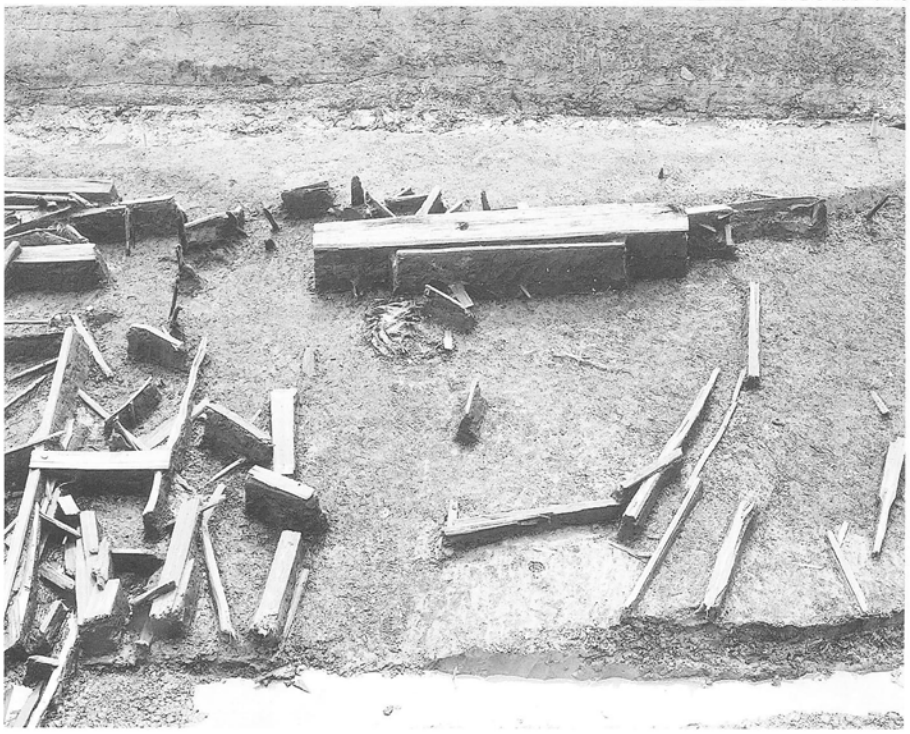
13. 木組SZ39（西から）



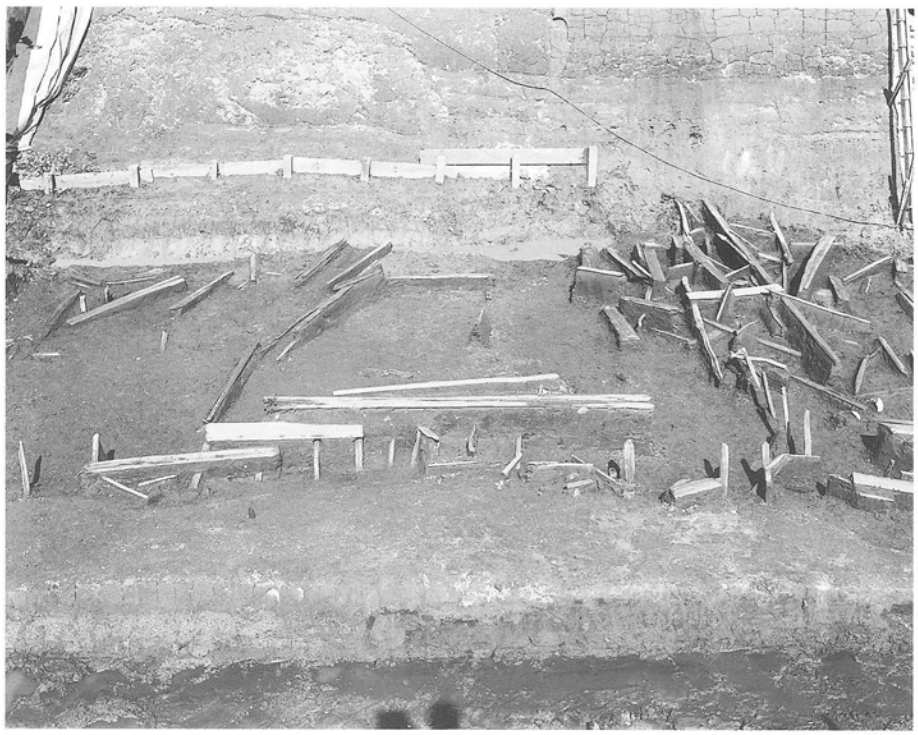
14. 第3・4面（東から）



15. 杭列SW34～36
（北から）

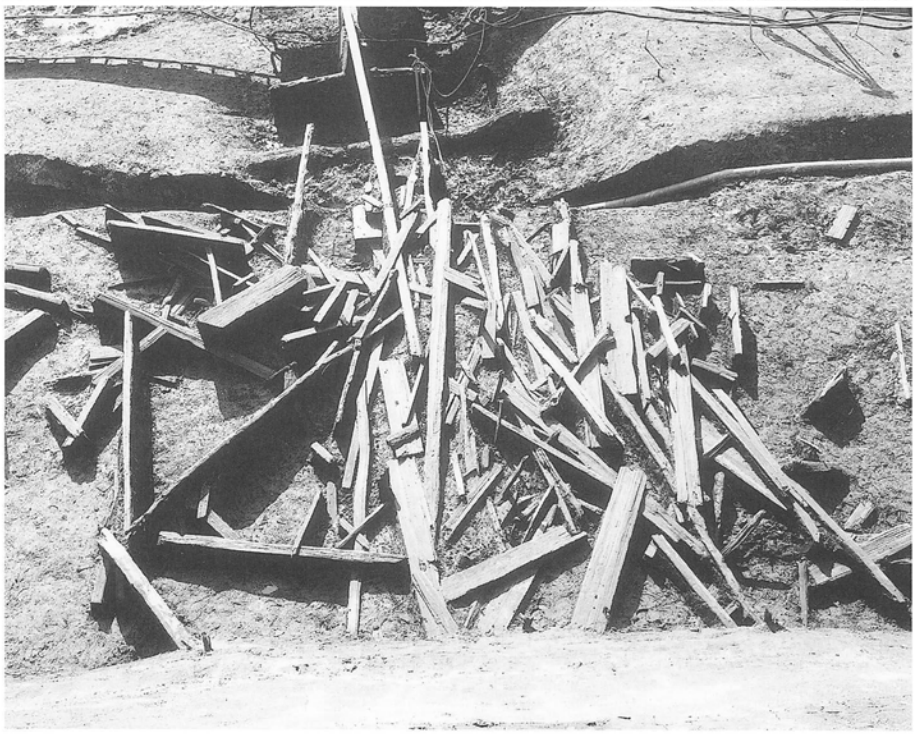


16. 第4面木器出土状況
（北から）



17．杭列SW37（南から）

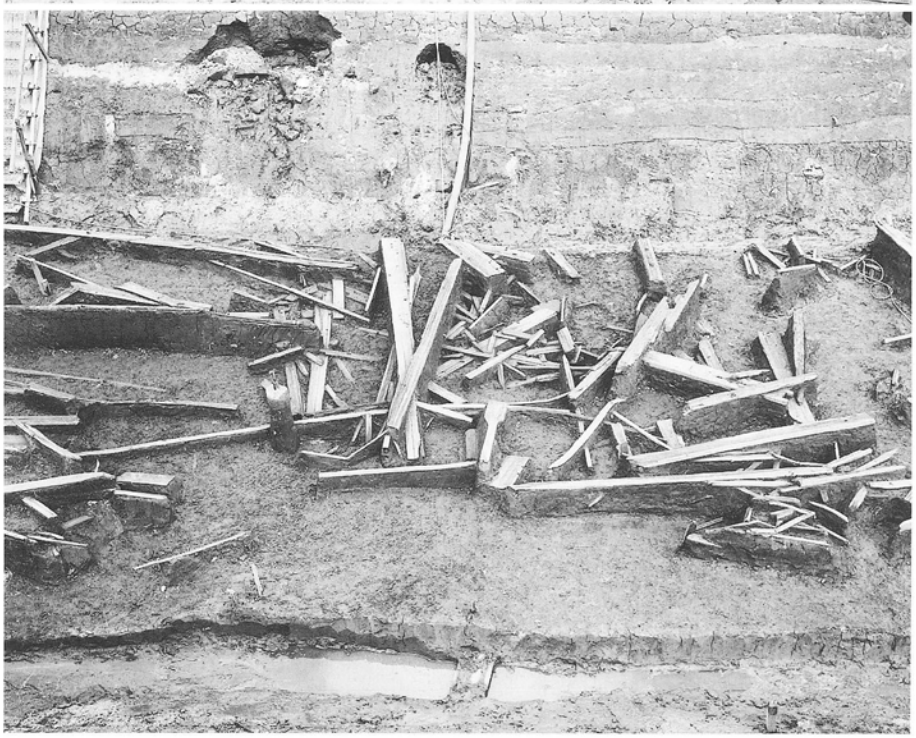
18．溝SD43木器出土状況（西から）



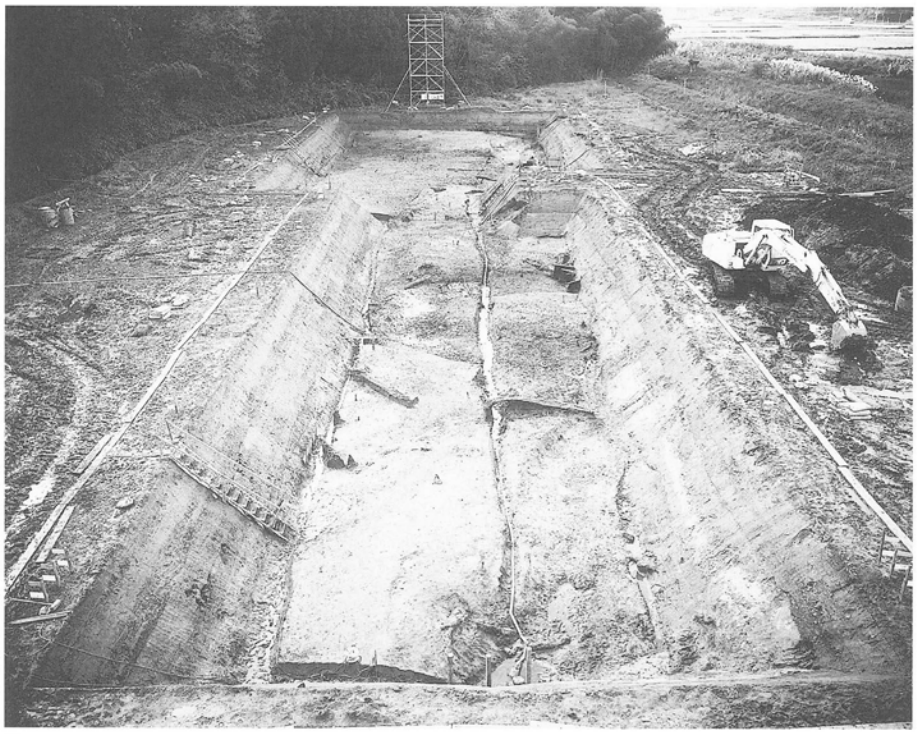
19．流路SR42木器出土状況（北から）

20．流路SR42
木器出土状況（西から）

21．流路SR42
木器出土状況（北から）

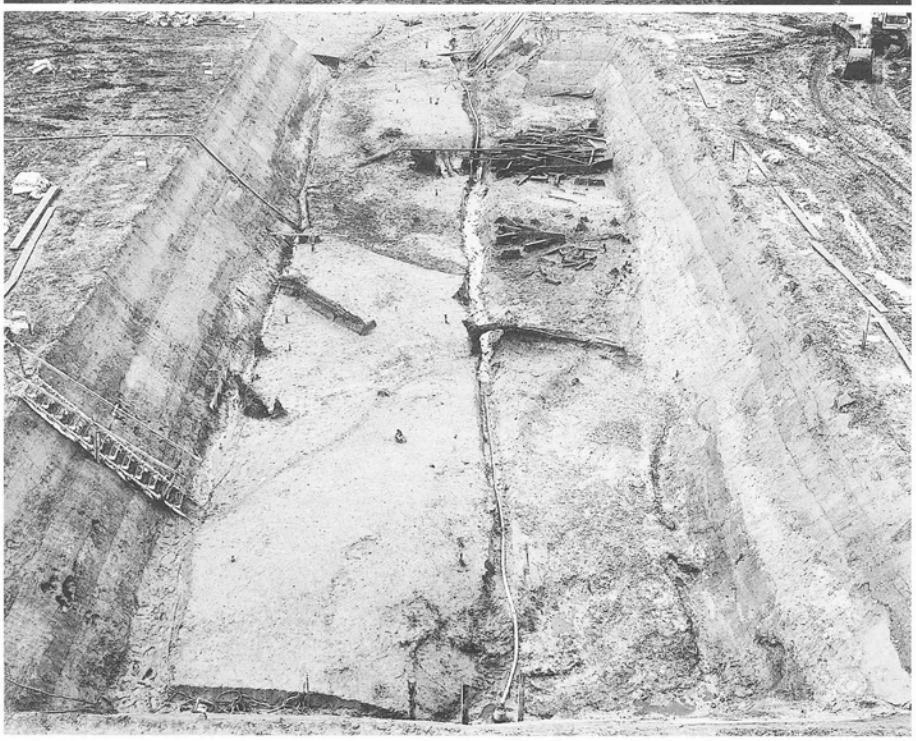


22．流路SR42
木器出土状況（南から）



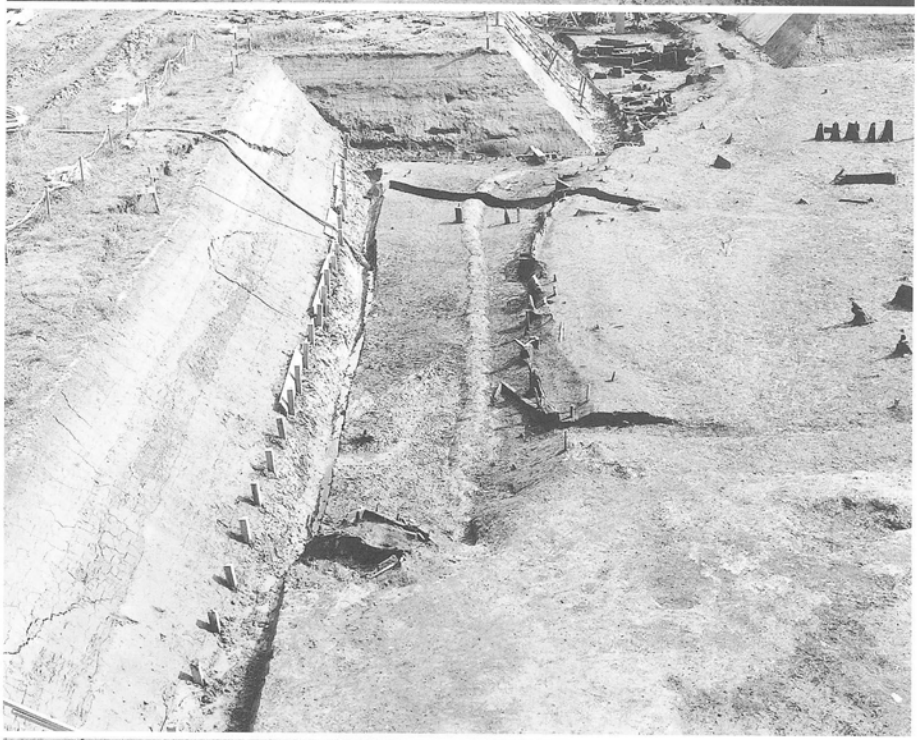
23．流路SR42拡張区
（東から）

24．流路SR42拡張区
（西から）



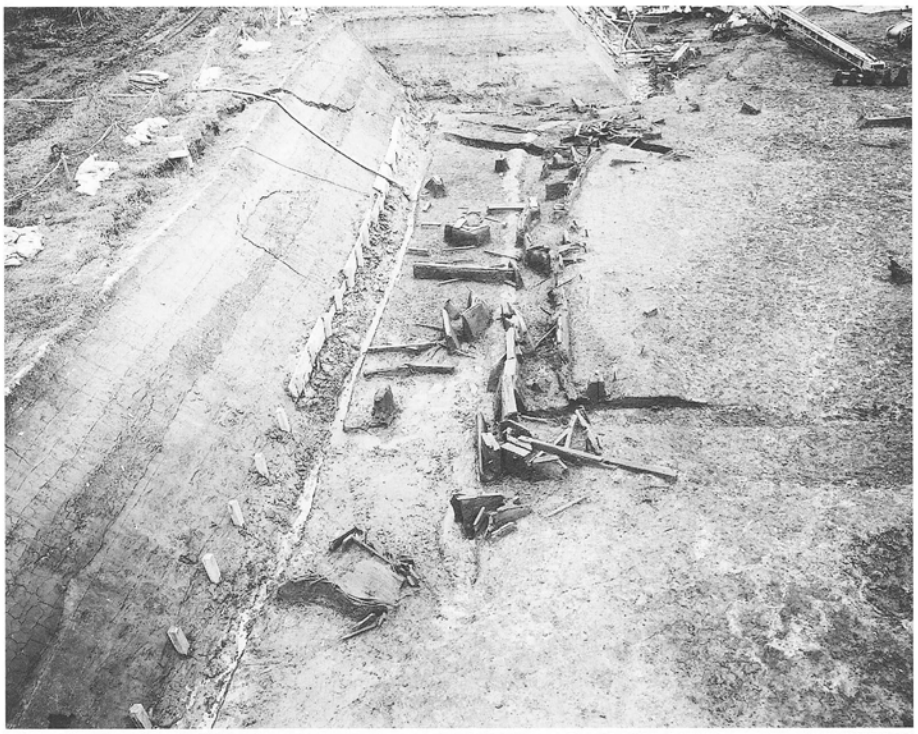
25．流路SR42拡張区
（東から）

26．溝SD53（西から）



27．溝SD53（西から）

28．溝SD53 断面（西から）

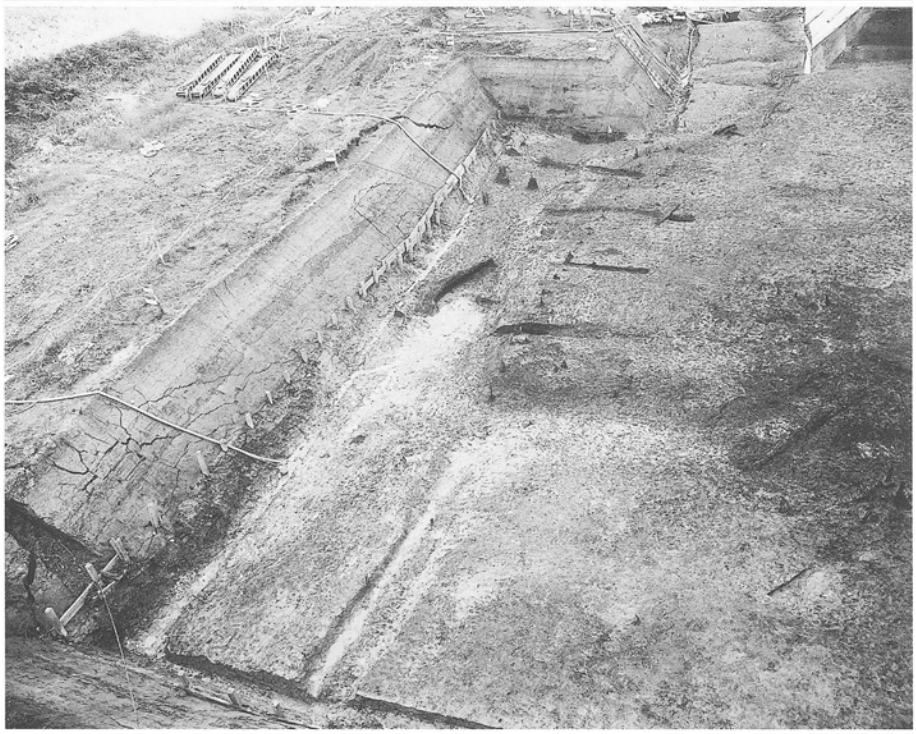


29. 溝SD43・SS44・SD52・53（西から）

30. 溝SD43・SS44・SD52・53（東から）

31. 杭SW45（北東から）

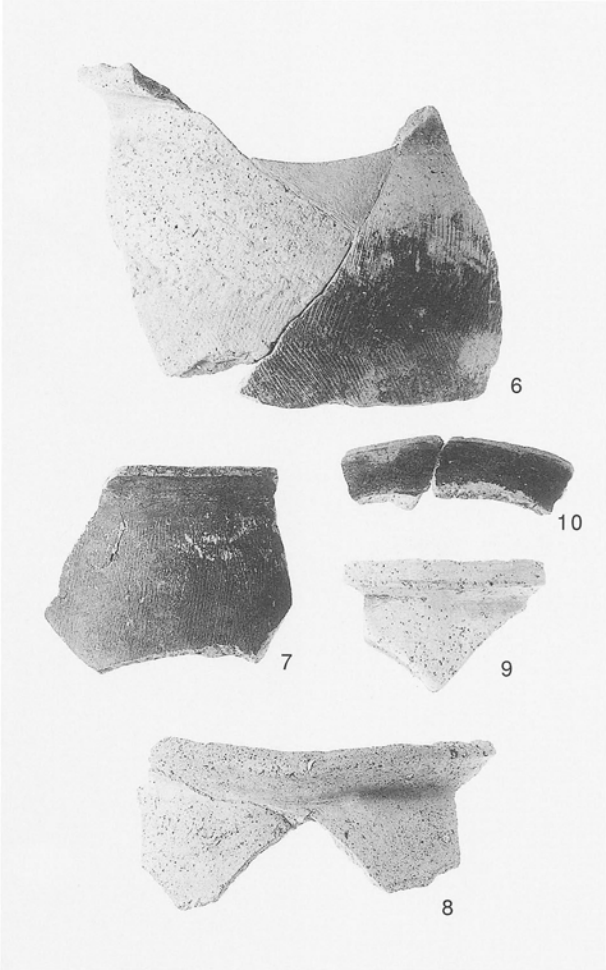
32. 第6面（西から）

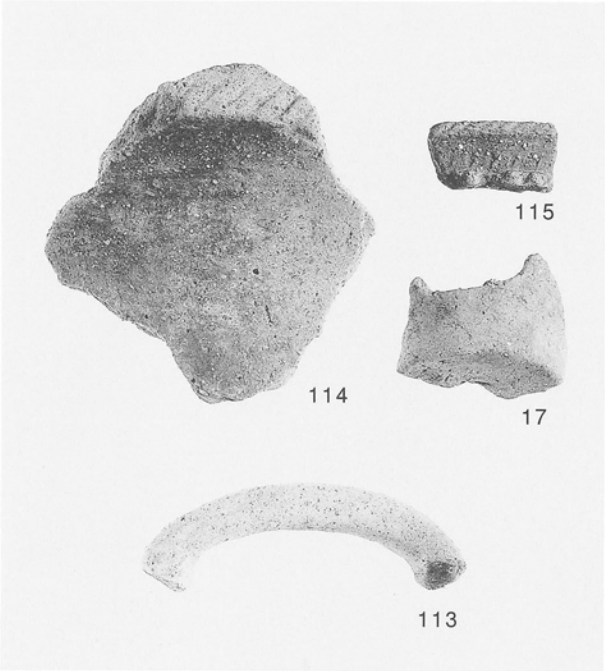


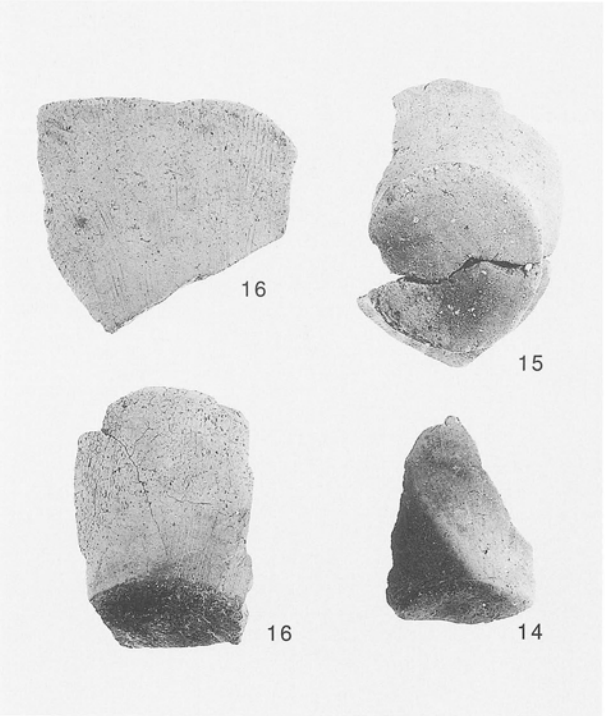
33. 溝SD61（南西から）

34. 防火水槽調査区
（西から）

写真図版14　五反田第2次　遺物　土器1





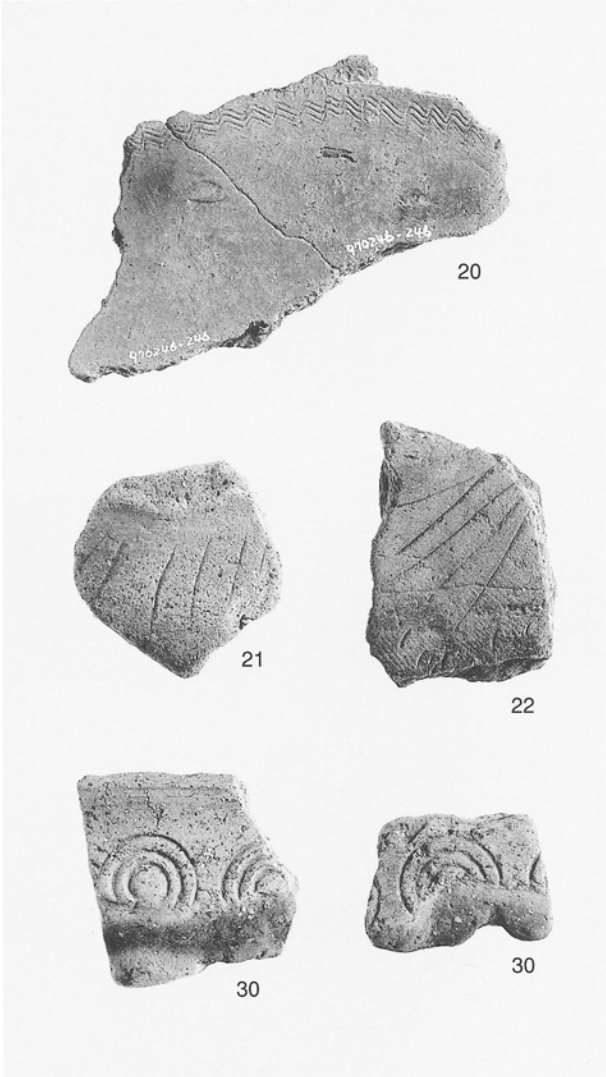


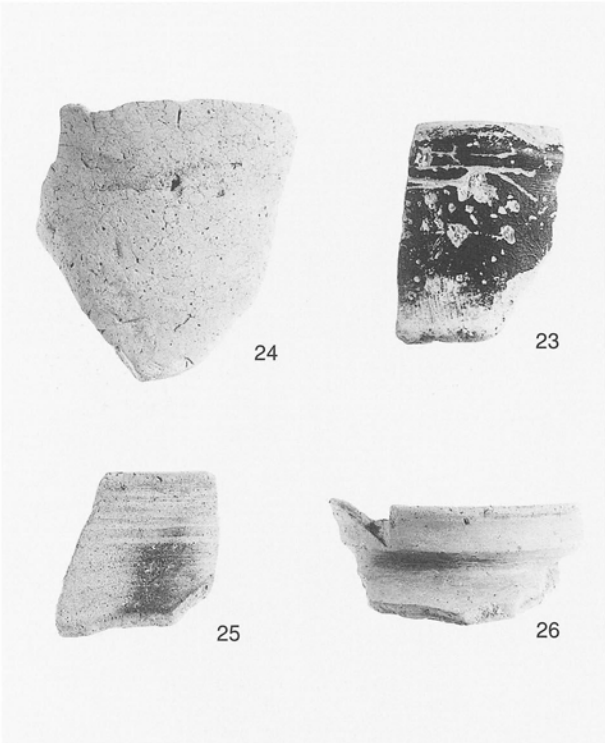
弥　生　土　器

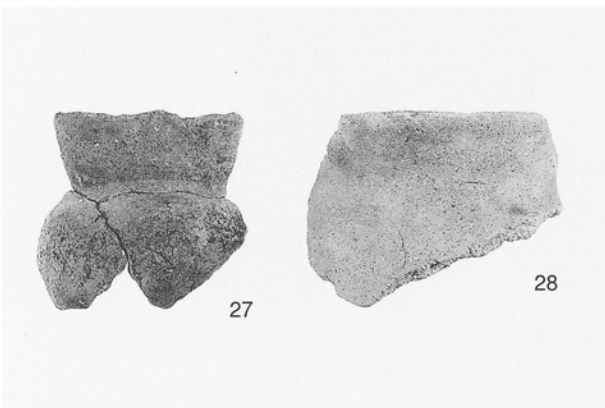
11

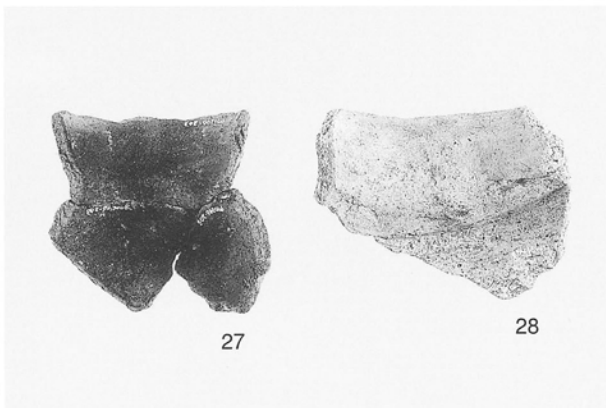
12

弥　生　土　器

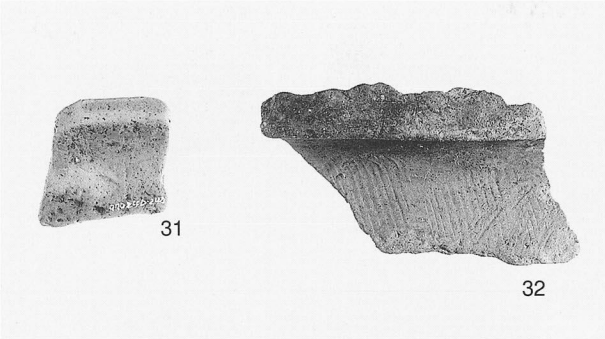


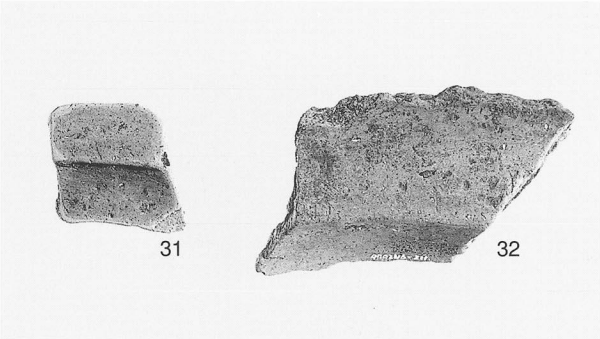


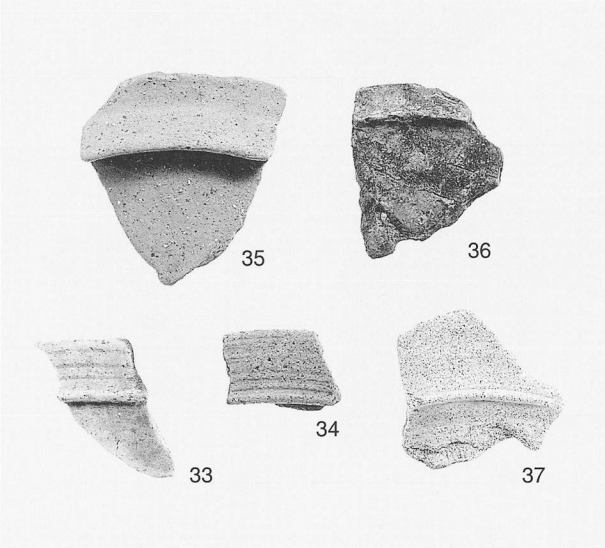


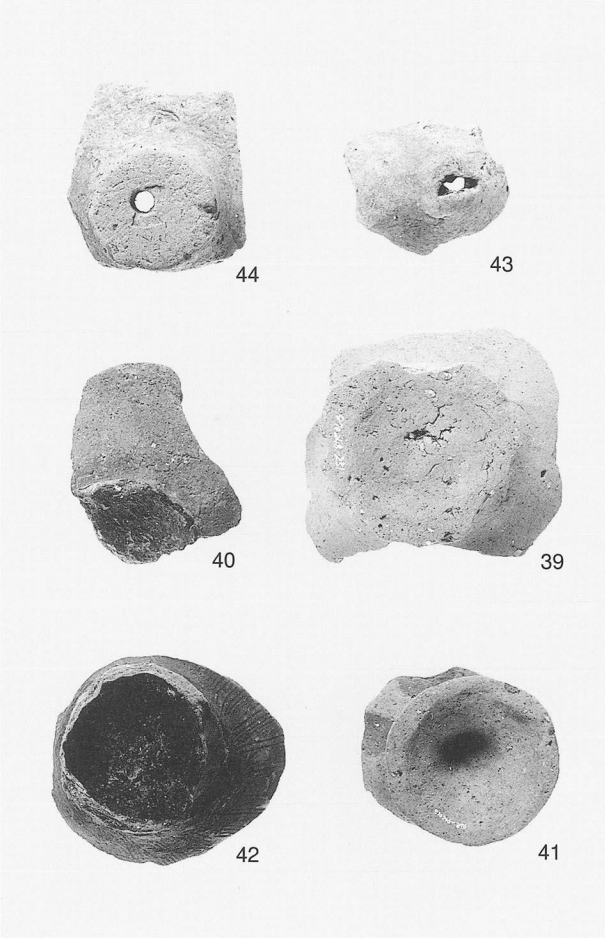


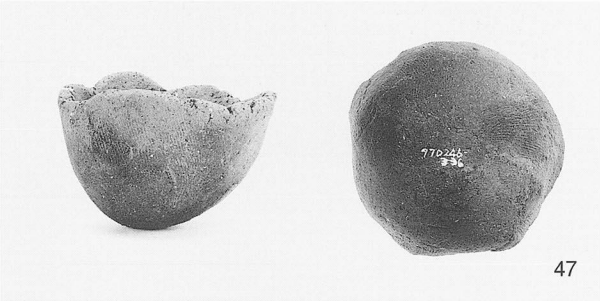
壺・器台他





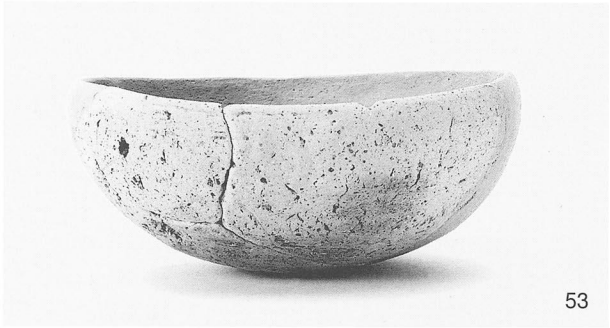






壺・器台他

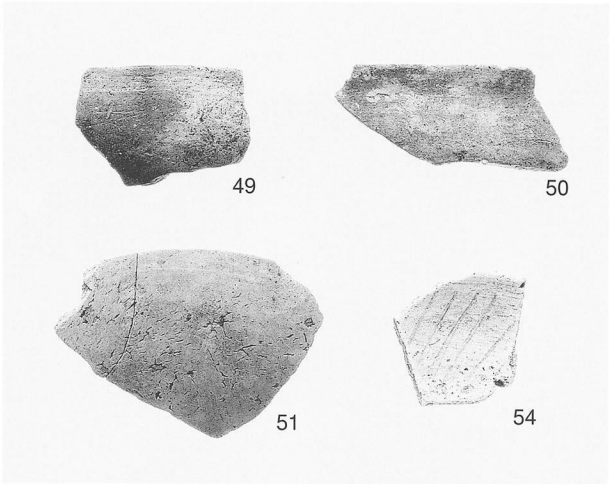
52

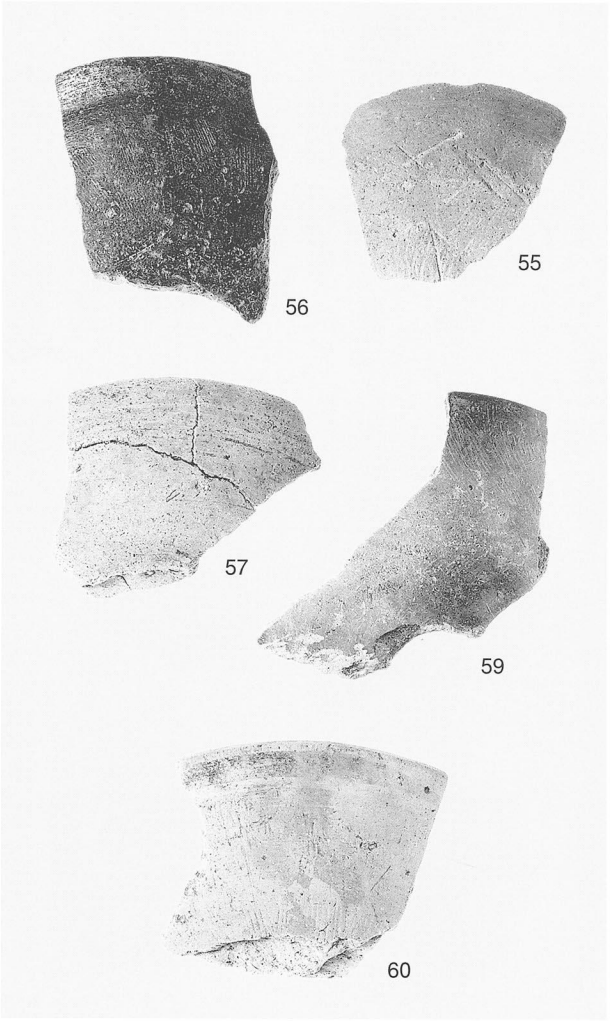

53

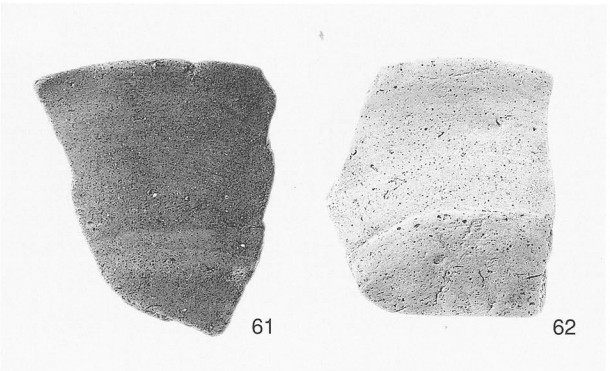
58

64

73



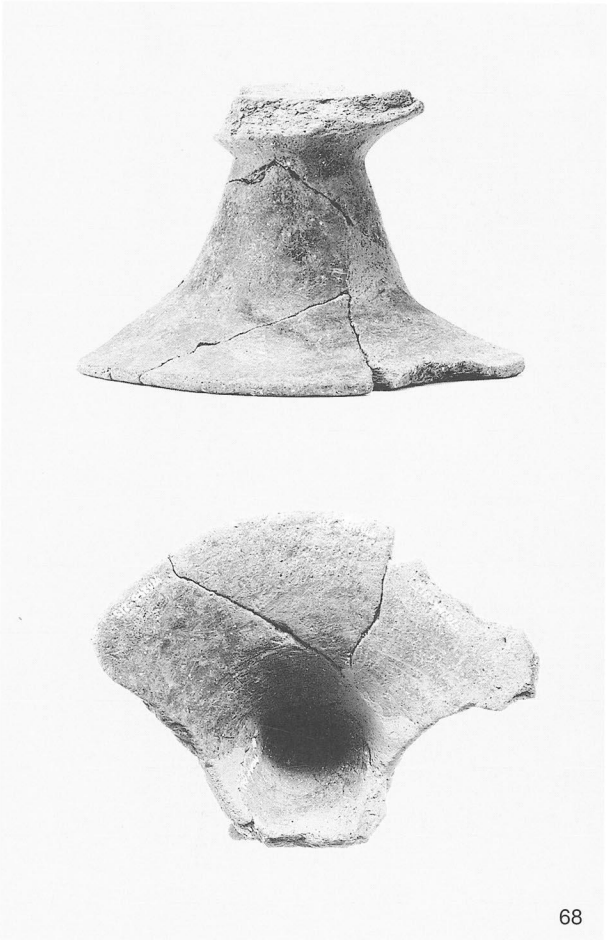




高坏・坏

66

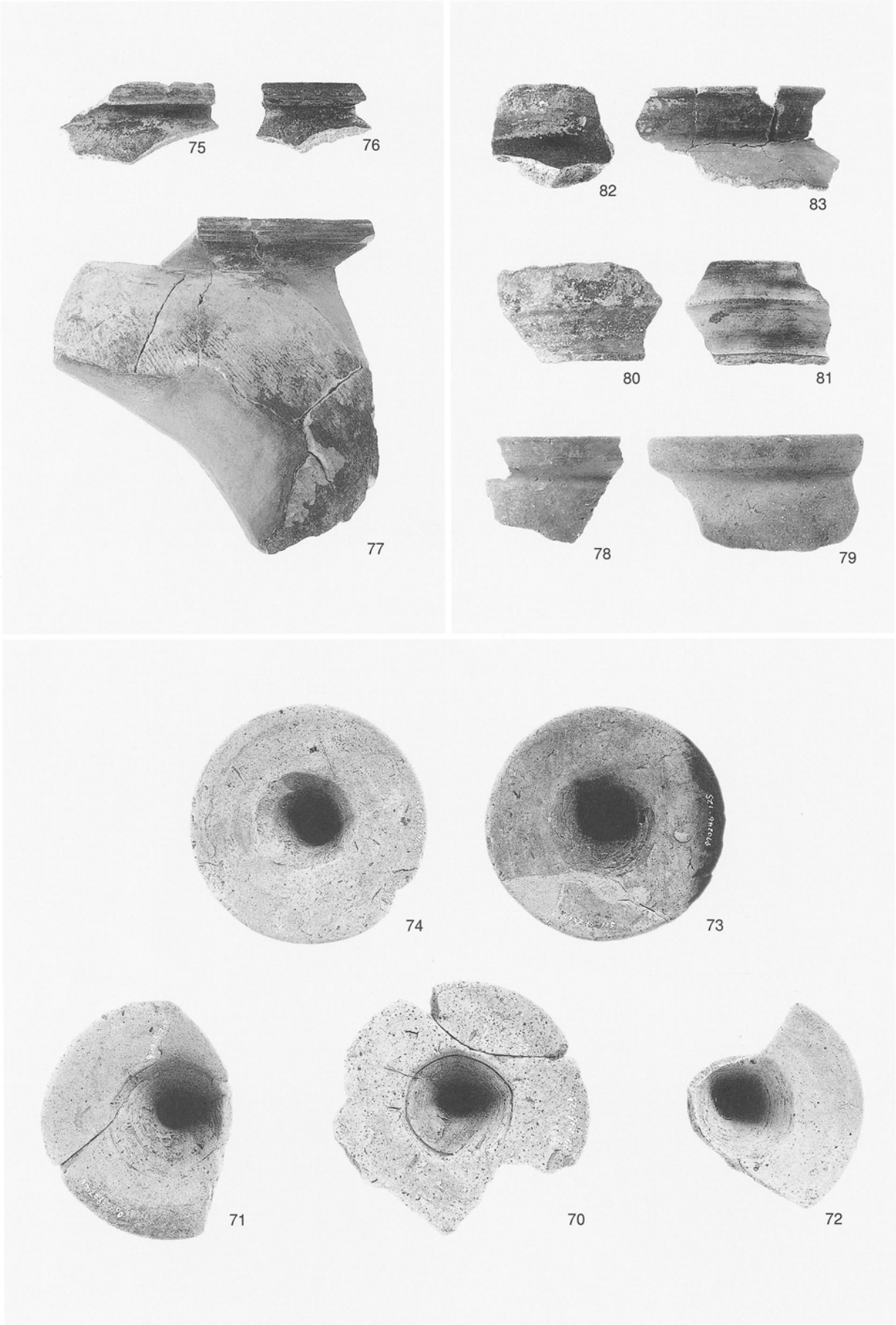
67



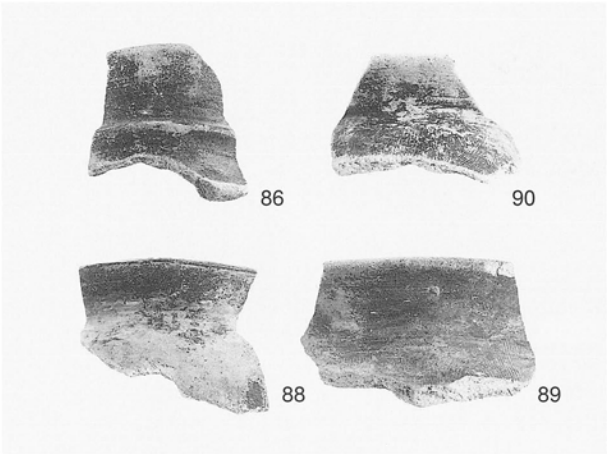
68

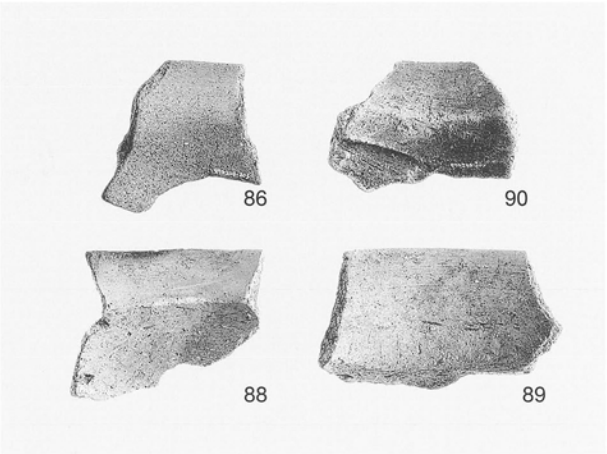
69

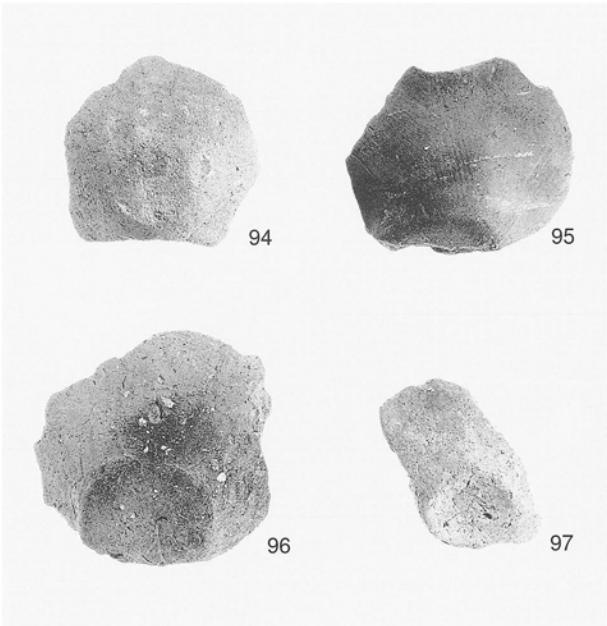
高　坏



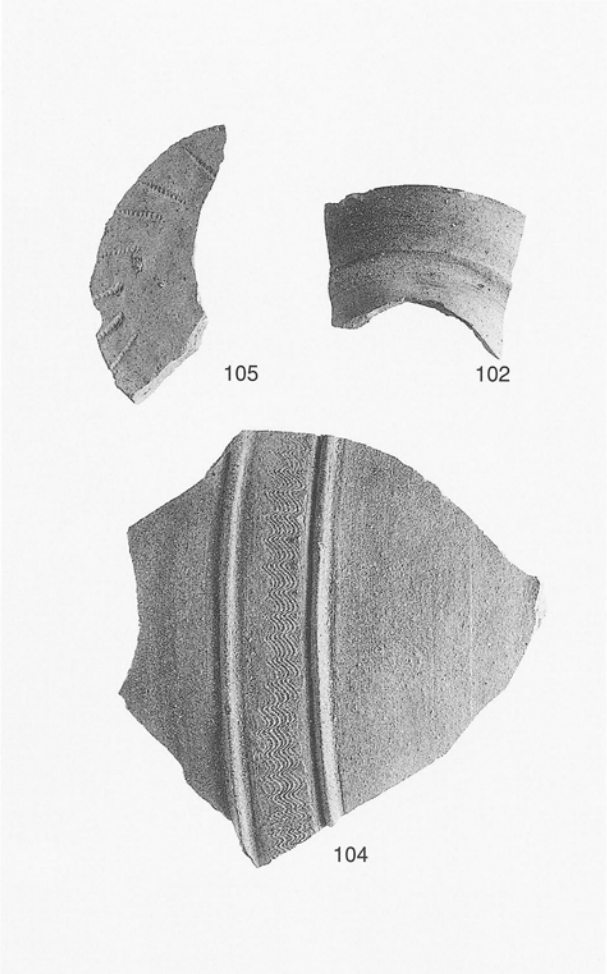
甕・高坏



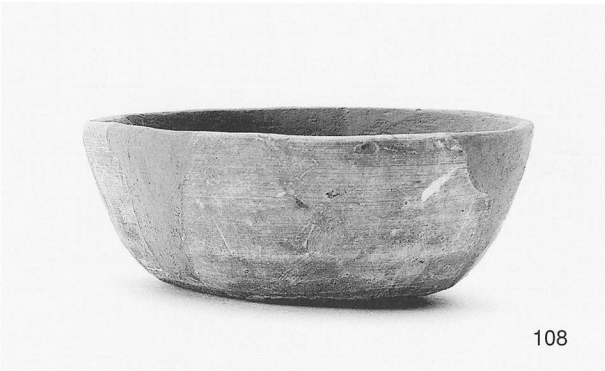




甕



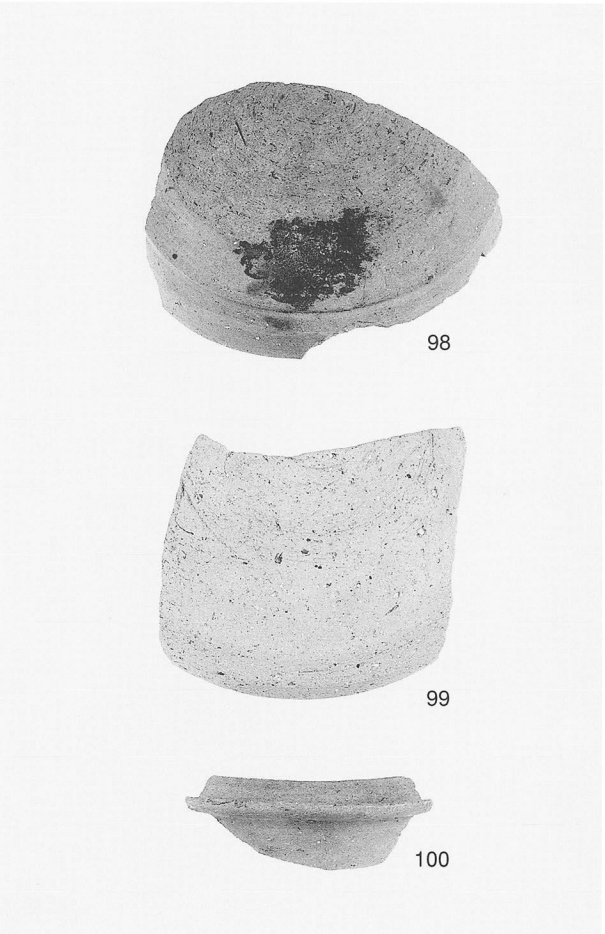
須　恵　器


108

110

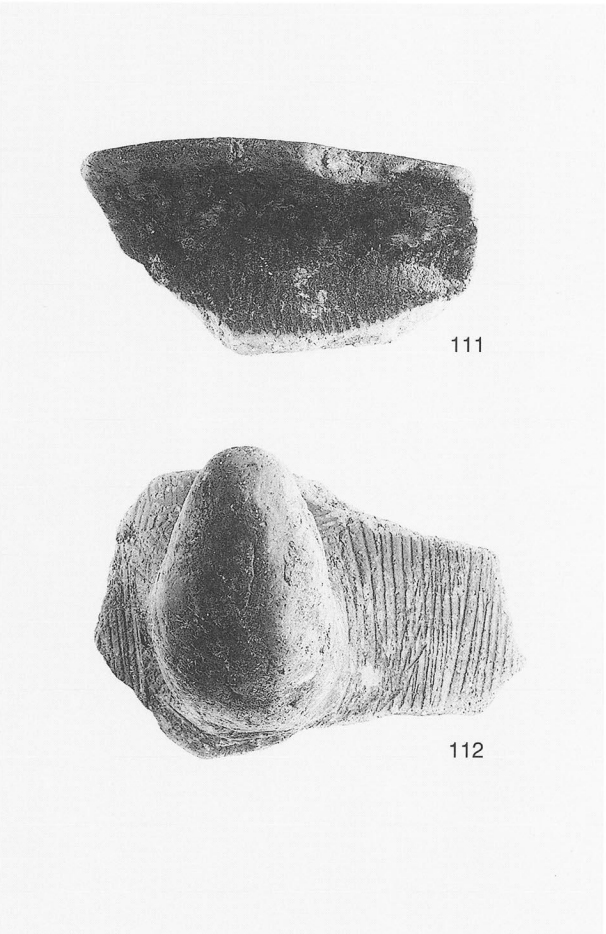
109

101


98

99

100


111

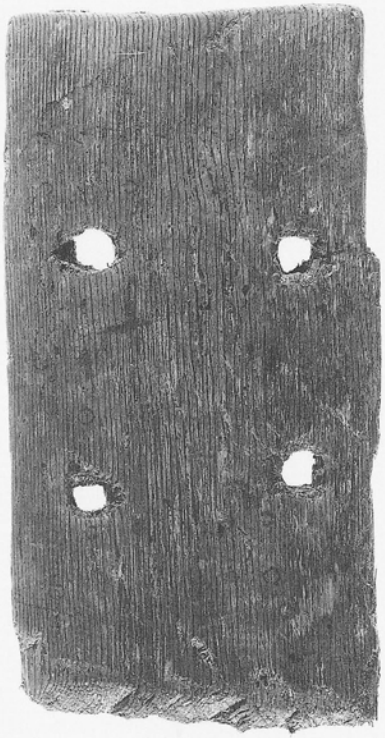
112

須恵器他

写真図版24　五反田第2次　遺物　木器1

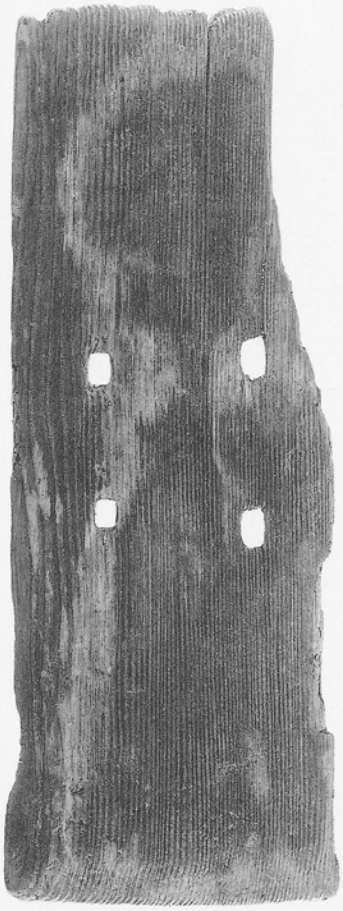
W4

W1



W31

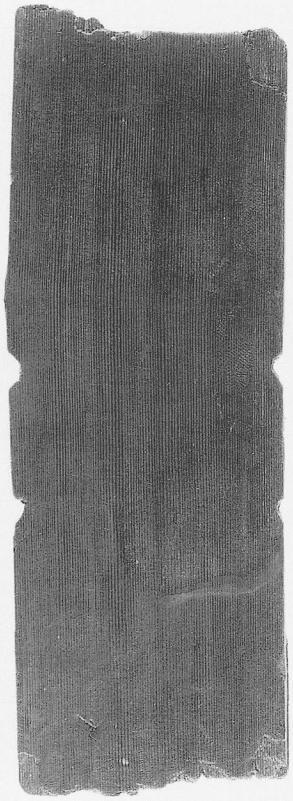
W2



W32

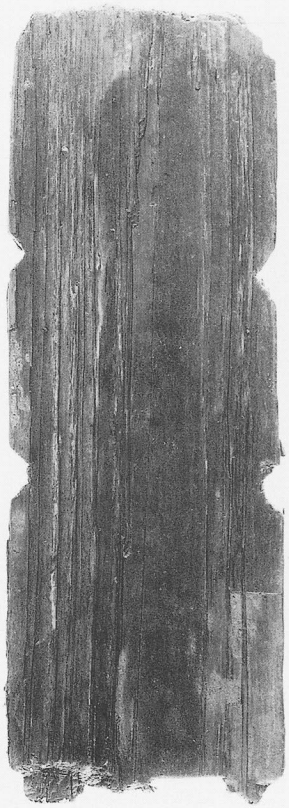
SR42他

W5

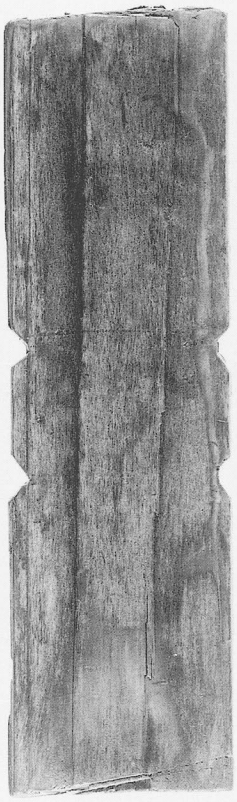


W6

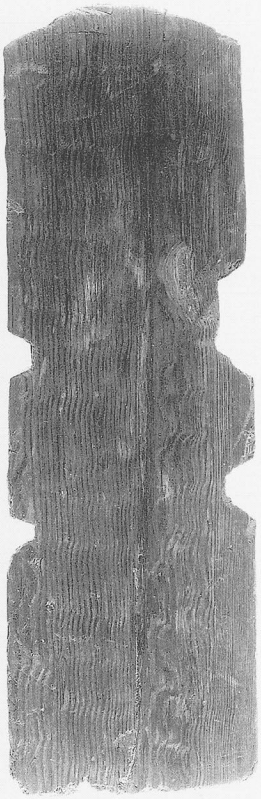
W7



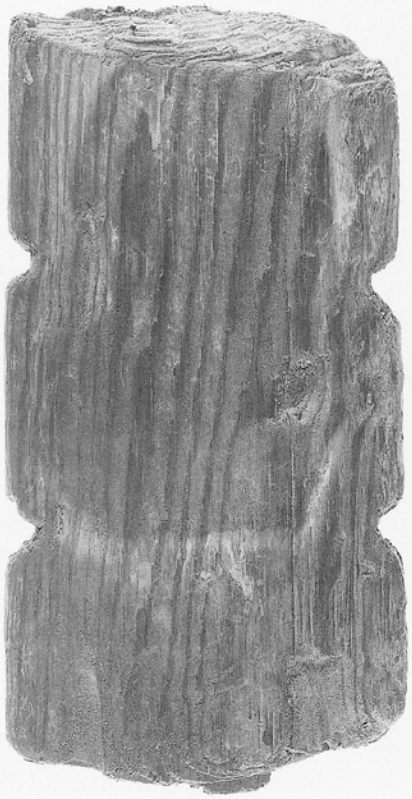
W8



W9



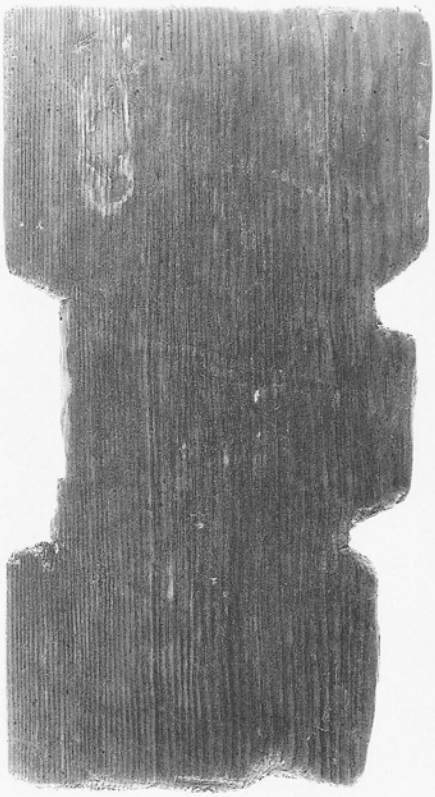
W25



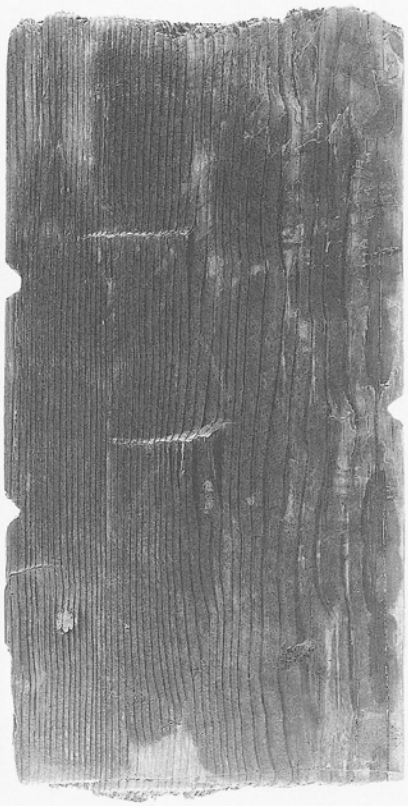
W20

W13

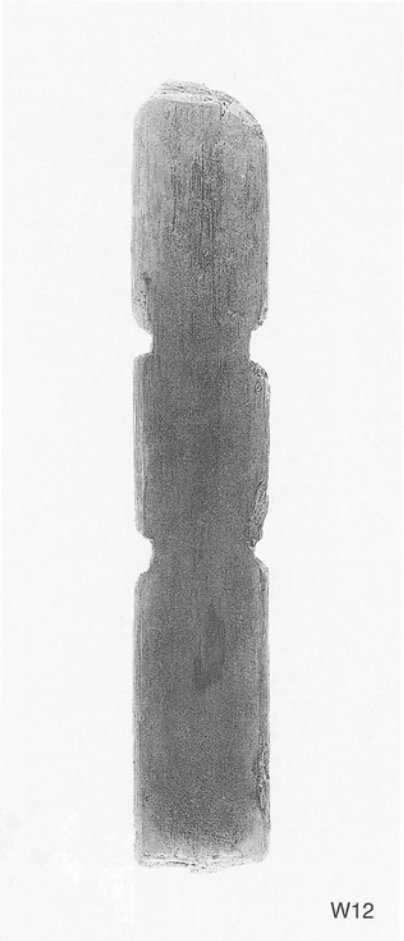
W23

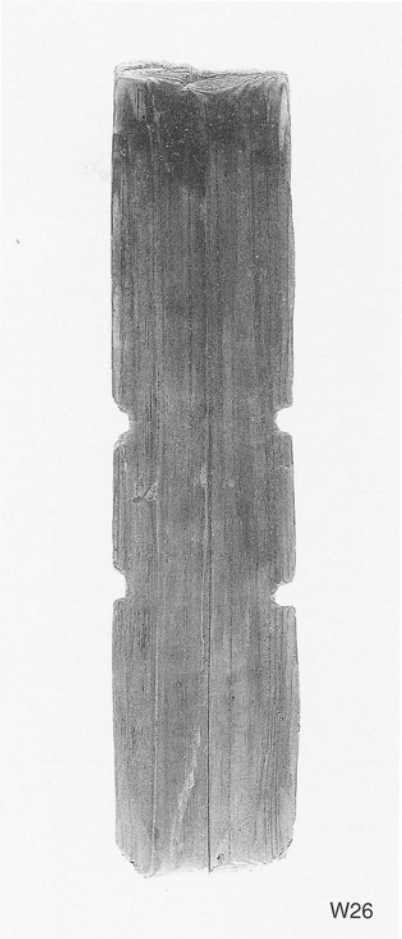


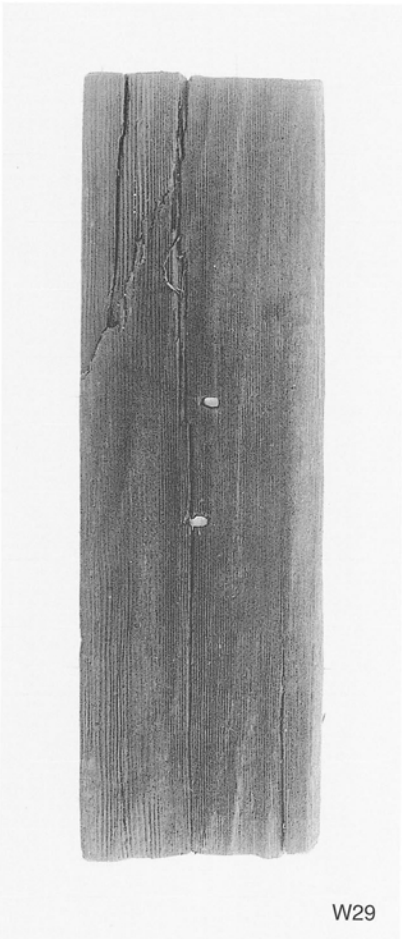
W19



W30


W12

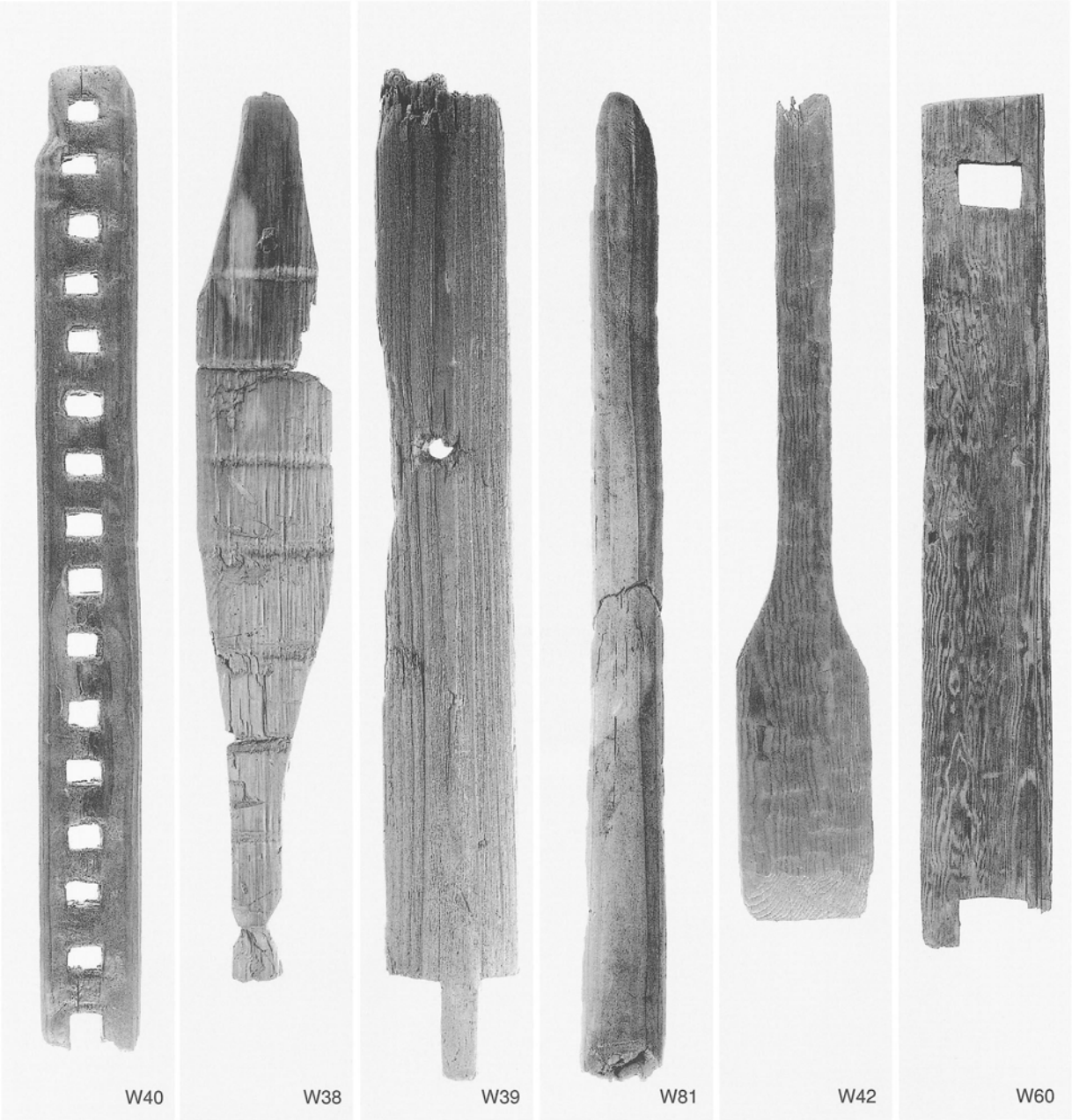

W26


W29

W33

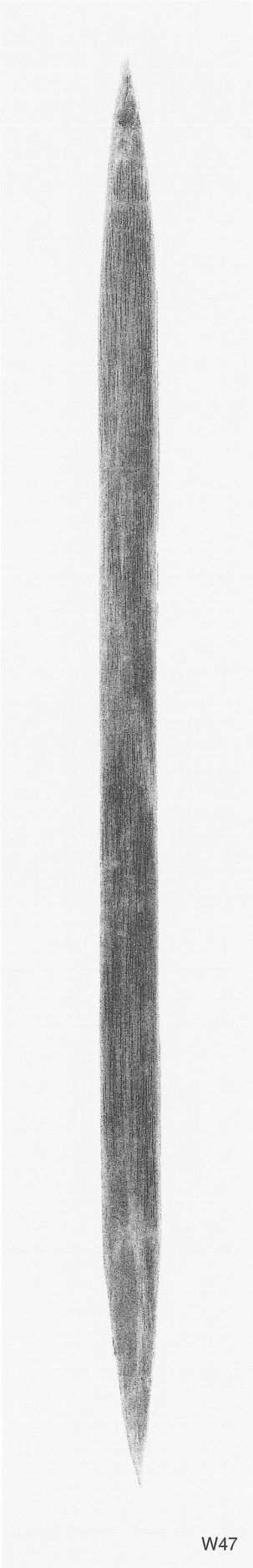
W34

写真図版28　五反田第2次　遺物　木器5

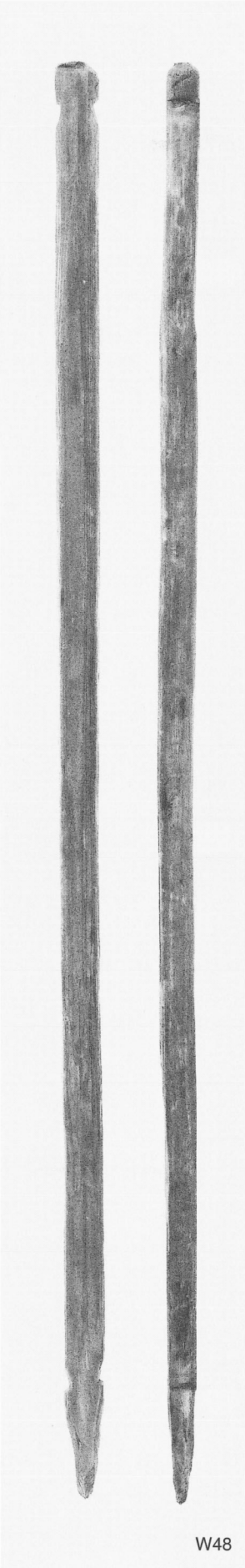


SR42

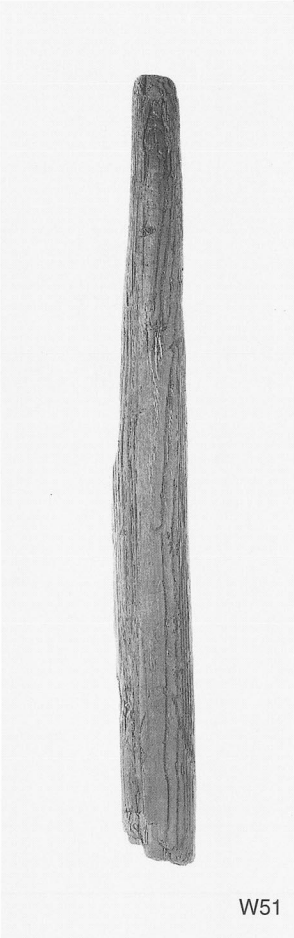
写真図版29　五反田第2次　遺物　木器6



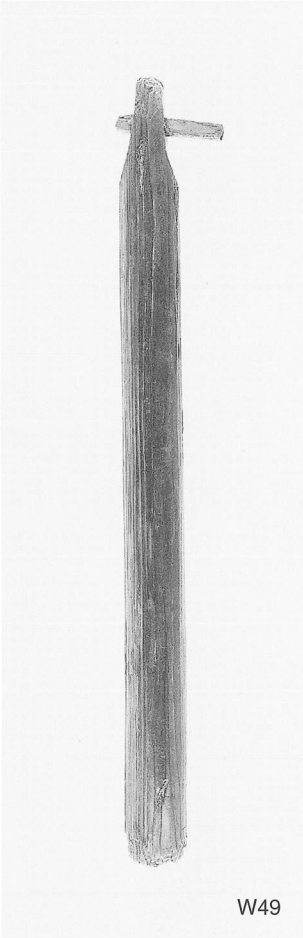
W47



W48



W51

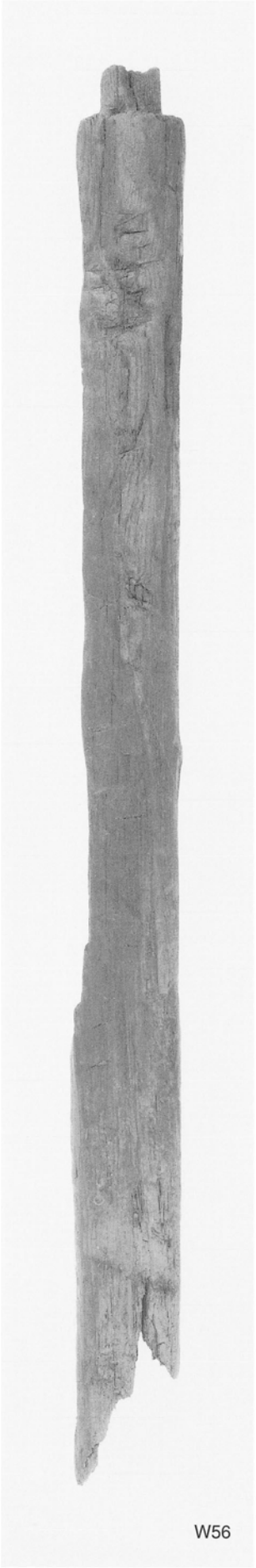


W49

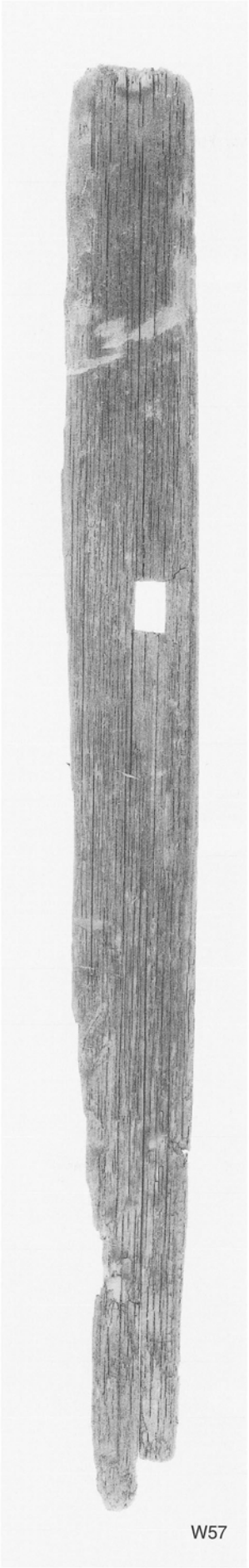
W50

写真図版30　五反田第2次　遺物　木器7

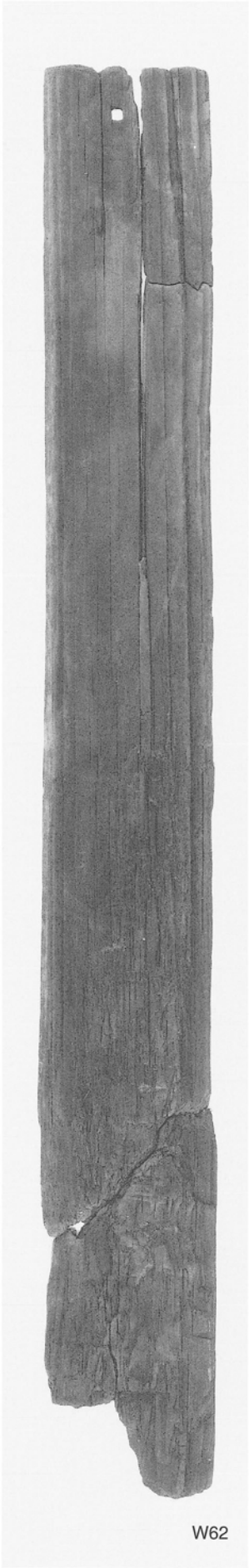
SR42



W56



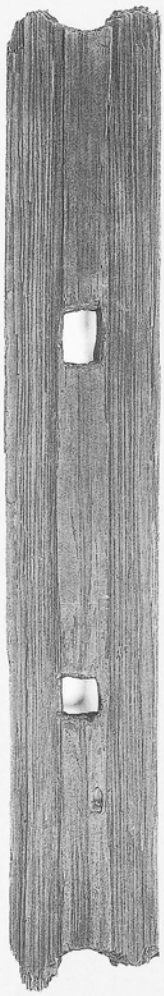
W57



W62

W63

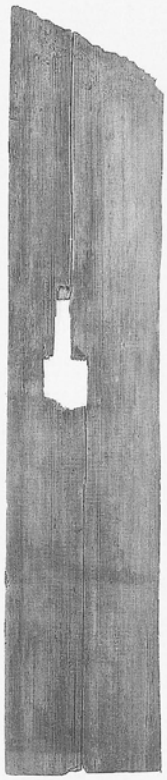
SR42



W64

W65

W66

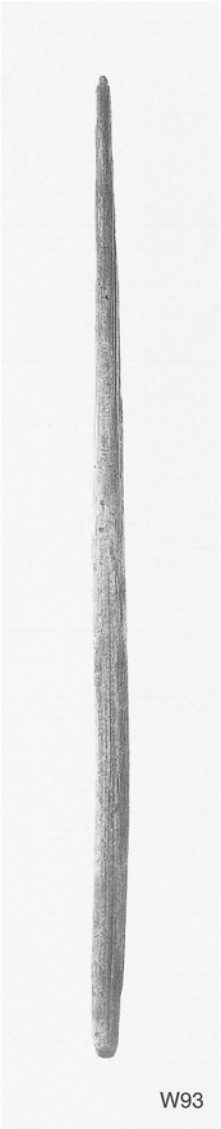


W67

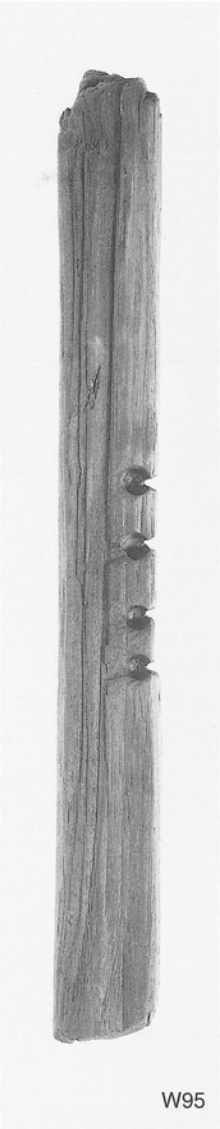
W68

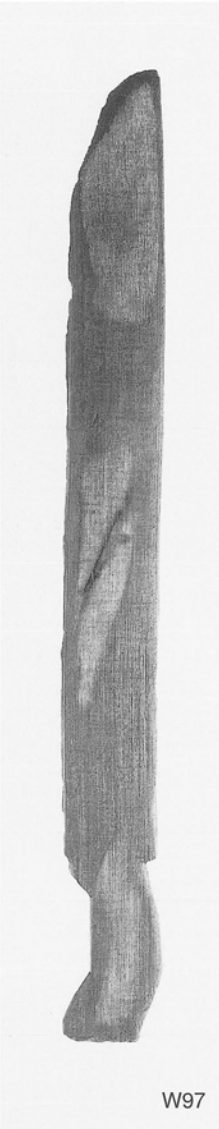
W69

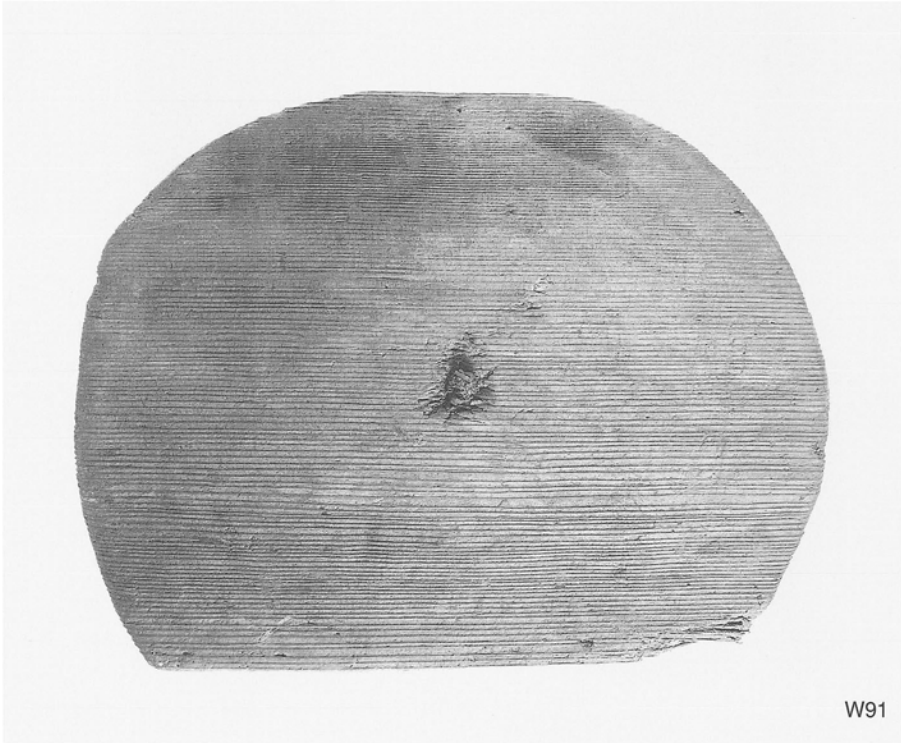
SR42


W93

W94


W95


W97


W91

W92

SD43

写真図版34　五反田第2次　遺物　木器11

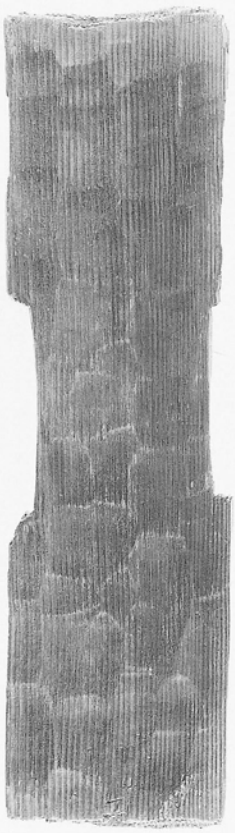
W100

W116

W117

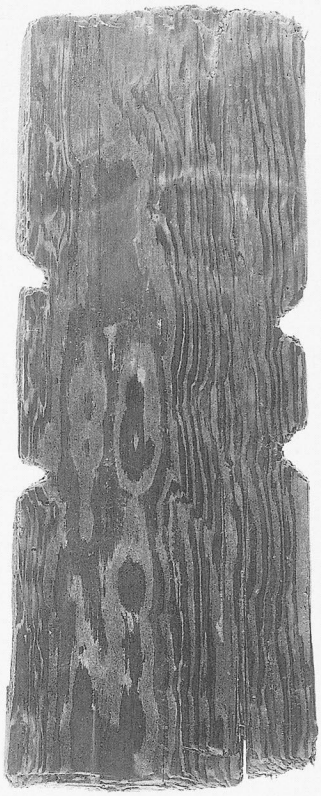
W98

W107

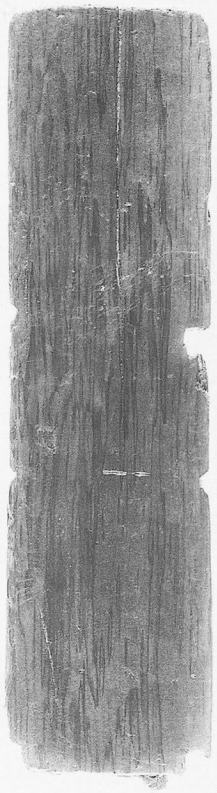


W118

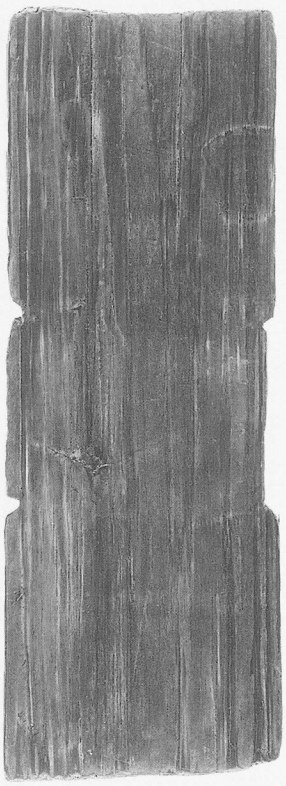
SD43



W101

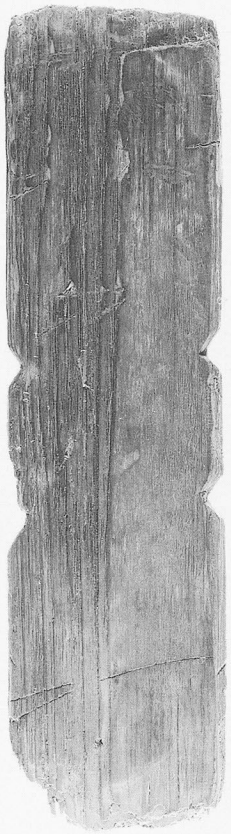


W109

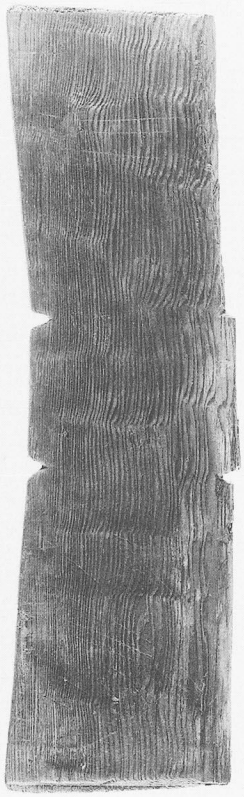


W112

W106

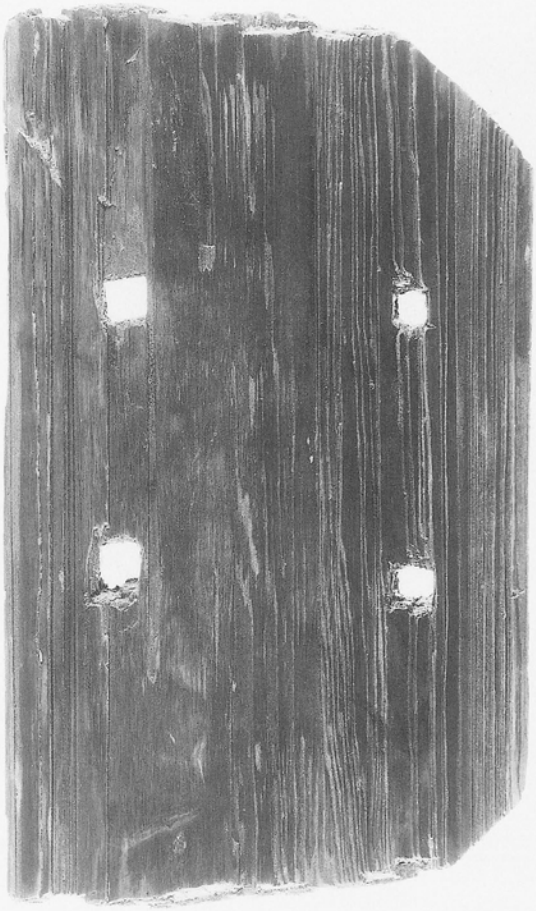


W113

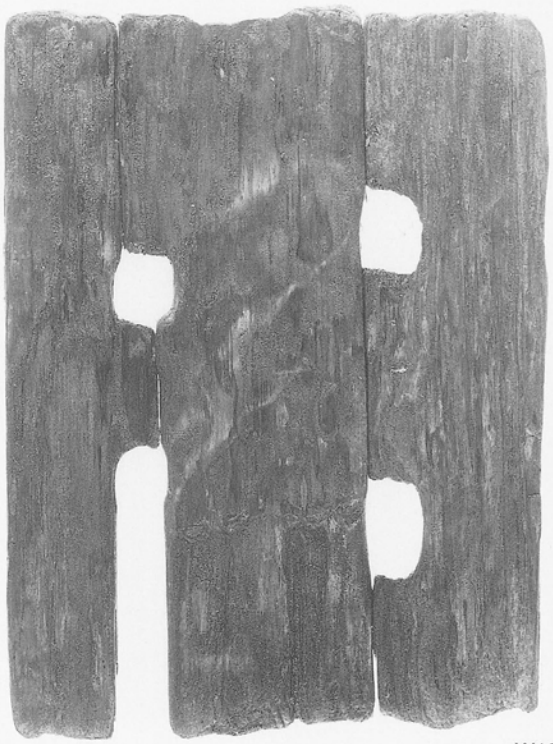


W115

SD43



W119



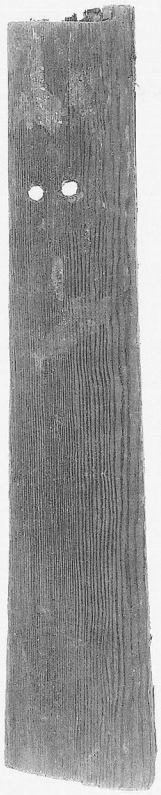
W120

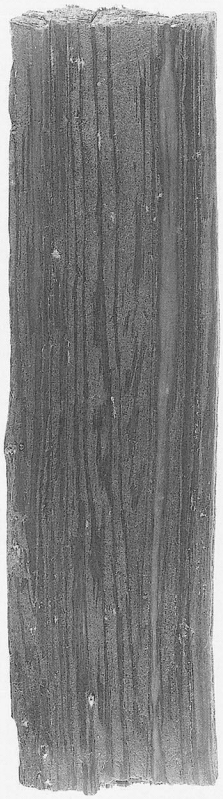
W124

W125

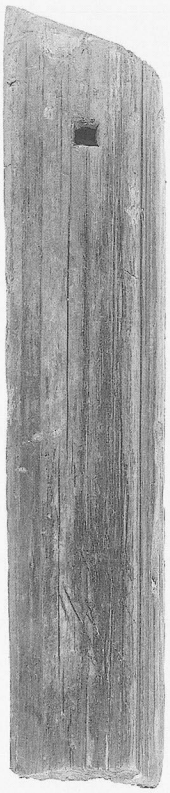
SD43

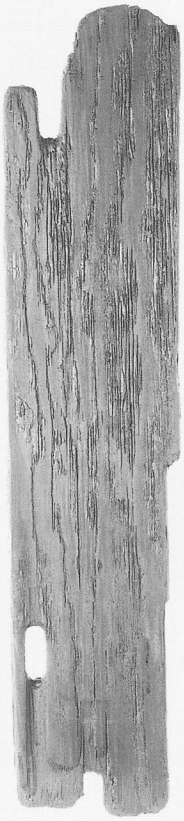
W128

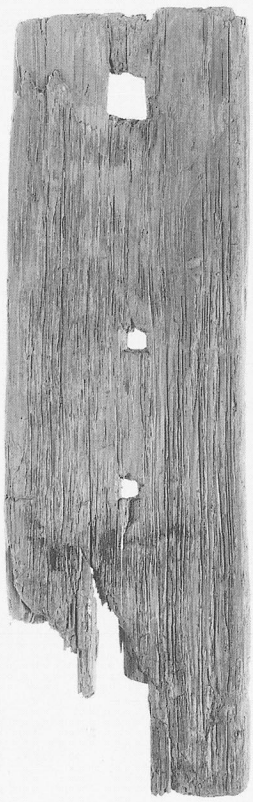

W131


W129

W136


W135


W144


W133

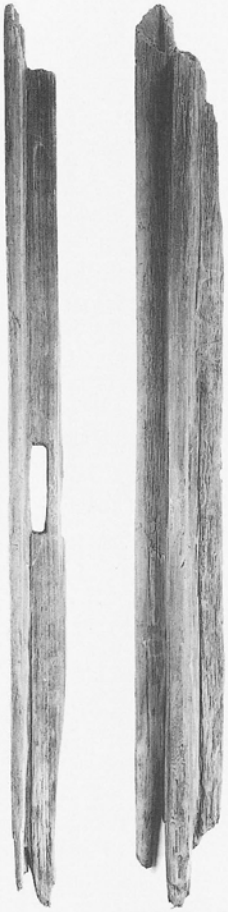
W137

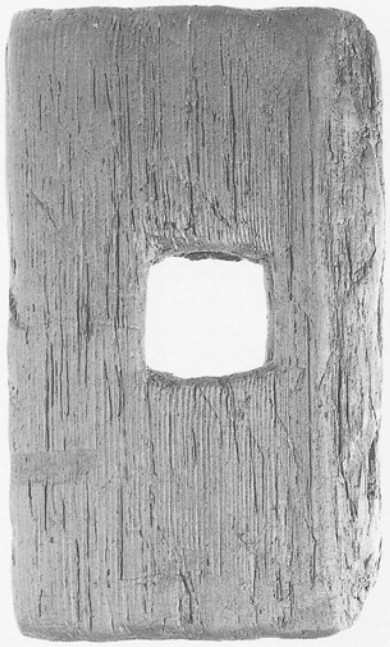
W148

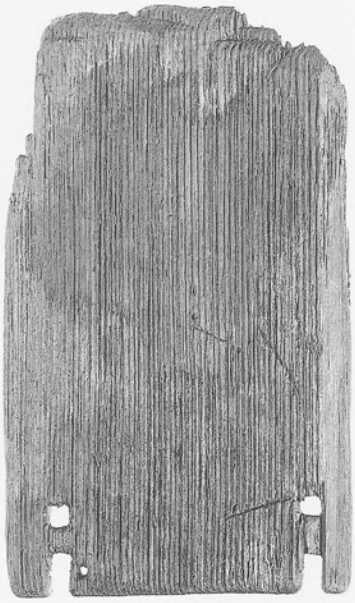
W150

W151

W152


W126


W138

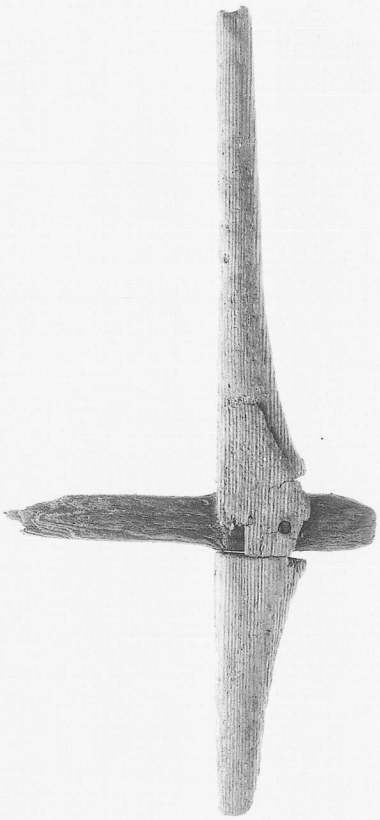

W132

W146

SD43

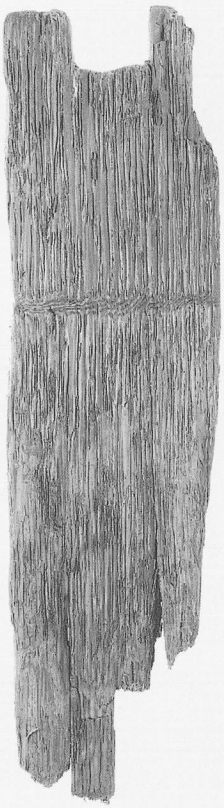
W158

W159

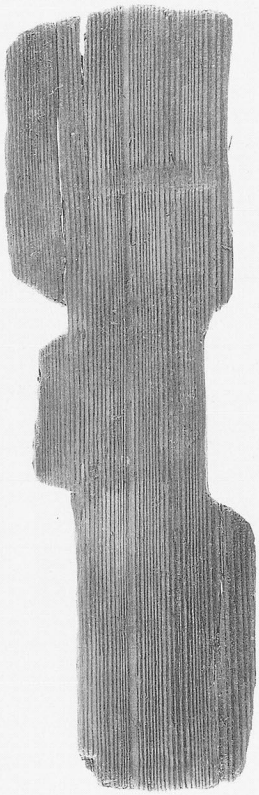


W160

W157



W166



W161

SD43・SW44

W168

W169

W171

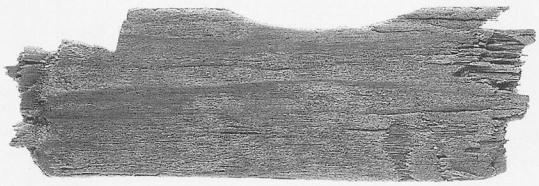
W175

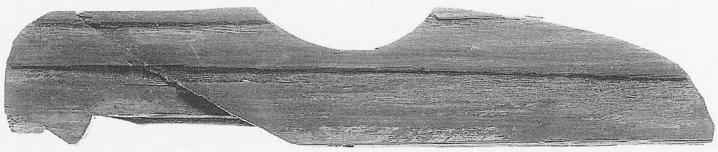
W178

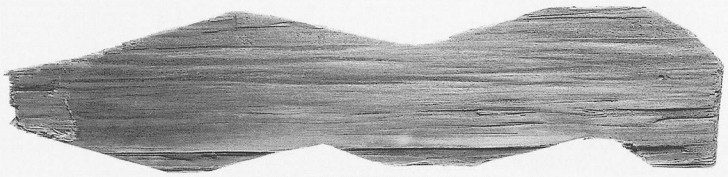
W179

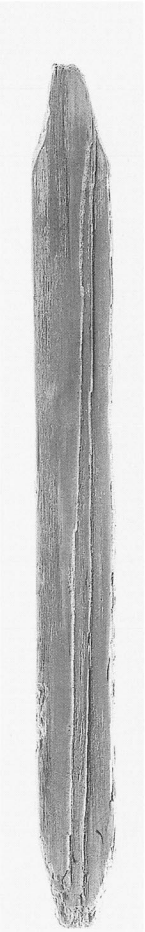
W180

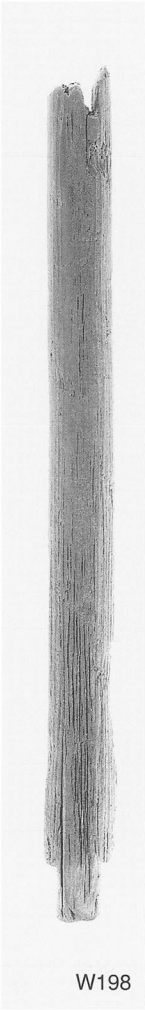
W170


W183

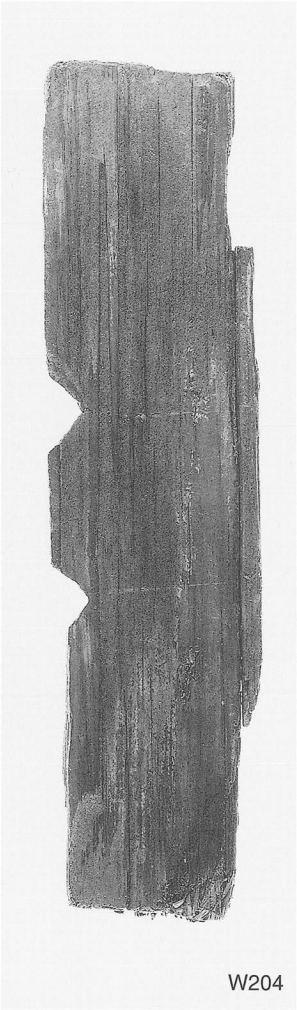

W184

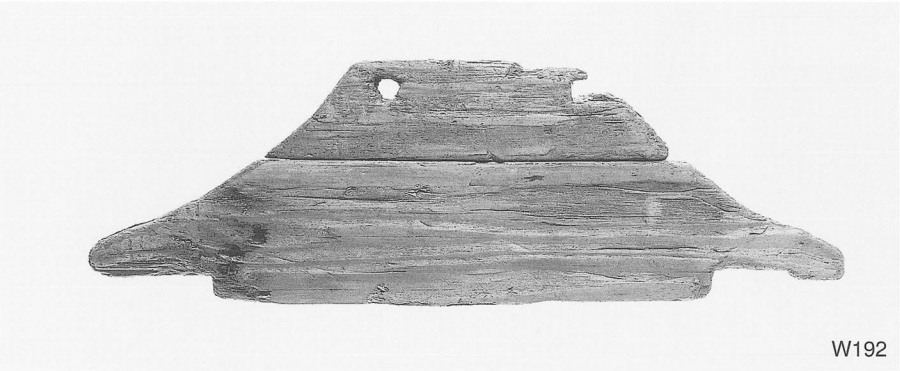

W185

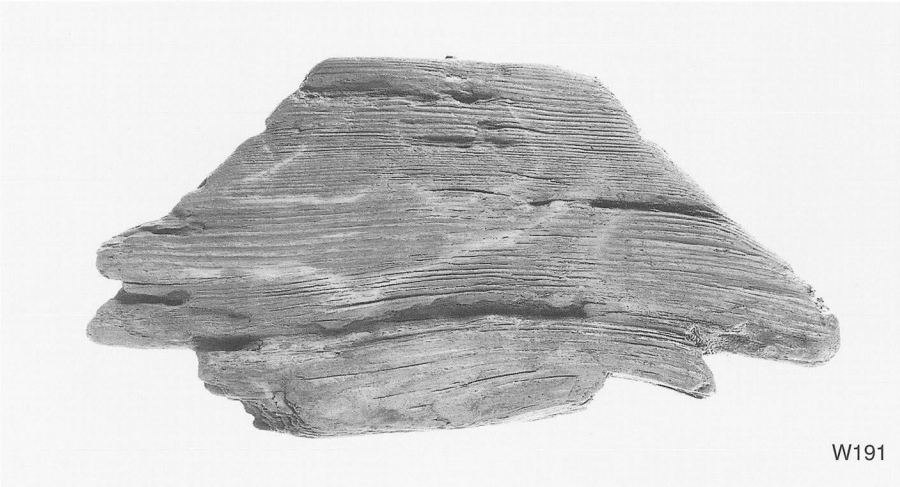

W195

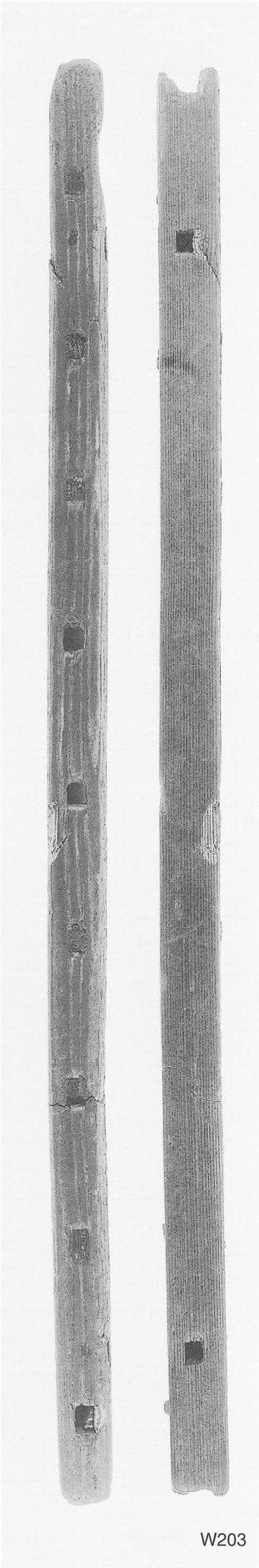

W198

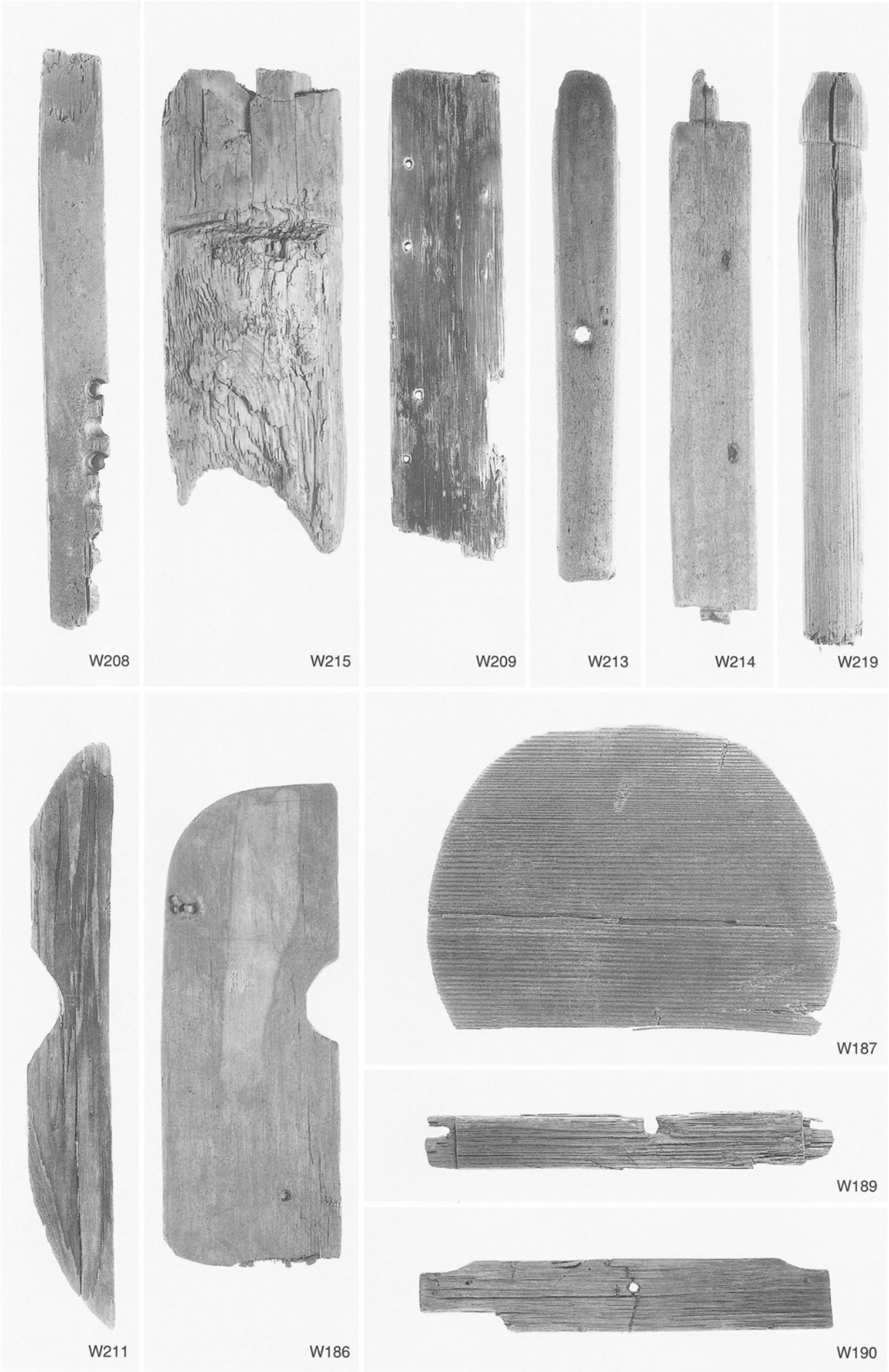
W193


W204

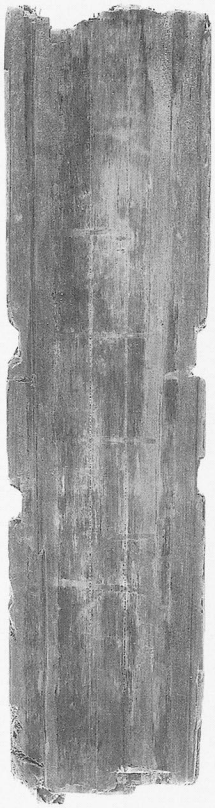

W192

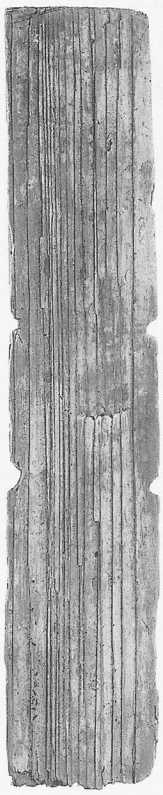

W191

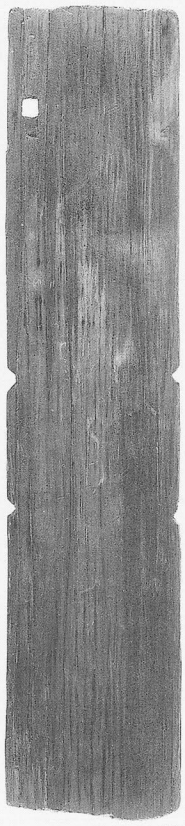

W203



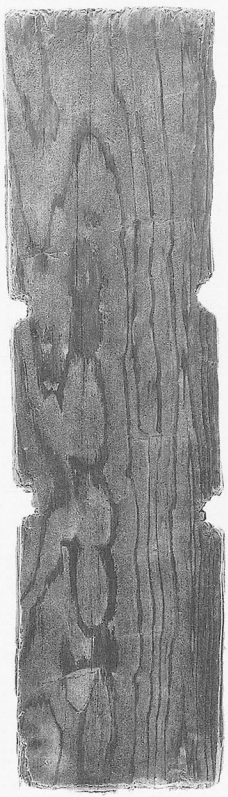
第 3 面


W230


W225

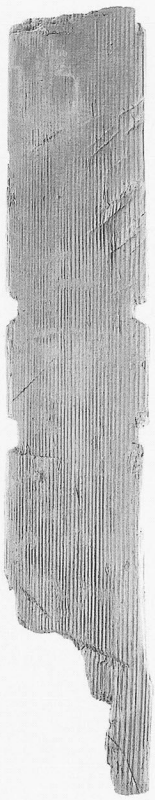

W231

W232


W233

W235

W236

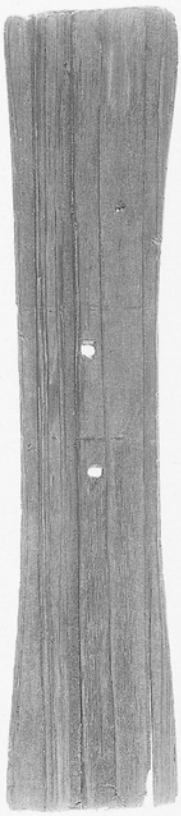

W244

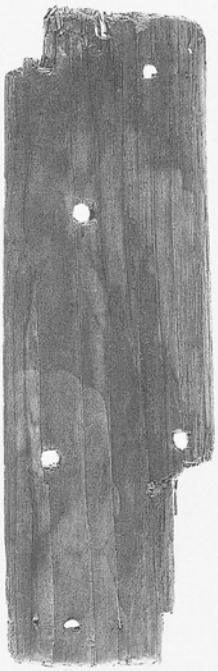
第4面A

W243

W234

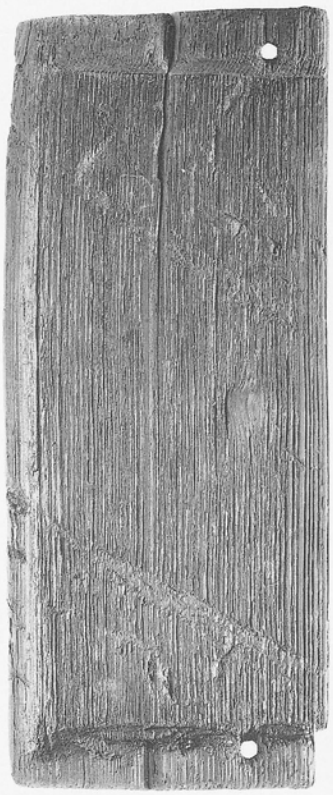
W224


W238


W246

W248

第4面A



W249

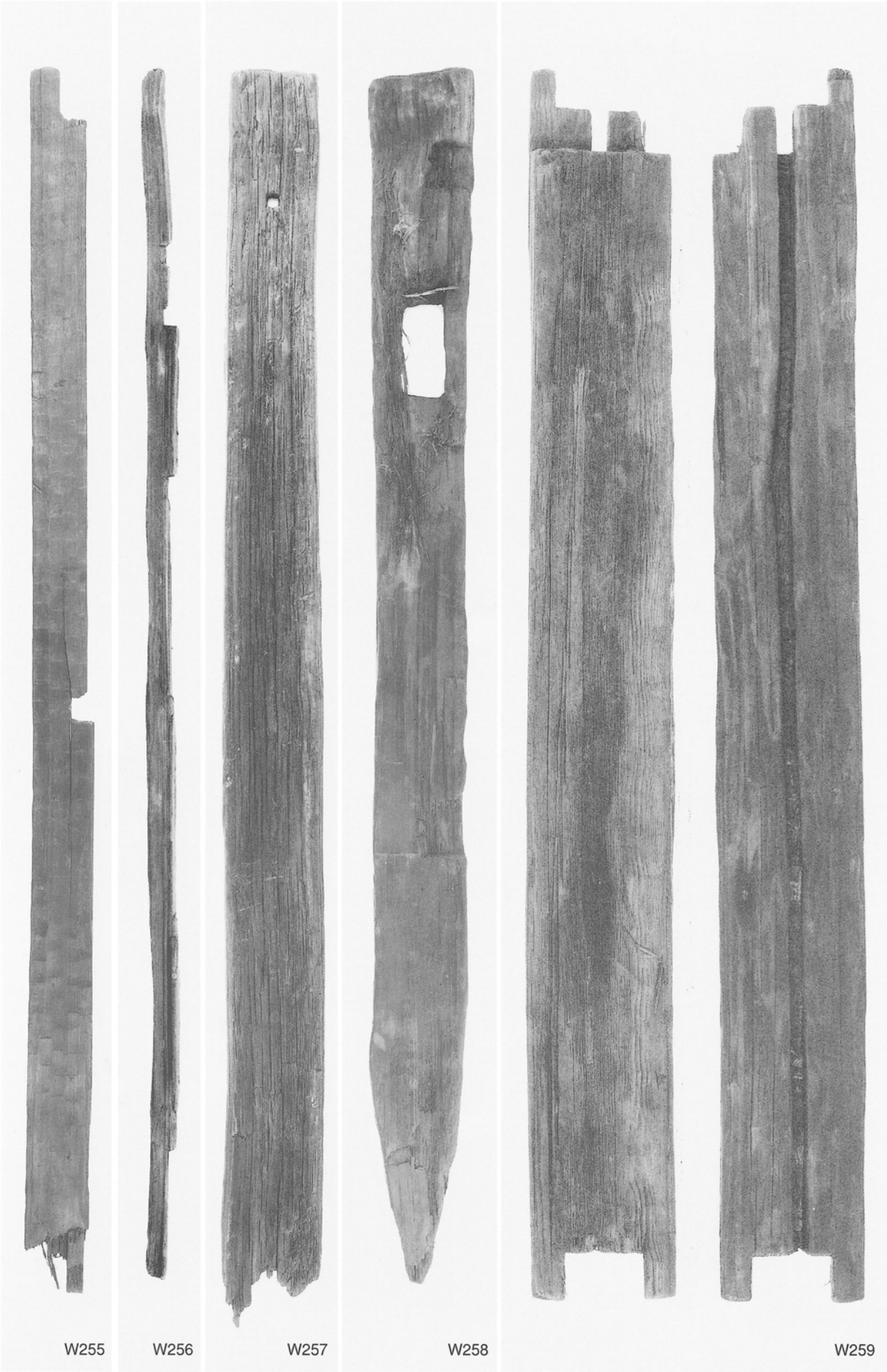
W252

W250

W251

W254

第4面A

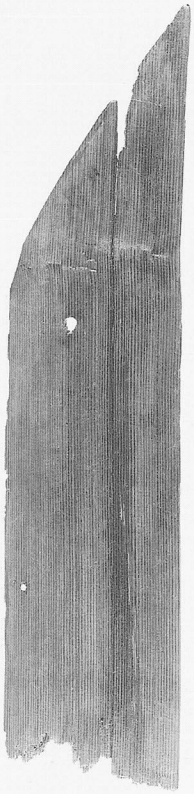


第4面A

W273

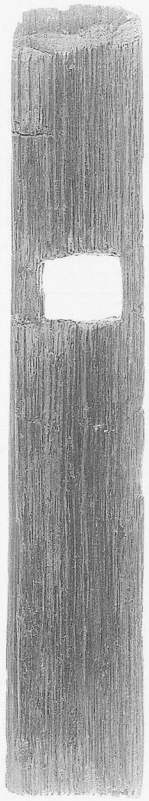
W277

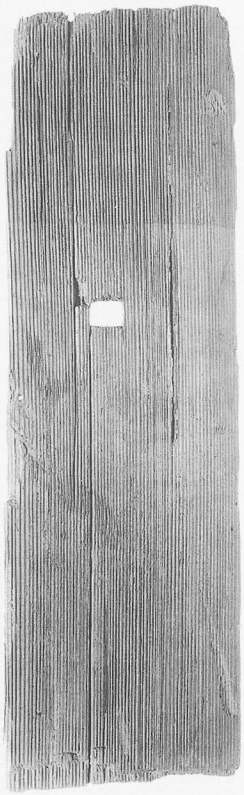
W269

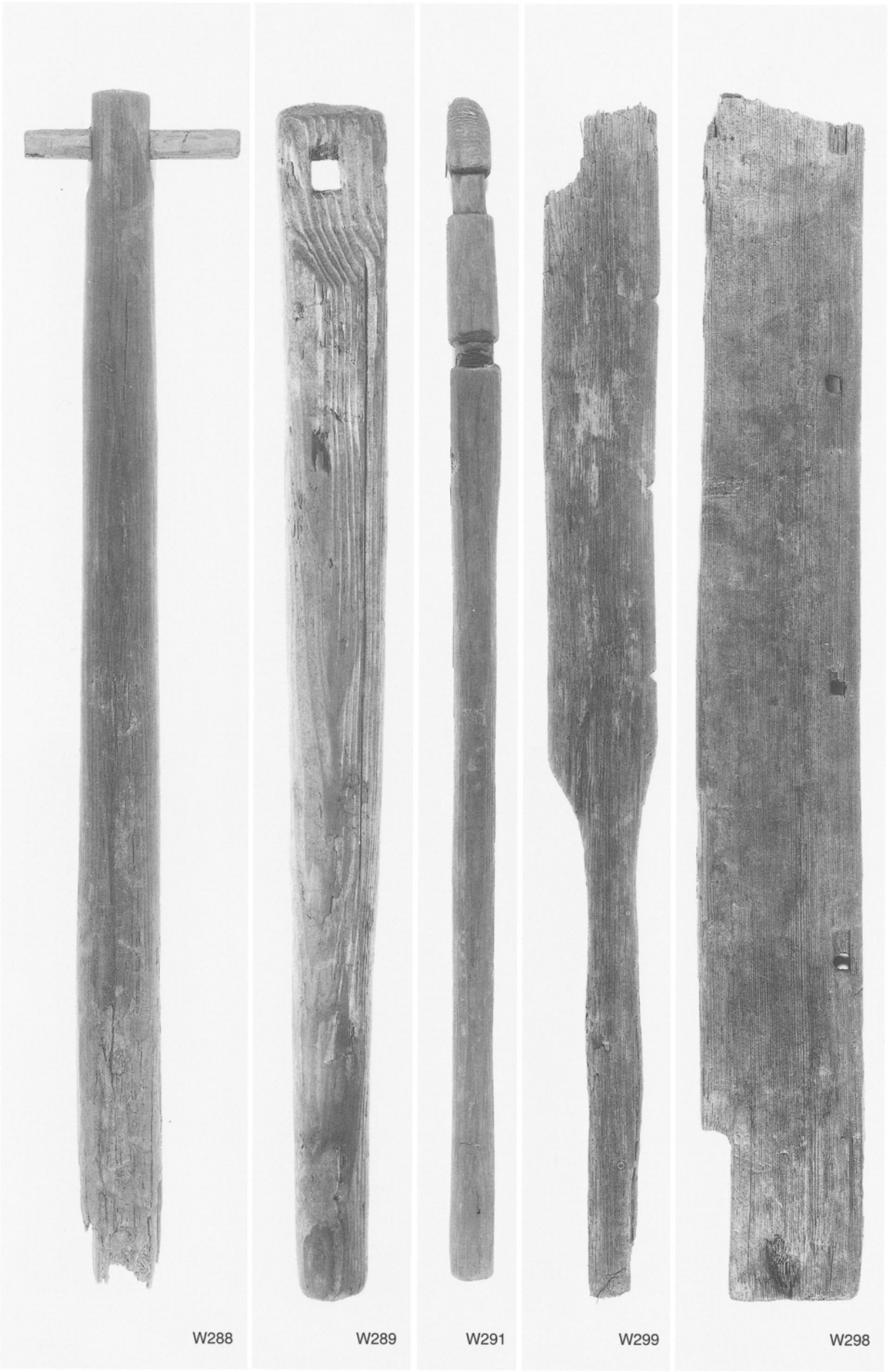

W263

W282

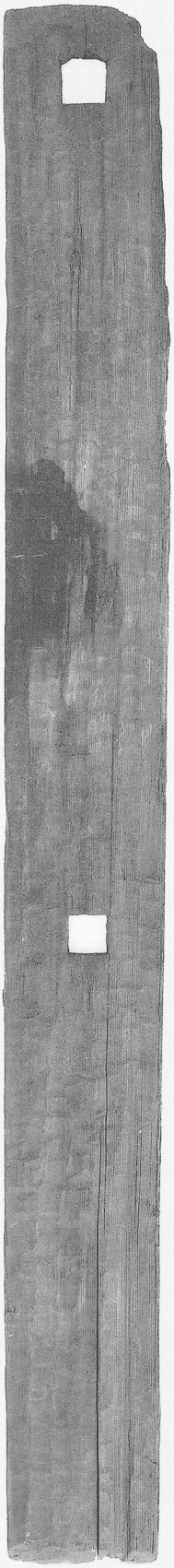
W260


W262


W265

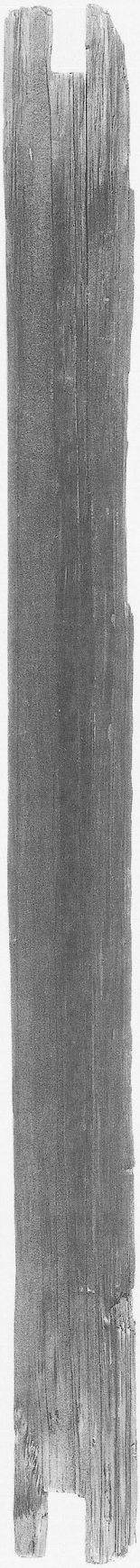


第4面B

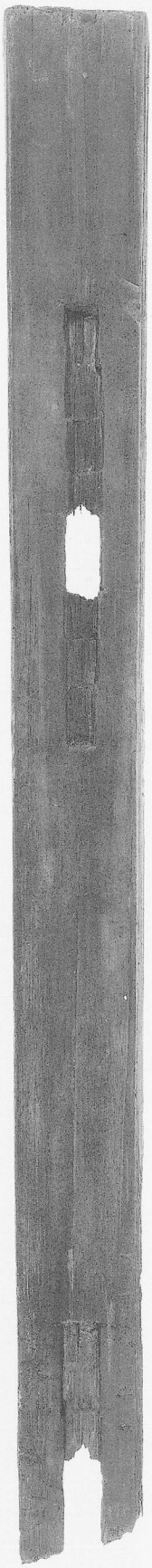


W294

W295



W296

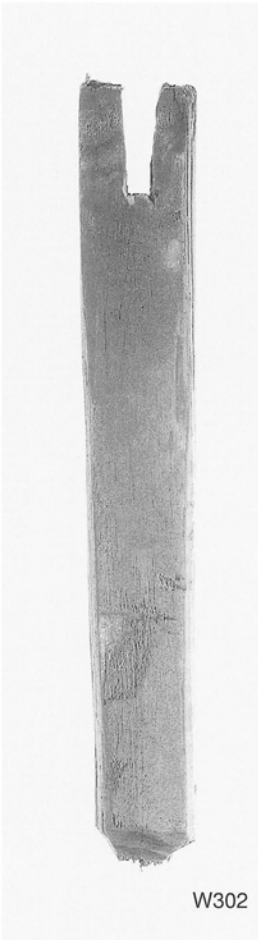


W297

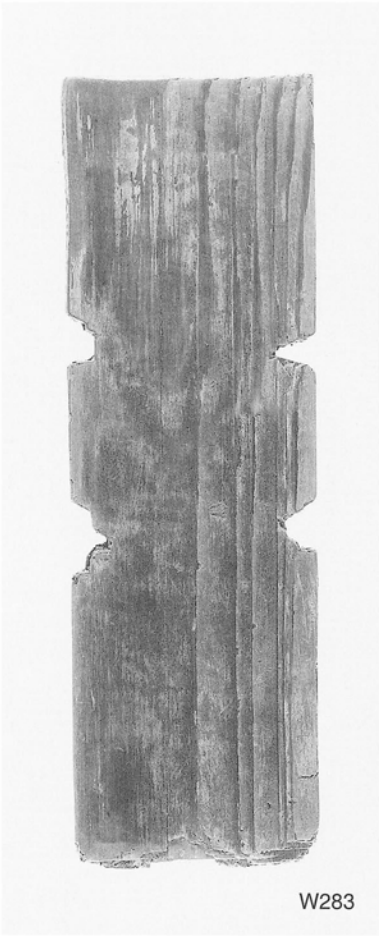
第4面B

W305

W301


W302

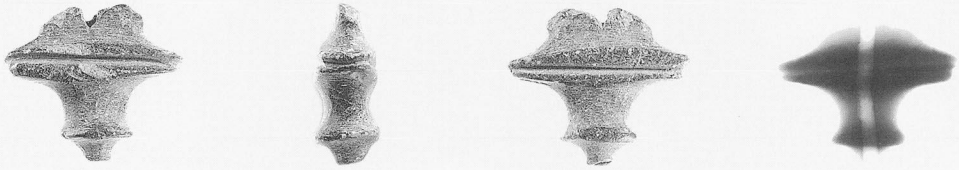
W286


W283

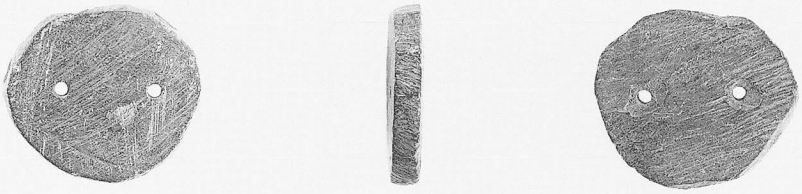
W293

第4面B・C

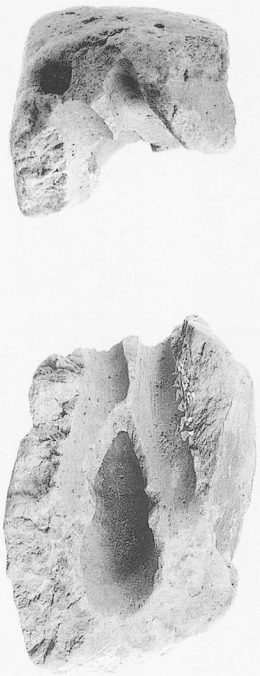
写真図版51　五反田第2次　遺物　石器



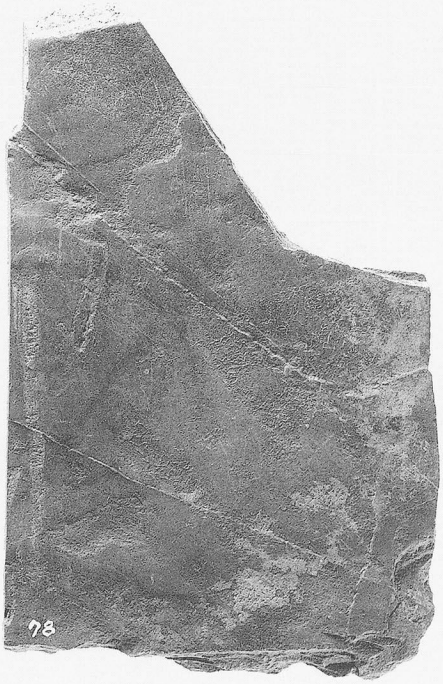
S4



S3



S2



S1

35．17～7区（東から）

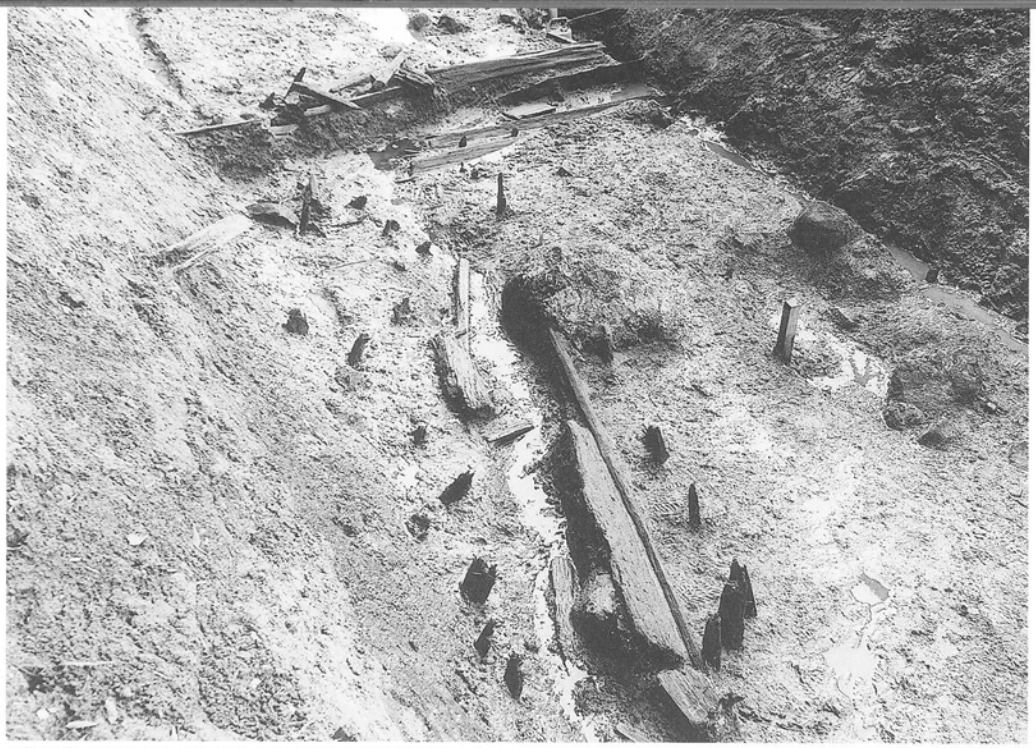
36．14～7区下層遺構（東から）

37．9～16区（西から）

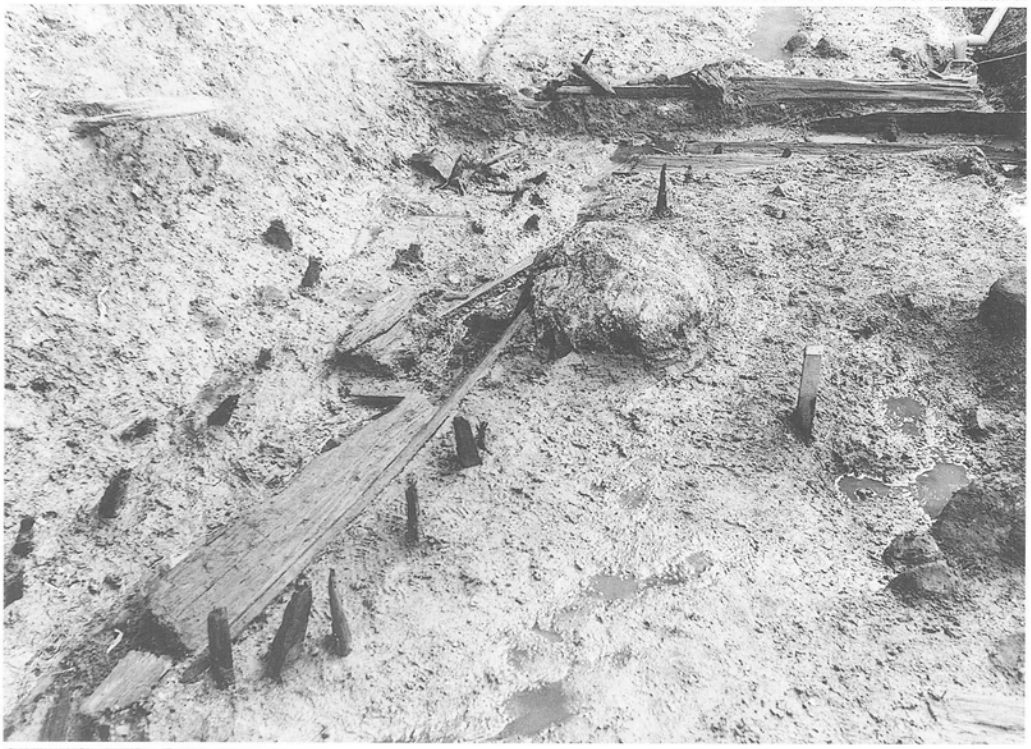
38. 4～6区上層（東から）

39. 溝SD1（北から）

40. 溝SD1（北東から）



41. 溝SD1・2（南東から）



42. 溝SD1・2（東から）

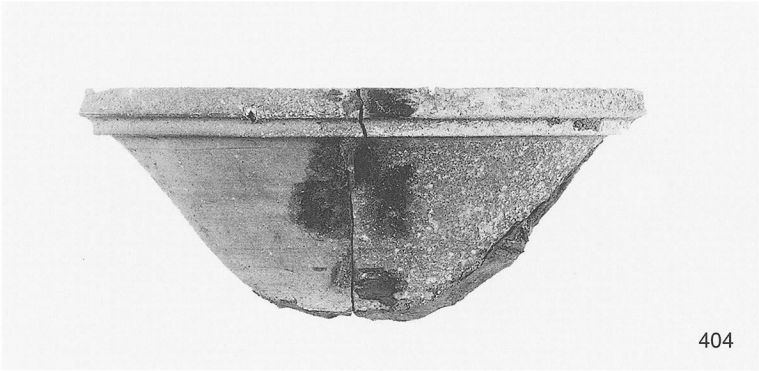
43. 溝SD 2 杭列断面
（北東から）

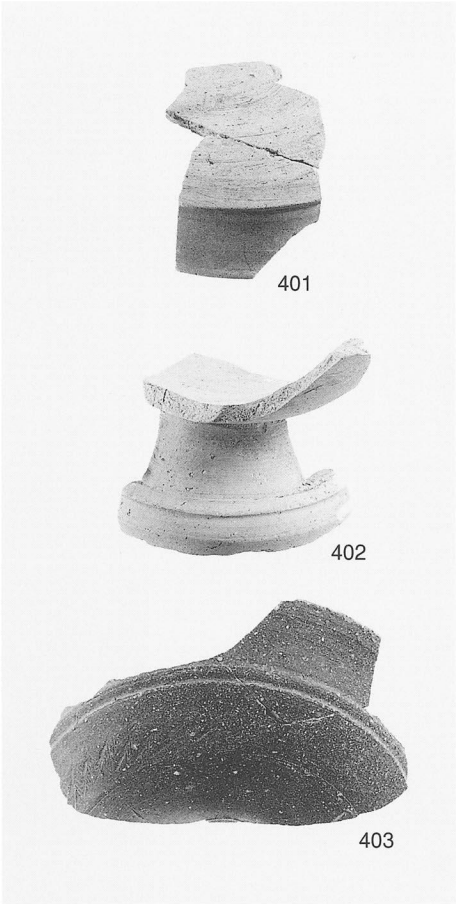
44. 5・6区柱穴群
（南西から）

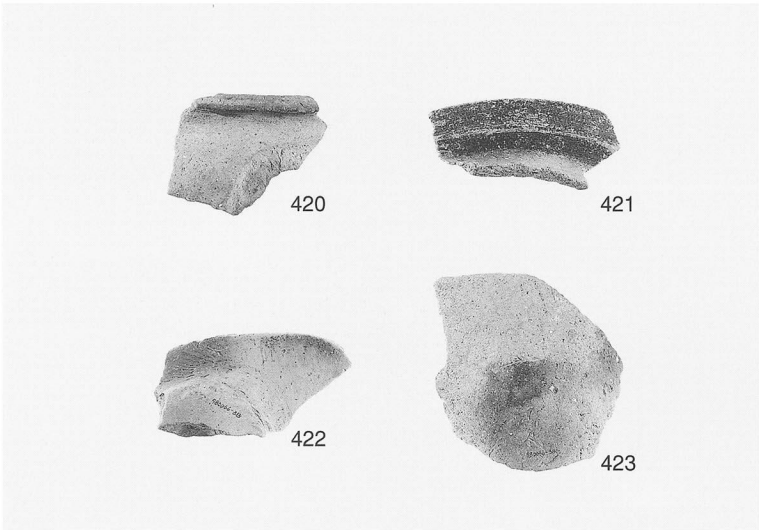
45. 流路SD5（東から）

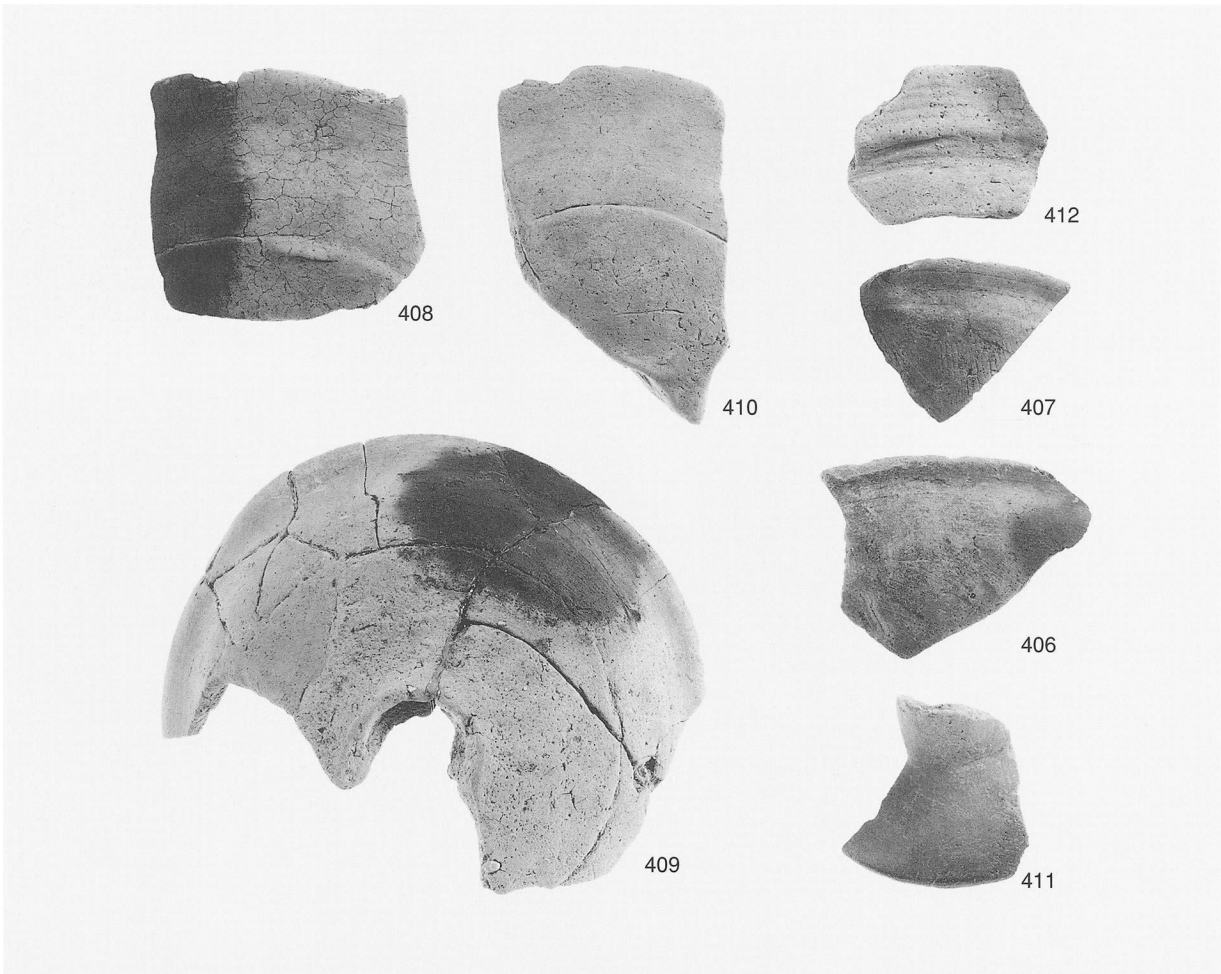
46. 4・5区下層
（北東から）

写真図版56　五反田第3次　遺物　土器1



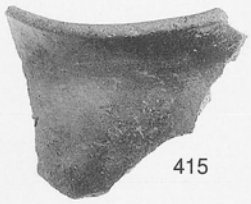






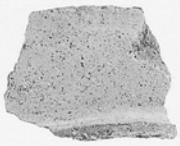
SD 1

413



415

414



419

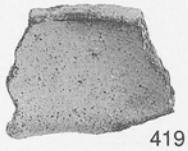
416

417

418

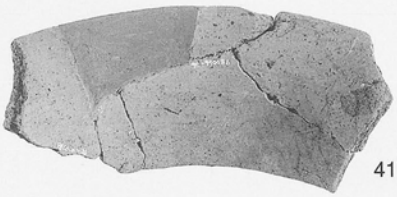
415

414



419

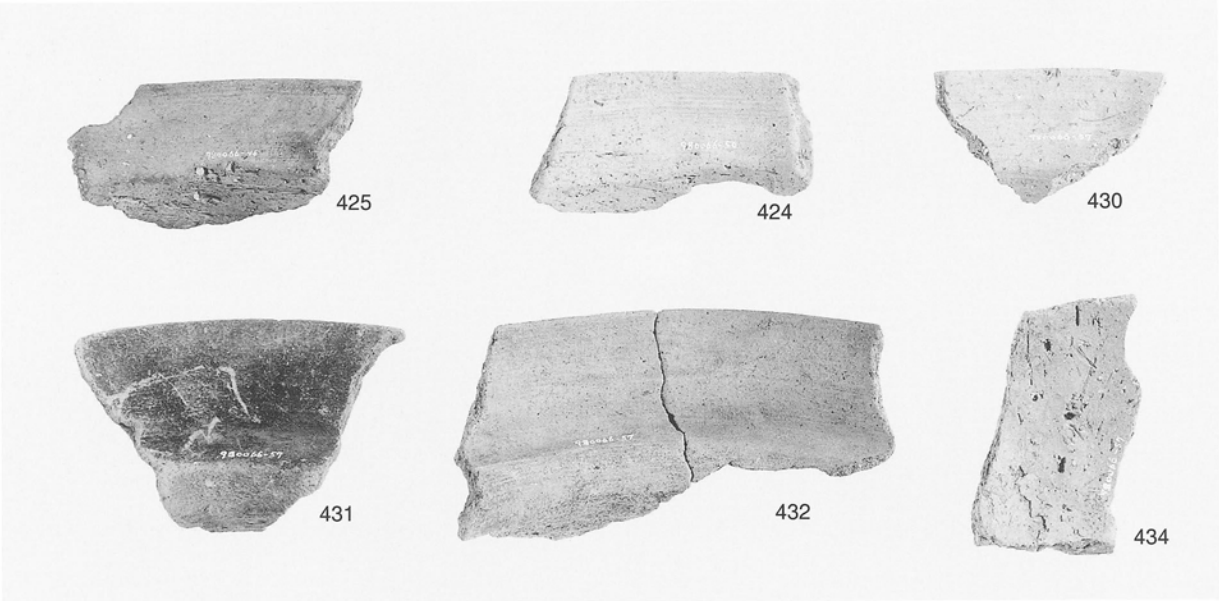
416



417

SD 1

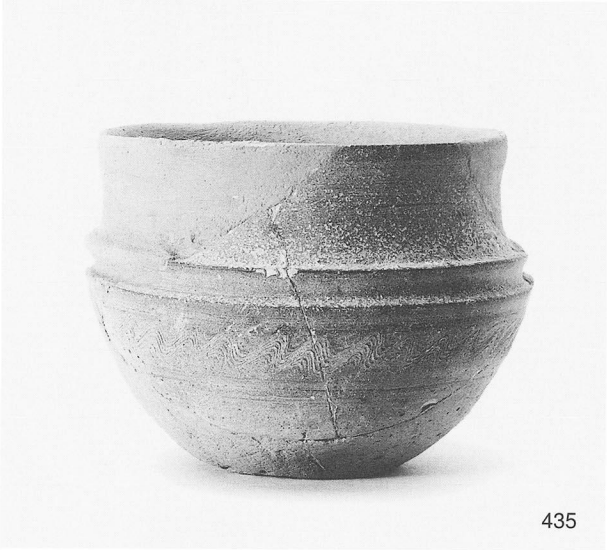
写真図版58　五反田第3次　遺物　土器3



SD 2

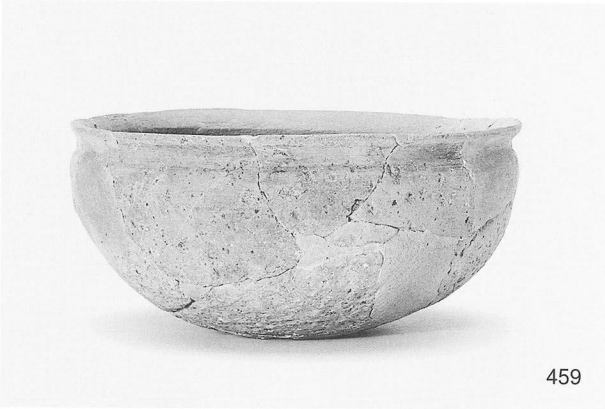
440

441


435

464

458


459

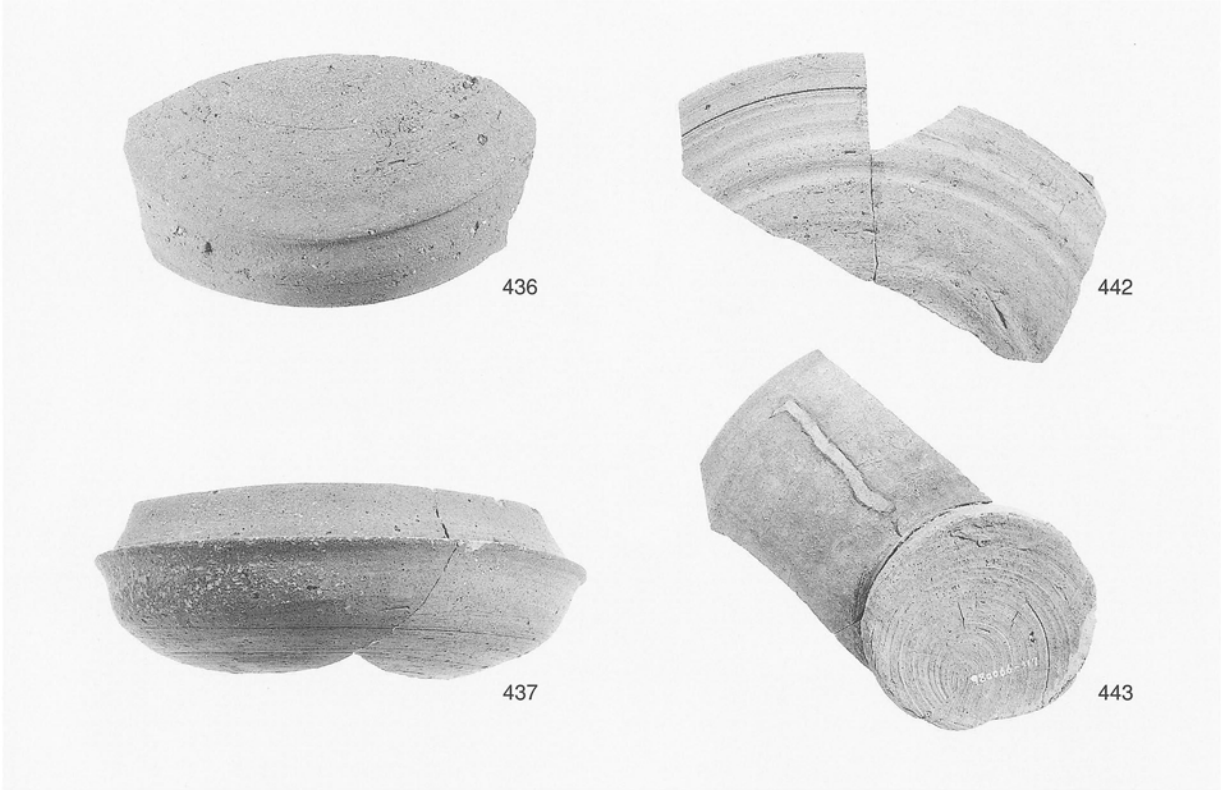
449

453

B地区包含層

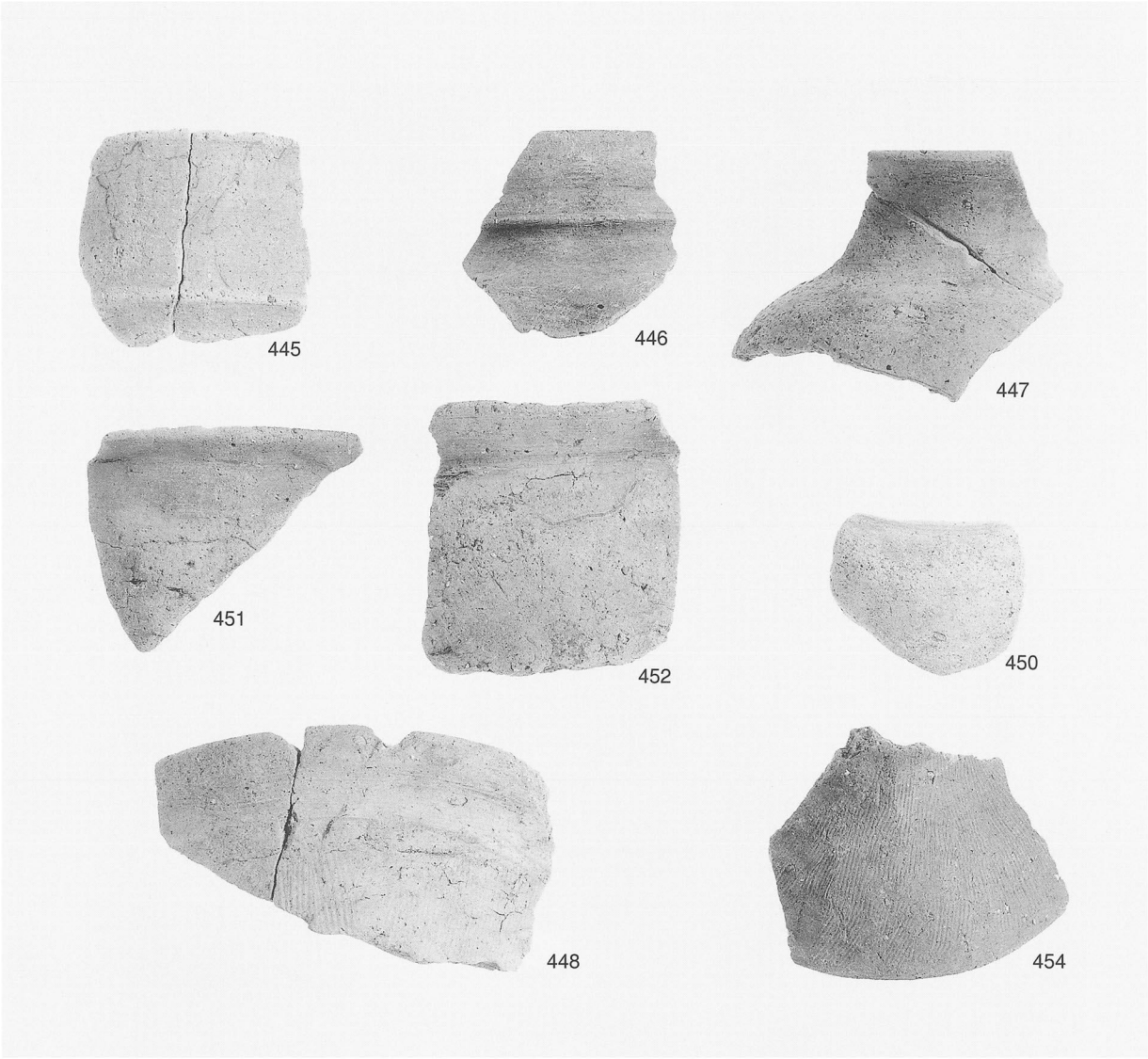
438

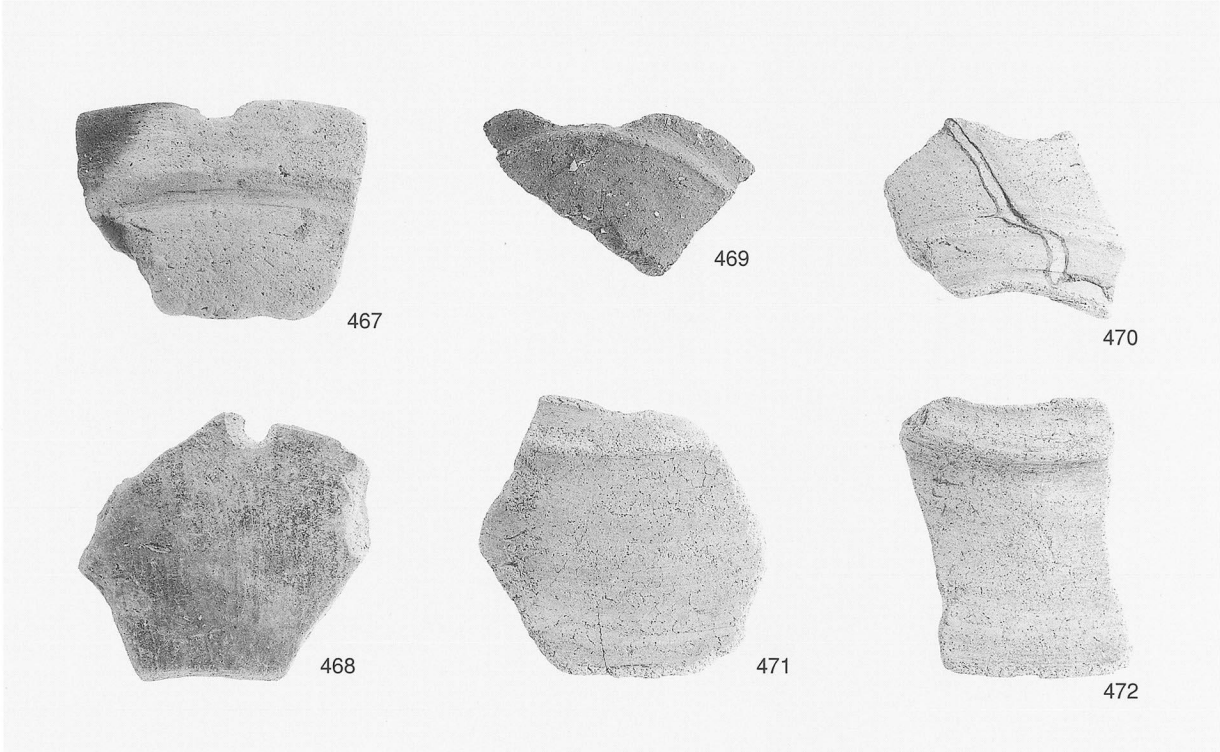
444


436
442
437
443

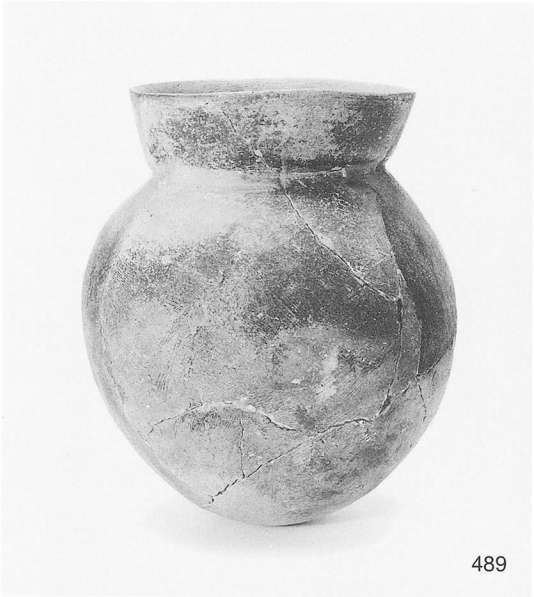
461
457
456
462
460
463

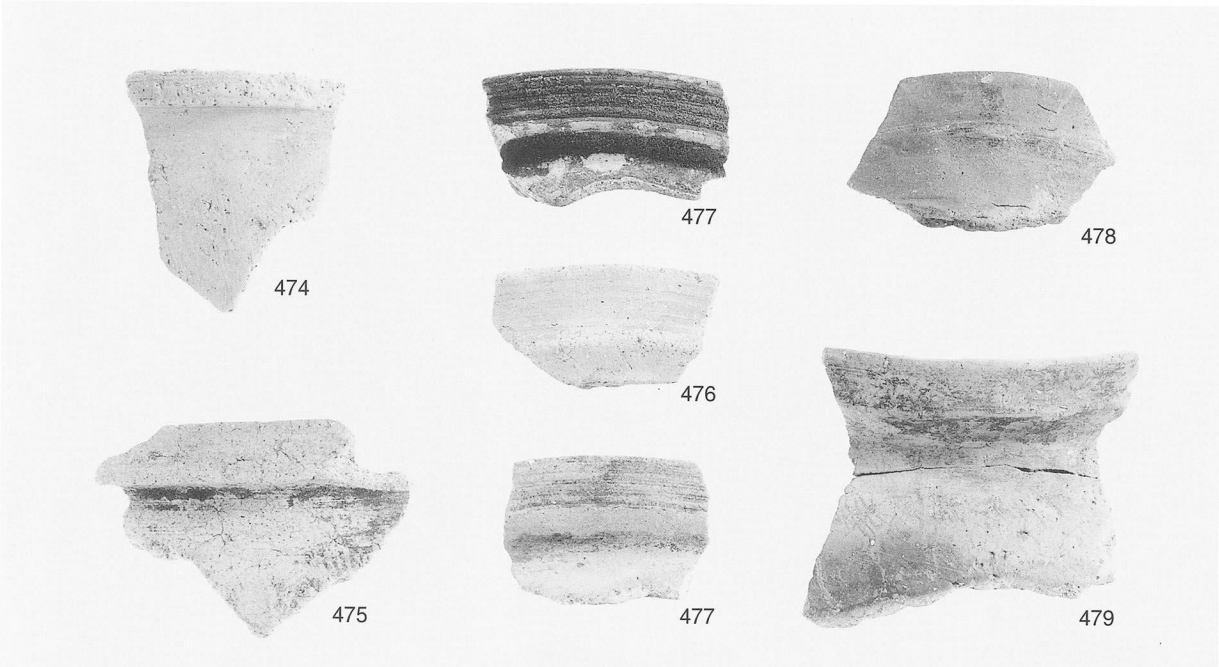
B地区包含層

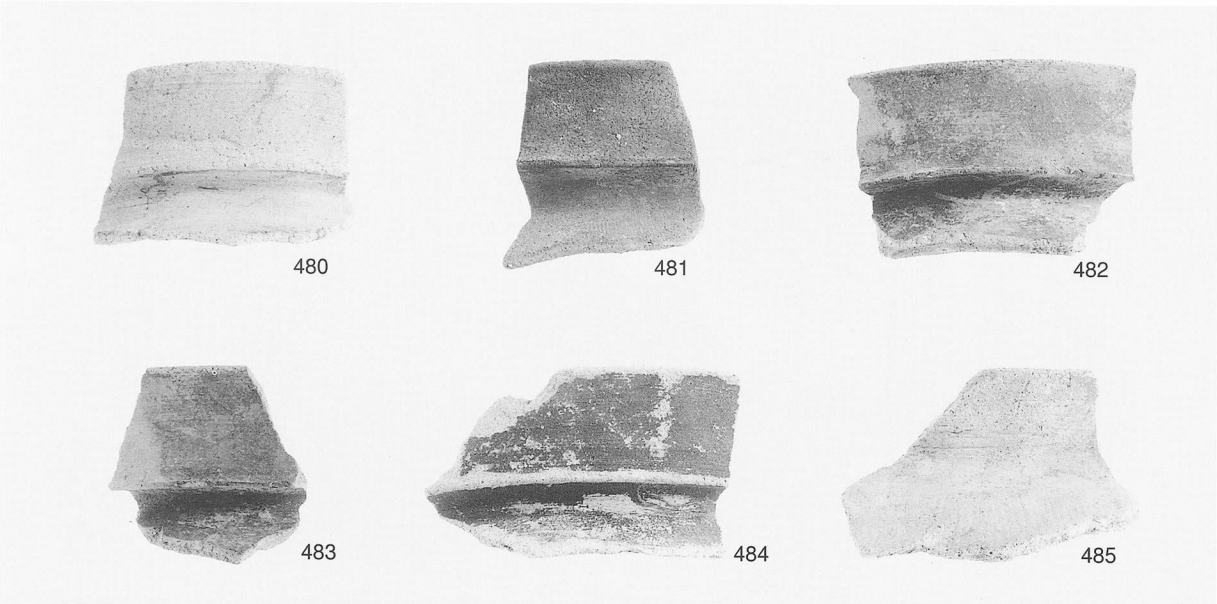




B地区包含層







B地区包含層

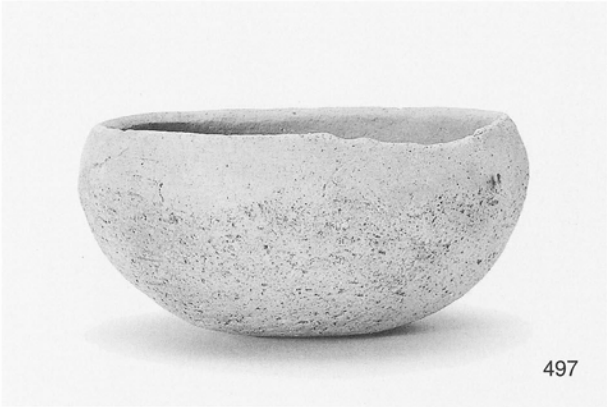
507

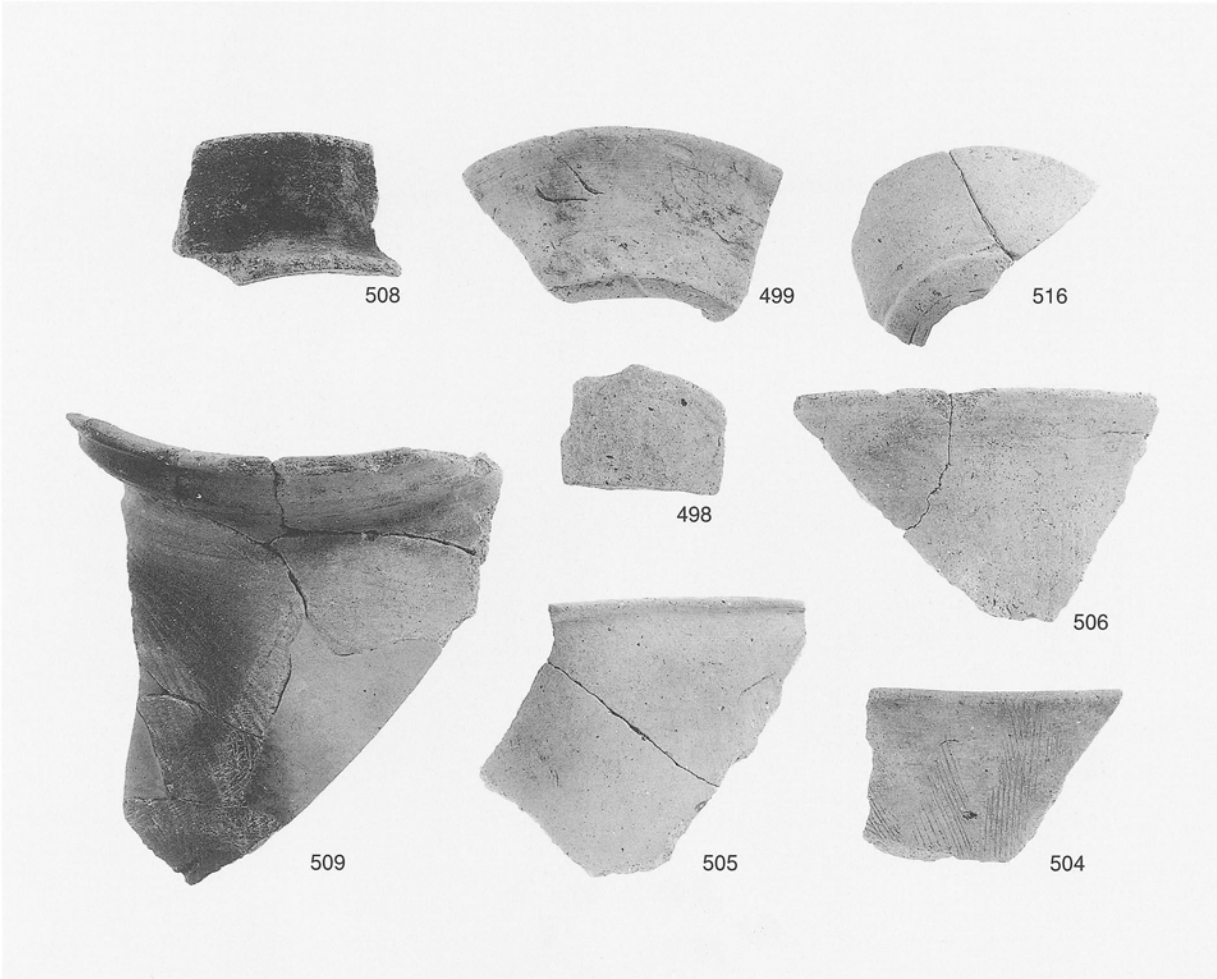
500

501

C地区包含層

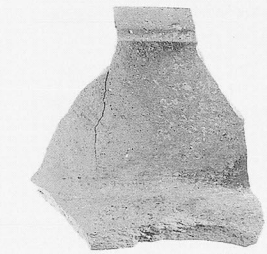
写真図版64　五反田第3次　遺物　土器9



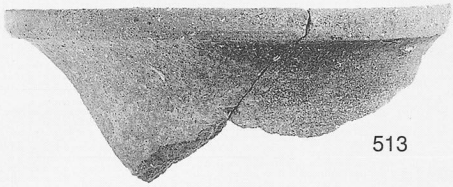


C地区包含層

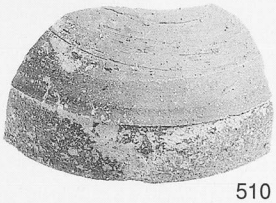
515



514

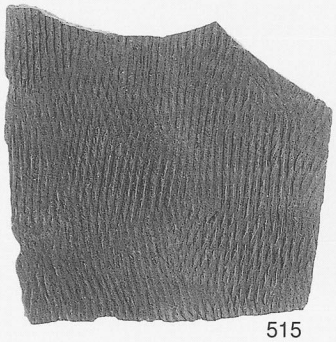


513

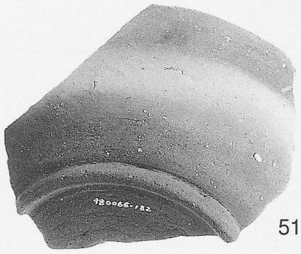


510

511



515

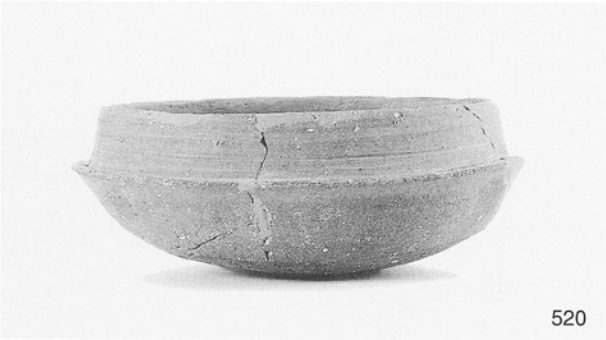


517

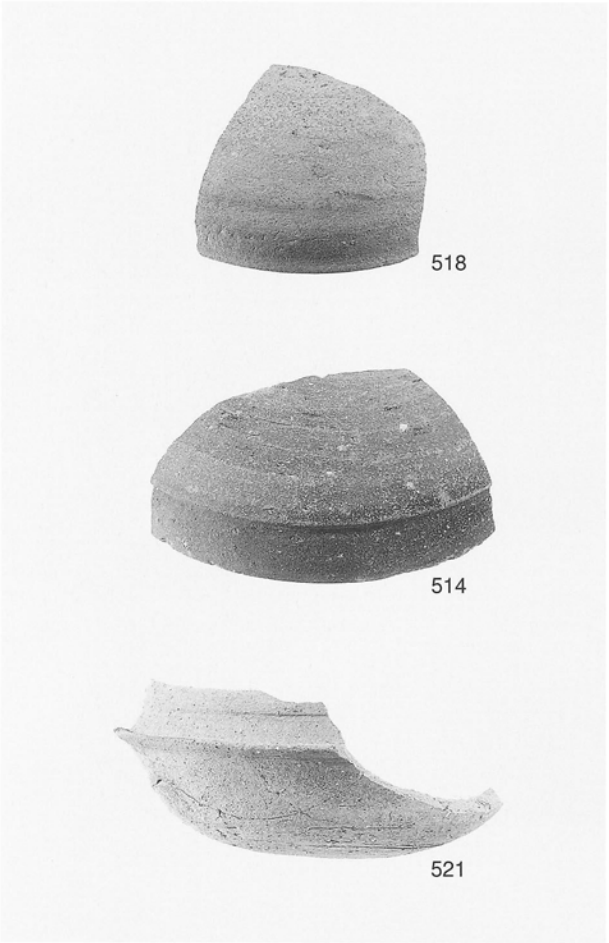
512

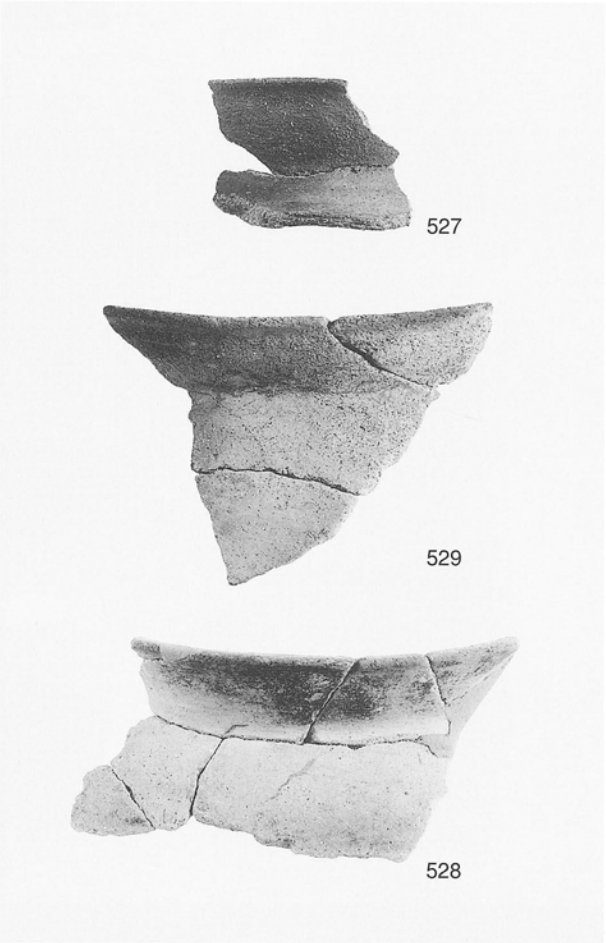
C地区包含層

522

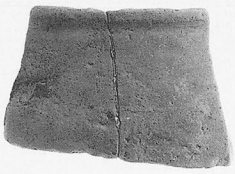

520

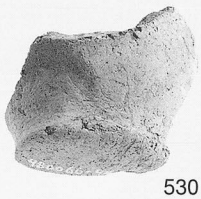
526


518
514
521


527
529
528

C地区包含層


523


530

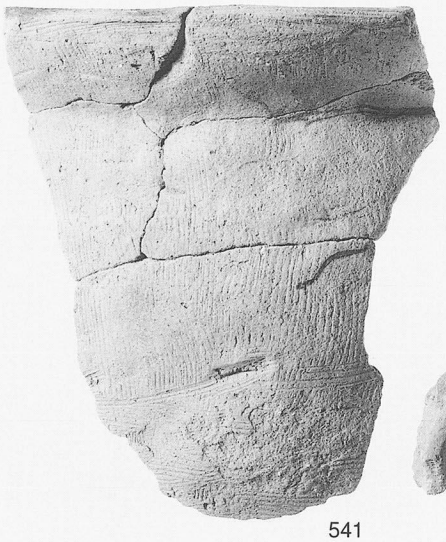
532

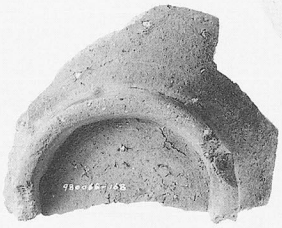
538

536

534

539


541

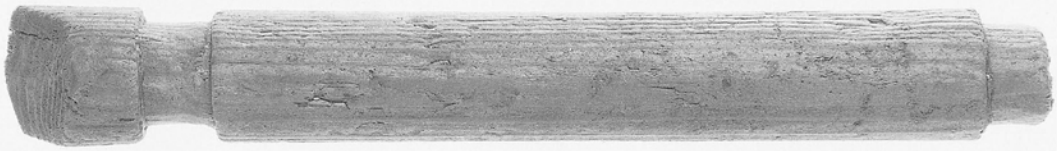

533

535

C地区包含層

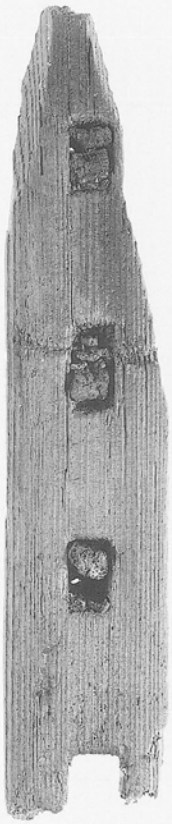
写真図版68　五反田第3次　遺物　木器1

W401

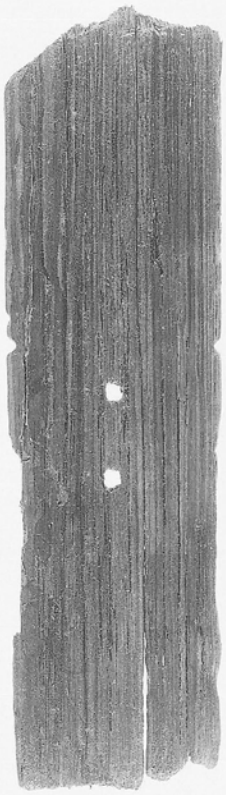


W402

W408



W406

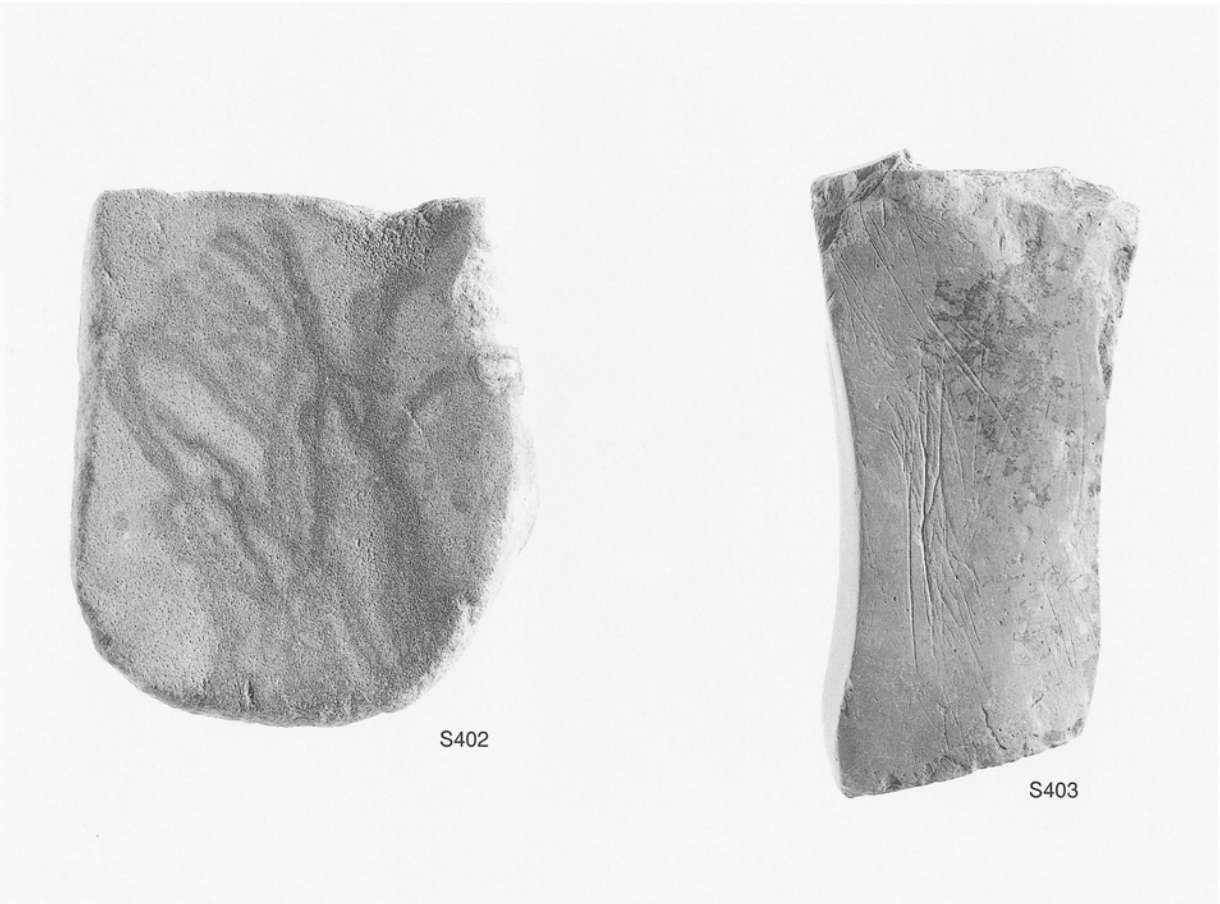


W413

W410

写真図版70　五反田第3次　遺物　石器

S401



S402

S403

47. 調査区全体（南から）

48. 西壁土層断面
（南東から）

49. 土器出土状況
（西から）

602

W601

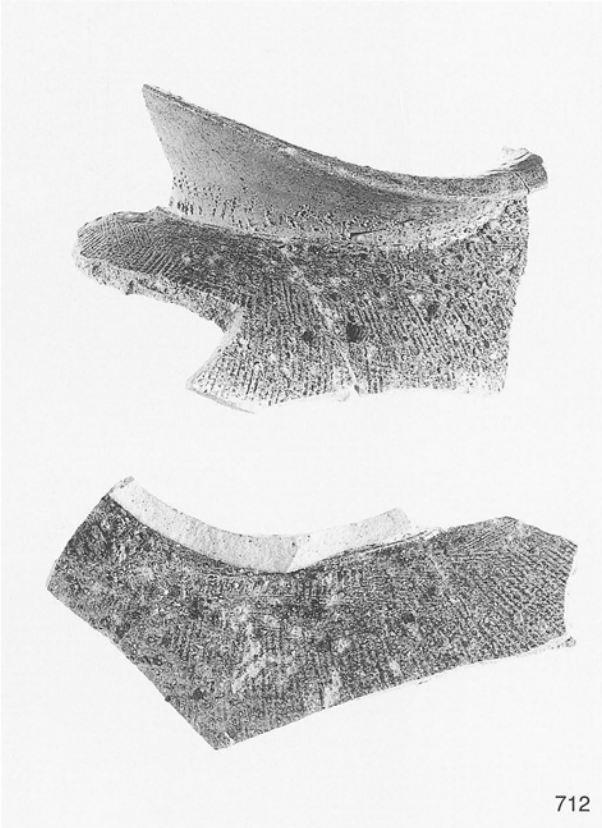
50. 調査区全体
（南東から）

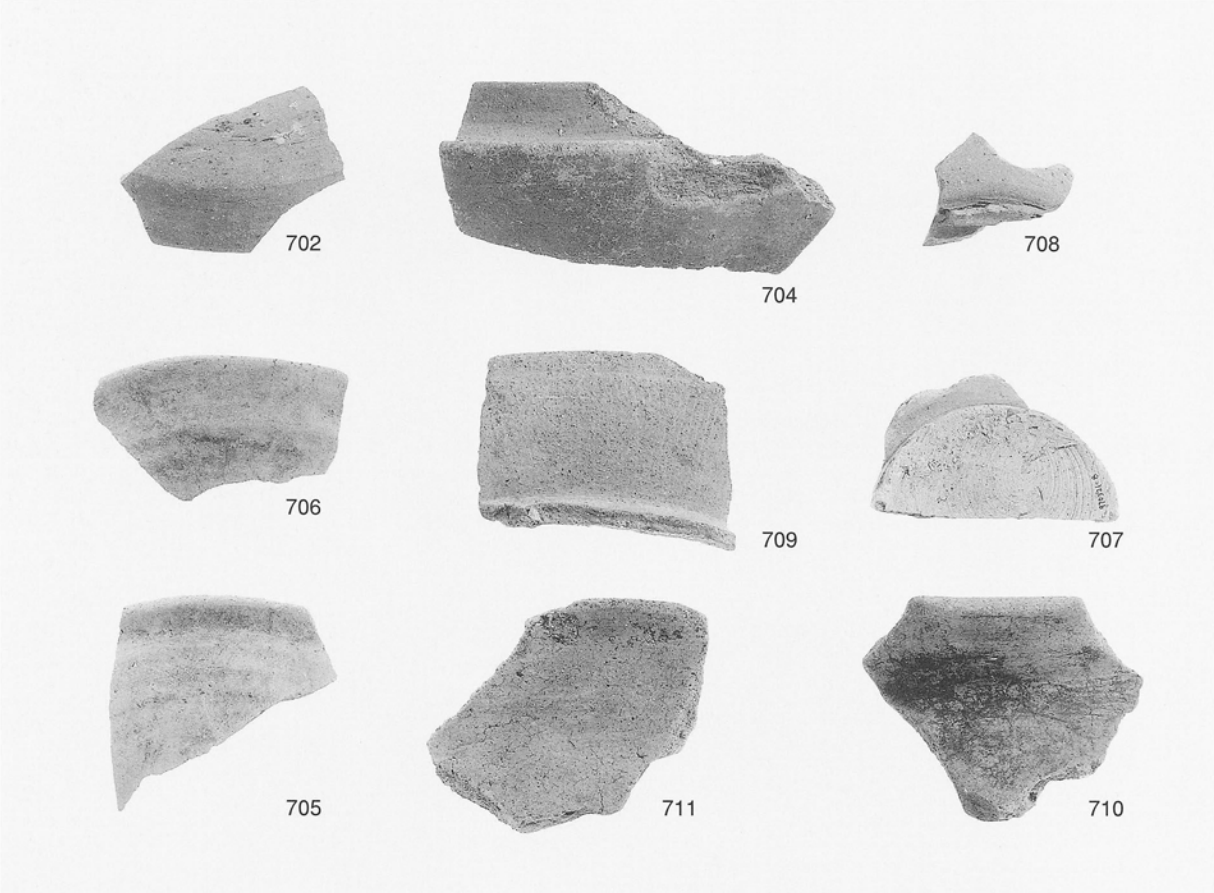
51. 旧河道（西から）

52. 土層断面（西から）

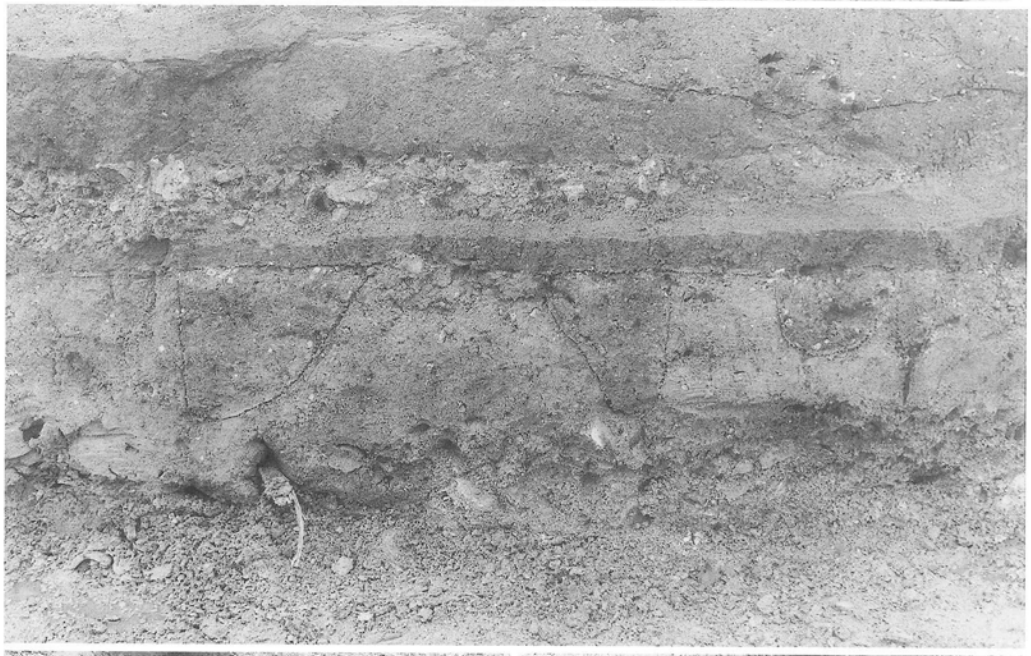
701

703


712



53. 於富美Ａ遺跡
土層断面
（東から）



54. 於富美Ａ遺跡
遺構断面
（南東から）

55

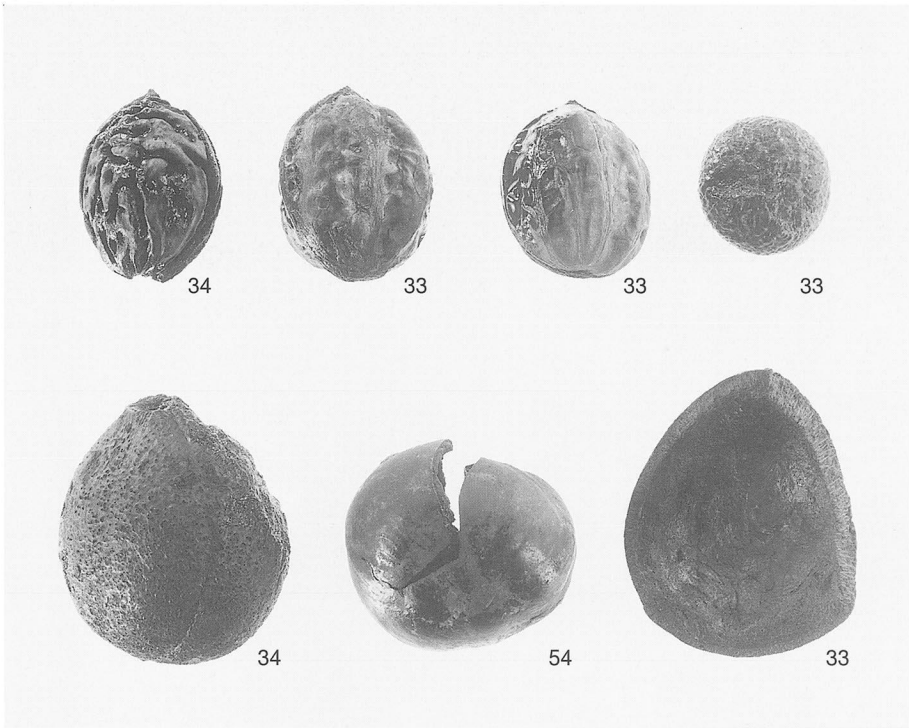
56

於富美Ｂ遺跡
55. 竪穴住居検出状況
（北から）
56. 柱穴群検出状況
（北から）

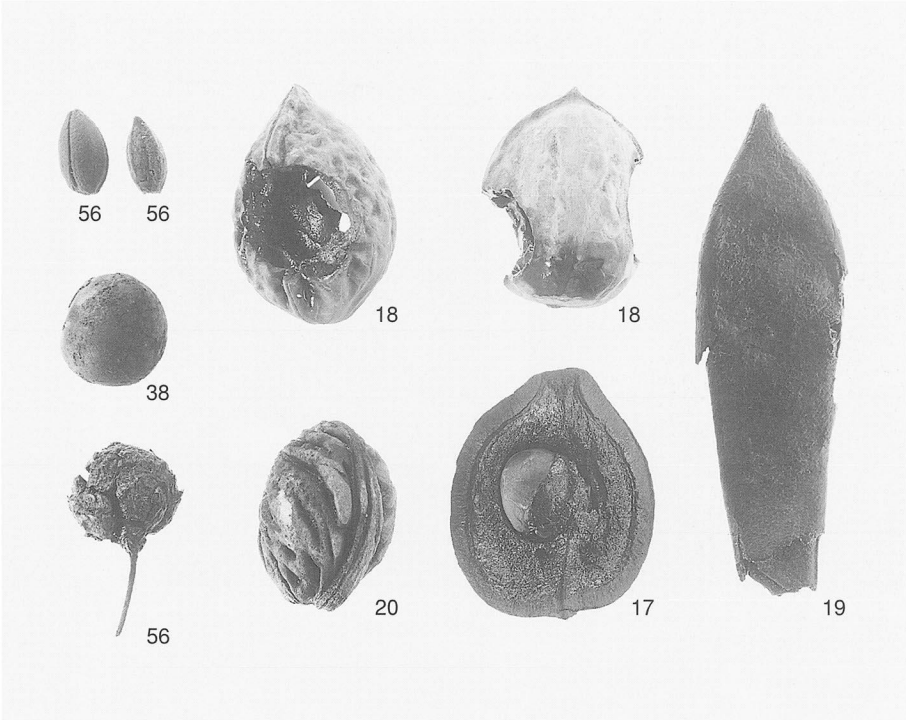
57. 調査前（南西から）

58. 調査後（東から）

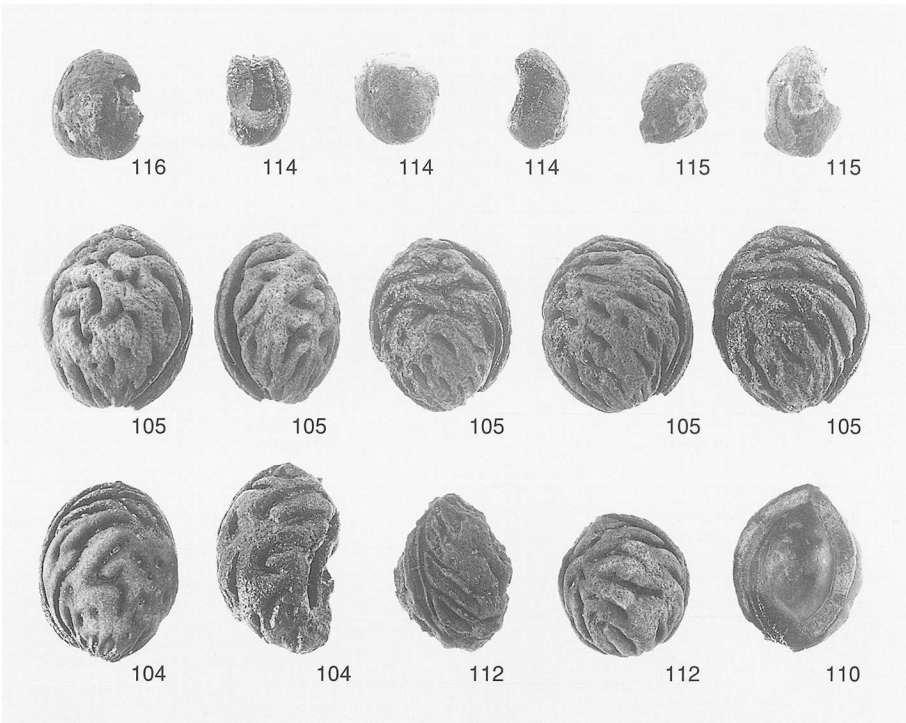
59. SX１（東から）



60. 第２次
モモ・オニグルミ・
ナラガシワ？・トチノキ

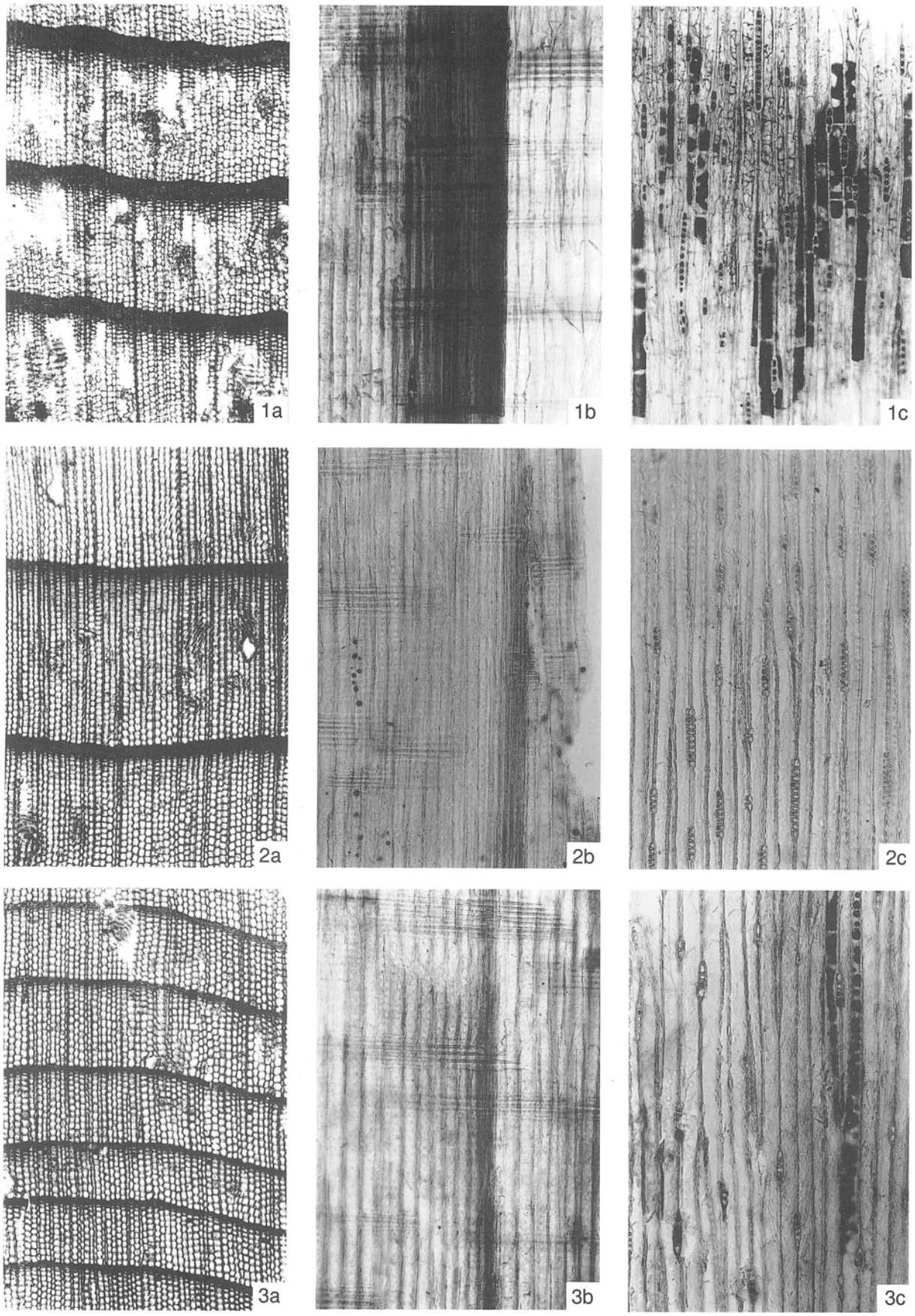


61. 第２次
エゴノキ・ムクロジ・
スギ・オニグルミ・モモ
・トチノキ・フジ？



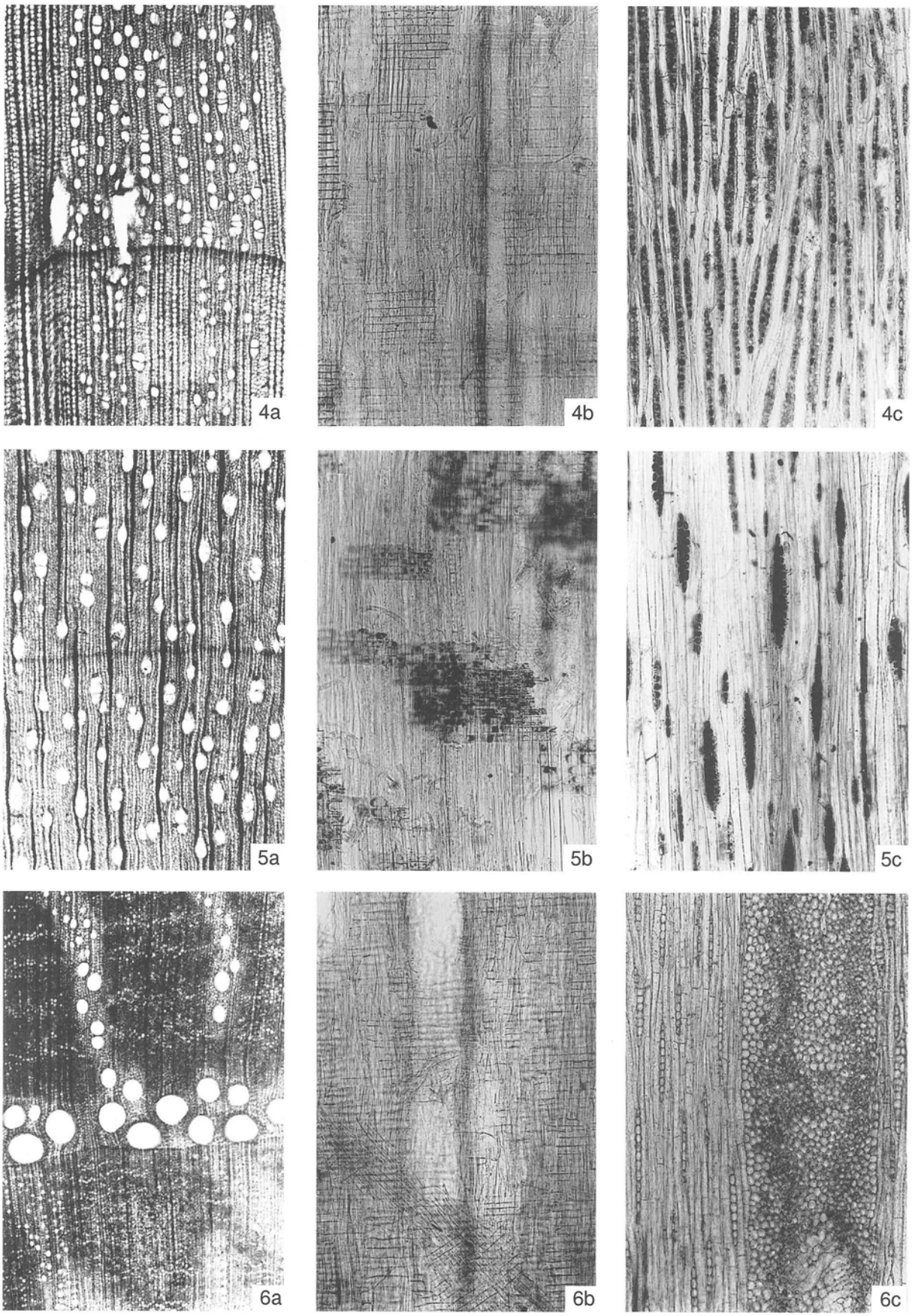
62. 第３次
サクラ属・モモ

写真図版78　五反田遺跡出土木材1



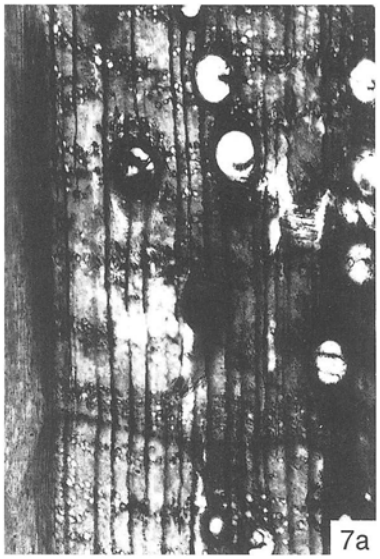
1．スギ（試料番号８・報告番号W407）
2．ヒノキ（試料番号117・報告番号W186）
3．ヒノキ属（試料番号26・報告番号W137）
　a：木口　b：柾目　c：板目

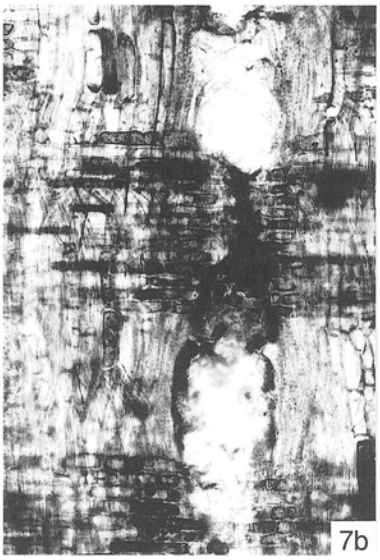
200 μm : a
200 μm : b,c



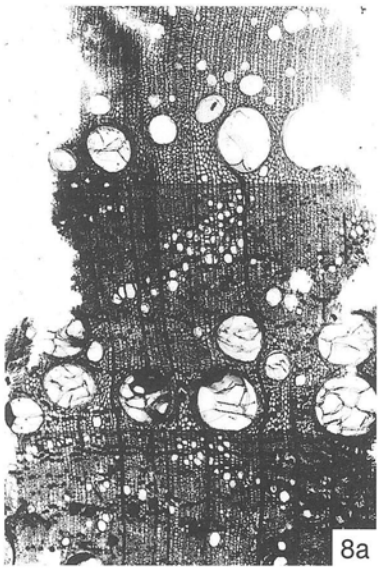
4．ハンノキ属ハンノキ亜属（試料番号242・報告番号SW36杭08）
5．カバノキ属（試料番号232・報告番号SW34杭11）
6．コナラ属コナラ亜属コナラ節（試料番号245・報告番号SW35杭09）
　a：木口　b：柾目　c：板目

200 μm : a
200 μm : b,c

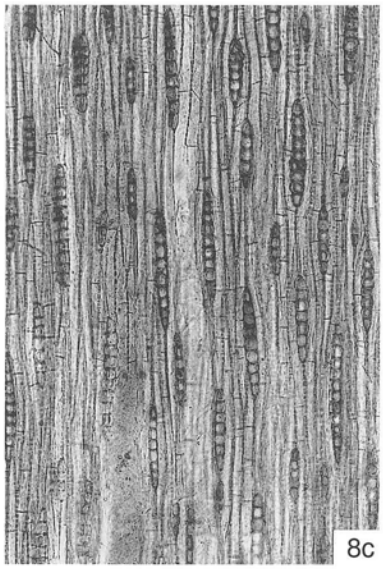

7a

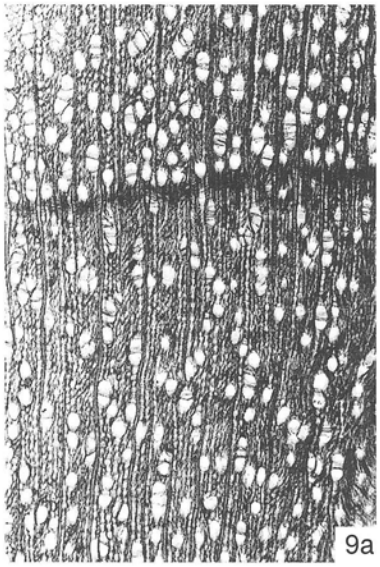

7b

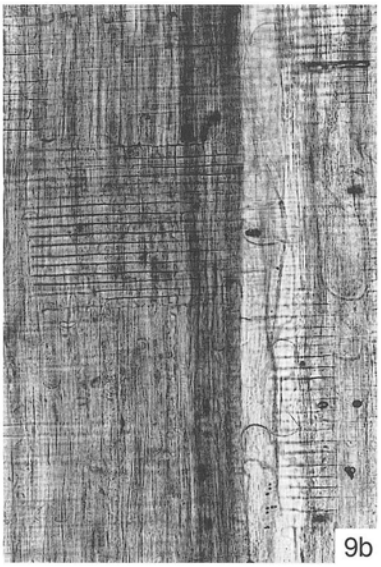
7c

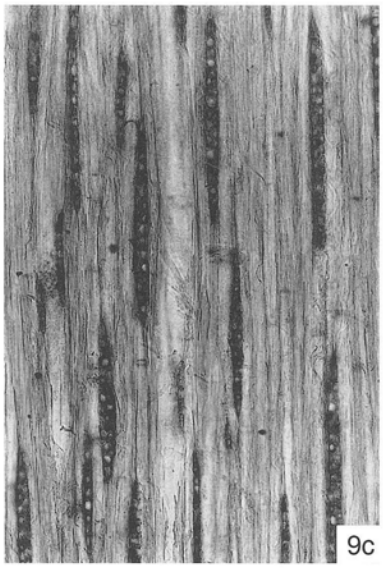

8a

8b


8c

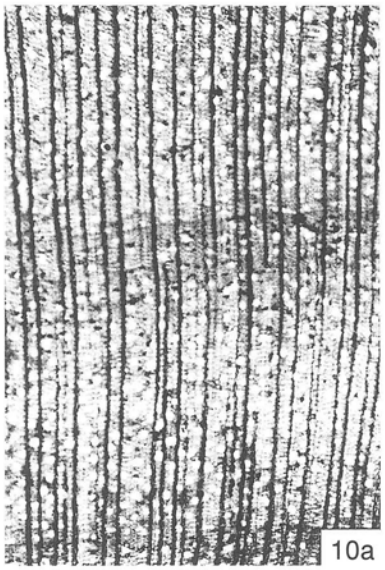

9a

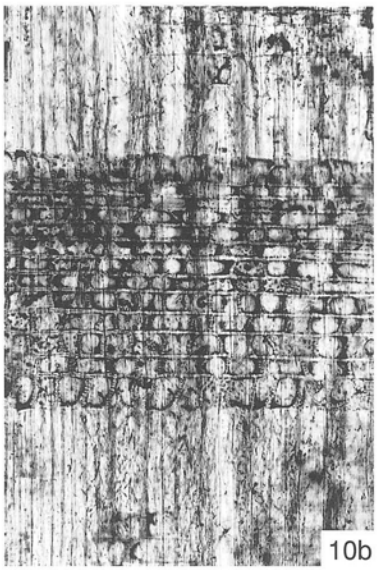

9b


9c

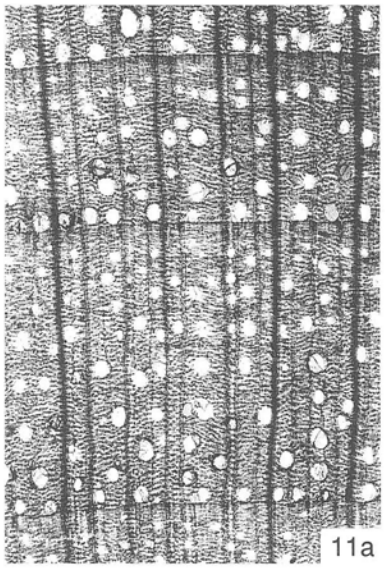
7．コナラ属アカガシ亜属（試料番号47・報告番号W248）
8．クリ（試料番号235・報告番号SW23杭03）
9．モクレン属（試料番号157・報告番号W001）
　a：木口　b：柾目　c：板目

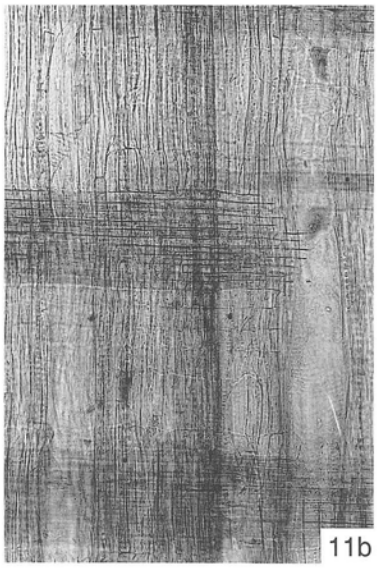
200 μm : a
200 μm : b,c

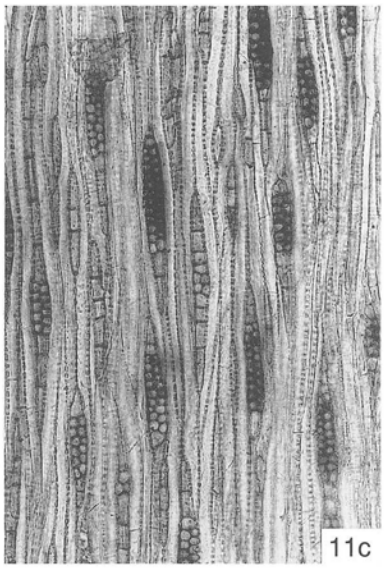

10a

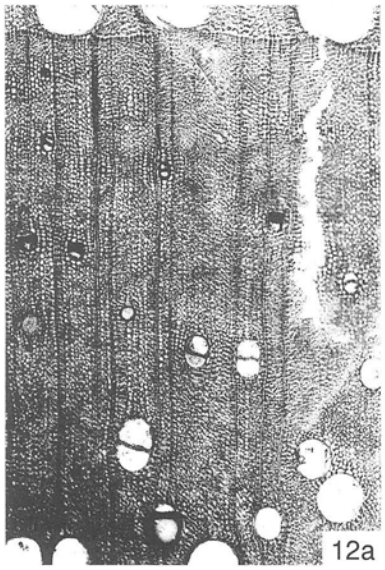

10b

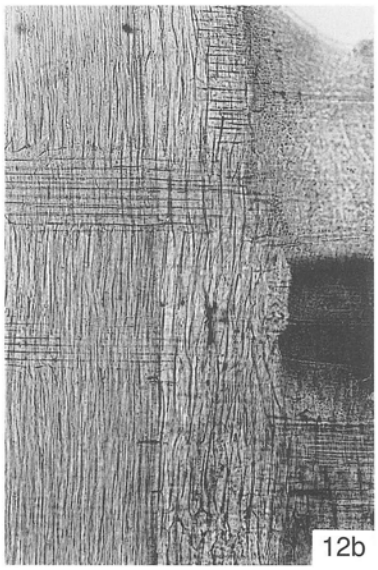
10c

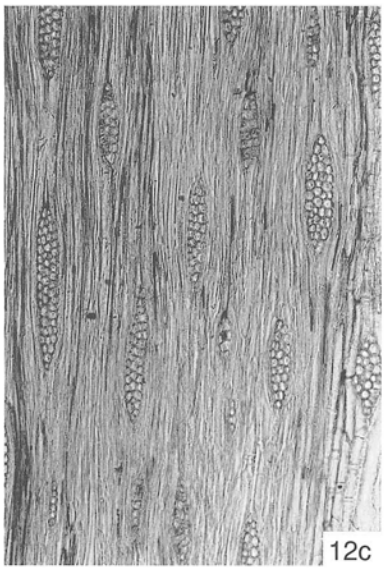

11a


11b


11c


12a


12b


12c

10. サカキ（試料番号79・報告番号W041）
11. ナツツバキ属（試料番号231・報告番号SW45杭N49）
12. トネリコ属（試料番号237・報告番号SW37杭20）
　a：木口　b：柾目　c：板目

200 μm : a
200 μm : b,c

報　告　書　抄　録

ふりがな	ごたんだいせき
書名	五反田遺跡
副書名	県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第２２７冊
編著者名	篠宮　正・遠藤　利恵・本吉恵理子・パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町２丁目１番５号　TEL 078-531-7011
発行年月日	西暦2002年（平成14年）３月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号					
五反田（ごたんだ）	兵庫県（ひょうごけん）豊岡市（とよおかし）	282090	960390	35度32分54秒	134度51分23秒	19970120・21 19970310～13	292m²	県立コウノトリの郷公園整備事業
			970246			19980811～19981216	1,639m²	
			980066			19990521～19990710	805m²	
平畑（ひらはた）			960389 970308	35度32分38秒	134度51分48秒	19970310 19981006・07	36m² 168m²	
堂林（どうばやし）			970321	35度32分51秒	134度51分47秒	19981007～19981028	164m²	
於富美（おとみ）A			980098	35度32分54秒	134度51分29秒	19980703～19980706	140m²	
於富美（おとみ）B			980099	35度32分51秒	134度51分28秒	19980706～19980710	21m²	
二ヶ谷（にがたに）17号			980094	35度32分51秒	134度51分28秒	19980706～19980710	76m²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五反田遺跡	集落遺跡 生産遺跡	弥生時代 古墳時代 平安時代	柱穴・土坑・水田 水路・杭列 自然流路	弥生土器・土師器・須恵器 石製品・木製品	
平畑遺跡	集落遺跡	弥生時代 古墳時代 平安時代	自然流路	弥生土器・土師器・須恵器・木製品	
堂林遺跡	集落遺跡	古墳時代 平安時代	自然流路	土師器・須恵器	
於富美A遺跡	集落遺跡	古墳時代 平安時代	柱穴	土師器・須恵器	
於富美B遺跡	集落遺跡	古墳時代	竪穴住居跡	土師器	
二ヶ谷17号	祭祀遺跡	近世以降	祠跡	須恵器	

兵庫県文化財調査報告　第227冊

五　反　田　遺　跡

県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002年３月29日　発　行

編　集　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町２丁目１番５号
http:www//hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/

発　行　兵庫県教育委員会
兵庫県神戸市中央区下山手町５丁目10番１号

印　刷　野崎印刷紙業株式会社
京都市北区小山下総町54-5